

福井県文書館資料叢書 12

福井藩士履歴 4

たぐね



1 「旧藩制役成」(表紙)

松平文庫 福井県立図書館保管



2 「旧藩制役成」多賀谷式部

松平文庫 福井県立図書館保管



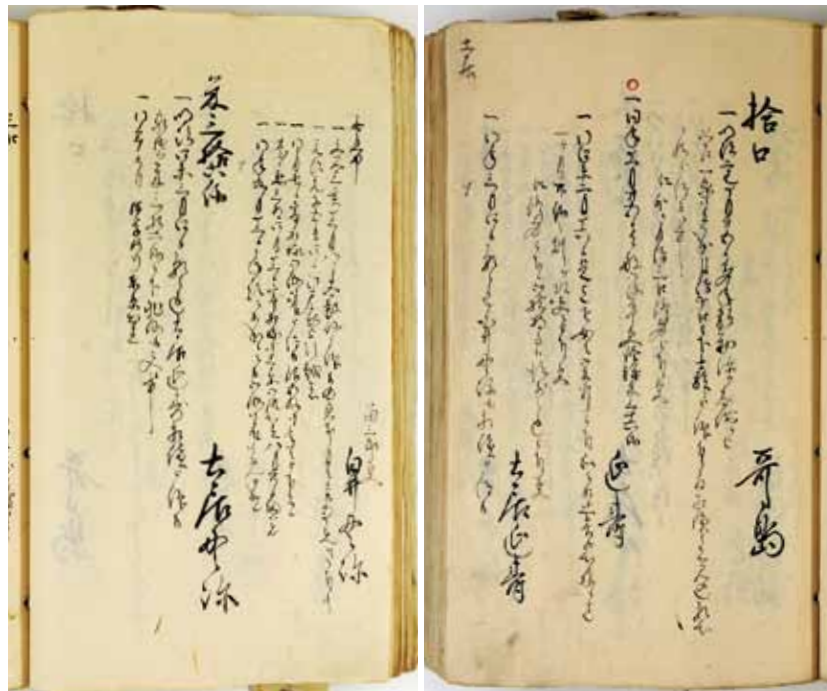
3 「旧藩制役成」高橋逸郎

松平文庫 福井県立図書館保管



4 「剝札」中根 1 (部分)

松平文庫 福井県立図書館保管



5 「士族」土居延寿 (老女哥島)

松平文庫 福井県立図書館保管

凡例

一、本巻は、福井県文書館資料叢書の第一二冊目であり、『福井藩士履歴』全六巻中の第四冊目である。

一、本書の原本は、福井県立図書館に保管されている「松平文庫」のなかの「剝札」「士族」である。「剝札」は上・下、「士族」は一〜七で構成されている（三は欠）。このうち本巻では、た〜ねまでを翻刻した。ただし「た」については、「士族」三の「かよたれそ」及び「（士族略履歴）六の「よたれ」が欠落しているため、「旧藩制役成」（以下「役成」）にて補った。

一、資料の利用に資するため、巻末に参考資料を付した。

一、編集にあたっては次のように取り扱った。

(1) 「剝札」と「士族」または「役成」を連結して『福井藩士履歴』とし、翻刻、刊行することにした。その際、各家は原則として「剝札」の記載順とし、利用の便を考慮して五十音順に組み替えた。さらに同姓が複数ある場合は、家名にアラビア数字を付した。

(2) 原本の藩士名には貼紙・訂正・朱書などがあるが、次のように取り扱った。

- ・ 見出しの藩士名は現役最後の名前を示した。
- ・ 改名は藩士名に付されているもののみを、原則として古い順に並べて見出しの藩士名の下に記した。

・ 続柄など名前以外の記載については名前の下に記した。

・ 藩士名の次に石高・扶持米を記した。

(3) 出典が「剝札」以外のものは、藩士名の下に「士族」または「役成」と付した。

(4) 「剝札」の巻末および「た」の終わりなどに貼られていた家は、該当する場所に入れて、

※で原本の場所を示した。

(5) 「士族」「役成」のみに出てくる藩士は、該当する五十音の最後に配列した。

(6) 柱は、原則としてそのページの最初の段落における家名を示した。

一、翻刻にあたっては、原本の体裁にそうよう努めたが、読みやすくするために、また検索の便宜を図るため、次のように取り扱った。

(1) 使用字体は原則として常用漢字を用い、異体字は原則として正字に改めた。また変体仮名や合字は通常の仮名に改めたが、次に掲げるような仮名・俗字・慣用字句は残した。

躰(体) 斗(ばかり) ㇿ(より) 而已(のみ) 而(て)
江(え) 者(は) 与(と) 茂(も)

(2) 全文にわたって読点をつけ、あわせて文意が通じないものには(マ、)などの傍注を付した。また明らかな誤字・脱字は訂正したものもある。

(3) 欠損・虫損等によって文字が判読できない場合には、□や□□で示した。

(4) 原本の平出・闕字などはすべて省略した。

(5) 追記・訂正など朱書はそのことを断らずに、適宜本文に反映した。

一、本書には、現在からみると基本的人権に関わる歴史的事象も含まれているが、地域の歴史的事実を正しく理解するために原文をそのまま翻刻することを原則とした。本書は人権尊重をめざし、史実にもとづく研究を進める立場から刊行するもので、この趣旨を理解し、利用していただきたい。

一、翻刻にあたっては田原健子氏(福井県文書館運営懇話会委員)が筆耕し、校合は故吉田健氏(元福井県文書館文書専門員)と当館職員が行った。編集は吉田健氏の方針にしたがい、当館職員が行った。

一、資料の所蔵者である松平宗紀氏、筆耕に多大なご協力をいただいた田原健子氏に深く感謝申しあげる。

目次

口絵
凡例

一	福井藩士履歴	た	1
二	福井藩士履歴	ち	89
三	福井藩士履歴	つ	93
四	福井藩士履歴	て	141
五	福井藩士履歴	と	147
六	福井藩士履歴	な	173
七	福井藩士履歴	に	269
八	福井藩士履歴	ね	297

解説

福井市立郷土歴史博物館館長

角鹿尚計

参考資料

細目次

た

多賀谷

多賀谷舎人…………… 2

多賀谷舎人…………… 2

多賀谷権兵衛…………… 2

多賀谷権助…………… 2

多賀谷舎人…………… 2

多賀谷式部…………… 3

高田

高田小左衛門…………… 3

高田小左衛門…………… 3

高田小左衛門…………… 3

高田壬生之助…………… 3

高田波門…………… 4

高田波門…………… 4

高田波門…………… 5

高田

高田金太夫…………… 5

高田孫左衛門…………… 5

高田金太夫…………… 6

高田利雄…………… 10

高田

高田通義吉…………… 10

大道寺

大道寺孫九郎…………… 10

大道寺孫九郎…………… 10

大道寺孫九郎…………… 10

大道寺孫九郎…………… 10

大道寺勝之進…………… 11

大道寺孫九郎…………… 11

大道寺孫九郎…………… 11

大道寺七右衛門…………… 12

大道寺七右衛門…………… 13

大道寺七右衛門…………… 13

大道寺七九郎…………… 14

武田

立岩平太夫…………… 14

立岩武左衛門…………… 14

武田平右衛門…………… 15

武田平太夫…………… 15

武田平右衛門…………… 16

武田喜内…………… 17

武田

立岩長右衛門…………… 17

立岩長六…………… 17

武田三郎右衛門…………… 17

武田彌三郎…………… 18

武田藤三郎…………… 18

武田政十郎…………… 18

武田政十郎…………… 18

立岩八郎右衛門…………… 19

立岩太郎左衛門…………… 19

武田太郎左衛門…………… 19

武田勝次郎…………… 19

武田勝之丞…………… 19

武田元作…………… 20

武田鶴助…………… 20

武田三十郎…………… 20

田邊五太夫…………… 20

田邊久藏…………… 20

田邊源藏…………… 21

田邊五太夫…………… 21

田邊良介…………… 22

田邊平学…………… 22

田邊逸八…………… 22

田邊平学…………… 23

田邊周吉…………… 23

田邊

田邊平学…………… 23

田邊右金吾…………… 23

田邊十藏…………… 23

田邊八藏…………… 23

田邊虎次郎…………… 24

田邊源右衛門…………… 24

田邊讓右衛門…………… 24

田邊

田部奧左衛門…………… 24

田邊奧左衛門…………… 24

田邊奧左衛門…………… 25

田邊奧左衛門…………… 25

田邊源太左衛門…………… 25

田邊

田邊十五郎…………… 25

田邊熊之助…………… 26

田代

田代万貞…………… 26

田代万貞…………… 26

田代万貞…………… 26

高橋伴右衛門……	30	高橋勝之助……	34	高村藤兵衛……	39	滝	団野万右衛門……	49	
高橋伴右衛門……	30	高橋久太夫……	33	高村与七……	39	高屋丈太夫……	44	団野軍兵衛……	49
高橋伴右衛門……	30	高橋喜三右衛門……	33	高村太右衛門……	39	高屋六郎左衛門……	44	団野万右衛門……	49
高橋	30	高橋逸郎……	33	高村庄左衛門……	38	高屋六郎左衛門……	44	団野	
大藤 ²		高橋素平……	33	高村 ²		高屋源兵衛……	43	高嶋与五郎……	48
大藤与太夫……	30	高橋次兵衛……	33	高村新五兵衛……	38	高屋丈太夫……	43	高嶋市郎右衛門……	47
大藤助藏……	29	高橋次兵衛……	33	高村新五兵衛……	38	高屋六郎左衛門……	43	高嶋八十次郎……	47
大藤治兵衛……	29	高橋次兵衛……	33	高村兵右衛門……	37	高屋善右衛門……	43	高嶋与五左衛門……	47
大藤三郎兵衛……	28	高橋純助……	32	高村新五兵衛……	37	高屋善右衛門……	43	高畑与五左衛門……	47
大藤次兵衛……	28	高橋文左衛門……	32	高村四郎右衛門……	37	高屋伊喜右衛門……	42	高畑左助……	47
大藤		高橋左十郎……	32	高村 ¹		高屋半左衛門……	42	高畑 ²	
田代道玄……	28	高橋一太夫……	31	高橋平太夫……	36	高屋半左衛門……	42	高畑甚五左衛門……	46
田代養山……	28	高橋元八郎……	31	高橋寛輔……	36	高屋源右衛門……	42	高畑金太夫……	46
田代道玄……	28	高橋小善次……	31	高橋寛輔……	36	高屋伊左衛門……	42	高畑金太夫……	46
田代俊珉……	28	高橋伊太夫……	31	高橋吉兵衛……	35	高村四郎左衛門……	41	滝勘藏……	45
田代養山……	27	高橋吉兵衛……	31	高橋捨藏……	35	高村長作……	41	滝仁左衛門……	45
田代養元……	27	高橋伊太夫……	31	高橋元亭……	34	高村藤五郎……	41	滝郡右衛門……	45
田代養哲……	27	高橋十郎大夫……	31	高橋元亨……	34	高村四郎左衛門……	40	滝六藏……	45
田代		高橋道順……	30	高橋良斎……	34	高村 ³		滝郡右衛門……	45
田代万貞……	26	高橋伴右衛門……	30	高橋道順……	34	高村藤兵衛……	40	滝勘兵衛……	44
田代万貞……	26	高橋十郎兵衛……	30	高橋道順……	34	高村藤兵衛……	40	滝勘兵衛……	44
田代		高橋十郎大夫……	31	高橋道順……	34	高村藤兵衛……	40	滝勘兵衛……	44
田代		高橋道順……	34	高村藤兵衛……	39	高村藤兵衛……	39	滝勘兵衛……	44

土多	辻平六……………	132
	辻十郎右衛門…	131
	辻十郎右衛門…	131
	辻好庵……………	131
	辻盛庵……………	130
辻	塚谷石之介……	130
	塚谷捨作………	130
	塚谷義左衛門…	129
	塚谷源左衛門…	129
	塚谷源左衛門…	129
	塚谷治右衛門…	129
	塚谷九蔵…………	129
	塚谷源左衛門…	128
	塚谷	
	柄田定……………	127

辻岡	妻木元蔵…………	137
	妻木達……………	136
	妻木敬斎…………	136
	妻木栄輔…………	136
	妻木宗伯…………	136
	妻木宋雲…………	136
	妻木玄真…………	136
	妻木	
	都築逸蔵…………	135
	都築栄……………	135
都筑	都筑利八郎……	134
	都筑甚平…………	134
	都筑三郎左衛門…	134
	都筑三郎左衛門…	134
	都筑三郎左衛門…	134
	都筑三郎左衛門…	134
	都筑三郎左衛門…	134
都筑		
士多源内…………	133	
士多一右衛門…	133	
士多一右衛門…	133	
士多忠右衛門…	133	
土田源助…………	133	
土田源五兵衛…	132	

寺木	寺木十太夫……	144
	寺木十右衛門…	143
	寺木源左衛門…	143
	寺木	
	寺沢勘之介……	143
	寺沢藤左衛門…	142
	寺沢又助………	142
	寺沢藤左衛門…	142
	寺沢八郎…………	142
	寺沢勘左衛門…	142
寺沢		
佃貢……………	140	
佃		
坪井信良…………	139	
坪井		
辻岡直江………	139	
辻岡東庵………	138	
辻岡玄順………	138	
辻岡玄順………	138	
辻岡玄順………	138	

東郷	東郷三郎右衛門…	151
	東郷仁右衛門…	151
	東郷三郎右衛門…	151
	東郷三郎右衛門…	150
	東郷三郎右衛門…	150
	東郷三郎右衛門…	150
	東郷三郎右衛門…	150
	東郷三郎右衛門…	150
	富永半哉………	149
	富永新左衛門…	148
富永孫四郎……	148	
富永新左衛門…	148	
富永新左衛門…	148	
富永新左衛門…	148	
富永新左衛門…	148	
富永新左衛門…	148	
富永		
寺本伸……………	145	
寺本		
寺木健夫………	145	
寺木兵四郎……	144	
寺木太夫………	144	

富田	富田四方之助…	157
	富田弥六郎……	157
	富田弥兵衛……	157
	富田左内………	157
	富田左内………	157
	富田忠太夫……	157
	富田平蔵………	156
	富田	
	枡屋政之助……	155
	枡屋縫之助……	155
枡屋八左衛門…	155	
枡屋半右衛門…	155	
枡屋半右衛門…	154	
枡屋半右衛門…	154	
枡屋半右衛門…	154	
枡屋		
東郷惺……………	153	
東郷平太夫……	153	
東郷吉蔵…………	153	
東郷門太夫……	152	
東郷平太夫……	152	
東郷門太夫……	152	
東郷		
東郷竜雄………	152	

奈良³

奈良八太夫……………

201

中村¹

中村八太夫……………

201

中村八太夫……………

201

中村八太夫……………

201

中村八太夫……………

201

中村八太夫……………

201

中村八太夫……………

201

中村²

中村唯七郎……………

203

中村太郎左衛門……………

204

中村太郎左衛門……………

204

中村太郎左衛門……………

204

中村太郎左衛門……………

204

中村太郎左衛門……………

204

中村³

中村政右衛門……………

206

中村権太夫……………

206

中村市右衛門……………

206

中村市右衛門……………

206

中村多膳……………

206

中村益雄……………

208

中村⁴

中村権太夫……………

208

中村市郎右衛門……………

208

中村権太夫……………

208

中村久蔵……………

208

中村藤次郎……………

209

中村常次郎……………

209

中村雪……………

210

中村⁵

中村条右衛門……………

210

中村庄太夫……………

210

中村丈助……………

210

中村藤九郎……………

211

中村宗兵衛……………

211

中村庄兵衛……………

211

中村操……………

211

中村⁶

中村庄左衛門……………

212

中村第蔵……………

212

中村庄左衛門……………

212

中村庄左衛門……………

213

中村捨八……………

213

中村庄助……………

214

中村半太夫……………

214

中村惣兵衛……………

214

中村十兵衛……………

214

中村半太夫……………

214

中村禄三郎……………

214

中村源兵衛……………

215

中村立蔵……………

216

中村源助……………

216

中村源兵衛……………

216

相馬源兵衛……………

216

中村利兵衛……………

216

中村利兵衛……………

216

中村儀右衛門……………

216

中村利兵衛……………

217

中村一郎左衛門……………

217

中村雪……………

217

中村弥五左衛門……………

217

中村弥五左衛門……………

217

中村武左衛門……………

218

中村弥五左衛門……………

218

中村与三太郎……………

218

中村久之助……………

218

中村駒吉……………

218

中村量哉……………

218

中村金兵衛……………

219

中村金兵衛……………

219

中村金兵衛……………

219

中村敬蔵……………

220

中村六助……………

220

中村甚左衛門……………

221

中村甚右衛門……………

221

中村惣右衛門……………

221

中村工……………

221

中村未終……………

222

中村仁右衛門……………

222

中村忠太夫……………

222

中村仁右衛門……………

222

中村立栄……………

222

永田四郎兵衛……………

223

永田儀太夫……………

223

永田四郎兵衛……………

223

永田四郎兵衛……………

223

永田四郎兵衛……………

224

永田四郎兵衛……………

224

永田儀太夫……………

224

永田三郎助……………

224

永田三郎助……………

224

永田四郎兵衛……………

224

永田喜四郎……………

224

永田重……………

225

永田忠四郎……………

226

永田伝内……………

226

永田順右衛門……………

226

永田順右衛門……………

227

永田十郎……………

227

永田広……………

228

半井為竹……………

228

半井為竹……………

228

半井黙真……………

228

半井瑞庵……………

229

半井仲庵……………

229

半井道泉……………

229

半井仲庵……………

229

半井保……………

229

半井澄……………	231	中山権九郎……………	237	中野七兵衛……………	243	中野四	永井清也……………	254
成瀬1		中山静吾……………	238	中野甚兵衛……………	243	中野与次右衛門…	永井熊之介……………	256
左近士新五右衛門	232	中山2		中野与次右衛門…	249	中野儀右衛門…	中田1	
成瀬2		中山平右衛門…	238	中沢七平……………	244	中野啓助……………	中田久左衛門…	256
成瀬又右衛門…	232	中山增司……………	239	中沢岩太……………	244	中野源兵衛…	中田久左衛門…	256
成瀬惣右衛門…	232	中山半右衛門…	239	中野忠兵衛…	245	南部次右衛門…	中田十内……………	256
成瀬惣右衛門…	232	中山新平……………	239	中野郡兵衛…	245	南部文左衛門…	中田平左衛門…	257
成瀬又五郎…	233	中山半右衛門…	239	中野郡兵衛…	245	南部次右衛門…	中田平左衛門…	257
成瀬隼太……………	233	中山半右衛門…	239	中野惣左衛門…	245	南部文左衛門…	中田久左衛門…	257
成瀬3		中山半右衛門…	239	中野哲之助……………	246	南部源兵衛…	中田栄次……………	257
成瀬平左衛門…	234	中山鹿之介……………	240	中野哲之助……………	246	南部源兵衛…	中田熊三郎…	258
成瀬甚兵衛…	234	中山源助……………	240	中野2		南部源兵衛…	中田2	
成瀬平左衛門…	234	中山岩五郎……………	240	中野次郎作……………	246	南部源次郎…	長崎	
成瀬嘉右衛門…	234	中山仙右衛門…	240	中野文左衛門…	246	南部源次郎…	長崎加左衛門…	258
成瀬平左衛門…	235	中山仙右衛門…	241	中野文左衛門…	247	南部真彦……………	長崎立藏……………	258
成瀬甚兵衛…	235	中山4		中野文左衛門…	247	南部彦九郎…	長崎加左衛門…	258
成瀬誠一郎……………	235	中山太郎左衛門…	242	中野文治郎……………	247	永井	長崎七左衛門…	258
中山1		中山与一右衛門…	242	中野3		永井与五左衛門…	長崎基近……………	259
中山忠兵衛…	236	中山太郎左衛門…	242	中野新左衛門…	248	永井与五左衛門…	長野1	
中山仁左衛門…	236	中山東一……………	242	中野新左衛門…	248	永井与五右衛門…	長野德右衛門…	260
中山権九郎…	236	中山武治平……………	243	中野新左衛門…	248	永井与五左衛門…	長野2	
中山権九郎…	236	中山5		中野新八……………	248	永井与五左衛門…	長野可百里……………	260
中山藤右衛門…	236	中山武治平……………	243	中野篤藏……………	248	永井与五左衛門…		
中山藤右衛門…	237	中山5		中野新八……………	248	永井与五左衛門…		

長野蕃……………261
内藤 1
 内藤周助……………262
 内藤彦左衛門……………262
 内藤周助……………262
内藤 2
 内藤謹平……………262
 内藤源之丞……………263
長尾
 長尾順庵……………263
 長尾順庵……………263
 長尾順庵……………263
 長尾順庵……………263
 長尾順庵……………263
 長尾松彦……………263
 長尾謙仲……………264
 長尾庵……………264
奈須
 奈須輪石……………264
 奈須洞雪……………264
 奈須元泉……………264
 奈須泉……………264
 奈須源吾……………265
名越
 名越作平……………265

名越愿三……………265
成見
 成見保……………266
 成見登七郎……………266
並河
 並河一九郎……………267
 並河一九郎……………267
 並河百之助……………267
 並河駒三郎……………267
中島
 中島無二……………267
 中島波守……………268
成田
 成田半之助……………268
西尾 1
 西尾仁左衛門……………270
 西尾金五郎……………270
 西尾仁左衛門……………270
 西尾七兵衛……………270
 西尾久作……………270
 西尾七兵衛……………270

西尾久作……………270
 西尾久馬……………271
西尾 2
 西尾源太左衛門……………271
 西尾十左衛門……………272
 西尾源太左衛門……………272
 西尾忠左衛門……………272
 西尾十門……………273
西尾 3
 西尾五右衛門……………274
 西尾五右衛門……………274
 西尾五右衛門……………275
 西尾五右衛門……………275
 西尾五右衛門……………275
 西尾伝……………275
蜷川
 蜷川三太夫……………276
 蜷川林左衛門……………276
 蜷川新十郎……………277
 蜷川林左衛門……………277
 蜷川新厚……………277
 蜷川涼……………278
西村 1
 西村常太郎……………283

西村平右衛門……………278
 西村九郎右衛門……………278
 西村仙右衛門……………278
 西村仙右衛門……………279
 西村小平次……………279
 西村九郎右衛門……………279
 西村寿雄……………279
西村 2
 西村閑五……………280
 西村閑五兵衛……………280
 西村閑五兵衛……………280
 西村勘五兵衛……………281
 西村勘五兵衛……………281
 西村閑吾……………281
西村 3
 西村藤四郎……………282
 西村源左衛門……………282
 西村元長……………282
西村 4
 西村平左衛門……………283
 西村儀兵衛……………283
 西村平左衛門……………283
丹羽 1
 丹羽三右衛門……………289

丹羽与一右衛門……………284
 丹羽市左衛門……………284
 丹羽市左衛門……………284
 丹羽与右衛門……………285
 丹羽辰五郎……………285
 丹羽育之介……………285
 丹羽一也……………286
丹羽 2
 丹羽八郎……………286
 丹羽十左衛門……………286
 丹羽十太夫……………286
 丹羽十左衛門……………287
 丹羽十左衛門……………287
 丹羽伝……………287
丹羽 3
 丹羽真一……………288
 丹羽貢……………288
丹羽 4
 丹羽与左衛門……………288
 丹羽源之助……………289
 丹羽三右衛門……………289
 丹羽安右衛門……………289
 丹羽三右衛門……………289

新海助左衛門……	289
新海助左衛門……	289
新海助之丞……	289
新海助左衛門……	290
新海雄次郎……	290
西脇	
西脇甚五大夫……	290
西脇甚五大夫……	290
西脇林右衛門……	291
西脇林右衛門……	291
西脇省三……	291
西川	
西川与兵衛……	292
西川八郎兵衛……	292
西川多一郎……	292
西川八左衛門……	292
西川八左衛門……	293
西川小源太……	294
葦塚	
葦塚清蔵……	294
葦塚兵左衛門……	294
葦塚林蔵……	295
葦塚利右衛門……	295
葦塚庄右衛門……	295

葦塚善太郎……	295
葦塚力介……	295
西沢	
西沢丈右衛門……	296
ね	
根来	
根来清太夫……	298
根来半兵衛……	298
根来清太夫……	298
根来清次郎……	298
根来半兵衛……	298
根来半兵衛……	298
根来源太夫……	298
根来清次郎……	298
根来半兵衛……	298
根来左太夫……	299
根来久良人……	299
根来千太郎……	301

口
絵

- 1 「旧藩制役成」(表紙)
- 2 「旧藩制役成」多賀谷式部
- 3 「旧藩制役成」高橋逸郎
- 4 「剝札」中根1(部分)
- 5 「士族」土居延寿(老女哥島)

福井藩士履歴 4

たすね

一 福井藩士履歴 た

多賀谷

多賀谷舍人

六百五拾石

元禄十六未十月廿五日養父權太夫跡日被下

宝永四亥五月十五日触頭被仰付

正徳元卯十一月七日御役御免

享保二酉六月十九日御側

同九辰十月十六日御奏者

同廿卯七月廿一日御書院番頭役被仰付、御馬支配菅沼市左衛門跡、席引渡

元文四未五月七日死

多賀谷舍人

六百五拾石

元文四未七月五日父舍人跡知無相違、牧野織之助上

寛保二戌五月廿三日御側

延享二丑五月廿五日御側御免

宝曆八寅十一月十六日大番頭引渡席

多賀谷權兵衛

六百五拾石

宝曆十辰六月廿九日養父舍人跡知無相違被下置、寄合席秋田八郎兵衛上

明和二酉十月十六日孝頭寺火消

同七寅六月十四日大番頭菅沼右近跡、引渡席大道寺孫九郎次

寛政二戌五月廿八日御書院番頭御用人御馬支配林八右衛門跡

同三亥四月十四日御内御用懸り

同十一未十月五日中午將様御用兼

多賀谷權助

五百五拾石

文化五辰二月廿九日養父權兵衛家督無相違被下置、寄合席牧野主膳次

同三月廿三日御側役御用人見習御小性支配

同年閏六月十二日月番打込勤

同七年八月廿三日御役御免

同九申十月廿五日運正寺火消

文化十二乙亥十月十六日無役御留主番支配嶋田久馬跡

文政二卯二月五日妻并養子佐織義不埒至極之義在之二付、妻義致離別飯

田織衛方へ相返シ、侍格御削り揚屋へ被入、佐織義侍御削、御国内十

三里四方追放被仰付、其方義家内不締之趣兼而取扱不参届、役儀并拜知

之内百石御取上、席御下ヶ秋田長之丞次、閉門被仰付

文政三辰九月十一日明里御藏火消

文政七申六月養子対島不埒、十三り追放、權助閉門

文政八酉三月廿三日隱居

多賀谷舍人 十郎事

五百五拾石

一文政八酉三月廿三日養父權助病身内願ニ付隱居被仰付、家督無相違被下、

寄合席稲垣文庫次

一同十亥二月十六日心得違之義有之二付遠慮

一同年六月十一日明里御蔵火消毛受伝三郎跡被仰付

一天保十三寅五月廿九日大御番頭毛受伝三郎跡被仰付、引渡之席被仰付

一弘化三年六月十六日御役御免被成候、依之遠慮伺之上差扣

一同四未二月廿八日明里御蔵火消西尾跡被仰付

一同年十月廿五日不慎二付遠慮、養家之弟雅吉同断

一嘉永六丑二月十六日養父故有楽先養子对馬倅仙太郎、猥り二鉄砲致持参

野先へ罷出候二付遠慮被仰付、舍人伺之上指扣之処廿二日御免

一安政三辰五月廿五日継子仙太郎儀不埒之趣相聞、不調法之事二候、依之

逼塞被仰付、舍人儀伺之上遠慮、六月八日御免、同年七月十七日仙太郎

逼塞御免

一安政五年四月廿一日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一同年六月十二日養父故有楽先養子对馬倅仙太郎出奔二付、遠慮伺之上指

扣、同月十六日御免

一文久三亥四月五日御用人御奏者兼

一元治元子五月廿日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、今日方御免被成候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、右二付御手当銀耆貫匁被下置候

一同二丑四月五日内願之上隠居

同三卯四月六日下馬御門并三ノ丸御座所御門御預ケ御警衛向厚相心得候様、補兵隊頭御免

高田

高田小左衛門

八百七拾五石

宝永三戌二月十一日養父小左衛門跡目無相違

正徳二辰十二月五日大番頭、同日座席御上被下

享保十五戌十二月廿八日御留守居毛受孫兵衛跡

高田小左衛門

六百七拾五石

享保十六亥三月五日養父小左衛門跡知無相違、寄合

元文三年五月廿一日御咎之品有之、拜知之内式百石御取上遠慮

高田小左衛門 病死

六百七拾五石

明和二酉十月十六日父小左衛門跡知無相違被下、寄合席林八右衛門次三

人下り
安永五申八月廿日御蔵火消

〔役成〕

多賀谷式部 他介

高五百五拾石

元治二丑四月五日父舍人隠居、家督無相違、寄合席大道寺孫九郎次

慶応二寅十一月三日二番之補兵隊頭

高田壬生之助 病死

六百七拾五石

寛政十二庚申七月十七日父小左衛門隠居、家督無相違被下置、寄合席富
永新左衛門次

同十月廿五日運正寺火消

享和二戌六月死

高田波門 積三郎

六百七拾五石

享和二戌年八月五日養父壬生之助跡知無相違被下、寄合席仙石万右衛門

次

文化二丑八月廿九日孝顯寺火消

同九申八月十九日御側役御用人見習御小性表御小性支配

同十四三月十四日御用人月番打込勤

文政二卯四月十日於江戸表御用人御奏者兼

同三辰六月廿六日三ノ丸内秋田三五左衛門屋敷へ替被下

同四巳年七月廿四日於江戸御書院番頭御用人御奏者兼御馬支配菅沼左門

跡、引渡席磯野勇次

文政五年七月廿九日渡辺十郎左衛門是迄之家屋敷与替被下候旨被仰付

文政七申十月七日御留守居役皆川舍人跡被仰付候

文政十二丑六月廿三日御用人御奏者兼御馬支配天方孫八跡被仰付

同十三寅十月 御役御免席其儘御近習二被指置

天保三壬辰十一月廿一日御留主居役牧野主膳跡

同七申正月廿日御書院番頭格御用人御奏者兼松栄院様御附御用人兼帯林

八右衛門跡

同十一子四月廿八日年来相勤候二付引渡席笹治権左衛門次

高田作之丞

六百七拾五石

一天保十三寅年七月廿日父波門家督無相違被下置、寄合引渡之席被仰付

一同十四卯二月十六日御側役并御用人見習御小性表御小性支配被仰付候

一弘化三年江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同四未四月十二日於江戸表御用人御奏者兼被仰付

一嘉永二酉佐野内膳義、病氣願之上御国江罷帰候様被仰付候二付詰被仰付、

九月晦日出立、当秋迄詰延

一同年十二月十五日今般御婚姻御用懸り出精二付、御召御小袖一御上下一、

外二銀三枚被下之

一同五子十月廿六日御鵜支配被仰付

一同六丑十一月六日今般十ヶ年之間無類之御省略被仰出候二付、御省略御

内調懸り被仰付候、依之御家格御仕来事無貪着取調可相違旨

一同七寅六月九日病身二付内願之通御役御免、風廻り之義ハ御用捨被成候

一安政三辰五月廿二日昨年中数多之放玉、殊二免状以上之席二而出精之事

二付、御持御扇子一本被下置候

一同四巳四月十四日年来砲術出精二付、花葵御紋付御扇子壹本被下置候

一同年十月十三日御家流砲術厚相心掛候二付、御家流砲術所へ相詰頭取共

申談、其身修行ハ申二不及相弟子引立方之儀、厚心配可致旨被仰付候

一安政五年二月十三日昨年内達之趣も有之風廻り相勤候処、砲術所へ相詰

候様被仰付候二付、内達之通風廻り之義者御免被成候

一同六未五月廿五日砲術所世話役之儀者御免被成、折々同所へ罷出肝煎詰

へ申談引立候様被仰付候

一万延元申十月廿日中ノ口致往来、折々為伺御機嫌御右筆部屋へ罷出候様被仰付候

一文久元酉十二月十一日御用人御奏者兼被仰付候

一同二戌三月廿日御備組調練掛り被仰付候

一同年来亥年御省略御年限明ニ付御内調掛り被仰付候

一同九月廿七日今般於公边御使用之御変革ニ付、於此表も御使用被相成候、然儀可有之候間被取調候様、尤御右筆勤向之義も精々御輕便ニ相成候様被仰出候、依之右取調方懸り被仰付候

一文久二戌十月廿二日御鷹支配被仰付候

一同年十二月十九日支度出来次第江戸詰被仰付

一同三亥正月五日出立、四月廿六日帰着

一同年二月十九日殿様御縁組御用掛り被仰付候

一元治元子四月二日三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同年六月廿日近来病身ニ相成他国御用等も難相勤ニ付、隠居内願有之候得共、未夕老年与申旨も無之ニ付隠居之義ハ御指留被成候間、寛々致養生其儘相勤候様被仰出候、右ニ付江戸詰并他国御用之義ハ御用捨被成候

同年九月十五日御留守居役笹治兵庫跡被仰付

一同年十二月賊徒一件、御留守御用相勤候ニ付御手当五百三拾三匁被下

一慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請御用掛り出精御褒詞

一同年九月廿日病身ニ付内願隠居

但多賀谷梅笑同様之御取扱ニ被成下候

高田波門 六三郎

〔役成〕

高六百七拾五石

慶応元丑九月廿日父作之丞隠居、家督無相違、寄合引渡之席皆川宮内次同二寅十一月廿三日孝顯寺火消

同三卯正月廿二日下馬并三ノ丸御座所御門御預ケ、御警衛向厚心得候様、風廻り御免

同年十月十八日第二遊撃隊頭

同四辰四月廿二日兵隊御改革ニ付御役御免

明治元辰十月廿三日下馬御門御警衛

高田²

高田金太夫

四百石

御先代様御代自分式百石被下候処、跡目之節上ル

延宝七未七月廿一日父長左衛門跡目六百石

但貞享三一統半知

元禄十丑八月廿三日百石御加増

宝永三戌五月十六日御武具支配

高田孫左衛門

四百石

元禄二巳九月二日御手廻被召出、御擬作被下

正徳四年二月十一日御供目付

同五未五月廿五日父金太夫隠居、家督無相違、御手廻御免、大番入

同年未六月廿一日御使番

享保三戌三月十九日御持弓物頭屋敷奉行兼

三百石

天明六年六月十六日養父金太夫跡知四百石之内百石被減三百石被下、大

高田金太夫

番入

四百石

寛政四子六月十七日御使番小川次兵衛跡

享保七寅十月廿五日父孫左衛門跡知無相違被下

同五丑九月朔日御奉行役

高田三郎左衛門

同七卯八月四日御趣意二付御役御免、御先武頭次席

四百石

同八辰正月十六日御側武頭榎並左次右衛門跡

享保十一年五月廿九日養父金太夫跡知無相違、大番入

享和三亥二月忍之者預り

寛保三亥正月十九日御使番榊原助左衛門跡

文化五辰閏六月二日忍之者支配御免、御武具是迄之通

延享三寅五月十八日御徒頭

文化六巳正月廿七日御普請奉行坂井權左衛門跡、席長袴新番頭次

宝曆二申六月廿五日御先物頭大木与五右衛門跡

文政三辰十月病死

同三酉十一月廿五日御側物頭久世三五右衛門跡

同六子正月廿二日御座所預り

高田長左衛門 幸十郎

同九卯四月廿二日不慎二付御役御取上、大番入

三百石

明和四亥閏九月十六日御先物頭小川次兵衛アト

文政三辰十二月五日父孫左衛門家督無相違被下置、大御番入被仰付

同七寅九月十四日御側物頭三寺与右衛門跡

天保十亥正月廿九日御使番役井原源兵衛跡

安永三年六月十四日御泉水預り

同年五月病死

高田金太夫

高田孫左衛門 孫十郎

〔役成〕

四百石

高三百石 外三拾石御足

安永五申三月五日親三郎左衛門跡知無相違、大番入

天保十亥六月廿九日養父長左衛門跡知無相違、大御番入

嘉永三戌八月五日大御番五番之筆頭役

高田孫左衛門

辰ノ十月病死

同七寅三月廿五日杉形御鎗奉行尾高仁兵衛跡

同七寅六月廿四日御目付松波甚左衛門跡

文久元酉五月八日中将様御附御側向頭取

同三亥七月廿六日席其儘御目付役千本藤左衛門跡

元治元三月十日御奉行順席、席桑山十兵衛次

慶応元丑八月七日近來御用多之処出精相勤二付、御足高三拾石

同二寅六月五日町方掛り

同年七月廿二日御預所掛り

同四辰八月廿五日御附御側御用人勤評定役兼

高田³

高田三郎左衛門

百石

延宝七未七月廿五日御徒方御取立、初新番後大番

元禄四未八月九日新知、御書物奉行

正徳二辰三月十九日軍法之師御取立除被下、常之席へ入

享保二酉十一月廿一日御書院番入

同七寅十二月十八日御書物奉行御免、御書院番其儘

同八卯三月二日死去

高田三郎左衛門

百石

享保八卯四月廿五日養父三郎左衛門跡目無相違被下、大番入

元文元辰七月廿五日与内并檢地奉行上坂甚五右衛門跡

高田三五左衛門

百石

寛延四未四月廿五日父三郎左衛門休息、家督無相違、大番入、其身此節

迄御徒目付也

明和五子二月廿五日御金奉行渋谷与五右衛門跡

安永八亥七月廿五日御勘定拝借奉行沢木彦太夫跡、御留守番入

同九子九月五日病氣二付御役御免、大番入

高田三郎左衛門

百石

安永九子十一月廿九日父三五左衛門跡知無相違、大番入

天明二寅六月十四日表御小性見習

同八申七月九日御近習番御書院番入

同年九月十五日御小性原半次郎跡

寛政七卯十一月十日御部屋附奥御納戸格御近習番久野孫四郎跡、御書院

番入

同十二庚申八月廿四日奥御納戸格其儘御供頭西尾五右衛門跡

享和二戌年八月十一日御腰物数寄方奉行中将様兼津田九右衛門跡被仰付

文化三寅八月五日末ノ番外御時宜役

文化九壬申七月三日格式其儘御札所奉行猪子六左衛門跡被仰付候

文化十二亥正月廿七日御長柄奉行中村市右衛門跡、御役料百五拾石被下

置

文政元寅十月二日御先物頭猪子六左衛門跡被仰付候

文政三辰二月病死

高田長十郎 七之丞

百石

文政三辰四月廿日父三郎左衛門家督無相違百石被下置、大御番入

文政三辰七月五日御小性

同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御小性御免、大御番入

文政十三寅十月十五日若殿様御附奥納戸被仰付、御書院番入

天保四巳九月廿九日若殿様御附御腰物数寄方奉行御表様御用兼帯鈴木隼

司跡

同五年ノ九月廿七日御腰物数寄方奉行若殿様兼帯

天保六未四月病死

高田三郎 新七郎 芳吉 三郎左衛門

百石

一天保六未四月廿五日高田長十郎病中願之通養子二被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組へ被入

一同八酉十月廿九日楷五郎様御附御近習番被仰付

一同十一子十月廿五日御近習番本多門左衛門跡被仰付

一同十二丑年江戸詰、八月十三日出立

一同十五辰十月廿四日御書物方野中重左衛門跡被仰付

一弘化二巳年江戸詰、三月廿一日御供二而出立

一同三年十月朔日御裏役野中重左衛門跡被仰付

一嘉永元申九月十五日奥御納戸役勝木十蔵跡被仰付

一同四亥三月十三日遠慮伺之上指扣被仰付置候処御免

一同年江戸御供詰

一同五年十二月廿八日三郎左衛門与名替

一同六丑七月廿六日江戸表江出立

一同七寅年十月九日御近習番頭取御膳番青木七郎右衛門跡被仰付候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一同五年七月六日殿様御近習番頭取御膳番中将様御用兼被仰付候

一同六未二月廿日役儀其儘格式末之番外被仰付候

同四月十七日帰着

一同七申三月廿六日御側向頭取本役同様御役料百五拾石被下置、御水主頭

次席被成下候

一万延二酉二月九日御広敷御用人被仰付、当秋江戸詰被仰付候

一同年七月廿日当秋江戸詰被仰付置候処、御都合も有之二付右詰御免被成

候

一文久二戌三月廿一日江戸詰出立

一同年七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談二付御用掛り被仰付候

一同三亥三月六日御前様安姫様御供二而御国へ出立、同廿三日着

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百六拾六

匁被下

一慶応三卯八月十二日殿様御縁談之儀御願御差出之義二付、右御用掛り被

仰付候

一明治元辰十月五日今度幸姫様御手許へ御引取二付、御用掛り被仰付

一同二巳二月十五日御裏取締被仰付候、未二月右御役名被廢

一月給米七十俵、御役料八不被下候

一同年六月十六日三郎左衛門事三郎卜改

一同年十一月七日三ノ丸御座所振退勤被仰付候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年二月廿七日御簾中様青松院様、来ル三月御東上二付御供被仰付

一同年三月廿四日右御供二而東京江出立

一同四未二月十六日執事被仰付

席従前之通

一同年四月五日当分年給 十式級 四拾三俵九升一合式勺

一同月十八日東京方婦

一同年五月八日御家従被免候事

一同五申正月十五日老年二付隠居



高田藤太夫

式拾五石五人

貞享四卯五月七日表御小姓被召出

正徳四年六月三日仕立掛御納戸於江戸被仰付候

高田八右衛門

廿五石五人

享保六丑二月五日養父藤太夫跡目無相違

高田新兵衛

廿五石五人

明和二酉十二月十一日父八右衛門休息、家督無相違、大番入

天明五巳二月十一日番改安本喜右衛門跡

高田八右衛門 藤太夫

廿五石五人

天明六年七月十一日養父新兵衛跡目無相違、大番入

享和二戌年七月廿日番改桜井与右衛門跡

文化九申九月十六日御簾本御武具奉行岡嶋九郎右衛門跡、御書院番入

文政四巳三月十六日年寄休息

高田弥市郎

廿五石五人

文政四巳三月十六日養父八右衛門年寄休息、家督無相違、無役御留守番入

文政七申閏八月廿三日大御番入

天保三辰六月廿五日御広式御用達被仰付候

天保十四卯年十二月十六日表御納戸役井上茂右衛門跡被仰付

弘化四未二月十四日上水奉行横山十郎兵衛跡被仰付、大番入

弘化四未七月五日病死

高田敏吉

切米廿五石五人扶持

弘化四未八月廿五日養父弥市郎跡目無相違、無役御留守番入

〔役成〕

嘉永三戌九月五日大御番入

安政五年八月十八日御広敷御用達御留守番入

文久三亥八月廿九日弘御納戸役御書院番入

慶応三卯十月廿五日御趣意二付役儀其儘御留守番入

同四辰閏四月廿五日御書院番入、役儀御免

高田⁵

高田利雄

五人扶持

慶応四辰閏四月二日被召出、御附御小姓、御扶持方五人扶持

〔役成〕

高田⁶

高田通義吉

五人扶持

慶応四辰閏四月十六日被召出、明道館授読、御扶持方五人扶持、役御番

〔役成〕

入

大道寺¹

大道寺孫九郎

五百石 外廿人扶持

享保二酉四月十三日於江戸被召出

同七寅二月十三日若殿様附御取次

同八卯三月十九日御取次御免

同十七丑十月十三日江戸御留守御用請込、御役料十人扶持

同廿年卯五月十三日御奏者席並河一九郎次

元文二巳四月十五日百石御加増

寛延二巳十二月廿九日百石御加増

宝曆五亥七月朔日及老年二付平日之当番并二当番月番御免、其外勤方只

今迄之通被仰付

大道寺孫九郎

五百石

延享三寅三月廿二日御右筆部屋へ相詰、御奏者御側見習、親孫九郎相障

節ハ御用御取扱可申旨、仍之十人扶持被下、御内証金三十兩被下

寛延四未二月五日十人扶持増、都合廿人扶持被下、御側本役席寄合次卜

被仰付、御用人助只今迄之通、但し御内証金ハ相止

宝曆四戌二月六日御小姓支配銀貳拾枚被下

同五亥七月朔日新知貳百石、外二馬飼料百石被下

同十一巳二月七日親孫九郎隠居、五人扶持被下、家督無相違、御側其儘

同年三月六日御用人席松原角左衛門次

明和四亥閏九月二日御書院番頭格引渡席中川六左衛門次

同七寅六月二日御内御用御預所方御用御儉約御用懸り御免

大道寺孫九郎

五百石

明和七寅十月朔日於江戸父孫九郎跡知無相違、寄合席松原右京次

安永二巳七月十日御右筆部屋諸事見習

同六酉五月廿九日御側見習

同十丑正月廿八日御用人見習

天明元丑六月二日御用人御奏者兼

享和元酉四月廿四日年来相勤二付引渡之席、御書院番頭格

文化六巳八月廿三日御役御免被成、席其儘被差置

同十四酉五月朔日御書院番頭格御用人御奏者兼

同十四丑五月廿二日月番勤御免

文政五午正月廿九日隱居被仰、御召御羽織被下

大道寺勝之進

五百石

文政五午正月廿九日父孫九郎隱居、家督五百石無相違被下置、寄合席被

仰付

文政八酉七月十五日病身内願之上隱居

大道寺孫九郎 市藏

五百石

文政八酉七月十五日養父勝之進病身内願之通隱居被仰付、家督五百石無

相違被下、寄合席天方孫八次

同年七月廿九日御側役御用人見習惣御小姓支配被仰付

文政十二己丑六月廿七日御趣意二付御国許へ家内共引越被仰付

大道寺孫九郎 芳三郎事 多宮 勝之進 実高田波門次男

五百石

一天保七申十一月十一日養父孫九郎家督五百石無相違被下、寄合席稲葉式

部次

天保十一子二月廿九日牧野主殿跡、運正寺火消被仰付

一同十五辰二月廿九日波々伯部熊藏屋敷へ替被下候

一嘉永元申江戸立帰出府被仰付、八月十一日出立、九月帰

一同五子年八月十六日家屋敷海福孫八家屋敷へ替被下

一安政三辰十二月廿八日勝之進与名替

一安政四巳六月廿日孝顯寺火消被仰付、運正寺火消之義ハ御免被成候

一同年九月廿三日家屋敷鈴木小三郎家屋敷へ替被下候

一万延元申十二月廿八日孫九郎与名替

一文久三亥四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用向都而其

儘被仰付、風廻り之義ハ御用捨被成候

一同年六月朔日今般農兵御派立二付、一組酒井与三左衛門へ御附被成候間

其手江属シ、与三左衛門并掛り西尾十左衛門手江厚申談致世話候様被仰

付

一元治元子四月十一日昨年酒井与三左衛門方江農兵一組御附被成候処、御

軍帳御割替二付御免被成、稲葉采女方江増御附被成候間采女方江厚申談、

是迄之通致世話候様被仰付候、采女方在京留守中ハ与三左衛門方江可申

談旨

一同年四月十九日稲葉采女方御用多二付、調練出勤無之節ハ本多孫四郎へ

都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日孝顯寺火消御免被成候

一同年六月十四日御軍帳御割替ニ付農兵二組稻葉采女方江御附被成、熊谷熊之助義先達而農兵之義厚申談致世話候様被仰付置候処、今度酒井与三左衛門方江農兵一組御附被成候間其手へ属シ、是迄之通相心得候様被仰付候

一元治元子七月廿二日御趣意ニ付御側役并御用人助御免被成候

一同年八月廿五日運正寺火消被仰付候

一同年十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候ニ付、御手当三百三拾三匁被

下

(慶応) 一同二寅十月廿六日下馬并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心得

相勤候様被仰付、依之風廻且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤方之

儀ハ御用人申談候様被仰付

一慶応四辰七月廿四日当分三ノ丸御座所御門当番之義ハ御免被成候

一明治二巳五月七日松本地方地之内、田嶋伴右衛門与申者居宅并右地続式

百坪余相對を以抱屋敷願之通被仰付

一同年同月廿五日御門所御警衛之儀ハ被免

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞奥縞御袴地一

反御盃一ツ被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米二百三俵五升七合被下候

一同三年七月十八日隱居被仰付

但相続之者可相伺事

百五拾石 外役料百石 又外五拾石御足

宝曆六子七月六日御相手方中奥御小姓ニ被召出、御擬作並之通

同八寅四月十七日御免

同五月廿八日中奥御小姓

明和三戌十二月二日御小姓頭取

同七寅九月十四日御膳番兼

同九辰九月廿四日新知百石

安永三年二月朔日御近習御時宜役御使者御代參、御留守年ハ兩殿様御腰

物数寄方奉行仮役末之番外

同八亥八月五日仮り御預ケ之御道具先達而致紛失候ニ付遠慮

同九子六月十日御徒頭格

同十丑正月廿八日五拾石御役料

天明四辰八月九日表役ニ被仰付

同五巳六月十四日江戸御聞番大井弥十郎跡、役料百五拾石、公辺御内用

掛り

同八申三月廿一日御先物頭順席

寛政元酉四月八日組御預ケ御預所掛り

同年閏六月十九日出精ニ付、毎年白銀拾枚ツ、被下

同三亥十二月廿八日格式長袴淺見忠右衛門次

同七卯十二月七日五拾石御加増

享和元酉四月廿四日御足高五拾石、但是迄之通白銀十枚ハ相止候

同三亥十二月九日席御上ケ町奉行次席秋田又左衛門次

文化七庚午年隱居



大道寺七右衛門

大道寺七右衛門 主水

貳百石 外役料百石

寛政十二申正月十五日御合力銀拾五枚、中將様御附御近習番被召出

同年八月廿二日右之上へ三人扶持被下

享和元酉四月廿八日右御附御小姓

文化六巳八月廿一日此度中將様御逝去ニ付右御免、親へ御返シ被成

同七年二月三日父七右衛門年寄隠居、家督百五拾石無相違、大番人、即日江戸御聞番御使番順席、役料百石

同十二亥七月廿日加藤与五右衛門跡御組御預ケ并御預所□□

文化十四丑四月十二日御先物頭次席被仰付候

文化十五寅五月三日御内用向格別出精ニ付、五拾石御加増被下置

文政四巳年十二月十五日長袴席被仰付、前田彦次郎次

文政十三寅十一月五日御聞番其儘御勝手懸り被仰付、御奉行次席被仰付

天保二卯五月廿四日御奉行兼帶中御聞番之方月番御免被成候

同三辰ノ四月廿日御奉行勤兼帶御免被成、御勝手掛り被仰付

天保五年八月三日今般暑中為御尋御奉書御到来、格別心配出精ニ付御召

御帷子被下置候

天保六未七月十一日出精相勤候ニ付御奉行次席被仰付候

大道寺七右衛門 七九郎

貳百石

一弘化三年八月三日親七右衛門家督貳百石無相違被下置、御書院番其儘御

聞番見習被仰付、同日御聞番本役被仰付、御役料百石被下置、御使番順

席被仰付候

一同四未九月十二日公方様神田橋御住居へ御立寄、御用掛り出精ニ付御褒

詞

一嘉永元申十二月十五日愈御出府之節、御用多相勤候ニ付御褒詞

一同二酉十二月十五日今般御婚姻御用掛り出精ニ付、御召御小袖一、外二

銀式枚被下之

一同四亥四月九日先達而神田橋御住居江両御丸様御立寄ニ付御褒詞

一同年十二月十六日中將御拜任ニ付御用懸り被仰付

一同五子閏二月十五日御昇進御用掛り出精ニ付、御目録金貳百疋被下置候

一同年四月廿五日御住居御普請御用掛り出精ニ付、御目録銀壹枚被下置候

一同五子六月五日御役儀其儘御先物頭次席被仰付候

一同年同月九日中村八太夫へ御預ケ被置候組御預ケ被成、并御預所掛り被

仰付候

一同年十二月廿四日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一同六丑年正月六日慎姫様御縁組御用懸り被仰付候

一同年十二月四日今般十ヶ年之間格別之御省略被仰出候ニ付、右掛り被仰

付候

一同年十二月廿日七九郎事七右衛門卜名替

一同年同月廿五日謚姫様御婚姻被為濟右御用掛り出精ニ付、御召御上下一

具被下置候

一同七寅四月十二日今般公儀御代替ニ付、御判物御朱印郷村高辻帳之義被

仰付候ニ付、右御用掛り被仰付候

一安政元寅十二月廿三日御札所御内用向出精ニ付、銀五枚被下置候

一安政二卯四月十四日御判物御朱印郷村高辻帳御改御用掛り出精ニ付御褒

詞

一同三辰三月十二日火之御番御用相勤太儀二思召、御召御上下一具銀壹枚被下置候

一同四巳九月廿一日今度神田橋御屋敷被指上、巢鴨ニおゐて御代地御拝領被成候ニ付、右御用掛り被仰付

一同五午七月七日今般御家督御相続、御用掛り被仰付候

一同年九月十四日殿様御一字御拝領可被遊ニ付、取調御用掛り被仰付候

一同年十月十日御役儀其儘御側物頭次席被仰付候

一同年十一月廿一日今般殿様御一字御拝領御用懸り等出精相勤候ニ付、御召御上下一具被下置候

一同日御家督御相続、御引移御用懸り出精相勤候ニ付、御召御小袖被下置候

一同七申正月十四日御本丸御普請ニ付、鳥子紙御献上御用懸り被仰付候

一同年二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精ニ付、銀三枚被下置候

一万延元与改、四月廿一日先達而御判物御朱印郷村高辻帳御改御用掛り出精ニ付御褒詞

一同年十月四日近年格別御用多之処、出精相勤候ニ付御三所物被下置、且又年々銀式拾枚ツ、被下置候

一文久元酉九月晦日出精相勤候ニ付、長袴席御広式御用人次被仰付候

一同二戌四月三日、一昨春以来横浜表江度々御人数致出張、右節々致心配之段御褒詞

一同七日先達而御持場替一件御用掛り出精之段、御褒詞之上銀式枚被下置候

一同年五月朔日近来格別出精相勤候ニ付、御足高三拾石被下置候

一同年七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談ニ付御用掛り被仰付、同年十一月

十二日御免

一同年十月廿五日中午將様御上京御供被仰付、御道中并御逗留中御使番役兼帶被仰付候

一同年十二月廿四日来春中將様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸廻り御先

へ出立

一同三亥三月 京都方振りニ而江戸へ出立

一元治元子六月十日病死

大道寺七九郎 喜三郎

[役成]

高式百石

元治元子八月廿三日養父七右衛門跡知無相違、大御番入

慶応二寅十一月三日御趣意ニ付御留守番入

(慶応四) 同年閏四月十六日御小姓



立岩平太夫

式拾五石五人

寛文九酉年方御扶持被下

同十二子十二月親儀右衛門家督被下置

宝永二申三月廿一日檢地奉行

立岩武左衛門

百五拾石 外役料百石

正徳二辰十二月廿三日養父平太夫跡無相違

同五未七月廿九日二人扶持御加増、表御小姓

享保七寅十一月九日中奥

同九辰閏四月十三日表御小姓

同十二未四月廿八日御腰物方御書院番入、堀又右衛門跡

同年六月廿一日新知百石

同十六亥二月十六日御役御取上、大番入

寛保二戌六月五日御裏役川崎久太左衛門跡

延享四卯九月六日御部屋奥御納戸御腰物方兼

寛延三年十月三日五十石御加増

宝曆九卯正月十六日御留守作事奉行中村八太夫跡

同十辰七月廿五日御先作事奉行、役料百石、同人跡

同十一巳三月四日御奉行中川平太左衛門跡

武田平右衛門

式百石 役料百石

延享三寅五月廿五日表御小姓被召出

同五辰七月十九日中奥

寛延三年十二月十一日中奥御免

同月十六日表御小姓

同四未八月十六日中奥

宝曆八寅四月十七日御代替り二付御小姓御免、御近習二被差置御免

同五月廿八日中奥御小姓

明和二酉二月廿日新知百石

同四亥二月廿六日父武左衛門隠居、家督百五十石無相違、勤方其儘其身

百石上ル

同五子七月二日御目付一柳新九郎跡、御役料百石

安永八亥正月十六日御足高五十石

同十丑正月十五日長袴格、席御奉行次

天明六午閏十月十五日御預所元締役淺見七郎右衛門跡、席御奉行上

同七未三月十四日御預所郡奉行兼帶

寛政二戌八月十五日郡奉行兼帶御免

同六寅正月十六日年来重キ御役義共出精相勤候二付五拾石御加増、式百

石二被成下

武田平太夫 部屋住二被召出、御趣意二付父子勤御免、親へ御返し被成候

百石

安永七戌七月七日御小性見習被召出、御合力銀十五枚

同年十一月十三日御近習番御書院番入

天明八申八月四日御近習番御供頭大久保勝之丞跡

寛政二戌十月廿九日奥御納戸役寺沢藤左衛門跡

同五丑正月廿八日父子勤御免

寛政八辰正月十六日父平右衛門隠居被仰付、家督無相違、大番入

同月廿日御近習番御書院番入

同十午三月廿日御部屋附御裏役

寛政十二庚申五月五日奥御納戸役河合太郎太夫跡被仰付

享和三亥三月七日郡奉行土屋市兵衛跡、役料五十石

文化六巳正月廿七日杉形御鍵奉行中根新左衛門跡、役料百石

同九申七月三日御預り所郡奉行寺沢藤左衛門跡、御先物頭次席御役人並
宮北長左衛門次

文化十酉十月四日御役前取扱不宜義有之御役御免、席末ノ番外、遠慮

文政元寅年七月廿六日小馬印奉行大藤三郎兵衛跡被仰付

文政三辰十月十九日杉形御鎗奉行井上半太夫跡

同五年九月廿五日倅又七他国者と謀計取組不埒之儀有之、侍御削、御国

内十三里追放被仰付、平太夫儀も右之始未承知不致義も無之趣不埒二付、

役義并拜知百石御取揚、大御番組江被入、遠慮被仰付

文政九戌年十一月十六日末之番外被仰付

天保二卯年九月廿五日御長柄奉行岡三郎右衛門跡、御役料百五十石

武田平右衛門 喜内 源次郎

百石

一天保三辰閏十一月十六日親平太夫家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同四巳四月廿五日表御小姓雨森太郎兵衛跡被仰付

一同五午五月廿九日御近習番桑山十藏跡被仰付、御書院番組へ被入

一同六未年江戸詰、閏七月廿四日出立

一同年九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二被指置候、勤方之義ハ追而可被仰付、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月十四日御近習番被仰付候

一同八酉年江戸詰、八月廿七日出立

一同九戌十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習

二被指置候、勤方之儀ハ追而可被仰付候、御用筋之儀ハ先是迄之通可申

談旨

一同年同月廿九日御近習番被仰付

一同年江戸詰、十一月三日出立

一同十一子四月十一日御書物方溝口郷右衛門跡被仰付

一同年江戸詰、八月廿九日出立

一同十二丑十月十九日甥寿三郎先達而出奔之儀二付、遠慮伺之上差扣被仰付

一同十三寅三月十六日御裏役溝口郷右衛門跡被仰付

一同年江戸詰、八月十二日出立

一同十四卯八月十七日奥御納戸役高島市郎右衛門跡被仰付

一弘化二巳年江戸詰、三月廿一日御供二而出立

一同四未年江戸詰、三月十九日出立

一嘉永二酉二月十三日奥御納戸役其儘御近習番頭取被仰付

一同年江戸詰、三月廿三日御供二而出立

一嘉永三戌八月十二日御近習番頭取其儘御書院番二番之筆頭役并御膳番勝木十藏跡被仰付

一同六丑二月廿日役儀其儘格式末之番外被仰付候

一同年三月廿二日御供出立、同年十月五日帰着

一同年九月十六日御預所郡奉行桑山十兵衛跡、御役料五拾石被下置候、郡奉行順席被仰付候

一同七寅六月十九日役儀其儘御先物頭次席被仰付、御役料都合百五拾石被下置、御役人並被仰付候

一安政四巳十一月廿日御趣意二付郡奉行兼勤被仰付候

一同五午十月十八日今度北国筋湊々見分為御用公儀御役人被罷越候二付、

右御用掛り被仰付候、十二月十一日右出精御褒詞

一同年十一月十一日郡奉行兼勤之義ハ御免被成候

一万延二酉正月十八日御広敷御用人被仰付、当春江戸詰御癸駕前致出立候様被仰付候

一文久二戌四月晦日着

一同三亥八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同年九月廿三日賀代姫様来春御入輿ニ付御用掛り被仰付

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候ニ付、御手当式百六拾六匁被下

一慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請御用掛り出精御褒詞

一同三卯六月廿九日殿様御縁組之儀ニ付取調御用懸り被仰付

一同年七月廿六日今度於御座所御建繼御普請被仰出候ニ付、御用掛り被仰付

一同四辰正月七日宰相様為伺御機嫌御簾中様方京都表へ被遣、出立之儀ハ追而可及指図旨、然ル処九日出立

一同年六月十八日年寄候ニ付隠居

一同年七月廿六日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被仰付

武田喜内

高百石

〔役成〕

慶応四辰六月十八日養父平右衛門隠居、家督無相違、遊撃隊入

同年八月廿九日彈薬預り小銃取扱方兼役御番入

明治元辰十二月廿一日御役名器械并彈薬差配方、製造局附属

武田²

立岩長右衛門

百石

天和三亥六月十一日父長右衛門跡目百五拾石無相違

貞享三一同半知

宝永五子五月廿一日御勘定奉行拝借方共最前之役

正徳六申正月十八日御留主物頭

立岩長六

百五拾石 外役料百石

宝永四亥十一月十三日表御小姓被召出

正徳元卯十一月十七日中奥御小姓被仰付

享保六丑五月十五日奥御納戸竹田宇左衛門跡、同日新知、御書院番

同十一年三月廿一日父長右衛門隠居、家督被下、御役其儘自分知上ル

同十三申五月十一日御膳番被仰付、加藤所左衛門跡

同十七子五月廿一日御使番、五十石御加増被下、大木与五右衛門跡

武田三郎右衛門

百石 役料百五拾石

享保十九寅五月五日父長六跡目拾五人扶持被下、御留守番入

延享四卯正月廿五日新知被下、大番入

寛延元辰十二月廿一日表御小姓

同四未八月三日中輿
 宝曆八寅四月十七日御免、御近習二被差置
 同五月廿九日中輿

明和三戌十二月二日御纏奉行明石甚左衛門跡

安永八亥七月廿五日御近習之勤方御長柄奉行次席、御纏奉行八御免

天明四辰八月十日向後表役勤方は迄之通り

天明六年六月廿四日御長柄奉行中村太郎左衛門跡、御役料百五拾石

寛政二戌二月廿日御先物頭堤新三郎跡

武田弥三郎

百石

寛政八辰五月十一日父三郎右衛門家督無相違、大番入

文化十五寅三月廿九日休息

武田藤三郎 桃次郎事 悦五郎事

百石

一文化十五寅三月廿九日親弥三郎内願之通休足被仰付、家督百石無相違被

下置、大御番組へ被入

一文政九戌江戸詰被仰付、四月十六日出立

一同十二丑江戸詰被仰付、四月十五日出立

一天保五午江戸詰被仰付、二月廿六日出立

一同七申五月廿五日御金奉行斎藤門太夫跡被仰付

一同八酉江戸詰被仰付、七月十日出立

一同十二丑江戸詰被仰付、七月十二日出立

一同十四卯二月十六日御勘定拝借奉行御趣意金取扱丹羽与右衛門跡被仰付
 一同十五辰五月三日御札所奉行川地又兵衛跡被仰付、格式末之番外被仰付、
 高屋六郎左衛門跡

一弘化三年十一月十八日新札引替之節出精二付、御紋御上下一被下之

一嘉永二酉四月五日御札所目付被仰付、御役料五拾石被下置、御長柄奉行

次席御役人並被仰付

一同四亥五月十六日出精相勤候二付役義并席其儘、御役料都合百五拾石被

下置候

一同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節、於御札所出精二付御褒詞

一同七寅六月十九日出精相勤候二付、御先物頭次席被仰付候

一安政三辰五月九日御先物頭梶川半兵衛跡被仰付候

一同四巳三月廿三日席御役料其儘御留守物頭被仰付候

一同六未三月十一日席其儘御先物頭浅見七郎右衛門跡被仰付候

一文久元酉八月二日病死

武田政十郎

高百石

一文久元酉九月廿三日養父藤三郎跡知無相違、大御番入

同三亥六月廿一日制産方見習御留守番入

同年十二月十一日製造方

同四子二月七日製造方御免、大御番入

慶応元丑九月十一日大砲方筆頭役、々御番入

同三卯十月廿七日御趣意二付大砲方其儘筆頭役御免

同四辰閏四月十一日大砲隊

〔役成〕

同年六月十九日御役名以來大砲分隊長与御改



立岩八郎右衛門

貳拾石五人

延宝八申八月養母為跡目被下

宝永六丑六月七日御裏役

享保二酉六月十九日眼病二付御役御免、大番入

立岩太郎左衛門

百石 外役料百五拾石

享保六丑五月十五日表御小姓被召出、御扶持切米被下

同九辰七月十八日中奥

同十一午四月五日父八郎左衛門休息、自分被下成候御擬作席も自分被召

出候席二被差置、御小姓其儘

同十二未六月五日於江戸新知被下、御腰物方御書院番入

同十六亥二月十六日御役御取上、大番入

延享二丑正月十五日御裏役西村九郎右衛門跡、御書院番入

寛延三年六月五日奥御納戸木滑藤太夫跡

宝曆十辰七月廿五日御留守作事奉行立岩武左衛門跡

同十一巳六月五日御先作事奉行、役料百五拾石被下、同人跡

同十三未九月五日御先物頭奈良助右衛門跡

武田太郎左衛門

百石 役料百五拾石

明和三戌八月廿九日父太郎左衛門跡知無相違、大番入

同七寅六月廿四日表御小姓

安永七戌八月十二日若殿様奥御納戸鱸半五郎跡、御書院番入

天明二寅三月十一日御表奥御納戸根来清次郎跡

天明三卯十二月五日若殿様御近習番御供頭、席是迄之通

同四辰十月八日於江戸若殿様附奥御納戸

寛政二戌八月十五日御部屋附御近習番頭取御膳番築田七左衛門跡

同七卯二月十五日御使番跡部主計跡、御役料百五十石

享和元酉十一月廿日御先武頭樋口喜左衛門跡

享和三亥三月七日御普請奉行太田三郎兵衛跡

文化五辰閏六月二日隱居

武田勝次郎

百石

文化五閏六月二日養父太郎左衛門隱居、家督無相違、大御番入

同八未閏二月廿八日仁之助様御附御近習番御書院番入

同十一戌七月廿日同御附奥御納戸

同十三子十月病死

武田勝之丞 栄吉 三十郎

百石

文化十三子十一月廿五日養父勝次郎病中願之通養子被仰付、家督無相違、

大御番入

文政六未正月十八日若殿様御附御小性被仰付

文政十一子六月病死

武田元作

百石

文政十一子八月十六日養父勝之丞家督無相違被下置、大御番組入

天保十五辰四月病身二付内願之上休息

武田鶴助

百石

天保十五辰四月親元作病身二付内願之通休息被仰付、家督百石無相違被

下置、無役御留守番組へ被入

武田三十郎 雄吉

〔役成〕

高百石 外役料百五拾石

嘉永元申十月廿日養父鶴助跡知無相違、大御番入

同七寅八月三日御小姓

安政五年七月六日御代替り二付御小姓

同七申正月十八日御小姓頭取

慶応二寅六月五日郡奉行松原孫七郎跡御徒頭次席、御役料五拾石御役人

並、席横井五百里次

同年十一月十日御役料五拾石御増、都合百石

同三卯十一月廿日出精相勤二付大砲物頭次席、々加藤藤左衛門次

同四辰四月十一日評定役並

同年閏四月十四日評定局御用透之節郡役所江罷出申談候様

同年五月四日評定役本役司計副頭取物頭嫡席、御役料都合百五拾石、席

堤五市郎次



田辺五太夫

式百石 外役料百石

享保四亥正月十三日父五太夫為跡目無相違被下

同九辰五月十九日御小姓御免、大番入

同十三申二月廿九日御使番小川次兵衛跡、役料百石

同廿一辰五月十三日御徒頭加藤武右衛門跡

元文三年七月廿九日御側物頭河合彦作跡

寛保二戌六月朔日御目付大木与右衛門跡

寛延三年正月十六日五十石御加増

田辺久藏 隠居

式百石 役料百石

寛延四未九月十一日父五太夫跡目無相違、大番入

宝曆十一巳十月廿二日御手廻御書院番入

明和五子八月十三日御手廻御免、御近習番格、席是迄之通

同年十一月十四日御次詰芦田十左衛門跡

安永三年八月六日御供頭役、御近習番是迄之通

同四未二月十四日御水主頭雨森作助跡、御役料百石
 同七戌六月廿二日御目付長谷部次郎兵衛跡
 同十丑正月十五日郡奉行井上孫左衛門跡
 天明六年十二月十四日新番頭榎並猪十郎跡

田辺源藏

百五拾石 外役料五拾石

享和三亥十月五日父久藏隠居、家督式百石無相違、大番入
 文化三寅六月十六日拝知之内五拾石御取揚ケ
 文化六巳五月廿四日江戸御聞番見習被仰付、御役料五拾石被下置
 同年死去

田辺五太夫 鉄五郎事

百五拾石

一文化七午二月五日兄源藏病中願之通養子被仰付、跡知百五拾石無相違被
 下置、大御番組江被入
 一同十四丑六月廿日若殿様御小姓恒五郎様御附兼帯被仰付
 一同年江戸詰被仰付、文政二卯年迄詰越
 一文政四巳江戸詰被仰付、同六未年迄詰越
 一文政七申江戸詰
 一同九戌江戸詰被仰付、三月廿八日出立
 一同十一子江戸詰被仰付、同十三寅年迄詰越
 一同十二丑六月六日御小姓頭取福田八右衛門跡被仰付
 一天保二卯江戸詰被仰付

一天保三辰十二月廿八日御小姓頭取其儘格式末之番外被仰付

一同四巳江戸詰被仰付

一同六未年江戸詰被仰付、同年天梁院様御棺御供二而帰着、直二八月廿三日
 日出府二而詰越被仰付

一同年九月五日今度御代替二付御小姓頭取御免被成、御近習二被差置候、
 勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

一同年九月十四日御小姓頭取被仰付候

一同七申正月十九日御使番次席被仰付、御役料五拾石被下置候

一天保八酉七月十九日御目付役松原権左衛門跡被仰付、御役料都合百石被
 下置候

一同九戌江戸詰被仰付、八月朔日出立、同五月来亥年迄詰被仰付候旨、同
 十二月七日来秋迄詰被仰付候

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛り出精二付、御召御上一被
 下之

一同十亥二月廿七日来子年迄詰被仰付候

一同年十二月十一日御屋形御普請御用掛り出精二付、銀壺枚被下之

一同十一子三月十四日御内用有之御国江被遣、早速出立被仰付候

一弘化三年四月四日夜廻り順割替不念之義二付、伺之上遠慮

一同年七月八日御預所掛り被仰付

一同年七月九日新番頭井上半太夫跡被仰付

一嘉永三戌正月十六日御広敷御用人荻野治部左衛門跡被仰付、御奉行次席
 被仰付

一同年九月十七日伺之上十日遠慮被仰付候

一同四亥八月十六日御役御免被成、席御役料其儘御近習被指置候

一同五子六月九日隠居被仰付候

田辺良介 良助 五太夫 実石川瀬六弟

百五拾石

一嘉永五子六月九日養父五太夫年寄候二付隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入候

一同七寅年十月九日御近習番組生忠之助跡被仰付、御書院番組江被入候

一安政元寅十二月廿八日五太夫与名改

一同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一同五年七月六日殿様御近習番中将様御用兼被仰付候

一同九月廿七日帰着

一同六未二月廿日御書物方被仰付候

一同年十月五日御裏役吉田石五郎跡被仰付候

一同七申閏三月十一日奥御納戸役被仰付候

一文久二戌六月十日病身二付内願之通御役御免被成、大御番組へ被入候

一元治元子二月廿九日御書院番組へ被入候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応二寅十月廿六日御腰物数寄方奉行被仰付

一同三卯五月廿日御書院番一番之筆頭役加藤清十郎跡被仰付候

一明治二巳二月十六日末之番外格二被仰付、役儀之儀ハ御免被成候、御広間当番勤、席坂井権左衛門次

一同年六月廿一日五太夫事良介卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱
一同四未十一月三日老年二付隠居



田辺平学

百五拾石 外役科百石

元禄十五年七月十一日父十歳為跡目三人扶持被下

享保五子十月廿二日新知被下、御小姓

同九辰閏四月十三日表御小姓

同年八月十六日御小姓御免、大番入

同十二未六月廿九日御手廻御書院番入

同十三申正月九日御駕附

元文五申閏七月十五日五拾石御加増

延享四卯九月十六日御使番

宝曆三酉十月廿九日御長柄奉行

田辺逸八 初平学

百五拾石

宝曆七丑三月十一日父平学隠居、家督無相違被下、大番入

同年七月廿二日御手廻り御書院番入

同十三未三月廿五日御駕附

明和四亥六月十六日役義御免、大番入、此節遠慮

安永四未二月十四日御供方御近習番格、御書院番入

同五申八月五日御供方御免、大番入

田辺平学 十五郎

百五拾石

寛政九巳七月廿日父逸八病身二付内願有之休息被仰付、家督無相違、大御番入

文政元寅十月二日御腰物数寄方奉行萩原猪太夫跡被仰付

文政七申四月六日於江戸表末ノ番外御時宜役

文政十亥年九月廿四日渡辺源五左衛門跡御纏奉行被仰付

田辺周吉

百五拾石

文政十二巳丑十一月十六日養父平学隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

天保十五辰ノ十二月十一日大御番六番筆頭役榊原惣三郎跡

弘化四未ノ十一月十二日病死

田辺平学 藤次郎 藤太夫

高百五拾石 外役料百石

〔役成〕

弘化四未十二月廿七日父周吉跡知無相違、大御番入

万延元申十月十一日大御番無役世話役、大御番無役入

文久元酉十二月十一日大御番筆頭役助

同三亥六月廿一日制産方吟味役留守番入、席岩上梶太夫次

同年八月廿七日大御番二番之筆頭大御番入

元治元子五月十一日在京中不埒之趣二付、役儀御取揚閉門

同年八月廿六日大御番二番之筆頭役、役席波多野五郎左衛門次

慶応二寅十一月三日役儀其儘格式末之番外、御役料廿五石、席林忠太夫次

同三卯十月十八日出精相勤二付御役料廿五石御増都合五十石、御使番格第一遊撃隊半隊長、席林藤五郎次

同四辰四月廿五日三番之遊撃隊長

明治元辰九月廿五日出精相勤二付御役料都合百石、席上夕富田弥平兵衛次



田辺右金吾 五太夫次男

式拾五石五人

延享元子十一月十五日御小姓被召出

寛延三年二月十一日御免、大番入

同年三月十六日中奥

田辺十蔵

式拾五石五人

宝曆五亥七月廿一日養父右金吾跡目無相違、大番入

明和七寅六月十六日令死去候儀二付思召有之、家断絶被仰付

田辺八蔵

七人扶持

明和七寅六月廿八日田辺十歳名跡御立被下候二付、御留守番組へ被召出、御扶持方七人扶持被下

田辺虎次郎

七人扶持

天明元丑四月廿日親八歳病氣二付休息、家督無相違、御留守番入

田辺源右衛門

幾平 病死

拾七石三人 外二八石式人御足

天明六年正月廿九日養父虎次郎跡目、幼年二付五人扶持被下、御留守番入

同九酉二月五日十五歳罷成候二付、二人扶持御増、都合七人扶持被下

文化元子八月十六日御右筆見習、御足高三人扶持被下

同三寅四月四日勤方本役同様

同年十一月二日日本役御擬作十七石三人扶持被成下、八石二人御足

文政四巳三月十六日御旗本御武具奉行高田八右衛門跡被仰付、是迄被下候御足充行其儘被下置

文政十三寅ノ七月廿九日御右筆受込御帳附支配

田辺讓右衛門

切米廿五石五人扶持

天保四巳六月五日父源右衛門跡目無相違、無役御留守番入

同八酉七月五日評定所留役大御番入

〔役成〕

同十一子五月十一日御先武具奉行

同十三寅十月十六日御右筆見習、役席永井与五左衛門次

同十四卯五月廿五日御右筆本役御書院番入、八石二人扶持御足

同年十一月四日御内用御右筆大御番入

嘉永五子六月十六日御足充行八石式人扶持御加増、都合廿五石五人扶持、

御代官御留守番入

同七寅六月十九日御預所御代官役

安政四巳八月廿日御広敷御用達

万延元申十一月廿日御留守武具奉行

文久三亥五月廿二日御先武具奉行弾役方兼帯、大御番入

同四子二月廿九日御世譜方御右筆御書院番入

慶応二寅三月十一日御趣意二付御世譜方御右筆御免、是迄致繁勤二付御

書院番其儘



田部奥左衛門

式拾石四人

貞享元子八月廿七日御取立

享保七寅順席

田辺奥左衛門

式拾五石五人

享保五子七月廿三日被召出、御扶持方被下

同七寅十二月五日御切米被下、御手廻

同十一午三月廿七日父與左衛門へ被下廿石四人扶持上ル、自分被下成ヲ
家督被下、御手廻り其儘

同十五戌十二月十五日御手廻御免、大番入

寛保元酉三月十六日御持武具奉行御書院番入

延享元子十一月三日御次詰

寛延三年二月十一日御免、大番入

田辺奥左衛門

廿五石五人

宝曆五亥十月十一日父與左衛門休息、家督被下、大番入

同九卯八月十一日御代官御留守番入

同十一巳四月十一日御代官御免、大番入

明和二酉五月廿日御代官岡嶋清右衛門跡、御留守番入

安永九子十一月廿一日御預所御代官岩佐長左衛門跡

天明元丑十二月十一日御本領相勤候節於在方心得違有之二付遠慮

田辺奥左衛門

廿五石五人

天明六年五月廿五日父與左衛門休息、家督無相違、大御番入

寛政九丁巳十月廿九日番改坂井勘左衛門跡

文化十酉七月廿五日御代官役川端長兵衛跡、御留守番入

文政九戌十二月十六日年寄候二付休息被仰付

田辺奥左衛門 庄司事

廿五石五人

一文政九戌十二月十六日父與左衛門休息、家督無相違、無役御留守番入

一嘉永元申年江戸詰、四月十一日出立

一同二己酉十一月十六日玉葉奉行青山弥五右衛門跡被仰付

一同四亥四月十七日病死

田辺源太左衛門 弥五郎 源太郎

切米廿五石五人扶持 外三人扶持御足

嘉永四亥六月十一日父與左衛門跡目無相違、無役御留守番入

同七寅九月四日大御番入

安政六未十一月廿五日制産方見習合薬方

万延元申十月廿日制産方

文久二戌十一月八日御役前御都合も有之二付御留守番入

同三亥十月三日制産方御附属二付郡方吟味役

慶応元丑九月廿日出精相勤二付銀五枚年々

同三卯二月十一日郡方吟味役其儘用水奉行兼

同年三月九日大丹浦開田江筋之儀格別精勤二付、御足三人扶持、是迄被

下銀五枚以後不被下

同四辰閏四月十一日御趣意二付郡方吟味役兼御免



田辺十五郎 鉄三郎

[役成]

五人扶持

慶応四辰四月廿五日被召出、御扶持方五人扶持、遊撃隊入



田辺熊之助

五人扶持

慶応四辰四月廿五日被召出、御扶持方五人扶持、遊撃隊入

〔役成〕

田代万貞 高節

式百石

延享三寅五月十六日父万貞隠居、三人フチ被下、家督無相違被下、表医

師

宝曆八寅八月廿二日奥医

明和三戌六月十一日御匙医

同七寅五月廿八日若殿様附

同九辰九月廿四日御表御匙医

天明六年五月廿五日病氣ニ付江戸詰御番願取次御免

田代万貞

式百石

天明八申五月廿二日父万貞隠居、家督無相違被下

同日奥御医師

同年九月八日於江戸御部屋御匙医

寛政五丑年六月廿日御表様御匙医

文政元寅六月廿五日養子宗玄離縁之義ニ付遠慮、妻義も不心得ニ付慎

文政二卯十月廿九日隠居

田代万貞

宗愿事

万悌事

実浅野恭斎弟

式百石

一文政二卯十月廿九日養父万貞内願ニ付隠居被仰付、家督無相違被下置、

表御医師被仰付候

一同十三寅六月十一日奥御医師被仰付候



田代万貞 町医

百石

元禄六酉九月七日被召出、拾人扶持被下

正徳三巳六月廿八日新知被下

田代万貞

式百石

正徳三巳十一月五日父万貞跡目無相違

享保八卯十月五日奥医被仰付

同九辰七月十八日於江戸五拾石御加増、御匙席元常次

同十六亥二月六日五拾石御加増

延享三寅五月十六日御匙御免、三人扶持被下、休息

一天保三辰江戸詰被仰付、四月四日出立

同二丑三月廿日御匙医師本役

一同八酉五月廿日御匙医師浅野恭齋跡被仰付

一同九戌江戸詰被仰付、十月十二日出立

一同十二丑江戸詰被仰付、八月廿九日出立

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月 出立

一同三年十一月十三日遠慮伺之上差扣被仰付候処御免

一嘉永元申江戸詰被仰付、四月九日出立

一同五子十二月廿四日種痘御端立以来心配行届候趣相聞候二付、帯地一被

下置候

一同六丑三月廿一日御供出立

一同年九月三日松栄院様御附兼帯被仰付候

一安政四巳四月十九日幹事被仰付候取扱向教授同様之事

一同年十月八日松栄院様御逝去二付、御附兼帯御免被成候

一同六未三月十七日江戸詰出立、同七申三月十五日御供二而帰着

一元治元子十月二日年寄候二付隠居被仰付、養子万隆江家督式百石無相違

被下置、御匙医師見習其儘被仰付、且又年来相勤候二付御紋御羽織一被

下置候

田代万貞 万隆

〔役成〕

高式百石

安政六未二月廿九日被召出、奥御医師、三人扶持

文久二戌五月廿八日御匙医師見習、御扶持方式人扶持御加増、都合五人

扶持

元治元子十月二日父万貞隠居、家督無相違、御匙医師見習其儘



田代養元

百石

御先代ヨリ御扶持方被下

貞享四卯十二月十六日新知百石被下候処

宝永二酉五月十六日被召上、倅養哲卜父子へ十五人扶持被下

正徳三巳五月五日於江戸百石被下、但シ御扶持方上ル

田代養哲

百石

享保九辰四月廿九日養父養元跡目被下、自分被下御扶持方上ル

同十巳三月廿一日奥御医師

田代養元 玄竹

百石

享保十五戌十二月十六日養父養哲久々相煩候二付休息、家督無相違被下

寛保二戌五月廿五日休息

田代養山

廿石四人

寛保二戌五月廿五日養父養元休息、家督百石無相違、表医

宝曆十二年二月五日類族取扱不調法有之、拜知御取上、御擬作廿石四人扶持被下、遠慮

田代俊珉

廿石四人

明和八卯十二月五日養父養山病身二付休息、家督無相違、表御医師

田代道玄 養山

廿五石五人

天明四辰閏正月廿日養父俊珉跡目無相違被下、表御医師被仰付

文化四卯十月五日奥御医師

同八未閏二月廿五日御匙医半井道泉跡

文政二卯七月五日五石壺人扶持御増被下、江戸詰被仰付

文政十亥六月廿三日出精相勤二付御足充行五石壺人扶持御加増、都合廿

五石五人扶持

田代養山

廿五石五人

文政十二丑二月十六日親道玄跡目無相違廿五石五人扶持、表御医師

天保四巳八月十六日奥御医師被仰付

天保八酉五月廿八日病死

田代道玄 道寿

切米廿五石五人扶持

〔役成〕

天保八酉七月廿日父養山跡目無相違、表御医師

嘉永五子正月十六日奥御医師

慶応三卯正月十六日出精相勤二付御匙医師格

明治元辰十一月十四日御匙医師見習

大藤¹

大藤次兵衛

百五拾石 外役料百石

元禄十一寅十月十八日於江戸養父金右衛門跡目被下、此節迄自分御徒相

勤

享保元申九月十八日於江戸御水主頭樋口小左衛門跡

同十一年四月十六日御先物頭堀新左衛門跡

元文元辰七月廿二日御普請奉行中村八太夫跡

大藤次兵衛

百五拾石

延享元子十月廿九日父次兵衛跡無相違、大番入

大藤三郎兵衛

百五拾石

安永七戌六月廿二日父治兵衛休息、家督無相違、大番入

同七戌十一月十九日表御小性見習

天明四辰十月十六日表御小性本役

寛政三亥三月廿九日病氣二付表御小性御免、大番入

文化六巳十月五日御裏役津田武左衛門跡、御書院番入

同八未閏二月廿一日奥御納戸笹川藤内跡

文化十一戌十一月十二日格式末之番外、席武田平太夫次

同十二亥六月五日小馬印奉行大久保助十郎跡

文政元寅年七月廿六日隠居被仰付候

大藤治兵衛 助藏事 金左衛門事

百五拾石

一文政元寅七月廿六日父三郎兵衛隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、

大御番組へ被入

一同年同月廿九日御近習番長谷部忠藏跡被仰付、御書院番組へ被入

一同二卯江戸詰被仰付候

一同四巳江戸詰被仰付候

一文政六未年江戸詰被仰付候

一文政七申十月十五日御裏役坂野丹吾跡被仰付

一同八酉三月十四日奥御納戸役金子小平太跡被仰付候

一同年江戸詰被仰付候

一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番組へ被入

一同十二丑八月十三日若殿様御附奥御納戸役被仰付、御書院番組へ被入、

支度出来次第江戸詰被仰付、八月廿五日出立

一同十三寅十月十五日御膳番奥御納戸役兼帯被仰付候

一天保二卯江戸詰被仰付候

一同四巳江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同六未江戸詰被仰付、同五月廿五日罷帰ル

一同年六月五日超倫院様御逝去二付御役御免、大御番組へ被入

一同年十一月十一日末之番外御時宜役被仰付候

一同十二丑十二月五日御徒頭河崎三郎助跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同十四卯十一月四日御留守物頭伊東六郎兵衛跡被仰付候

一弘化二巳十一月廿一日御先物頭織田半左衛門跡被仰付、御役料都合百石

被下置候

一嘉永三戌江戸詰被仰付、四月十二日出立

一同年十一月廿九日於江戸表御側物頭上坂藤太夫跡被仰付、来春御参勤迄

是迄之通相勤候様被仰付候

一同五子六月十七日御座所預り被仰付候

一同七寅六月十九日内達之趣も有之二付御役御免被成、御先物頭次席被仰

付候

一安政六未八月三日病死

大藤助藏

[役成]

高百五拾石

安政六未九月廿三日父治兵衛跡知無相違、大御番無役入

文久二戌閏八月八日大御番入

慶応三卯十月廿三日後拒役

同四辰四月廿五日役中分隊長次席



大藤与太夫 林与太夫

〔役成〕

切米廿石四人扶持

延享四卯九月六日御部や御供目付

天保十二丑八月十一日父与太夫跡目無相違、無役御留守番入

宝曆二申十一月廿二日養父伴右衛門隠居、家督無相違、御供目付其儘自

弘化三年八月廿九日大御番入

分御擬作上ル、親へ三人扶持被下

文久二戌三月十一日御広敷御用達御留守番入

同七丑四月廿二日御使番、役料百石、江口九之丞跡

明和元申十月廿九日御先物頭堤七太夫跡

高橋¹

高橋伴右衛門 初羽嶋

高橋伴右衛門

百五拾石 外役料五拾石

百五拾石

元禄十六未九月十八日御右筆被召出、御切米

安永五申正月十六日父伴右衛門隠居、家督無相違、大番入

宝永元申二月十六日父茂兵衛跡知七十五石被下、自分御擬作上ル

高橋伴右衛門

同二酉九月十八日評定所御用并御家老中御用見習

百五拾石

正徳三巳七月廿三日廿五石御加増、都合百石

寛政二戌三月五日養父伴右衛門跡知無相違、大番入

享保三戌七月六日松波甚左衛門御番組御免席被仰付、依之甚左衛門勤方

同年五月廿八日御小性見習

之通可相勤旨

同年十月廿九日御小性見習御免、大御番入

同七寅十二月十八日五拾石御加増

文政元寅十月二日与内檢地奉行伊藤助十郎跡、御留主番入

元文元辰九月十一日御番組被除、番外二被仰付

同七年申五月三日大馬印奉行高松彦左衛門跡

延享三寅十二月十一日御役料五十石被下、都合百五拾石

文政十亥年二月廿四日病死

高橋伴右衛門 官藏 隠居 同四十八年

高橋十郎兵衛 岩次郎事

百五拾石 外役料百石

百五拾石

享保十三申正月十九日御手廻り被召出、御書院番入

一文政十亥四月廿日父伴右衛門家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被

元文三年十一月十六日御供目付千本長右衛門跡

入

一同年十二月十六日表御小姓加賀次郎右衛門跡被仰付

一同十一子江戸詰被仰付、四月十一日出立

一天保十三寅江戸詰被仰付、三月廿日出立

一嘉永元申九月十五日格式末之番外被仰付候

一同六丑五月廿九日御纏奉行松永治郎左衛門跡被仰付候

一安政二卯九月廿三日御留守物頭杉田五郎太夫跡被仰付候

一同五年十一月十一日御水主頭野治小兵衛跡被仰付、御役料百石被下置、

家屋敷是迄小兵衛罷在候御役屋敷へ替被下候

高橋十郎太夫 熊之丞

〔役成〕

高百五拾石

文久二戊閏八月四日父十郎兵衛隱居、家督無相違、大御番入

高橋²

高橋吉兵衛

式拾石三人

元禄十六未二月廿九日御徒目付方御留主番入、二石御加増、御花畑繪奉行

享保七寅冬順席

同八卯三月五日老年二及候二付御役御免、大番入

高橋伊太夫

廿石三人

享保九辰八月十一日養父吉兵衛為跡目無相違、大番

同十一年四月十六日番改

元文二巳二月廿五日用水奉行河村三五右衛門跡、御留守番入

延享四卯九月廿一日用水奉行御免

高橋伊太夫

廿五石五人

寛延三年十月十一日父伊太夫跡無相違、大番入

明和八卯八月廿日御右筆御書院番入、五石二人扶持御足擬作被下

安永八亥九月十一日御足擬作

高橋小善次

廿五石五人

天明三卯四月廿九日養父伊太夫跡目無相違、大番入

同四辰七月十日御小姓見習

同年九月廿四日御近習番御書院番入

高橋元八郎

廿五石五人

天明五巳五月十六日養父小膳次跡目無相違被下、大番入

同六年五月廿九日曾祖母病死之節、取扱不宜候二付閉門

高橋一太夫 小善次 伊太夫

廿五石五人

寛政五丑七月十六日高橋元八郎病中願之通養子二被仰付、家督無相違被

下置、大御番入

文化五辰九月廿日番改役仙石喜左衛門跡

文化十三子七月廿日不埒二付遠慮

文政二卯二月廿日御代官本多平五郎跡

文政十二丑十一月廿日竹沢五郎右衛門跡御預ケ所御代官役被仰付

天保七申十月廿九日次男三藏義、宮塚甚左衛門方養子被差遣所存命中不

埒之趣有之、侍格御削被成、一太夫義も取斗方不参届趣二付遠慮

天保九戌十二月十六日御代官役久野長右衛門跡

高橋左十郎

廿五石五人

一天保十一子三月十六日親一太夫年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一嘉永四亥九月廿五日病死

高橋左十郎 彦太 一太夫

切米廿五石五人扶持

嘉永四亥十一月十六日養父左十郎跡目無相違、無役御留守番入

同七寅九月四日大御番入

慶応元丑五月六日番改

同二寅十一月三日御趣意二付御役御免

同三卯十月十八日小隊之分隊長御書院番入

高橋³

高橋文左衛門

廿石四人

元禄六酉十一月十三日跡目、御代官

高橋純助

廿五石五人

延享二丑正月廿九日父文左衛門休息、家督無相違、大番入

同年六月廿一日評定留役跡部多助跡

同三寅七月十一日五石老入フチ御加増

宝曆三酉六月十六日御家老中御内御用見習

同六子正月十六日日本役

同七うし十月廿四日御役御免

高橋次兵衛

廿五石五人

明和八卯正月廿九日養父純助休息、家督無相違、大番入

天明元丑四月廿九日御広式御用達御留守番入

同二寅十月十四日御近習番御書院番入

同四辰十一月十五日御近習番御免、御近習番格

同七未三月十七日御形合被相改万端御省略二付御近習番格御免、大御番入

同八申十月廿五日玉葉奉行本多武兵衛跡

高橋次兵衛 龜太夫 文左衛門

拾八石三人

寛政八辰五月四日養父次兵衛跡目無相違、大番入

同十一未正月十六日定姫様御附御式御用達御留守番入

享和二戌十月十一日病身二付役義御免

文化三寅五月廿九日不埒之義有之、七石式人扶持御取上、新番入遠慮

同十四三月六日取次役

文政七、六月病死

高橋次兵衛 次郎吉

拾八石三人

文政七申八月十一日父次兵衛跡目無相違被下置、新番入

文政十二丑正月十六日堀武左衛門屋敷へ替被下候

高橋素平

拾八石三人

一天保五午年五月廿日養父次兵衛病中願之通養子二被仰付、家督拾八石三

人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一安政二卯正月廿八日荒子頭多田彦左衛門跡被仰付候

一同五午四月十一日役前不参届趣相聞候二付御叱被成候、同日右同趣二付

伺之上遠慮、然ル処同十八日御免

一同六未八月廿二日病死

高橋逸郎 純助

切米拾五石三人扶持

安政六未十月廿三日父素平跡目無相違、新番入

慶応元丑四月廿五日京都詰中御門之儀心得違之趣相聞二付、御充行之内

三石御取揚、此節閉門

同三卯十月廿五日後拒役、役中分隊長次席

同四辰四月廿五日遊撃隊入

高橋⁴

高橋喜三右衛門

貳拾五石五人

享保九辰三月十九日父久兵衛へ被下来候御扶持切米無相違、拾八石三人

被下、新番並

同月廿三日新番二御取立

延享四卯八月廿八日御部屋御手廻、七石式人御加増、都合廿五石五人被

成下、御書院番入、順席

寛延三年六月十六日御駕附

宝曆七丑七月五日表御納戸近藤太郎兵衛跡、大番入

明和四亥九月十六日倅文蔵出奔、不埒二付御役御免、遠慮

高橋久太夫

廿五石五人

安永元辰十二月十一日養父喜三右衛門跡目無相違、大御番入

〔役成〕

天明三卯十一月二日御小性於江戸

同五巳正月十五日御部屋附奥御納戸日比野次郎兵衛跡、御書院番入

寛政六寅三月九日当分御表御裏役兼帯

同七卯四月朔日御裏役兼帯御免

同十年十一月十五日奥御納戸久津見源五左衛門跡

同十一未九月十八日御附御用人支配

享和三亥七月廿日御附御免、御書院番入、御近習二被指置

高橋勝之助 勝五郎

式拾五石五人

寛政十二申正月十五日御合力銀拾五枚被下、御附御小性へ被召出

同四月十八日御近習番被仰付

同八月廿二日御合力銀之上三人扶持被下置

文化五辰九月十四日親久太夫休息、家督無相違被下、是迄之通御附御近習番

同六巳六月病死之節、病中養子本多下総守殿内麻生弥作と申者家督以前出奔二付家断絶、八月廿日(マ、)

高橋道順 孝庵

式拾石三人

文化七年二月十二日江戸御出入医師溝部有山弟孝庵義、高橋勝之助家名思召を以御立被下、式拾石三人扶持被下、表御医師并御外科兼帯、但定

府之御医師御人少二付旁被仰付候間、尤向後家業二被仰付候

文政二卯十一月五日奥御医師被仰付、御外科兼是迄之通

文政十亥五月十四日浅姫君様御附兼帯

文政十二丑年十月十七日御匙格被仰付

天保六未ノ十二月七日出精相勤候二付、銀五枚ツ、年々被下

天保八酉五月病死

高橋道順 元亭

式拾石三人

一天保八酉七月九日養父道順跡目式拾石三人ふち無相違被下置、表御医師被仰付候

一同年七月十九日奥御医師被仰付候

一同九戌七月廿二日松栄院様御附兼帯被仰付候

一嘉永四亥十二月十一日御匙医師被仰付候、松栄院様御附是迄之通可相勤旨

一嘉永六丑八月十二日病死

高橋良齋

式拾石三人

一嘉永六丑十一月廿九日柳下辰蔵願之通高橋道順養子被仰付、跡目廿石三人扶持無相違被下置、表御医師御外科兼帯被仰付候

一同七寅三月十一日病身二付内願之通休息被仰付候

高橋元亭

五人扶持

一嘉永七寅三月十一日養父良齋義病身二付内願之通休息被仰付、家督幼年

※「剝札」た末のものを収載

※「剝札」た末のものを収載

※「剝札」た末のものを収載



二付御定之通五人扶持被下置、表御医師被仰付候

一安政二卯 病死

高橋捨藏

三人扶持

一安政二卯九月廿六日高橋元亭義幼年ニ而令病死候二付、御大法之事故跡目不被仰付筈之処、高橋家代々内勤功有之者も有之、且夫々願ニ依而御慈体も有之候得共、捨藏義漸四歳幼稚之事ニ候得ハ、先当分為御捨扶持捨藏并家内之者共へ格別之御憐愍を以三人扶持被下置候

一文久三亥六月十三日今度御国表へ引越被仰付、着

一同年十一月廿九日少御充行ニ而極々困窮相暮、医術修行等も難出来趣ニ付、為御手当右修行中式人ふち被下置候

一慶応四辰四月五日長崎修行中不届至極之所業有之存生ニ候得ハ、嚴重之御沙汰可被仰付之処、先非を悔ミ始末書残シ割腹ニ及ひ、且御取立被成下年齢ニも相違ひ居候処、今般之一条ニ立至り候事故、格別之御憐愍を以三人ふち被下置候間、相応之者見立相願家名致相続候様親類江被仰付候、但相続之者席小十人組格ニ被仰付候

如此御憐愍を以家名御立被成候処、田辺源太左衛門弟頼介相続願之通被仰付候、然ル処捨藏着服等受不申、先代元亭跡式相続と相心得候様被仰出候事

拾八石三人

安永三年九月十五日御徒目付御取立、江戸御屋敷奉行御留守番入

天明四辰二月六日御作事奉行兼帯ハ御免

同五巳八月廿一日御広式御用達西川八郎兵衛跡

高橋吉兵衛 与市

百石

安永七戌十二月朔日御部屋附御相手、銀式百六拾匁被下

天明四辰三月十三日御小姓見習

同年十月廿二日御合力銀被相増、都合拾五枚被成下

天明八申十月四日父吉兵衛休息、家督無相違、御部屋附御小性、七石二人扶持御足擬作被下、順席、是迄被下候銀十五枚ハ上ル

寛政十年十二月九日七石式人扶持御加増、都合廿五石五人扶持

享和元酉六月五日御附御近習番御用人支配

文化元子十月廿八日御付御膳番

文化三寅九月十五日新知百石被下

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去ニ付御附御膳番御免被成、大御

番入

同年十一月九日格式末之番外御近習ニ被指置、席大関助左衛門次

同十二亥六月朔日辻十郎右衛門跡、御役料五十石被下置候、御徒頭被仰

付

同七月御供頭埴原八五郎跡被仰付、席其儘

同十三子七月九日御使番加藤茂右衛門跡、役料都合百五十石、御供頭兼

帯

文政三庚辰正月十五日御役其儘御先物頭次席辻十郎右衛門次

文政十一子十二月十六日年来相勤候二付、銀五枚ツ、年々被下置候

同十三寅五月御国引越

同月三日御先物頭被仰付

一同六未六月十八日病死

高橋寛輔 吉五郎 吉兵衛

高百石

安政六未八月八日父寛輔跡知無相違、大御番人

慶応三卯四月廿五日軍事方役御番入

同四辰二月廿七日小隊分隊長御書院番入

明治元辰十月九日半小隊長平岡十三郎跡、役儀二付末之番外格、席津田

左藏次

高橋寛輔 吉兵衛 幸吉

百石

一天保四巳十月廿日親吉兵衛家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同十亥年江戸詰、四月十三日出立

一弘化二巳年江戸詰、三月十六日出立

一同年十月十五日来々未年迄詰越被仰付

一嘉永三戌三月十六日御広敷御用達鈴木藤吉跡被仰付、御留守番組へ被入

一同四亥年江戸詰

一同五子十月四日御腰物数寄方奉行有賀清右衛門跡被仰付候

一安政元寅十二月廿八日寛輔与名替

一同三辰十月十一日格式末之番外二被成下、御広敷御用達被仰付

一同年十一月十一日御時宜役被仰付、来巳年江戸詰之儀ハ其儘御供詰被仰

付候

一同四巳四月十四日年来炮術出精二付、花葵御紋付御扇子壹本被下置候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

同年九月神田橋御住居御引払御人御繰廻御都合も有之御返シ被成、同月

四日帰着

一同年五月十九日詰中神田橋御屋敷御門預り御住居御門并通用御門預り兼

御目付仮被仰付、同所御屋形御預被成候

高橋⁶

高橋平太夫

切米廿三石五人扶持

〔役成〕

慶応二寅十月廿二日御趣意二付与力被召出、新番並、御充行廿三石五

人扶持

同年同月廿九日新番並組世話役指添

同三卯十月廿五日後拒役、役中分隊長次席

同日世話役差添御免

同四辰四月廿五日遊撃隊入

同年八月五日弾薬預り小銃取扱方兼役御番入

明治元辰十二月廿一日器械并弾薬差配方、製造局附属

〔役成〕

高村¹

高村四郎左衛門成房儀実子無之二付、福井庄左衛門倅源四郎範守を致養子二候、後庄左衛門与改、其後四郎左衛門実子致出生候処

天和元酉年四郎左衛門病死之節、源四郎奉願候者、右実子へ家督被仰付被下置候様申上候得共、未幼少之事二候間、源四郎へ被下候旨被仰渡候二付、右実子を源四郎致養子二置候、是四郎右衛門純成也、然処

元禄十五年右四郎右衛門純成義、表御小姓二被召出、式拾五石五人扶持被下置候、然れとも源四郎範守其後

正徳三巳年再奉願候ハ、私拜知之義ハ畢竟四郎右衛門純成実父之跡知之義二候間、何卒純成へ相譲り申度旨申上候二付

正徳三巳閏五月十三日願之通被仰付、拜知百五拾石四郎右衛門へ被仰付、源四郎へハ是迄四郎右衛門へ被下来候御擬作を被下置候

高村四郎右衛門 四郎左衛門成房実子 養兄源四郎範守養子

百五拾石 外役料百石

元禄十丑十二月五日表御小姓被召出、御切米被下

正徳元卯十一月七日御小姓御免

同三巳閏五月十三日同名源四郎へ被下置候拜知被下

同七月廿三日御腰物役波々伯部九右衛門跡

享保七寅十二月十八日五十石御加増、御書院番筆頭

同十二未六月五日御膳番筆頭も其儘

同十三申六月廿九日御徒頭御役料被下、桑山十右衛門跡
同十六亥正月廿六日御先物頭桑山十兵衛跡

同十七子十二月五日御目付彦坂又兵衛跡

元文元辰六月十五日御預所御目付

寛保二戌六月五日新番頭堀又左衛門跡

高村新五兵衛 四郎右衛門

百五拾石 外役料百石

延享元子六月廿五日養父四郎右衛門跡知無相違、大番入

宝暦十三未六月廿二日御水主頭、役料百石被下、国枝小一郎跡

高村兵右衛門

百五拾石

明和三戌七月五日父新五兵衛跡知無相違、大番入

同九辰六月五日繼母不埒之儀有之二付御呵遠慮

高村新五兵衛

百五拾石

寛政二戌四月十一日養父兵右衛門休息被仰付、家督無相違、大番入

同三亥三月廿九日表御小性見習

同六寅七月三日表御小性本役

同八辰十二月五日御小性

同十年三月廿九日御近習番御書院番入

同十一未九月十八日中将様御附御用人支配

同十二申正月十五日御附奥ノ番

同年十月十八日奥之番御免、御書院番入無役

文化三寅八月五日御腰物数寄方奉行高田三郎左衛門跡

文化八未閏二月廿八日仁之助様御附御側向頭取、御役料五拾石、御供頭

次席桜井市左衛門上ミ

文化十酉八月五日御供頭武曾權太夫跡、支度出来次第江戸詰

同十三子六月晦日御趣意ニ付御役御免、席其儘、御役料是迄之通

同十四丑正月廿一日御部屋附御側向頭取被仰付、恒五郎様兼帯

同十五寅三月五日郡奉行本多九太夫跡

文政五午六月廿四日御目付長谷部小右衛門跡、御役料都合百石被下置

同六未三月四日御附御側向頭取被仰付

同十一子年五月内願隠居

高村新五兵衛 四郎右衛門

百五拾石

文政十一子五月十一日養父新五兵衛内願隠居、跡家督百五拾石無相違、

大御番入

文政十二丑十月六日謙五郎様御附御近習番御書院番入

天保八酉八月十六日次男半四郎義、岡三郎右衛門養子ニ罷越候処及離縁

候始末、兼而行状不宜趣相聞候ニ付逼塞被仰付、四郎右衛門義も異見等

不参届趣相聞候ニ付遠慮被仰付

同十亥四月十一日楷五郎様御附奥御納戸役被仰付候

天保十二丑十一月廿日御書院番其儘御膳番嚙被仰付、楷五郎様御附奥御

納戸役御免被成、御近習ニ被差置候

高村新五兵衛 岩次郎

高百五拾石 外役料百石

嘉永三戌正月十六日父新五兵衛休息、家督無相違、大御番入

同四亥九月七日御小姓

安政五午七月六日御代替りニ付御小姓頭取助

同六未四月四日御附御近習頭取

文久二戌八月五日御附御近習頭取其儘御部屋附兼、御供御免

同三亥十一月廿八日中将様御附御側向頭取見習御徒頭次席、御役料五拾

石、席長谷川源之丞次

慶応元丑四月廿九日役儀其儘御水主頭次席、御役料都合百石、席小栗五

郎大夫次

同二寅六月五日御附御側向頭取本役

高村²

高村庄左衛門 初源四郎卜号 実父八福井庄左衛門政重

式拾五石五人

天和元酉三月十一日養父四郎左衛門跡知百五拾石被下

貞享三一統半知

同年寅六月十七日御祈禱奉行

正徳三巳閏五月十三日其身拜知百石、四郎左衛門へ被下来候御切米御扶

持源四郎へ被下、入代り也

〔役成〕

高村太右衛門

廿五石五人

享保十三申十月十六日養父庄左衛門休息、跡目無相違

延享三寅四月十二日死

高村与七

廿五石五人

延享三寅六月五日養父太右衛門跡目被下、大番入

高村藤兵衛

百石

天明四辰十一月十五日養父与七休息、家督無相違、大番入

寛政二戌二月廿日御広式御用達御留守番入

同年五月廿八日御近習番御書院番入

同五丑年四月十一日御裏役小林金兵衛跡

同六寅二月廿九日奥御納戸役武田平平大夫跡

同十年三月廿四日於江戸御部屋附奥御納戸

享和二戌九月二日御膳番三寺与右衛門跡

文化元子十月廿四日新知百石被下

同十二月二日御書院番筆頭

文化五辰十二月御使番長谷部次郎兵衛跡、役料百五十石被下

文化十一戌十一月十二日御先物頭東郷吉蔵跡

文政元六月廿四日隱居

高村藤兵衛 荒次郎事

百石

一文政元寅六月廿四日父藤兵衛隱居、家督無相違被下置、大御番組江被入

候

一同年十月二日若殿様御附御小姓彦坂三五右衛門跡被仰付候

一同二江戸詰被仰付、同四巳年迄詰越被仰付候

一同五午年江戸詰被仰付候

一同七申年江戸詰被仰付候

一同九戌江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同十一子江戸詰被仰付、同十三寅年迄詰越被仰付候

一天保二卯江戸詰被仰付候

一同三辰五月廿三日御小姓頭取被仰付、上坂藤助跡也

一同四巳江戸詰被仰付候

一同六未江戸詰被仰付候

一同年天梁院様御尊骸御供二而帰着

一同年八月出府、直二詰越被仰付候

一同年九月五日今度御代替二付御小姓頭取御免被成、御側御近習二被指置

候、勤方之儀者追而可被仰付候、御用筋之儀者先是迄之通可申談旨

一同年同月十四日御小姓頭取被仰付候

一同九戌二月廿九日御小姓頭取其儘御使番次席、御役料五拾石被下置候

一同年御供二而帰着

一同年八月出府

一同年十月廿五日今度御代替二付御小姓頭取御免被成、御近習二被差置、

勤方之義ハ追而可被仰付、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談旨、同廿九日

御小姓頭取被仰付

一同十亥十月廿五日御使番役今村五兵衛跡被仰付、御役料都合百五十拾石被
下置候、江戸表へ帰着

一同十三寅十二月五日御使番役其儘御供頭兼被仰付候

一同十五辰正月十四日江戸御供詰出立、同五月御供二而帰着

一同年十二月三日御先物頭八木次郎八跡被仰付

一嘉永二酉九月廿四日御広敷御用人大関新五左衛門跡被仰付

一同年同月晦日江戸詰被仰付、出立

一同年十二月十五日今般御婚姻御用掛り出精二付、御召御小袖一、外二銀
式枚被下之

一同三戌二月廿一日来亥春迄詰越被仰付候

一同年六月七日江戸表へ御国江御内用有之立帰被仰付、今日着、同十五日
出立

一同年九月十三日来亥春迄詰越被仰付置候処、同秋迄詰越被仰付候

一同六丑七月十一日席其儘御旗奉行佐々木小左衛門跡被仰付候

一安政元寅十二月九日新番頭山田藤兵衛跡被仰付候

一同三辰六月廿八日御預所元締役原平左衛門跡被仰付候、席御奉行次席

一同四巳十一月廿日御趣意二付御奉行兼勤被仰付、御奉行順席被成下候

一安政五年四月十三日兼掛り之義二付無念之義有之、遠慮伺之上指扣、同
十七日御免

一同年七月十一日此度桜御門頼当御普請中出精相勤候二付御褒詞

一安政五年十一月十一日内達之趣も有之二付隠居被仰付、折々御機嫌伺罷
出、其節々中ノ口致往来候様被仰付候

一同六未二月廿九日思召を以、山本源左衛門同様之御取扱二被成下候

高村藤兵衛 荒次郎

高百石 外役料五十石

安政五年十一月十一日父藤兵衛隠居、家督無相違、大御番入

同六未二月廿八日御小姓

文久四子正月九日御小姓頭取定介

慶応元丑五月五日御小姓頭取

同二寅十月廿六日御先副物頭、席末之番外格、御役料廿五石、吉田五左
衛門次

同三卯五月廿日席御役料其儘補兵隊三番筆頭役

同年九月廿七日御趣意二付席御役料其儘御役御免

同年十月十八日席御役料其儘第二遊撃隊半隊長

同四辰四月廿五日兵隊御改革二付席御役料其儘役儀御免

同年同月廿九日席御役料其儘半小隊長、有賀清門跡

同年五月廿八日小隊頭浅井権十郎跡、御役料都合五十石、末之番外順席、
々秋田城太郎次

高村³

高村四郎左衛門

百五十拾石 役料百石

元文元辰十月廿五日御小姓被召出、御擬作並之通被下

同五申十一月十八日新知百石

延享三寅五月十一日末ノ番外

〔役成〕

寛延三年二月十一日御近習御免、席其儘

同年六月十日御近習

宝曆四戌二月十六日御徒頭役料百五拾石被下、長谷川次郎左衛門跡

同十一巳六月五日御目付熊谷小兵衛跡

明和元申十二月六日役料百五拾石之内五十石御加増

同五子四月十六日遠慮

同年七月朔日御勝手懸り被仰付置候処取扱不宜、思召二付御役御免、御

先物頭次席指扣

同七寅五月廿日御目付林又左衛門跡、御役料百石

同九辰七月三日若殿様御側向締り役長袴格、席小林又右衛門次

安永六酉九月十七日席向後新番頭上ミ、席杉浦幸右衛門次へ御上被下

同九子五月廿七日御広式御用人兼帯

天明三正月廿九日席御上ケ被下町奉行次

同五巳十二月十一日病氣二付御役御免、席御役料其儘

高村藤五郎

百五拾石

天明六年四月十六日養父四郎左衛門跡知無相違、大番入

同年十二月十四日御部屋附御近習御書院番入

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略二付役義御免、大番入

寛政十年八月九日御部屋附御近習番村田十太夫跡、御書院番入

同十三酉正月十八日御役御免、大御番入

文化十三子十二月十一日内願休息

高村長作

百五拾石

一文化十三子十二月十一日親藤五郎病身内願二付休息、家督百五拾石無相

違被下置、大御番組へ被入

一文政元寅六月廿四日表御小姓津田幾次郎跡被仰付

一同六未江戸詰被仰付候

一天保十亥正月廿九日表御小姓筆頭雨森太郎兵衛跡被仰付

一同十二丑七月五日役義其儘格式末之番外被仰付

一弘化元辰十月五日御使番格御時宜役被仰付候

一同二巳二月十九日御留守物頭御鷹方兼帯被仰付、是迄三寺与右衛門罷在

候御役屋敷へ替被下

一同四未正月十三日御先物頭横田作太夫跡被仰付、御役料百石被下置候

一嘉永三戌三月三日御趣意二付岩城藤左衛門元組弓組御預、是迄御預ケ之

鉄砲組八村田竜之進へ御預被成候

嘉永四亥七月五日年寄二付隠居

高村四郎左衛門

〔役成〕

高百五拾石 外役料廿五石

嘉永四亥七月五日父長作隠居、家督無相違、大御番入

同五子十月十一日表御小姓

同六丑三月十一日御小姓

安政五年七月六日御代替り二付御小姓

同六未十一月廿日御小姓頭取

文久元酉八月十五日病氣内願之通御小姓頭取御免、御書院番入、御近習

同二戌五月廿六日御小姓頭取、席波々伯部弥六次
慶応二寅二月五日末之番外御時宜役、席東郷三郎右衛門次
同年十月廿六日席其儘御先副物頭、御役料廿五石
同三卯五月廿日席御役料其儘御旗奉行

高屋
1

高屋伊左衛門

百五拾石 外役料百石

享保五子八月十六日被召出、拝知被下
同八卯八月六日御長柄奉行

高屋源右衛門

百五拾石

享保十四酉十二月十一日養父猪左衛門家督無相違
寛保二戌八月十三日御暇

高屋半左衛門

百石

寛保二戌九月五日狛織居家来方被召出、同名源右衛門御改易、家断絶二
付家筋之者故被召出、新知百石被下、大番入、相身躰末

高屋半左衛門 休息

百石

延享元子十月廿八日養父半左衛門跡無相違、大番入
寛延元辰九月十六日御吟味之上順席
明和三戌八月六日与内檢地奉行林元八郎跡、御留守番入

高屋半左衛門 休息

百石

安永五申八月十四日父半左衛門休息、家督無相違、大御番入
天明元丑十二月十六日与内立合岩村門右衛門跡
同五巳六月十一日山奉行伊黑弥三右衛門跡、御留守番入
寛政六寅二月廿日御勘定拝借奉行高松新兵衛跡

高屋伊喜右衛門 小三郎 卯右衛門 善右衛門

百石

寛政十一未八月廿日父半左衛門休息、家督無相違、大御番入
文化十四丑六月廿日与内立合石川平八跡
文政七申五月三日与内檢地奉行高橋伴右衛門跡被仰付、御留守番組へ被
入

天保二卯十月十六日格式末之番外被仰付

天保九戌十一月十一日大馬印奉行今立六右衛門跡被仰付

天保十三寅十二月五日御長柄奉行松波甚左衛門跡

弘化二巳ノ十月廿九日御先物頭川崎茂太夫跡

同三年六月十六日娘義多喜田藤内妻女二罷在候内、不埒至極之趣相聞候
二付蟄居被仰付、伊喜右衛門義取締り方参り不届二付御役御免、末之番
外へ被入、遠慮

嘉永元申九月十六日隠居

高屋善右衛門 小金吾 善之丞

〔役成〕

高百石

嘉永元申九月十六日養父伊喜右衛門隠居、家督無相違、大御番入

文久元酉五月廿日表御小姓

同三亥八月朔日御附御近習、席田川乙作次

同四子正月九日御附御近習番

同年同月十四日中將様御附御書物方

元治元子五月十一日御手許勤致居心得も可有之处、在京中不埒之趣二付

御役御免、大御番入、遠慮

同二丑二月廿二日与内立合

慶応元丑七月十二日御附御馬廻り役、席大谷千熊次

同二寅二月五日御馬廻り

同三卯十月廿一日新撰隊教授方役御番入

同四辰五月十一日予備小隊分隊長、御書院番入

同年七月廿二日予備半隊長久野与兵衛跡、役儀二付末之番外格、席久野

与兵衛次

貞享元子年御書院番頭貳百石御加増、都合八百石之处

貞享三二統半知、其後太田御役被仰付節四百石御加増

元禄二巳八月十一日太田御役

正徳元卯十一月七日御役御免、高知格二被仰付

高屋六郎左衛門

八百石

宝永六丑七月四日新知貳百石

正徳三巳閏五月二日触頭

享保元申十二月廿六日父善右衛門家督無相違、自分知上ル

後、御暇被下美濃二引籠居り候由

享保五子七月廿四日於江戸乱気故絶ル

高屋丈太夫 右高屋家由緒筋之者二付被召出候由

廿五石五人

明和元申九月廿六日被召出、御留守番入、三人扶持被下、御右筆見習

同七寅九月十四日御擬作廿五石五人扶持被成下、御右筆本役、御書院番

入

高屋源兵衛 死

百石

明和八卯七月廿五日養父丈太夫跡目無相違、大番入

安永五申八月廿日御近習番御書院番入

同九子八月四日奥御納戸吉田猪兵衛跡

高屋²

高屋善右衛門

八百石

於吉江父六郎左衛門跡目六百石被下

寛政二戊十月十五日新知百石

同五丑正月廿八日御留守物頭御鷹方兼日比野彦之丞跡

同六寅八月廿八日致姫様御広式御用人助、御役料五拾石、席其儘

同十年二月廿三日御長柄奉行山本源左衛門跡、御役料百五拾石二被成下

候

享和二戊正月廿九日御先武頭榊原助左衛門跡被仰付

同三亥十一月廿日病身二付御役御免、御先武頭次席二被仰付、席梶川半

兵衛次

高屋六郎左衛門 喜八郎 源兵衛

百石

文化元子十一月十一日養父源兵衛跡知無相違、大御番入

文政十一子正月廿八日与内立合鱸九郎右衛門跡

天保二卯十月十六日与内檢地奉行高屋善右衛門跡被仰付

同七申五月廿日格式末之番外被仰付

高屋六郎左衛門 半三郎

百石

一弘化二巳十月十六日養父六郎左衛門隱居、家督無相違被下置、大御番組

江被入

一同三年九月五日御広敷御用達中野儀右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入

一同四未江戸詰、三月廿一日出立

一嘉永五子年江戸詰、八月廿二日出立、同六丑八月廿八日帰着

一同六丑正月六日慎姫様御縁組二付御用懸り被仰付候

一同七寅正月十一日謚姫様御縁組二付、詰中取調御用掛り出精二付、銀拾

匁被下置候

一安政二卯七月六日病死

高屋丈太夫 権太郎

高百石

安政二卯八月廿九日養父六郎左衛門跡知無相違、大御番入

元治二丑二月廿二日御金奉行御留守番入

慶応元丑五月廿八日御趣意二付役御番入



滝勘兵衛

百式拾五石

承応二巳九月十九日父勘兵衛跡知式百五拾石被下

貞享三一同半知被下

滝勘兵衛

百式拾五石

宝永七寅二月廿二日被召出、父勘兵衛拝知無相違

享保二酉三月十三日御改易

但他出致御門外二而大酒仕不行跡有之二付御改易也、然共殉死之

家二付親了儀へ五人扶持被下

〔役成〕

滝郡右衛門

百石 御役料百五拾石

享保三戌十二月廿八日養父了儀へ被下候御扶持方被下、御留守番入

同九辰九月十五日表小姓、御切米廿五石五人被成下

同十二未九月廿九日中奥

同十七子八月七日新知百石、御小道具方御書院番入

延享四卯九月十一日御膳番榎並左次右衛門跡

宝曆三酉正月廿二日御書院番筆頭大野一郎左衛門跡

同九卯正月十六日御使番、役料百五拾石、林忠太夫跡

明和三戌八月六日御先物頭矢野権平跡

同六丑二月晦日下馬御門当番夜二入被為入候節、下座遅滞二付遠慮

滝六藏

廿五石五人

明和六丑五月十一日父郡右衛門隠居、家督無相違、大番入

安永七戌八月十二日与内立合金子半右衛門跡

同八亥七月廿五日御金奉行高田三五左衛門跡

天明八申六月廿日不宜趣二而有之二付役義御取上、拝知被召上、御擬作

廿五石五人扶持被下、遠慮

滝郡右衛門

廿五石五人

寛政八辰十二月廿日父六藏跡目無相違、大番入

文政三辰正月廿五日病身内願二付休息

滝仁左衛門 政之助 平八 郡右衛門

廿五石五人

文政三辰正月廿五日養父郡右衛門病身二付内願休息被仰付、家督無相違

被下置、無役御留守番組江被入

文政十三寅五月廿五日大御番入

天保七申二月廿日弟与三松不埒至極之義有之、急度御咎可被仰付之処、

兼而愚成生質二付御憐愍を以蟄居、郡右衛門義取締不参届、其上心得違

之趣有之二付閉門被仰付候

天保十四卯二月十六日御番改役丹羽十左衛門跡被仰付

同十五御役御免遠慮

弘化二巳十一月十六日先年も御咎被仰付候処、又々心得違之趣二付閉門

被仰付

滝勘藏 政吉

切米廿五石五人扶持

〔役成〕

嘉永元申十一月廿九日父仁左衛門跡目無相違、無役御留守番入

同五子八月廿八日大御番入

安政四巳五月廿九日御製造方見習火薬製法振退

同五年十一月晦日制産方

文久二戌十一月八日御役前御都合も有之二付御留守番入

同四子二月廿九日御役御免、大御番入

慶応元丑五月廿八日二番之大砲方役御番入

同二寅十一月三日御趣意二付大砲方御免、大御番入

同三卯三月廿四日階級打調方役御番入

同年八月廿九日新撰隊砲術教授方

同年十月廿五日新撰隊教授方

同四辰四月五日階級打調方

高島甚五左衛門 高畑季八郎

百石

天明七未三月十四日父金太夫隠居、家督無相違、大御番入、師役

寛政八辰十二月十九日御腰物数寄方奉行御部屋兼帶蜷川新十郎跡

寛政十一未十月六日於江戸中將様御付御腰物

享和二戌十二月三日御腰物奉行御免、御書院番其儘

文化十酉二月十三日末ノ番外御時宜役

文政元寅九月十三日御先物頭金子十郎平跡役被仰付、御役料百五十石

文政九戌五月三日年寄隠居

高畑¹

高畑金太夫

百石

宝永二酉十一月廿一日父与五左衛門跡目無相違

享保十四酉三月廿九日番改

同十九寅七月五日広田久太郎相弟子之分師役被仰付、但久太郎御暇被下

候二付而也、御用人中へ申渡、番改御免

元文三年九月十五日新知百石被下

高畑甚五左衛門 金三郎

百石

文政九戌年五月三日親甚五左衛門年寄隠居、家督無相違被下置、大御番

入、流儀之居合師役被仰付候、養子文弥儀病身と八乍申及離縁候始末不

参届趣二遠慮

弘化三年十二月廿一日御書院番江被入

嘉永三戌八月廿五日内願二付隠居被仰付、大御番入

高畑金太夫

百石

寛延四未四月廿五日父金太夫休息、家督無相違被下、大番入、師役之儀

も被仰付候

明和七寅閏六月十九日御書院番入

同九辰九月七日郡奉行数賀山彦右衛門跡、役料五十石

安永四未二月十四日御役御免、御留守物頭格御近習

天明四辰八月十日向後裏役勤方は迄之通

天明六年七月廿四日御供之儀格別之思召を以御見除、諸事は迄之通

高島金太夫 鎌之助

高百石

〔役成〕

嘉永三戌八月廿五日養父甚五左衛門休息、家督無相違、大御番入、師役

安政四巳四月廿二日明道館内江武芸稽古所御集二付御番御免

万延元申九月四日御番割有之処、御番士人少二付当分御番相勤候様

文久二戌十月十六日御番御免

元治元子五月廿日与内立合

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

同年同月廿九日役儀其儘御書院番入

同二寅正月十六日御書院番其儘御預所御金奉行

同三卯七月廿一日御腰物数寄方奉行秋田三五左衛門跡



高畑左助

百石

貞享四卯十二月二日御小姓被召出、御切米

元禄五申十一月十五日新知百五拾石

宝永七寅五月十六日拜知御取上、大番入、御切米廿五石五人扶持被下

正徳四年九月廿二日於江戸新知百石被下

高畑与五左衛門

百石

延享元子十一月七日父左助休息、家督無相違、大番入

宝曆八寅三月五日御手廻り御書院番入

明和二酉二月十一日御供目付

同五子七月廿日末ノ番外へ被仰付、御腰物数寄方

高嶋与五左衛門

百石

安永五申十二月五日養父与五左衛門跡知無相違、大番入

天明三卯四月廿九日御附御小性

寛政二戌九月廿九日御附奥御納戸役立岩次郎左衛門跡、御書院番

享和二戌九月二日御留守物頭御鷹方兼帯

文化三寅七月廿四日御先武頭桑山十右衛門跡、御役料百五十石

文化十二乙亥年四月十二日病死

高嶋八十次郎

百石

文化十二亥六月五日父与五左衛門跡目無相違、大御番入

同十三子七月七日表御小性

同十三子十一月病死

高嶋市郎右衛門 源吉事

百石

一文化十四丑正月九日家督無相違、大御番組へ被入

一文政四巳六月廿九日伊勢参宮途中二而御近習向と同道、心得違二付差扣

一同七申江戸詰被仰付

一同十一子江戸詰被仰付、五月六日出立

一同年八月二日御近習番浅見七郎助跡、御書院番組へ被入

一天保二卯江戸御供詰被仰付候

一天保五年九月廿九日御書物方被仰付候

一天保六未江戸御供詰被仰付候

- 一 同六未九月五日今度御代替二付、御書院番組其儘御近習二被差置、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨
- 一 同年同月十六日御書物方被仰付候
- 一 同七申江戸詰被仰付、八月廿八日出立
- 一 同年十二月十九日御裏役鈴木仁太夫跡被仰付候
- 一 同八酉四月十五日奥御納戸役猪子六左衛門跡被仰付候
- 一 同九戌江戸詰被仰付、九月二日出立
- 一 同年十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二被差置、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨
- 一 同年同月廿九日奥御納戸役被仰付候
- 一 同十二丑江戸詰被仰付、八月十二日出立
- 一 同十四卯 御札所奉行松永次郎左衛門跡、格式末之番外被仰付
- 一 同十五辰正月十六日新札引替方出精二付、御紋御上下一被下之
- 一 同年七月十九日御札所目付役被仰付、御役料五拾石被下置、御長柄奉行次席御役人並被仰付
- 一 弘化二巳十二月廿八日御内用有之二付、江戸表へ立帰出府被仰付、支度出来次第可致出立旨二付、翌春正月八日出立、同三月七日帰着
- 一 同三年十二月十四日役義出精相勤候二付、御役料都合百五拾石被下置候
- 一 嘉永二酉閏四月五日御預所郡奉行加藤茂右衛門跡被仰付、御先物頭次席御役人並被仰付候
- 一 同四亥四月廿五日御内用有之二付立帰出府被仰付、同晦日出立、六月十五日罷帰ル
- 一 同年十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安兩村与十郷用水路論出訴一件二付、立帰出府被仰付旁出精二付、御目録銀七枚被下置候

- 一 同五子七月十九日御普請奉行山口与右衛門跡被仰付候
- 一 同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節、出精二付御褒詞
- 一 同七寅六月十九日御側物頭大藤治兵衛跡
- 一 同年六月十七日去ル十三日塩町方出火之处及大火候節、出精二付御褒詞
- 一 安政三辰三月廿日病死

高島与五郎

〔役成〕

- 高百石 外役料五拾石
- 安政三辰五月十一日父市郎右衛門跡知無相違、大御番入
- 同四巳二月十七日御製造方見習
- 同年五月廿九日火薬製法振退
- 同年十二月十一日御製造方
- 同六未十一月廿五日制産方吟味役
- 文久元酉五月三日郡方吟味役山奉行兼御留守番入、小者給壺人扶持銀三百匁
- 同二戌六月十九日役儀其儘用水奉行兼
- 同三亥九月朔日郡奉行三岡八郎跡、御役料百石、御役人並
- 慶応元丑九月廿二日御先手大馬印奉行御使番次席、御役料廿五石、席吉田作太夫次
- 同二寅二月七日御役料其儘御先作事奉行御普請奉行兼
- 同年十月十三日御普請組御預ケ
- 同年十二月十六日御役料廿五石御増、都合五拾石

団野¹

団野万右衛門

百石

- 元禄十丑八月五日父軍兵衛跡目被下
- 正徳二辰三月十九日柔師役
- 延享二丑五月廿五日新知百石

団野軍兵衛

百石

- 宝曆四戊閏二月十六日養父万右衛門休息、家督無相違、大番入、此節迄其身御徒也、同日師役
- 明和七寅閏六月十九日御書院番入

此前代い二出、但市橋与号

団野万右衛門 市橋事

百石

- 一天保六未十一月廿九日養父軍兵衛家督百石無相違被下置、大御番組へ被入、是迄之通流儀之柔師役被仰付候
- 一同十三寅江戸詰被仰付、三月廿三日出立
- 一弘化二巳江戸詰被仰付、三月 出立
- 一嘉永元申十二月十日御書院番組江被入候
- 一同五子十一月十六日格式末之番外被仰付候
- 一嘉永六丑九月八日病死

団野軍藏

百石

- 一嘉永六丑十月廿九日養父万右衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入、流儀之柔師役被仰付候
- 一同七寅六月三日病死

団野軍兵衛 千久馬 万右衛門

高百石

〔役成〕

- 嘉永七寅七月廿五日養父軍藏跡知無相違、大御番入、師役
- 安政四巳四月廿二日明道館内へ武芸稽古所御集二付御番御免
- 万延元申九月四日御番割有之候処、御番士人少二付当分御番相勤候様
- 文久二戌十月十六日御番御免
- 慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入
- 同年同月廿九日御書院番入
- 同三卯五月廿日御書院番其儘御旗奉行
- 同年十月十八日小隊之分隊長
- 同四辰二月十一日家業之儀二付内達之趣二付、御書院番其儘分隊長御免

団野²

団野四郎太夫

五人扶持

- 寛延二巳三月十八日被召出、御右筆部屋へ罷出勤方見習候様被仰付、御

留守番組へ入
此後代い二出、但市橋与改

団野真之助 市橋四郎太郎

切米廿五石五人扶持

[役成]

嘉永四亥十月廿日養父文太夫跡目無相違、無役御留守番入

同七寅九月四日大御番入

安政四巳閏五月廿九日御製造方見習

同五年十一月十六日制産方

文久二戌十一月八日御役前御都合も有之二付御留守番入

同年同月廿六日養蚕御端立方格別出精相勤二付式人扶持御足

元治元子四月五日御先武具奉行彈藥方兼大御番入、御足式人扶持以後不

被下

慶応元丑十一月十六日御趣意二付役御番入

同二寅二月十一日御勘定吟味役

同四辰五月九日御役名御勘定方与御改

多喜田¹

多喜田伴蔵

百石

元禄十六未六月十六日表御小姓被召出、御切米御扶持被下

宝永元申五月四日於江戸養父五兵衛跡知無相違

多喜田藤内

式拾五石五人

宝永六丑九月廿一日養父伴蔵跡目被下

多喜田五兵衛

百石

享保二酉十月十六日養父藤内為跡目七人扶持被下

同七寅冬順席

同十七子九月十九日御手廻り、御切米廿五石五人被下、御書院番入

同廿一辰五月廿一日御駕附

元文四未三月十五日新知百石

寛保二戌九月七日御役御免、大番入

明和五子八月十一日山奉行吉田四郎左衛門跡、御留守番入

探源院様御代曾祖父五兵衛御取立

多喜田弥左衛門

百石

休足

安永五申八月十四日父五兵衛休息、家督無相違、大御番入

寛政八辰十一月五日御預所御金奉行市橋新之丞跡、御留守番入

享和二戌年七月四日病身二付御役御免

多喜田藤内 岩太郎

百石

文化元子五月十一日父弥左衛門内願二付休足被仰付、家督無相違、大御

番入

同十二亥二月五日御金奉行門野九右衛門跡

文政五年七月十一日御勘定奉行八田弥次兵衛跡

文政十二丑二月十六日郡奉行大谷一右衛門跡、御役料五十石被下

文政十二丑四月廿日京町出火之節、中仕切御門通行之義二付伺遠慮

文政十三寅三月十六日御役御免、郡奉行次席被仰付

多喜田藤内

高百石 外役料百石

天保二卯十一月廿八日養父藤内跡知無相違、大御番入

同辰十一月廿一日謙五郎様御附御近習番御書院番入

同六未正月廿七日若殿様御附御小姓

同年六月五日超倫院様御逝去二付御附御小姓御免、大御番入

同八酉三月五日御近習番御書院番入

同九戌十月廿五日御代替二付御役御免、御書院番其儘御近習被差置、御

用筋之儀先是迄之通

同年同月廿九日御小姓

同十五辰五月廿三日御納戸御書院番入

弘化三年六月十六日先達而及離縁候妻女罷在内家内方不参届二付、御役

御免、大御番入、遠慮

嘉永二酉閏四月五日御腰物数寄方奉行御書院番入

同七寅四月廿五日末之番外御時宜役、席岡部半兵衛次

文久元酉六月三日御使番役大河原助右衛門跡、御役料百五拾石

同四子二月廿日御先添物頭加藤半左衛門跡

慶応二寅六月廿一日御水主頭堀平太夫跡

同年十一月廿九日御先物頭

同三卯八月五日席其儘御使番役、御役料之内百石

多喜田²

多喜田守衛

五人扶持 外役中銀拾五枚

慶応四辰四月廿五日被召出、砲術教授方其儘御扶持方五人扶持、役御番

入

同年五月十一日出精相勤二付役中銀拾五枚

高江¹

高江伊右衛門

式拾石三人

元禄十五年二月五日父伊右衛門跡目無相違

宝永二酉八月廿九日山奉行

正徳元卯十二月十一日御役御免

同三巳八月十五日番改

享保七寅冬御番割之節順席

探源院様御代父伊右衛門御取立

高江友右衛門

〔役成〕

百石

享保十一年三月廿一日養父猪右衛門家督被下

同年四月十六日御右筆、五石式人御加増

同二十卯正月十五日新知百石

延享三寅五月十四日御中老御用奥役次二被仰付

寛延三年七月五日御右筆請込御帳付支配

宝曆四戌二月廿二日江戸詰之節五拾石御役料被下

高江善四郎

百石

宝曆七丑十二月五日父友右衛門跡無相違、大番入

明和三戌五月廿日御次詰御書院番入

同五子七月廿三日御裏役淺見平内跡

安永三年六月廿六日奥御納戸猪子十兵衛跡

同七戌正月十五日於江戸御近習頭取、奥御納戸是迄之通

同年八月廿二日御膳番奥御納戸御召物御用兼帯

同八亥九月十三日奥御納戸兼御免

同九子八月四日御書院二番筆頭荒川又八郎跡

同年十一月廿一日御腰物奉行横田作之助跡

天明七未三月十四日御部屋御腰物奉行兼帯

高江友右衛門 死

百石

天明八申四月廿日父善四郎跡無相違被下、大御番入

寛政二戌五月廿八日表御小性見習

同六寅七月三日表御小性本役

同七卯二月廿二日御近習番御書院番入

同八辰十二月五日御小性

同九巳四月廿八日席御上被下河合彦作次

同十年三月廿九日御近習番御書院番組へ被入

同十年十月廿八日病身二付御近習番御免被成、御近習二被指置、御近習

番次席

高江友右衛門 又五郎事

百石

一文化元子五月廿九日高江友右衛門病中願之通養子被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組へ被入

一文政三辰十月十六日御金奉行林半之丞跡被仰付

一同六未江戸詰被仰付

一同七申十一月九日郡奉行伊藤助十郎跡被仰付、御役料五拾石被下置

一同十亥九月廿三日原平左衛門跡御留守物頭被仰付、是迄被下置候御役料

五拾石以後不被下候

一同十二丑二月十六日御鷹方兼帯嶋津十太夫跡被仰付、是迄十太夫罷在候

御役屋敷江替被下候

一天保二卯二月十五日御先物頭富田弥兵衛跡被仰付、御役料百五拾石被下

置候

一同十二丑正月廿日御札所目付佐々木小左衛門跡被仰付、御側物頭次席被

仰付

一同十四卯 御役御免、御先物頭次席被仰付

一弘化三年五月廿二日席其儘御長柄奉行三寺与右衛門跡被仰付

一嘉永三戌正月十六日御普請奉行吉田五左衛門跡被仰付候

一嘉永四亥七月五日年寄候二付隠居

高江善四郎 他三郎

〔役成〕

高百石 外役料百五拾石

嘉永四亥七月五日父友右衛門隠居、家督無相違、大御番入

同五子正月十六日御広式御用達御留守番入

安政二卯三月十四日山奉行

文久元酉五月三日御勘定吟味役頭取御書院番入、小者給彦人扶持銀三百匁

同三亥十月十八日役儀其儘格式末之番外、席山形熊之助次

同四子正月十九日御留守作事奉行小栗五郎太夫跡

同年七月廿六日役儀其儘御役料五拾石

元治元子八月廿三日御役料其儘、御先作事奉行御普請奉行兼帶

慶応二寅二月七日役儀其儘御役料百石御増、都合百五拾石

同年十月十三日御普請組御預ケ



高江又五郎

〔役成〕

五人扶持

慶応四辰四月廿五日被召出、御扶持方式人扶持御足、都合五人扶持、遊

撃隊入



高松新兵衛

百石

〔役成〕

延宝五巳二月十六日父彦左衛門跡知百五拾石被下

天和三亥二月十一日御貝役被仰付

貞享三一統半知、勤新番

同四卯御書院番入

享保十五戌七月廿五日御役御免、大番入

大安院様御代父彦左衛門御取立二付、先御代御取立之者席御上被下候格を以

享保四亥八月十八日相身躰末座

同七寅冬御番割之節順席

高松彦左衛門

百石

元文二巳二月廿八日父新兵衛休息、家督無相違被下、大番

同三年八月廿三日御手廻り勝木権太夫跡

延享四卯八月廿八日御部屋御駕附

寛延四未二月廿日御役御免、大番入

高松新兵衛 隠居

百石

宝曆十一巳十月十一日養父彦左衛門休息、家督無相違、大番入

明和九辰八月十日御金奉行沢木彦太夫跡

寛政元酉七月廿日御勘定拝借奉行国枝六太夫跡、御留守番入

同六寅正月十六日郡奉行岡半右衛門跡、御役料五拾石被下置

同年閏十一月廿七日御役御免被成、末ノ番外

高松彦左衛門 五郎吉

百石

寛政十三酉二月二日親新兵衛内願二付隠居、家督無相違、大御番入

文化元子四月五日御広式御用達御留主番入

同八未閏二月廿一日御裏役大藤三郎兵衛跡、御書院番入

文化九壬申十月二日奥御納戸吉岡伝吾跡

文政六未十二月三日大馬印嶋津喜太郎跡被仰付

同七申ノ四月病死

高松綱藏 病死

百石

文政七申五月廿九日父彦左衛門跡知無相違、大御番入

文政七申八月廿七日御近習番中村操跡被仰付、御書院番入

同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番入

文政十二丑十月六日謙五郎様御附御近習番御書院番入



高松権太夫 休息

拾八石三人

宝曆二申十一月廿二日養父名右衛門休息、家督被下、大番入、其身只今

迄御徒也、御擬作上ル

同十三未七月八日当春姪致出奔家内和熟不致不締り之義二付、御呵遠慮

明和六丑十二月五日御土蔵番御留守番入

安永三年十月十七日相身躰末

天明八申七月廿五日役義御免

寛政十年八月晦日御定之年数相満候二付順席

同十二申八月十一日御武具奉行松山次郎右衛門跡

文化元子十月廿四日休息

高松権太夫

十八石三人

文化元子十月廿四日養父権太夫休息、家督無相違、大御番入、養父権太

夫義年来相勤候二付御目録金式百疋被下

文政二卯十月廿九日休息

高松権太夫 吉五郎 名右衛門

拾八石三人

文政二卯年十月廿九日養父権太夫内願二付休息、家督無相違被下置、無

役御留守番組へ被入

文政七申閏八月廿三日大御番入

天保二卯六月十八日次男龜之助居住御免

高松³

高松曾右衛門

廿石三人

享保六丑十月廿九日御徒目付^方御取立、御留守番へ入、式石御加増、御預所御代官寺沢勘左衛門跡

高松曾右衛門

廿石三人

元文元辰八月五日父曾右衛門跡目無相違被下、大番入

延享五辰二月十六日御預所御代官御留守番

寛延三年六月廿五日御代官御免、大番入

同年七月廿三日相身躰末被仰付

宝曆七丑五月廿九日御代官渥美助左衛門跡

同九卯八月十一日御代官御免、大番入

高松宗右衛門

廿五石五人

宝曆十四申四月十一日養父曾右衛門跡目無相違、大番入、相身躰末

明和九辰二月十六日御右筆見習

安永二巳三月十六日御右筆本役御書院番入、順席、御足擬作五石式人扶

持

寛政二戌三月廿九日五石式人フチ御加増、都合廿五石五人フチ被成下

高松宗右衛門 勘次郎

廿五石五人

寛政六寅八月廿八日父宗右衛門休息被仰付、家督無相違被下、大番組へ被入

天保五年九月十六日御旗本武具奉行多部三左衛門跡、御書院番組へ被入
天保九戌五月十一日休息

高松榮吉

廿五石五人

天保九戌五月十一日親宗右衛門休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

天保十二丑四月廿六日病死

天保十二丑八月五日高松榮吉病中養子願之義ニ

※高屋六郎左衛門の後にあり

付、取扱方心得違之儀在之、格式御取揚、大御

番組へ被入、遠慮

天保十五辰五月三日格式末之番外被仰付

田口

田口惣兵衛

廿五石五人

享保十一年十月十八日御取立、式石御加増、新番入、御櫛上其儘

同十六亥正月廿六日三石御加増

同十九寅八月五日五石二人扶持御加増、都合廿五石五人

同廿卯正月十五日御書院番入

延享元子九月廿三日松永只右衛門儀二付御櫛上御免、大番入

同三寅六月廿八日御近習御書院番

寛延三年二月十一日御近習御免、大番入

同三年六月五日奥御納戸平尾新四郎跡、御書院番順席

同四年四月十一日御役御取上、大番入

明和三戌五月廿日御次詰御書院番入

同五子七月九日御小納戸筒井仁右衛門跡

同七寅五月廿八日年寄候二付役義御免、御近習二被指置、御膳番格

田口惣兵衛 病死

百石

明和九辰六月廿九日父惣兵衛休息、家督無相違、大番入

安永五申七月十五日御近習番御書院番入

天明二寅七月廿日御小道具方

同四辰十月十二日奥御納戸

同六年正月九日於江戸新知百石

同年七月廿四日病氣二付役義御免被成、御近習番格

同年十一月十四日奥御納戸大谷半蔵跡

同七年三月十四日御形合被相改候二付役義御免、大御番入

同八年九月十五日席奥御納戸上席被仰付、御近習番御書院番入、高田蔵

人跡

寛政二戌八月三日奥御納戸

同三亥十一月廿九日御膳番

同六寅四月廿九日御近習番頭取上月源右衛門跡、御膳番御免

同八辰四月晦日御金掛り

同十年二月廿三日御近習頭取是迄之通二而、御書院番二番筆頭役奥御納戸兼帯被仰付

同十一年九月十八日中将様御附御書院番被相除、御附御用人支配被仰付、筆頭役御免

同十二申正月廿日同御附御近習番頭取其儘御膳番被仰付、御納戸御免

田口惣兵衛 十太郎 十内

百石

享和元酉十一月廿五日実父惣兵衛跡知無相違、大御番入

同二戌九月六日御小性被仰付

文化六巳二月七日御小姓頭取

同十四二月廿七日御腰物数寄方奉行、御書院番入

文政五年九月晦日末ノ番外御時宜役被仰付

文政十亥十月十五日富田弥兵衛跡御使番被仰付、御役料百五拾石被下置候

候

文政十三寅三月廿日長谷川源之進跡御先物頭被仰付

天保五年七月廿五日、昨廿四日下馬御門当番之処不念之儀有之、伺之上

遠慮被仰付

天保九戌十二月十日先達而下馬御門番当番不念之義有之二付遠慮

田口孫太郎

式拾五石五人扶持

天保十一子五月廿九日親惣兵衛隱居、家督百石無相違被下置、大御番組入

同年十一月廿日不埒至極拜知御取揚、御切米式拾五石五人扶持被下、閉門

天保十三寅五月四日不埒至極之趣二付御暇被下、御国立退

田口五太夫

切米拾八石三人扶持

天保十三寅五月四日田口孫太郎御暇被下候処、父惣兵衛儀年来相勤候二付格別之思召を以家名御立被下、為名跡御充行拾八石三人扶持被下、無役御留守番入

弘化三年八月廿九日大御番入

安政六未二月五日番改

万延元申十一月五日御世譜方御右筆見習

文久三亥七月三日御世譜方御右筆本役御書院番入、七石二人扶持御足

元治二丑四月四日御内用御右筆大御番入

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

同年七月二日御足充行其儘御世譜方御右筆御書院番入、役席岡健藏次

同二寅三月十一日御趣意二付御世譜方御右筆御免、是迄致繁勤二付御書院番其儘、御足充行以後不被下

同三卯五月十一日御趣意二付大御番入、御礼席之儀是迄之通御書院番順

席

同年十月廿一日新撰隊教授方役御番入

同四辰四月五日御広敷御用達御留守番入

高間

高間九兵衛

百石

享保十三申四月廿一日小役人方御取立、新番入、大工頭其儘

同十五戌十一月十一日三石御加増、御普請川除見積吟味役

元文二巳二月十一日江戸御屋敷奉行廿五石三人扶持被成下、御留守番入、役料三人扶持

延享四卯六月廿八日新知百石、相身躰末

寛延元辰十一月二日御役御免

同二巳九月五日大番入

高間九兵衛

百石 役料百五拾石

延享二丑正月七日被召出、十五石三人扶持被下、新番入、御番相勤親役

儀見習候様

寛延元辰十一月二日見習御免、親一所二御国へ罷歸り候様

宝暦六子八月廿九日父九兵衛休息、家督無相違、大番入、相身躰末、自

分御切米上ル

同七丑五月廿九日御代官小川茂左衛門跡、御留守番入

同九卯十一月八日御役御免、大番入

同十二年二月五日与内檢地奉行御留守番入

同十三未七月廿二日御代官川地五左衛門跡

明和三戌正月廿五日御預所御代官御勝手役兼

同九辰十一月廿九日順席

安永三年正月廿五日御勘定吟味役

同五申十月十九日吟味役其儘二而御勝手掛り、格式末ノ番外被仰付、失

却銀五枚、若党給十五俵小者給百五拾匁老人扶持被下

同七戌八月十二日御奉行大坂居役、御役料百五拾石、席渥美新右衛門次、

家内引越

同八亥五月十六日御奉行本役溝口郷右衛門跡

同年九月廿九日御役御免、御役料其儘被下、御先物頭次席被仰付

寛政九巳十一月十一日養父九兵衛家督無相違、大御番入

高間久藏

百石

文化三寅五月廿日養父勝之介跡知無相違、大御番入

同年七月十七日御小性

文化十酉十二月於江戸病死

高間文四郎 四郎事

百石

一文化十一戌二月五日養父久藏病中願之通養子二被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入

一同十二亥八月九日御小姓被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付候

一同十四丑江戸御供詰被仰付候

一文政二卯江戸御供詰被仰付候

一同四巳江戸御供詰被仰付候

一同六未江戸御供詰被仰付候

一同八酉江戸御供詰被仰付候

一文政九戌二月十一日江戸詰被仰付、出立

一同年二月廿四日威徳院様御逝去二付御小姓御免、大御番組へ被入

一同十二丑十一月十六日御鵜方坂井半十郎跡被仰付、御書院番組へ被入

一天保七申五月廿日末之番外御時宜役被仰付候

一同十一子二月廿九日御留守作事奉行雨森太郎兵衛跡被仰付

一同十三寅十月五日郡奉行三寺与右衛門跡被仰付

高間九兵衛

百石

安永九子十一月廿一日父九兵衛隱居、家督無相違、大番入

天明二寅六月十四日御近習番格御供方、御書院番入

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略二付役義御免、大番入

同九酉正月十四日道奉行上水方取扱寺沢藤右衛門跡

寛政五うし九月朔日御代官市村三右衛門跡、御留守番組へ被入

同九巳正月十六日御預所御代官木内三太夫跡

高間勝之助

百石

一 嘉永元申十二月十日御先物頭小栗次右衛門跡被仰付、御役料百五拾石被下置候

一同五子六月十七日御普請奉行武曾權大夫跡被仰付候

一同六丑七月三日京町方出火之節、出精二付御褒詞

一同七寅三月廿五日松栄院様御附御広敷御用人白井茂兵衛跡被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付、四月五日出立

一同年十一月廿二日小寺儀左衛門義、松栄院様御附御広敷御用人見習被仰付候二付、御国へ御返シ被成候間、勝手次第致出立候様被仰付候、尤詰

二 御立被成下候、然ル処十二月十二日帰着

一 安政元寅十二月廿五日御趣意二付御役御免被成、御役料其儘御物頭次席被仰付候

一同二卯三月十四日席其儘御先物頭近藤左太夫跡被仰付

一 安政三辰四月十五日御側物頭小栗治右衛門跡被仰付、同日御武具支配被仰付候

一同年七月十七日御武具支配其儘忍之者預り被仰付候

一 万延元申九月十日中将様御慎御免被仰出候二付、為御使高村岩次郎被差越候間、着之上右為御請立帰出府被仰付候、十五日出立、十月十四日帰着

一 文久元酉十二月十一日来戌年芝御陣屋詰被仰付、右詰中御目付本役同様相勤候様被仰付候

一同二戌四月四日出立

一同三亥二月廿六日御前様安姫様御国へ被為入候二付、御道中御目付代り被仰付、三月六日出立、廿三日帰着

一同年八月朔日御旗奉行桜井庄九郎跡

一同四子正月十六日御預所元締役石原甚十郎跡被仰付、御奉行次席二被成下候

一元治卜改元、十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百六拾六匁被下

一元治二丑二月廿二日年寄候二付隠居被仰付、土谷化遊同様之御取扱二被成下候

高間文四郎 勝之助

高百石三人扶持

元治二丑二月廿二日父文四郎隠居、家督百石三人扶持無相違、大御番入慶応二寅八月十九日一番補兵隊筆頭役御書院番入

同三卯九月廿七日御趣意二付、御書院番其儘御役御免

同年十月十八日小隊之分隊長

同四辰閏四月廿八日御金奉行役御番入



武部作太夫

式拾石三人

寛文三卯十一月四日親死去、家督月日不知

正徳四年三月五日年寄年来相勤候二付番改御免

武部茂作

廿石三人

享保十一年三月廿一日父作太夫跡目無相違

武部作太夫

廿石三人

享保十九寅八月九日養父茂作休息、家督無相違被下

武部伝右衛門 病死

百石

寛延三年三月廿日兄作太夫願仍而養子二被仰付、家督無相違、大番入

天明元丑十二月十一日御供方御近習番格、御足擬作五石二人扶持被下置

同六年五月廿七日御近習番御供頭川地仁十郎跡

同七年三月十四日御部屋附近習番

寛政二戌五月廿八日御表御近習番御供頭兼帯

寛政二戌十月十五日五石二人扶持御加増、都合廿五石五人扶持

同六年八月廿八日新知百石

同十年三月廿日御書院番組其儘二而御供頭御免被成、御近習二被指置、

出淵安太郎流義之兵法後見被仰付候

武部伝右衛門 作太夫 昇

百石

享和元酉十月五日父伝右衛門跡知無相違、大御番入

文化十三子七月九日江戸表二而御金奉行役

文政六未三月廿九日役義取扱不宜不埒之義有之、急度御咎可被仰付処、

御憐愍を以閉門被仰付

天保七申五月廿五日与内立合大久保太郎太夫跡被仰付

天保八酉四月四日病死

武部作太夫

百石

一天保八酉五月廿五日親伝右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入

候

一同十二丑正月十六日楮五郎様御附近習番本多平五郎跡被仰付、御書院

番組江被入候

一同十四卯閏九月廿五日魏光院様御逝去、二付御役御免、大御番組江被入候

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月十六日出立

一嘉永二酉江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同四亥年十月廿九日御金奉行中村仲跡被仰付候

一同五子六月十六日当秋江戸詰罷越等之処、詰引揚支度出来次第致出立候

様被仰付候、然ル処同廿四日出立、同六丑六月十二日帰着

一安政二卯十一月廿九日御腰物数寄方奉行金子六右衛門跡被仰付候

一万延元申五月廿五日末之番外御時宜役被仰付候

一元治元子二月廿日小馬印奉行平尾新五兵衛跡被仰付候

一同年八月廿六日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、役儀

之義ハ御免被成

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十一月六日倅鑢御咎二付伺之上遠慮被仰付、同九日御免

一同二寅十一月三日今度御軍制御變革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付

候

一同年十二月廿六日倅鏑長々逼塞被仰付候二付、伺之上遠慮、同晦日御免
一同四辰二月五日年寄候二付隠居

武部作太夫 鏑

〔役成〕

高百石

慶応四辰二月五日父作太夫隠居、家督無相違、御留守番入、順席末席

同年五月十一日御趣意二付無役組

同年七月廿六日遊撃隊入

多田¹

多田源七

拾八石三人

寛保四子正月十六日新番入、御勝手役其儘

延享三寅正月十六日御切米方兼役

寛延二巳三月十六日休息

多田文右衛門

拾八石三人

寛延二巳三月十六日父源七休息、家督無相違、父之座

多田彦左衛門

拾八石三人

宝曆六子十二月十一日養父文右衛門跡目被下、新番入

安永十丑正月十五日御広式添役

同年十一月廿九日役義御免

天明四辰十一月廿九日年数相満候二付、大番入

同八申七月廿五日御台所頭御留守番入

寛政七卯二月廿九日役義御取上、閉門、新番入

享和二戌五月廿九日御泉水預被仰付

文化五辰七月十一日年寄、休息被仰付候

多田源三郎

拾八石三人

文化五辰七月十一日養父彦左衛門休息、家督無相違、新番入

多田彦左衛門 石之助

拾八石三人

一文政七申閏八月六日養父源三郎跡目拾八石三人扶持無相違被下置、新御

番組へ被入

一同十三寅十月二日取次役嶋崎伝太夫跡被仰付

一天保十三寅五月十六日御作事方改役戸田七兵衛跡被仰付

一弘化四未十二月晦日御本城橋御繕之節出精二付御褒詞

一嘉永二酉八月 小栗源藏家へ替被下

一同三戌三月五日昨酉年柳御門頼当御普請御用懸り出精二付御褒詞

一同五子八月五日荒子頭津田伝七跡被仰付候

一安政二卯正月廿八日小普請方多部五郎右衛門跡被仰付候

一同三辰九月十六日年寄候二付休息被仰付候

多田松五郎

〔役成〕

多田久平太

切米拾八石三人扶持

拾八石三人

安政三辰九月十六日父彦左衛門休息、家督無相違、新番入

一弘化四未四月十一日親林右衛門家督無相違被下置、御留守番組江被入候

元治元子十月八日御定之年数相満二付大御番入

一嘉永五子八月廿八日御番割二付、年数相満候間順席二被仰付候

一万延元申六月廿六日御番精出候二付羽織被下

一元治元子六月廿七日支度出来次第早速上京被仰付、廿九日出立

一同年七月十七日御先武具奉行彈藥方兼帶被仰付

一同年八月三日一橋様二而御感狀御渡二付御国表へ被遣候間、為指添被遣

早速出立罷越、同六日御国江着

一同年十月十五日長征出立、丑正月廿九日帰

一慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀式枚被下置候

一同年十一月十六日御趣意二付役御番組江被入候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番両度皆勤二付御紋御帷子被下置候

一同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金五百疋被下置候

一同三卯二月十六日御趣意二付御役御免被成、御書院番組江被入候

一明治二己四月六日十五番隊器械并彈藥差配方被仰付、製造局附属被仰付

一同年六月廿六日御広間当番勤被仰付、役儀之義ハ被免候事

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞廿五兩被下置候

候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同年十二月廿九日病死



多田林右衛門 三九年

拾八石三人

安永八亥九月廿日御徒目付方御取立、御留守番入、御掃除奉行松山利左

衛門跡

多田林右衛門

拾八石三人

寛政五丑九月朔日養父林右衛門年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下、

大番入

文化元子八月廿九日年数相満候二付相身代末

文化九申四月五日御掃除奉行岸田善右衛門跡、御留守番入

多田林右衛門 源七郎

拾八石三人

文政七申五月三日親休息被仰付、無役御留守番組へ被入、大御番組へ被

入

高階

高階彦六

式拾五石五人

元禄十六未五月廿五日被召出

享保九辰八月廿六日御役御免、大番入

高階勘太夫

廿五石五人

享保十五戌八月十一日養父彦六休息、家督無相違被下、大番入

元文二巳九月廿五日番改吉岡伝五右衛門跡

寛延三年四月廿一日仕立弘御納戸

宝曆十辰正月十六日御代官高間六郎跡、御留守番入

同十一巳四月十六日御役御免、大番入

明和二酉五月廿日御代官松沢万右衛門跡、御留守番入

高階彦六

廿五石五人

明和四亥二月廿日父勘太夫跡目無相違、大番入

高階祐七郎

廿五石五人

安永四未二月十六日養父彦六跡目無相違被下、大番入

高階勘左衛門

廿五石五人

安永八亥四月廿五日養父祐七郎跡目無相違、大番入

寛政三亥十一月十六日不埒之趣有之二付遠慮

同八辰二月廿五日番改永田伝内跡

文化元子十二月十一日玉葉奉行勝木五左衛門跡

同九申正月廿九日御祈禱奉行小川七右衛門跡

文政三辰正月廿五日内願休息

高階勘太夫 小太郎

廿五石五人

文政三辰正月廿五日親勘左衛門年寄内願二付休息被仰付、家督無相違被

下置、無役御留守番組へ被入

文政十三庚寅五月廿五日大御番入

天保十四卯正月十六日病身二付内願之通休息被仰付

高階勘左衛門 市之丞

廿五石五人

一天保十四卯正月十六日親勘太夫病身二付内願之通休息被仰付、家督廿五

石五人ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候

一嘉永七寅八月十四日番改役西村勘五兵衛跡被仰付候

一安政元寅十二月廿八日勘左衛門与改

一文久元酉五月廿日御留守武具奉行小野太郎太夫跡被仰付、御留守番組へ

被入候

一元治元子十月十二日彈藥方兼帯被仰付候

一慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀五枚被下置候

一同年七月十二日御書院番組へ被入、役儀之義ハ御免被成候

一同二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付

候

一同三卯八月廿五日病身二付内願之通休息

高階幾次郎 勘左衛門相統之養子

廿五石五人

安政二卯三月十六日山田槍術年中支合皆勤二付御褒詞

一同三辰五月廿二日右同断

一文久二戌十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、子八月廿

七日当分御扶助相止

但当戌廿五歳

一同四子正月廿日当春芝御陣屋詰被仰付、右詰中式人ふち御増、都合五人

ふち被下置候、相止

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中式人ふち御増、都

合五人ふち被下置候、三月四日出立

一同年四月十日当分滞京被仰付、八月廿四日着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一慶応元丑閏五月十八日一番之補兵隊被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰

一同三卯八月廿五日養父勘左衛門儀病身二付内願之通休息被仰付、家督廿

五石五人扶持無相違被下置、大御番組江被入候

一同年十一月二日宰相様御上京二付速見迄御見送り出立、同七日帰

一同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十

日帰

一同四辰六月廿五日会征出立、巳三月十九日柏崎方帰、巳二月廿二日出張

二付十三兩被下候、外二三千疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米五十三俵壺斗四升三合

被下

一同年十二月十五日重傷之処未平癒至ラス可為難儀二付、拾貫匁被下

一同三午三月四日死、同五日為香典料御国札式貫匁被下置候

一同年四月廿五日戊辰北越出張、各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

高久

高久官太夫

式拾五石五人

寛文十一亥九月十八日被召出

高久幸太夫

式拾五石五人

享保十一年三月廿一日父官太夫家督被下

高久官太夫

廿五石五人

宝曆七丑十二月廿八日父幸太夫跡目無相違、大番入

天明八申三月十一日番改堀又右衛門跡

寛政十年十二月十一日御代官青山弥五右衛門跡、御留守番入

文化八未十一月廿七日病死

高久官太夫 四郎作

貳拾五石五人

文化九申正月廿日父官太夫家督無相違、御留守番入

同年十月十九日無役御留守番入

文化十二乙亥三月五日大御番入

天保三辰七月五日御番改伊黒源五右衛門跡

同十一子八月五日先達而矢野權太夫七ツ歳御番所ニおゐて不埒之節、心得方不宜ニ付遠慮被仰付候

弘化二巳十月廿九日御代官役小堀伝右衛門跡

弘化四未二月十四日御預所御代官役松山藤助跡

嘉永元申五月 病死

高久官太 捨次郎事 官太夫

廿五石五人

一嘉永元申七月十三日養父官太夫家督廿五石五人ふち無相違被下置、無役

御留守番組へ被入候

一安政三寅五月廿二日年来劍術出精ニ付、花葵御紋附御扇子一本被下置候

一同四巳四月廿九日番改役円乗作右衛門跡被仰付候

一万延元申六月廿六日御番精出候ニ付羽織被下

一文久三亥八月廿九日御作事方改役御普請方改兼寺木十右衛門跡被仰付候、且又於三ノ丸御座所向御普請御用掛り被仰付候旨

一同四子二月十六日役前不参届儀有之伺之上遠慮、廿五日御免

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑五月廿八日御趣意ニ付役御番組ニ被仰付候

一同年七月十一日三ノ丸御座所御普請中出精ニ付、御目錄御紋御上下一具

銀壹枚被下置候

候

一同二寅四月廿五日往還道奉行野村治右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一同年六月廿日御作事方改役御普請方改兼帯被仰付、役御番組へ被入

但右ニ付役席元席江被入候

一同年七月五日御番出精ニ付御褒詞

一同三卯七月廿六日今度於御座所御建繼御普請被仰出候ニ付、御用掛り被

仰付

一同四辰閏四月十一日御代官役并郡方吟味役兼勤被仰付、御留守番組江被

入候

一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘、川方兼被仰付候

一同年二月十七日民政局庶務方卜被仰付、月給十五俵、役米ハ不被下候

一同年六月廿一日官太夫事官太下改

一同年七月十九日御代官役之義ハ被免候事、但月給米是迄之通

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付役義被免候事

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

一同月廿五日今般御改革二付、更給禄米五拾三俵斗四升三合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未正月九日老年二付願之通隠居

文化十酉二月十三日父伴右衛門休息、家督無相違、無役御留守番入
文政三辰八月十一日大御番入
文政十二丑十二月十六日御広式御用達被仰付、御留守番組へ被入

田中伝左衛門 勤助

〔役成〕

拾七人扶持 外役料百五拾石

天保三辰六月十一日養父東八跡目無相違、無役御留守番入

同九戌四月廿日大御番入

同十五辰六月廿日御内御右筆

同年八月十一日御役御免

嘉永元申九月廿九日御近習番御書院番入

同五子六月九日御書物方

同年十一月十八日御裏役

同六丑九月十八日奥御納戸

安政四巳閏五月十一日御近習番頭取御書院番二番之筆頭役、役中拾七人

扶持御直シ、席河合太郎太夫次

文久四子二月廿日役儀其儘格式末之番外、席市橋環蔵次

元治元子八月廿三日御先物頭御徒頭次席、御役料五十石、席波々伯部弥

六次

慶応二寅二月廿日御役料五拾石御増都合百石、御先物頭順席

同三卯十月十八日御先物頭之御役名被相止、同日小隊頭

同四辰三月十二日御目付松原孫七郎跡、御役料都合百五拾石

同年五月廿八日小隊頭笹川藤内跡、席八木郡右衛門次

田中

此前代う二出、但薄井与号

田中猪右衛門

廿五石五人

延享元子十一月七日父伴右衛門休息、家督無相違、大番入

宝曆十三未六月十六日番改岡谷弥右衛門跡

明和八卯八月廿日玉藥奉行本多武兵衛跡

田中伴右衛門

廿五石五人

安永二巳九月五日父猪右衛門跡目無相違、大番入

天明八申七月廿九日御代官井上弥太夫跡、御留守番入

寛政五丑九月朔日御先武具奉行市嶋伝右衛門跡、大御番組へ被入

同十二申八月十一日御旗本武具奉行市橋久太夫跡

文化十酉 休息

田中東八

廿五石五人

田中²

田中新太郎

〔役成〕

切米廿三石五人扶持

宝曆九卯十二月廿二日御土蔵番御留守番入、河村五左衛門跡
竹内滝右衛門
式拾石三人

慶応二寅十月廿二日御趣意二付与力^方被召出、新番並、御充行廿三石五人扶持

同三卯十月廿五日第二遊撃隊入

同四辰四月廿五日遊撃隊入

明和五子七月廿三日父滝右衛門休息、家督無相違、大御番入
天明四辰十一月廿九日御定之年数相満、相身体末
文化五辰八月廿九日御定之年数相満、順席
文化七午正月十六日年寄内願休息

田中³

田中理右衛門

〔役成〕

切米拾八石三人扶持 内三石役中足

明治元辰十月晦日評定局調役指添役中新番格、御徒目付勤向是迄之通

竹内孫十郎 喜三郎
式拾石三人

文化七午正月十六日養父滝右衛門年寄内願休息、家督無相違、大御番入
文化十三子七月五日休息、但病身二付内願御趣意二付、跡安太郎席下^ケ

竹内¹

竹内滝右衛門

竹内滝右衛門 安太郎事 半蔵事
廿石三人
一文化十三子七月五日父孫十郎病身二付内願之上休息被仰付、家督廿石三人無相違被下置、無役御留守番組江被入、御趣意二付席御下^ケ被成、相身末席へ被仰付候

式拾石三人

享保七寅二月十三日於江戸御切米御扶持被下、新番入、若殿様附

一文政五年十月二日大御番組江被入候

竹内滝右衛門

一嘉永元申十二月廿八日御趣意二付先年相身末席江御下^ケ被成候処、此度思召を以以前之通順席被仰付候

廿石三人

一同四亥年十月廿九日番改役平田幾郎右衛門跡被仰付候

享保十巳十一月十六日養父滝右衛門跡目被下、新番入

一安政六未二月五日御持武具奉行勝木權太夫跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一同七申二月廿日眼病二付内願之通休息
一万延与改元、六月廿六日勤中御番数度皆勤二付、金耄兩被下置候

御花畑繪奉行

竹内清太夫

拾八石三人

竹内鉄吉

廿石三人

安政七申二月廿日親滝右衛門眼病二付内願之通休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

寛延元辰九月廿五日相身躰末
宝曆二申五月十一日御留守武具奉行堀金太夫跡

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、寅三月廿日病氣願帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年八月九日病死、順席也

竹内伝蔵

廿五石五人

宝曆三酉四月廿五日養父清太夫跡目無相違、大番入

明和元申九月十一日評定留役中村六右衛門跡、同日順席

同二酉五月廿七日七石二人扶持御加増

同七寅九月十四日御近習番御書院番入

同八卯九月廿日御附御近習番堀江八左衛門跡

安永六酉五月廿九日於江戸御附御小道具方

同七戌六月廿二日御納戸蜷川左五兵衛跡

同年十二月十六日御供頭

天明五巳正月十五日病身二付役義御免被成、御近習番格

同七未三月十四日御形合被相改候二付御近習番格御免、大番入

同九酉正月十四日御持武具奉行中野忠兵衛跡、御書院番入

寛政九巳正月十六日御代官高間九兵衛跡、御留守番へ被入

文化六巳ノ正月廿日御預り所御代官伊黒弥三右衛門跡

竹内滝門 幸吉

切米廿石三人扶持

慶応二寅九月廿九日養父鉄吉跡目無相違、大御番入

〔役成〕



竹内平右衛門

式拾石三人

享保八卯三月五日御徒目付方御取立、御留守番入、御切米式石御加増、

同八未三月廿日休息

竹内五太夫 東十郎 伝蔵

式拾五石五人

文化八未三月廿日父伝蔵休息、家督式拾五石五人無相違、御留守番入

同九申十月十九日無役御留守番入

同年十一月十一日御広式御用達吉倉茂右衛門跡御留守番入

文政四巳九月十六日玉葉奉行石沢忠左衛門跡被仰付

文政十三寅七月廿五日役儀等閑之儀有之二付御役御免、遠慮

天保七申三月廿九日御留守武具奉行高嶋仁右衛門跡

竹内清太夫 東作

廿五石五人

一天保八酉九月十一日親五太夫年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶

持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十四丑四月廿八日大御番組へ被入

一万延元申六月廿六日御番兩度皆勤二付、御紋御帷子被下

一同二酉三月五日病身内願之通休息

竹内伝蔵 虎之助

切米廿五石五人扶持

文久元酉三月五日父清太夫休息、家督無相違、大御番入

〔役成〕

竹内³

竹内金右衛門

廿二石四人

寛保二戌正月十六日小役人方御取立、新番入、御台所頭其儘

同年六月廿五日御勝手役被仰付

延享二丑七月十一日御預所御勝手役福嶋忠右衛門跡、四石老人フチ御加

増、都合廿二石四人

同四卯三月十八日御留守番入

竹内次郎左衛門

廿二石四人

延享四卯十月廿一日養父金右衛門跡無相違、大番入

宝曆三酉六月十六日御貝役御書院番入、平瀬久左衛門跡

同十三未十月廿九日御貝役御免、大番入

竹内五郎兵衛 初勇五郎

廿二石四人

明和七寅五月十一日父次郎左衛門休息、家督無相違、大番入

同九辰十一月廿九日相身躰末

安永二巳七月廿日父次郎左衛門不埒之義有之、押込、姉かね義も不宜事

有之、一門共へ引取慎被仰付、此節遠慮

寛政八辰九月三日御定之年数相満候二付順席

文化十二亥七月廿五日御先武具奉行笠原平八跡

同年十月十一日娘せよ不埒之趣相聞為相慎指置候様、其方儀も家内不締り二付遠慮

文政五年正月十六日御代官野村四郎左衛門跡被仰付、御留守番組へ被入
文政九戌五月廿五日年寄候二付休息

竹内嘉藏

廿式石四人

一文政九戌年五月廿五日父五郎兵衛年寄休息被仰付、家督無相違、無役御留守番入

一天保二卯六月廿五日大御番入

一同十三寅六月廿日御広敷御用達辻十郎右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入

一同十四卯年江戸詰、四月廿九日出立

一同年九月九日御番皆勤二付時服被下置候

一嘉永五子正月十六日表御納戸役松原次郎左衛門跡被仰付、大御番組へ被入

一安政四巳八月廿日御代官役堀又七跡被仰付、御留守番組江被入

一文久三亥八月廿九日年寄候二付休息

竹内半左衛門 熊藏

切米廿式石四人扶持

文久三亥八月廿九日養父嘉藏休息、家督無相違、大御番入

元治元子四月十三日御世譜方御右筆見習

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

〔役成〕

同年七月二日御内御右筆見習

同二寅正月廿五日御内用御右筆本役、三石一人扶持御足

同三卯四月十一日御武具奉行彈藥方兼、是迄被下御足充行以後不被下

同四辰閏四月十一日御武具預り彈藥方兼

同年八月五日彈藥預り小銃取扱方兼

明治元辰十二月廿一日御役名器械并彈藥差配方、製造局附屬

竹内⁴

竹内与五太夫

式拾石三人

享保三戌五月廿八日役人方新番御取立、式石御加増、御普請作事吟味役

同五子七月廿一日御代官

同九辰六月廿五日御役御免、大番入

竹内与五太夫

式拾石三人

享保十三申九月廿九日於江戸養父与五太夫休息、家督無相違、大番入、

是迄自分御徒相勤

同十六亥四月廿一日上水奉行

寛保元酉三月十六日御役御免

延享二丑三月五日順席

竹内与五太夫

廿石三人

宝曆六子八月廿九日父与五太夫休息、家督被下、大番入

天明五巳正月十六日用水奉行市村三右衛門跡、御留守番入

竹内久左衛門 岩太郎

廿石三人

天明五巳三月廿日父与五太夫跡目無相違、大番入

享和三亥二月御右筆見習

文化元子八月廿五日病身内願二付御免

文政七申五月病死

竹内他之吉

廿石三人

文政七申七月廿五日父久左衛門家督無相違、無役御留守番入

同十亥十二月廿七日病死

竹内忠左衛門 忠吉事

廿石三人

一文政十一子二月十九日多之助病中願之通養子被仰付、家督廿石三人ふち

無相違被下置、無役御留守番組へ被入、御趣意二付席御下ケ相身躰末席

江御下ケ被成候

一天保二卯六月廿五日大御番組へ被入候

一嘉永元申十二月廿八日御趣意二付先年相身躰末席へ御下ケ被成候処、此

度思召を以以前之通順席被仰付候

一安政七申三月十一日病氣二付内願之通休息

竹内笹之丞 実忠左衛門養家之伯父之当ル也、祖父久左衛門実子二而血統二付願濟

廿石三人

安政七申三月十一日同氏忠左衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督相

続被仰付、御充行廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同廿日当申年太田御陣屋詰被仰付、閏三月廿四日出立

一文久元酉四月六日帰着

一同廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、銀沓枚被下置候

一同三亥二月十二日番頭引纏上京

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立、子四月廿三日宰相様御

供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之

御酒被下置候

一同年七月四日京都表江出立、八月廿三日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応二寅正月十六日御広敷御用達渡辺利右衛門跡、御留守番組へ被入候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同四辰閏四月廿四日病死

竹内勘弥

切米廿石三人扶持

慶応四辰六月十五日兄笹之丞家督相続、遊撃隊入

〔役成〕

竹内⁵

竹内捨吉

五人扶持

慶応四辰四月廿五日被召出、御扶持方五人扶持、遊撃隊入

[役成]

寛政九巳六月廿九日御留守武具奉行嶋津右太夫跡、御留守番入
同十年五月十六日表御納戸役諸木野藤左衛門跡、大番入

田川弥三左衛門 友右衛門

式拾五石五人

寛政十二庚申八月十一日養父角左衛門休息、家督無相違被下、大御番入
文化八未十二月五日病身内願休息

田川¹

田川角左衛門

廿五石五人

宝永元申十一月廿四日養父曾次右衛門跡目

享保十七子九月十九日御右筆、八石二人扶持御加増、御書院番入

元文三年八月廿三日御右筆御免、大番入

田川清介 弥三郎事

拾七人扶持

一文化八未十二月五日父弥三左衛門家督無相違被下置、御留守番組江被入
候

一同九申十月十九日無役御留守番組江被入候

一同十三子八月廿日大御番組江被入候

一文政十二丑十二月十六日御内御右筆荒川三郎太夫跡被仰付候

一同十三寅十一月十一日御勘定吟味役被仰付候、御留守番組江被入候

一天保四巳三月十六日用水奉行渥美助左衛門跡被仰付候

一同十亥五月十一日御代官役羽中田丹右衛門跡被仰付候

一同年十一月廿六日遠慮伺之上指扣被仰付候

一同十子五月十六日弟廉助旧冬出奔始末、兼而締り方不参届二付遠慮被

仰付候

一同年五月十一日御先武具奉行雪吹八郎左衛門跡被仰付候

一同十四卯十一月八日御右筆田辺十太郎跡被仰付、御書院番組江被入候

一同十五辰江戸詰、正月 出立

田川角左衛門

廿五石五人

寛保二戌三月五日養父角左衛門跡目無違被下、大番入

宝暦二申十二月廿二日玉葉奉行伴権太夫跡

田川角左衛門 休息

廿五石五人

宝暦十二年閏四月五日養父角左衛門跡目無相違、大番入

天明四辰八月十一日番改真杉四郎太夫跡

一同年六月十六日御家譜御用振退勤被仰付候

一弘化二巳御家譜御用取調ニ付出府被仰付、六月十日出立

一同三年四月十一日御家譜御用ニ付金五百疋被下置候

一嘉永二酉九月十六日御家譜方御右筆御用引受被仰付候

一同四亥三月十七日御世譜書繼御用出精相勤太儀ニ思召候、依之御目録御

紋御小袖一被下置候

一同五子六月九日出精相勤候ニ付、役儀其儘格式末之番外ニ被仰付、御充

行拾七人扶持ニ御直シ被下候

一安政三辰五月六日年寄候ニ付隠居被仰付候、且又御世譜書繼御改正以来

出精相勤候ニ付、御召御帷子一銀拾枚被下置候

田川正朔 太郎

拾七人扶持

一安政三辰五月六日親清介儀年寄候ニ付隠居被仰付、家督拾七人扶持無相

違被下置、大御番組へ被入候

一万延元申十二月廿八日正朔与改

一文久元酉八月廿五日病死

田川乙作

拾七人扶持

一文久元酉十月十六日養父正朔跡目無相違、大御番組無役入

同年十一月廿九日大御番入

同二戌四月五日外塾師仮相勤ニ付、右勤中御番御供御免

同二戌六月十四日御附御近習

[役成]

同四子正月九日御附御近習番

同年同月十四日中将様御附御裏役

慶応二寅三月五日外塾師御書院番入

同四辰閏四月十六日明道館訓導、外塾師御免



2

田川廉介

五人扶持

慶応四辰閏四月十六日被召出、外塾師其儘御扶持方五人扶持、役御番入



武沢第七

拾七石四人

享保三戌七月十八日被召出

同十七子九月廿九日御先武具奉行村田刑左衛門跡

武沢幸八

廿五石五人

寛保元酉九月廿九日養父第七跡目無相違被下、大番入

同二戌十二月十六日表御小姓、八石壹人フチ御加増

武沢第七

[役成]

廿五石五人

寛保三亥九月十六日養父幸八跡目無相違被下、大番入

延享四卯九月十六日表御小姓

寛延四未八月三日於江戸中奥御小姓

武沢小作

廿五石五人 外二五石御足

宝曆三酉四月廿五日養父第七跡目五石被減廿石五人被下、大番入

安永三年八月六日御近習番格御供方御書院番入、五石御足擬作被下

同五申八月十四日御供頭

武沢四郎右衛門

廿石五人 五石御足

安永六酉六月十一日養父小作跡目無相違、大番入

寛政六寅九月十六日御右筆見習

同八辰十月四日御右筆本役久野十右衛門跡、御書院番入、御足擬作五石

被下

同十二申八月十一日御内用御右筆并評定所留役兼帶青木与一右衛門跡

文化元甲子年六月十一日病身二付御役御免 御足高不被下

文化十三年子七月廿日病身内願二付休足

福嶋森之進 武沢長左衛門

廿石五人

一文化十三年子七月廿日父四郎右衛門病身内願二付休息被仰付、家督無相違

被下置、無役御留守番組へ被入候

一文政七申閏八月廿三日大御番組江被入候

一天保九戌十二月十一日養子鉄之丞及離縁、病身トハ乍申取扱方不参届二

付遠慮被仰付候

一弘化三年閏五月廿五日番改役按井定右衛門跡被仰付候

一同年十月五日病身内願二付御番改役御免被成候

一安政二卯二月廿五日病身内願之上休息

多部

此後代う二出、瓜生与号

多部三左衛門

拾五石三人

延享三寅八月廿五日御取立、新番組へ被入、綿麻蠟燭役御免

多部三左衛門

廿五石五人

寛延三年六月五日父三左衛門休息、家督無相違被下、新番入、其身御帳

付御切米ハ上ル

同年七月廿日御右筆見習

宝曆六子六月廿二日拾石二人フチ御加増、都合廿五石五人フチ、本役御

書院番順席

同九卯三月十四日御内用御右筆加藤猪右衛門跡、大番入

多部三左衛門

廿五石五人

明和元申九月廿二日父三左衛門跡目無相違被下、大番入

同七寅九月十四日御内用御右筆

安永二巳三月朔日長病二付役儀御免

同三年六月十四日評定留役沢田助左衛門跡

同七戌閏七月廿七日若殿様附御家老御内御用御右筆兼帶

同十丑正月十五日表御内用御右筆

多部 叅藏

廿五石五人

天明元丑十二月廿八日養父三左衛門跡目無相違、大番入

多部 長太夫

廿五石五人

天明五巳七月十一日養父久女藏跡目無相違被下、大番入

多部 三左衛門 与一郎 死

廿五石五人

寛政八辰三月廿九日多部長太夫病中願之通養子二被仰付、家督無相違、

大御番組へ被入

多部 三左衛門 岩三郎 長右衛門

廿五石五人

享和二戌十一月廿五日養父三左衛門家督無相違、大御番入

文政二卯三月十一日評定留役栗原作太夫跡

文政十一子三月十一日御簾本武具奉行成瀬惣右衛門跡、御書院番入

天保五年九月十六日表御納戸役羽中田善兵衛跡、大御番組へ被入

同七申三月廿九日御代官役石井甚平跡御留守番入

弘化三年閏五月廿五日御預所御代官役本多武兵衛跡被仰付

嘉永元申九月十六日休息

多部 2

多部 五郎右衛門

拾五石三人

一 弘化二巳正月十六日川除吟味役奉行兼新番格二被成下候、但御取立以前御記録不用綴二有之

一 同三年四月廿九日御趣意銀御貸方被仰付候

一 嘉永五子二月十六日別段出精之廉も有之二付、役儀其儘新御番組江被入

一 同六丑二月十一日小普請方被仰付候

一 同年三月五日旧冬心得違之趣相聞候二付御叱り被成候、依之伺之上遠慮、

三月十四日御免

一 安政元寅十二月五日今般大橋御修復御出来之処太儀思召候、依之御褒詞

一同二卯正月廿八日御調筋有之二付、役儀御免被成候

一同年五月廿五日御趣意方勤中不埒之趣有之二付、親類共へ御預ケ之上御

吟味之処、書付之通之申口二ハ候得共、尚此上御吟味筋も可有之哉二付、

大工町揚り座敷へ被入置候、依之家内之者共為相慎置候様、尤締り方之

義も取斗候様親類共へ被仰付候

※「剝札」末にあり

一安政三辰六月十六日御趣意勤中不埒之趣有之、親類へ御預ケ之上御吟味有之、書付通之申口ニハ候へ共尚御吟味筋可有之哉ニ付、大工町揚り屋へ被入置、依之家内之者慎締り方取斗候様被仰付候処、侍御削被成家財闕所之上入牢被仰付、家内之者親類共へ引取、右御預所之分御趣意方へ相渡候様被仰付候、但同廿五日於牢屋打首

竹沢
1

竹沢五郎右衛門

拾八石四人

享保七寅十二月十八日松岡御徒小頭方御取立、新番入

竹沢多作

拾八石四人

享保十三申九月廿九日養父五郎右衛門休息、新番入於江戸

竹沢郡六

拾八石四人

宝曆十一巳四月廿五日父多作休息、家督無相違、新番入、其身是迄御徒也

同年十月廿九日御定之年数相満候ニ付大番入、親多作当夏参宮罷出休息之者なから、久々致逗留不調法ニ付御呵遠慮

天明六年十一月十一日御定之年数相満候ニ付相身躰末

〔竹沢五郎右衛門

拾八石四人

寛政五丑五月十一日養父郡六休息被仰付、家督無相違、大番入
享和二戌十二月十一日用水奉行坂本平左衛門跡、御留守番入

文化七年八月廿九日御定之年数相満候ニ付順席

同九申正月十六日御代官高久官太夫跡

文政十亥十月廿五日御預所御代官松原次郎左衛門跡

竹沢五郎右衛門 輝一郎

十八石四人扶持

文政十二己丑十一月廿日養父五郎右衛門休息、家督十八石四人扶持無相違被下、無役御留守番組へ被入

天保五年五月三日大御番組入

嘉永元申八月十一日番改役伊藤武兵衛跡被仰付

竹沢五郎右衛門 齋吉

切米拾八石四人扶持

〔役成〕

嘉永二酉八月廿日養父五郎右衛門跡目無相違、無役御留守番入

同五子八月廿八日大御番入

文久元酉五月廿日御持武具奉行御留守番入

同三亥八月廿三日役儀其儘彈藥方兼帯

元治元子八月廿六日御先武具奉行彈藥方兼大御番入

慶応元丑十一月十六日御趣意ニ付役御番入

同三卯二月十六日御趣意ニ付御役御免、御書院番入

同年五月十一日御趣意二付大御番入、御礼席之儀是迄之通御書院番順席

竹沢²

竹沢太郎兵衛

廿石三人

延享二丑閏十二月十九日新番並へ御取立、三石御加増

宝曆七丑七月廿九日御馬医方新番入

明和二酉六月十六日於江戸大番入

安永九子正月十六日於江戸二石御加増

竹沢久米右衛門 次兵衛 死

廿石三人

天明六年九月廿九日父太郎兵衛休息、家督無相違、大番入、馬医

寛政二戌九月廿日御定年数相満候二付、相身躰末二被仰付

竹沢太郎兵衛 時之助 外三郎

廿石三人

一寛政十二申十二月十六日父久米右衛門跡目無相違被下置、大御番組へ被

入、馬医被仰付

一文化十三子七月廿日不埒二付遠慮被仰付

一同十四丑十二月五日昨年御咎後不慎二付、閉門被仰付

一文政十二丑四月廿九日又々不慎之儀有之、閉門被仰付、七月廿八日御免

一天保十亥十二月四日御定年数相満候二付順席被仰付

竹沢 1

一嘉永六丑二月廿五日来出精相勤候二付、御紋御上下壺具被下置候
一安政四巳二月十一日数十年來相勤候二付、御目錄銀三枚被下置候
一同五午十一月五日腰痛有之步行等難義二付、内願之通休息被仰付候
一同年同月八日来相勤候二付金貳百疋被下置候

竹沢³

竹沢左野右衛門

拾八石三人

元文三年八月廿一日三石御加増御取立、新番并御馬方

寛延元辰九月廿九日新番入

宝曆六子十一月廿二日役義巧者出精相勤候二付御吟味之上、大番入

竹沢弥次右衛門 初左野右衛門 死

廿石三人

明和七寅六月廿五日親佐野右衛門休息、家督無相違、大番入、馬医

安永九子十二月十一日年数相満相身躰末

寛政八辰十二月十四日於江戸年來家督出精二付式石御加増、都合廿石三

人扶持二被成下

竹沢左野右衛門 半五郎 五平太

廿石三人

文化元子四月十六日親弥次右衛門跡目無相違、大御番入、御馬医

同八月廿九日年数相満候二付順席

後戸田ト改姓、と二出る

竹沢
4

竹沢藤兵衛

拾五石三人

天明二寅正月十六日御取立、新番入、役儀其儘御泉水預り

竹沢藤兵衛

拾五石三人

天明四辰正月十六日父藤兵衛休息被仰付、家督無相違、新番組へ被入

同六年四月廿五日御小道具手伝御傘役服部曾右衛門跡

寛政十二庚申五月廿五日御前様御広式添役

同日野村四郎左衛門揚ヶ屋敷拝領

文化二丑九月十六日病身ニ付役義御免

文政七申八月十一日休息

竹沢藤太夫 藤兵衛 藤内

拾五石三人

※「剝札」た末にあり

一文政七申八月十一日父藤兵衛跡目拾五石三人扶持無相違被下置、新御番

組へ被入

一天保八酉十二月十一日不慎之趣相聞候ニ付遠慮被仰付

一弘化三年六月十六日倅武三郎身分をも不弁、心得違之趣相聞不調法之事

二候、依之逼塞被仰付、藤太夫儀伺之上遠慮被仰付

一嘉永五子八月廿五日御定之年数相満候ニ付、大御番組入被仰付、御趣意

ニ付無役御留守番組江被入候

一同年九月廿五日玉葉奉行中山太郎左衛門跡被仰付、大御番組へ被入候

一安政二卯年三月 病死

竹沢藤五郎

拾五石三人

※「剝札」た末にあり

一安政二卯四月廿日親藤太夫家督拾五石三人扶持無相違被下置、大御番無

役組へ被入候

一同五年三月廿五日大御番組へ被入候

一万延元申十二月晦日朝五時居宅出火ニ付伺遠慮、朔日御免

一文久三亥八月十七日御参府御供ニ而出立、同十二月江戸方御上京御供、

子二月三日婦

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応元丑八月十五日病死

竹沢藤内 其吉

〔役成〕

切米拾五石三人扶持

慶応元丑十月五日養父藤五郎跡目無相違、大御番入

高木
1

高木藤兵衛

廿石三人

享保十一午四月十六日雜用役方御取立、御普請作事吟味役、新番入
延享二丑正月廿九日御代官川地平左衛門跡御留守番入、式石御加増
寛延三年六月十六日御役被召上候蟄居

高木藤左衛門 初藤五郎

拾八石三人

寛延三年六月十六日父藤兵衛廿石三人扶持御留守番之処、御代官役二付
不屈有之、蟄居被仰付、跡拾八石三人扶持被下、新番入

高木百之助

拾八石三人

宝曆十四申五月廿五日養父藤左衛門跡目無相違、新番入

高木藤左衛門

拾八石三人

安永四未七月五日養父百之助跡目無相違、新番入
天明七未正月十五日御広式添役
同年三月十六日御形合被相改、役義御免
同八申四月廿五日御広式添役
寛政二戌九月廿日年数相満候二付大番入、右二付御広式添役御免被成
文化八未閏二月廿五日御先武具奉行跡部彦一郎跡
同十酉九月廿日内願二付休息

高木藤左衛門 藤十郎

拾八石三人

一文化十酉九月廿日父藤左衛門休息、家督無相違、無役御留守番組江被入
一天保十亥十二月四日御定之年数相満候二付相身躰末席
一弘化三年正月廿五日御先武具奉行鈴木作太夫跡被仰付
一嘉永二酉正月十六日御作事方改役河村三左衛門跡御留守番組へ被入
一同三戌三月五日昨酉年柳御門頬当御普請御用出精二付、御褒詞被成下
一同五子十一月十六日御台所頭山田金五兵衛跡被仰付候
一安政三辰三月十五日御代官役三上孫太夫跡被仰付候
一万延二酉三月五日年寄候二付休息

高木富藏

〔役成〕

切米拾八石三人扶持 内七石二人扶持御足

一文久元酉三月五日父藤左衛門休息、家督無相違、大御番入、相身躰末席
同三亥十一月廿四日御右筆見習
元治二丑三月三日江戸詰二付詰中本役同様、失却被下割合を以廿五石五人扶持同様

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

同二寅三月十一日御世譜掛り

同二寅五月十一日御右筆本役御書院番入、御足充行七石二人扶持、役席

高野新吾上

同三卯十月廿五日御趣意二付役儀其儘役御番入

明治元辰十月廿二日御勘定方見習、御足充行以後不被下



高木庄右衛門

拾八石三人

宝曆十二年十二月十六日小役人^ら御取立、新番入

明和二酉二月廿五日役義御取揚、三石被減、小役人格二被成下遠慮

高木庄右衛門 平五郎

拾五石三人

安永七戌八月十二日小役人^ら御取立、新番入、勘定所預り其儘

高木平五郎

拾五石三人

安永八亥十月廿九日父庄右衛門跡目無相違被下、新番入

高木庄右衛門

拾五石三人

天明元丑年閏五月廿九日養父平五郎跡目無相違被下、新番入

同八申十一月五日御広式添役

寛政四子正月廿日御趣意二付添役御免

同六寅九月廿九日御広式添役

享和三亥閏正月十一日御小人頭西村藤四郎跡

文化五辰七月十一日御泉水番多田彦左衛門跡

文化七午八月廿五日御泉水番御免、先年指上候家屋敷被下置

同九申七月五日荒子頭

文政三辰十二月五日川除奉行被仰付

高木庄右衛門 庄次郎

拾五石三人

一文政十亥十二月五日養父庄右衛門休息被仰付、家督拾五石三人扶持無相

違被下置、新番組へ被入

一天保七申五月廿日御台所目付被仰付

一同年江戸詰八月廿五日出立

一同十亥十二月五日川除奉行被仰付

一弘化二巳十二月十六日出精相勤候二付御留守番組へ被入

一同四未八月十六日上水奉行高田弥一郎跡被仰付、大御番組へ被入

一嘉永二酉勸農方被仰付御留守番組へ被入

一同四亥二月十一日元分銅印御講銀取扱小野庄助跡被仰付

一同五子正月十六日御代官役蓮川仁兵衛跡被仰付

一安政三辰九月十六日御花壇絵奉行川村五左衛門跡被仰付候

一同四巳二月五日年寄候二付休息被仰付候

高木庄次郎

切米拾五石三人扶持

安政四巳二月五日父庄右衛門休息、家督無相違、大御番無役入

同五午三月廿五日大御番入

文久元酉十一月十一日制産方見習

同二戌十一月御役前御都合も有之二付御留守番入

〔役成〕

滝沢喜平太
拾八石三人



同三亥十二月十一日製造方
 元治元子四月五日御趣意ニ付製造方御免、大御番入
 慶応四辰閏四月十一日御代官役并郡方吟味役兼勤御留守番入
 同年五月廿九日御勘定方、役中御足充行拾石式人扶持、役御番入

高木³
 ※滝沢喜平太の後にあり

高木嘉門 元武生家来
 一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給祿之儀ハ適宜御改正之上更ニ被下候事
 一十二月廿八日当分武生表士族卒族取締被仰付
 一同三年正月廿三日米八拾五俵三合被下
 一同日武生表士族卒族取締被免候事
 一同年九月 御取調筋有之ニ付出福之処、同廿九日帰宅之上親類預ケ之事
 一同年閏十月三日越訴人ニ令加談、度々於宅集会之始末、心得違ニ付隠居之上逼塞被仰付候事、十一月廿四日被免
 一同四未二月十三日先般心得違之儀有之、隠居之上逼塞之処、新律ニ依リ総而被免候事

滝沢喜平太 長十郎 喜平太 元右衛門

延享二丑正月十五日御取立、新番並、拾一石壺人ヲチ御加増被下、御櫛揚
 同三寅九月廿五日奥御納戸手伝御櫛上御免
 宝曆七丑七月廿九日新番入

滝沢長兵衛 元右衛門
 拾八石三人
 明和三戌九月五日父喜平太休息、家督無相違、新番入
 安永七戌九月五日御傘役
 同九子五月廿七日御小人頭、御傘役ハ御免
 寛政六寅十月五日年数相満候ニ付大番入、右ニ付役義御免
 文化四卯六月五日御先御武具奉行横山十郎兵衛跡
 同六巳十月廿日年寄候ニ付休息被仰付

滝沢元右衛門 喜平太
 拾八石三人
 一文化六巳十月廿日親長兵衛年寄休息、家督無相違、大御番組江被入
 一文政十三寅七月廿九日玉葉奉行竹内伝蔵跡
 一天保十四卯四月十六日表御納戸役平井佐右衛門跡
 一同年九月七日相身体被仰付
 一嘉永元申三月五日御代官役平井佐右衛門跡、御留守番組江被入
 一同四亥二月十一日年寄候ニ休息被仰付候

拾八石三人

一嘉永四亥二月十一日親元右衛門年寄候ニ付休息、家督拾八石三人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同五子九月廿日喜平太卜改

一同七寅十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅へ罷越候始末、酒狂与八乍申不宜致業ニ候得共、此度之儀ハ不被及御沙汰候間、以来右様之儀無之様番頭へ移りを以被仰付候

一文久三亥正月廿五日当春芝御陣屋詰被仰付候

一同年二月廿二日詰引揚早速出立被仰付、廿五日出立

一元治元子六月廿九日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅七月五日御番皆勤ニ付時服被下置候

一同年九月十八日帰

一同年十二月元右衛門与名替

一同三卯五月廿九日御書院番組江被入候、御広間番

一明治二己六月廿一日元右衛門事喜平太卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同年十二月十五日老年ニ付願之通隠居

高野次郎右衛門

拾七石三人

延享三寅三月廿二日御取立、新番入、御塩梅役其儘

高野惣兵衛 初恒右衛門 市之丞

拾七石三人

宝曆二申十一月廿二日父次郎右衛門休息、家督被下、新番入

同十三未十一月十九日御塩梅御料理方塩辛役

明和七寅閏六月廿八日不慎之趣ニ付遠慮

安永五申十一月十六日御年男高嶋茂太夫跡

天明六年十一月十一日御定之年数相満候ニ付大番入

寛政元酉十二月十一日実子小木惣次郎相果候節不参届ニ付遠慮

高野市之丞

拾七石三人

寛政六寅八月廿八日父惣兵衛休息被仰付、家督無相違被下、大番入、御料理方被仰付、大御番組へ被入

高野惣左衛門 初市之丞 其身一代被召出 再勤

拾人扶持

文政十二己丑十一月十六日是迄隠居扶持五人扶持被下候所、思

召を以其身一代五人扶持御増被下、都合拾人扶持被成下、御儒

者ニ被召出、格式末之番外ニ被仰付

天保六未正月十六日御儒者其儘、御近習ニ被差置候旨被仰付候

天保十亥二月廿三日病死



高野半右衛門

拾七人扶持

一享和三亥四月廿九日養父市之丞願之通休息被仰付、家督拾七石三人扶持

無相違被下置、大御番組入、御料理方被仰付

一文化七午八月廿九日御定之年数相満候二付相身躰末

一同年十二月十一日当時勤方御免被成、御留守番入

一同九申十月十九日無役御留守番入

一天保十亥四月十六日御儒者見習、役中式人扶持御足

一同十二丑年江戸詰

一同十五十一月十一日出精相勤候二付、御足充行之内老入扶持御加増、都

合拾七石四人扶持、是迄被下候御足扶持老入扶持其儘

一弘化二巳年江戸詰

一同三午十月十三日御儒者本役八石御足、都合八石老入扶持御足充行、御

書院番組江被入

一同四未年江戸詰

一嘉永二酉年右同断

一同三戌七月廿日出精相勤候二付、御足充行八石老入扶持御加増、都合廿

五石五人扶持被成下、順席被仰付候

一同五子六月十七日御儒者其儘、御近習二被指置

一安政二卯正月九日学問所御取建二付取調掛り被仰付候

一安政二卯三月十五日右同断二付教授役被仰付、格式末之番外二被成下、

御充行拾七人扶持二御直シ被下、是迄之通御近習二被指置候

一同年四月三日夫々学問所詰被仰付候二付、詰中申談候様被仰付候

一安政三辰四月廿二日昨年明道館御端立之処出精二付、御下緒一御袴地一被下置候

一同四巳八月十八日年寄候二付隠居被仰付

高野新吾

拾七人扶持

安政四巳八月十八日父半右衛門隠居、家督無相違、大御番入、明道館句

読師其儘

同六未十一月十六日御趣意二付句読師御免、外塾師助、右勤中御番御供

御免

万延元申六月廿九日内達之訳合有之二付、明道館江罷出厚致執行候様、

外塾師助御免、右執行中御番御供御免

同年九月四日御番割有之処、御番士人少二付当分御番相勤候様

元治元子四月十三日御世譜方御右筆見習

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

同二寅三月十一日御右筆御世譜方是迄之通、御書院番入

同三卯二月十一日御趣意二付御役御免、御書院番其儘

同四辰五月五日御書院番其儘御世譜方

高須

高須直右衛門

拾八石三人

明和七寅閏六月廿日御徒目付方御取立、大番入、勤方は迄之通

同九辰九月廿四日御土蔵番伊藤周右衛門跡、御留守番入
天明八申七月廿五日役義御免、大番入

高須直右衛門

拾八石三人

寛政元酉六月十一日父直右衛門休息、家督無相違、大番入
同六寅十月五日御定之年数相満候二付相身躰末二被仰付
文化十酉八月十一日休息

高須幸八 直太郎 半市

拾八石三人

一文化十酉八月十一日父直右衛門休息被仰付、家督十八石三人ふち無相違
被下置、無役御留守番組江被入候
一文政三辰八月十一日大御番組江被入候
一同十二丑四月廿九日不慎之趣有之二付、遠慮被仰付候
一天保六未十一月廿九日又々不慎之儀有之二付、閉門被仰付候
一同十四卯九月七日順席二被仰付候
一嘉永二酉十一月十六日御持武具奉行久津見三内跡被仰付、御書院番組江
被入候
一同三戌十一月廿日御武具御修復御用出精二付、金三百疋被下置候
一同五子十一月十六日上水奉行被仰付、大御番組へ被入候
一安政六未八月三日病死
一同年九月廿五日勤中役前出精相勤候二付金式百疋被下置候、但養子半三
郎へ被仰付候

高須半三郎

切米拾八石三人扶持 外役中三石御足

安政六未九月廿三日養父幸八跡目無相違、大御番入
万延元申閏三月十二日武芸厚出精二付修行中銀二枚年々
慶応二寅七月廿日郡方吟味役御留守番入
同四辰閏四月十一日郡方吟味役其儘山方御坂掛り、役中三石御足



高嶋茂太夫

拾五石三人

明和七寅十二月十六日小役人方御取立、新番入、式石御加増、御塩梅役
義其儘
安永三年八月廿九日御年男

高嶋茂太夫

拾五石三人

安永五申十一月十六日親茂太夫休息被仰付、家督無相違、御料理方、新
番入
文化三寅十一月廿九日塩辛役山口藤右衛門跡
文化五辰六月病死

高嶋仲右衛門 藤九郎 金三郎 仁右衛門

[役成]

高嶋藤九郎 小弥太郎
拾五石三人

- 拾五石三人
- 一文化五辰八月五日親茂太夫跡目無相違被下置、新番組へ被入、御料理方被仰付
 - 一同七午八月廿九日御定之年数相満候二付、大御番組へ被入
 - 一同年十二月十一日当時勤方御免被成、御留守番組へ被入
 - 一同九申十月十九日無役御留守番組へ被入
 - 一文政三辰九月朔日大御番組へ被入
 - 一同四巳八月十日弟亀三郎入水致し相果候二付、遠慮伺之上指扣被仰付
 - 一同七申十月五日上水奉行中山与一右衛門跡被仰付
 - 一同十三寅六月五日御掃除奉行厚治丈右衛門跡被仰付
 - 一天保四巳三月十六日御留守武具奉行本儀重太夫跡被仰付
 - 一同七申三月廿九日御台所頭笠原平八跡被仰付
 - 一同九戌五月十一日御籙本武具奉行高松宗右衛門跡被仰付
 - 一同十二丑十二月五日御広敷御用達上坂五右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入
 - 一同十三寅十二月五日御花畑絵奉行永田順右衛門跡被仰付
 - 一弘化二巳三月廿一日伺之上遠慮被仰付
 - 一同三年閏五月廿五日役儀御免被成、大御番組へ被入
 - 一嘉永五子九月十六日妻着服心得違之趣相聞候二付御叱り被成候、依之伺之上遠慮被仰付、同廿五日御免
 - 一同六丑八月十六日近来病身二付内願之上休息

- 一嘉永六丑八月十六日親仲右衛門儀病身二付内願之通休息被仰付、家督拾五石三人扶持無相違被下置、無役御留守番組江被入候
- 一安政三辰六月廿五日多部五郎右衛門於牢内御仕置被仰付候、依之叔父二付伺之上遠慮被仰付、同晦日御免被成候
- 一同六未八月廿五日大御番組へ被入候
- 一万延元申九月朔日御定之年数相満候二付、相身躰末席被仰付候
- 一文久二戌十二月廿八日藤九郎与名替
- 一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候
- 一元治元子六月廿九日上京、八月廿四日帰着
- 一同年七月十五日在京中農兵教授方手伝被仰付候
- 一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴御褒詞
- 一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候
- 一慶応元丑四月廿九日京都詰出立、翌寅四月十七日帰
- 一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候、且又五百疋被下置候
- 一同三卯十月十九日御警衛増詰上京、辰二月晦日帰
- 一同四辰九月十日御警衛詰上京、巳二月六日帰
- 一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更御充行米三拾五俵四斗五升被下
- 一同三年三月十一日病死



高嶋孫兵衛

〔役成〕

切米拾五石三人扶持 外式石御足

文久三亥正月十六日出精相勤二付小役人方御取立、新番格、御蔵奉行其儘

元治二丑四月十一日会所預り古物方記録方兼

慶応元丑十一月十六日御趣意銀御貸方

同四辰七月廿二日惣与内割方御趣意銀御貸方兼

玉村¹

玉村寿碩

廿三石五人

天明八申九月四日小役人方御取立、御茶道被仰付、是迄倅古泉二被下候
八石二人フチ御加増被成下、但倅御坊主勤御免被成候

玉村惠斎

廿三石五人

寛政五丑七月十一日父寿碩年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、御茶道

玉村如琢

廿三石五人

一天保三辰九月十一日養父惠斎家督無相違被下置、御茶道被仰付候
一同十三寅五月四日実家兄岩崎愿蔵儀御扶持被召放候二付、伺之上遠慮被

仰付

一弘化二巳九月十六日心得違之趣相聞候二付遠慮

一元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当百匁被下
一慶応四辰二月十三日病死

玉村寿 寿碩

切米廿三石五人扶持

慶応四辰四月三日父如琢跡目無相違、御茶道

明治二巳二月二日御趣意二付無役新番入、家業之儀是迄之通

玉村²

玉村与左衛門

切米拾五石三人扶持

元治二丑二月十五日出精相勤二付小役人方御取立、新番格、御勝手役其儘

慶応元丑六月廿六日荒子頭、是迄被下候御足充行三石以後不被下

同二寅正月十六日御趣意銀御貸方

同年十月廿九日御所務方定頭取勤

同四辰八月五日郡局御勘定方

竹嶋

竹嶋仙右衛門

拾五石三人

〔役成〕

〔役成〕

文政四巳正月十六日新番組江御取立被成下

竹嶋仙右衛門 喜四郎事

拾五石三人

一天保五午八月十六日養父仙右衛門家督拾五石三人ふち無相違被下置、新

御番組江被入、御料理方被仰付候

一同十四卯江戸詰、三月廿一日出立

一嘉永四亥年六月 病死

竹嶋仙右衛門 仙太郎

切米拾五石三人扶持

嘉永四亥八月廿日父仙右衛門跡目無相違、新番入、御料理方

安政四巳十一月廿日御製造方見習、勤中御料理方御免

同六未五月廿九日新番一番之世話役、役中嫡席、御趣意二付御料理方并

制産方見習御免

文久二戌四月廿日以来世話役勤中御足充行三石

同年六月廿五日川除奉行

慶応二寅十月廿二日御趣意二付役新番入

同四辰五月十一日御趣意二付役中御留守番入

明治元辰十二月五日御趣意二付役御免、御留守番其儘御広間当番勤

竹下

竹嶋

竹下丈太夫

拾八石三人

一弘化三年十二月十六日御徒目付二而御取立、大御番組へ被入、勤方之儀
者是迄之通役筋可相勤旨被仰付

一同四未七月八日上水奉行仮、八月十六日迄

一同年十二月五日御趣意二付御札所吟味役被仰付

一嘉永六丑正月廿九日休息

竹下丈太夫 丈太郎

切米廿五石五人扶持 内式石式人扶持御足 外三石役中御足

嘉永六丑正月廿九日父丈太夫休息、家督無相違、無役御留守番入

同七寅五月廿三日評定所留役大御番入

安政三辰正月十六日御内用御右筆見習

同四巳二月十一日出精相勤二付御足充行式石式人扶持

同六未正月十六日御内用御右筆本役、七石二人扶持御足

万延二酉正月十六日出精相勤候二付順席

慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番入

同二寅正月廿五日出精相勤二付御足充行之内五石御加増、都合廿三石三

人扶持

同四辰三月十一日出精相勤二付勤中御足充行三石

〔役成〕

〔役成〕

二 福井藩士履歴
ち



千種竜沢

十人扶持

文化四卯十一月十九日表御医師被召出、五人扶持被下

同年十二月二日奥御医師

同五辰二月廿八日五人扶持御加増

文政二卯八月御国渡り五人扶持江戸渡り被成下候

文政十亥四月廿八日御匙医師格被仰付候

千種良純

五人扶持

文政十亥年七月廿二日父竜沢跡目無相違被下置、表御医師被仰付

文政十一子七月廿五日家業不心得氣随之趣二付、御充行五人扶持御取揚、

遠慮被仰付候

千種竜沢

勇蔵 宗伯

五人扶持 外五人扶持御足

天保三辰四月十一日良純養子被仰付、跡目五人扶持無相違被下置、表御

医師被仰付候

弘化二巳四月奥御医師御針兼松栄院様御附御免

弘化三年四月十日御足五人フチ

嘉永二酉十月朔日再松栄院様御附被仰付

千種繁 宗伯

五人扶持

一嘉永三戌三月十八日高橋道順願之通千種竜沢養子被仰付、跡目五人扶持

無相違被下置、表御医師被仰付、同年方御国表へ為修行罷越、同七寅七

月十九日江戸表江出立

一同五子十二月十六日種痘之儀致出精候段達御聴太儀思召候段、御側御用

人を以被仰付候

一文久元酉四月五日御鍼兼奥御医師被仰付、御足式人扶持被下置候

一元治元子二月七日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、同十日御免

一慶応三卯八月六日御趣意二付御国表江引越被仰付、然ル処延引罷在

一同四辰正月廿五日今般御趣意二付家内共御国表江引越被仰付、二月廿三

日着

一同年四月廿九日家屋鋪河南小路ニ於て被下置候

一同年六月六日上京

一明治二巳三月十七日宗伯事繁卜改

一同年五月朔日中納言様御用被仰付候

一同年十月十六日東京江出立

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米十九俵三斗六升五合被下

一同三年五月七日当秋迄詰延被仰付候事

一同年六月四日年給四俵、在京中八俵被下候事

一同日は迄之通御用可相勤事

一同月十八日東京江家族引越被仰付候事、八月十六日出立

但右二付伊藤又太郎屋敷振替願之通

一同四未四月五日当分年給 式拾式俵壹斗八升式合四勺 十四級也

〔士族〕

一同五申八月晦日御書下ケニ而免職

一同九月朔日当春拝借之三拾兩不及上納、外二五拾兩被下候事

是迄被下候三人口ハ以後不被下候事

長

但御取立以前御記録不用認ニ有

長文五右衛門

拾八石三人

一嘉永四亥十一月廿五日出精相勤候ニ付御取立被成、新御番組へ被入、御

藏奉行被仰付候

一安政四巳九月廿五日荒子頭勝田与右衛門跡被仰付候

一同五午六月廿五日御藏奉行勤中不念之儀有之、不調法之事ニ候、依之遠

慮被仰付、七月十一日御免

一万延元申九月十日年寄候ニ付休息

長篤次郎

拾八石三人

一万延元申九月十日親文五右衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石三人

扶持無相違被下置、新番組末席へ被入候

一同月晦日病死

長貫一 信三郎 実大谷才右衛門次男

拾八石三人

万延元申十一月廿日長篤次郎病中願之通養子ニ被仰付、家督拾八石三人

扶持無相違被下置、新御番組末席へ被入候

一文久元酉三月廿五日元席へ被入候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月八日帰

一慶応二寅十一月十一日京都詰出立

一同三卯二月廿二日信三郎事貫一ト改

一同年四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組ニ被仰付候

一同四辰五月十一日遊撃隊江被入候

一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗二合被下

一同三午七月三日修業列被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候持地之内百八十式坪坪地ニ被成下候事

一同年閏十月十四日兼而遊蕩ニ耽り当務怠惰、其上養祖母へ対シ心得違之始末不埒ニ付、実家大谷才一郎江御返之上蟄居

長金吉 竹内金吉 実竹内半平養弟 庚午廿四歳

〔士族〕

元治元子六月廿七日京都御番士御雇被仰付、五人ふち被下置、早速上京被仰付、同廿九日出立、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一慶応二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月十一日日本多興之輔方へ増御附属被成、大坂表江出張被仰付候、

出張中八中根牛介へ御附属被成候間、支度罷在御指図次第可致出立旨被

仰付候

一同廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同廿九日今般出張之上八御都合ニ寄天方対馬へ御附属被成候

一同年八月廿五日堺町御門為御警衛上京被仰付、北川亘之介へ御附属、早

速致出立候様、同晦日出立、十一月廿七日帰

一卯七月京都御警衛詰出立、十月十四日帰

一慶応三卯八月十六日衆道之儀ニ付風儀不宜趣相聞、年若之者文武修行之

妨ニ相成候間以來相慎候様、此上心得違之儀有之候得ハ、急度可被及御

沙汰候条、此段相含可申諭旨御番頭江移りを以被仰付

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付補兵隊被仰付、出張被

仰付候処、難渋之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一同年九月六日補兵隊ニ而会征出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張ニ付

御手当五両被下候

一明治三年八月廿四日藤井熊一代勤願之通被仰付、第一大隊三番小隊江被

入候事

一同年閏十月十八日長貫一跡目相続仕度ニ付藤井熊一代勤御免、願之通被

仰付

米三拾九俵四斗三合

一同日長貫一跡目親類共願之通相続被仰付、家督米三十九俵四斗三合被下、

小隊江被入候事、但第一大隊三番

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

三 福井藩士履歴 つ



恒岡安左衛門

五百石

延宝二寅十一月五日父鞞負跡知之内千石被下

貞享三一等半知

正徳二辰十二月五日大番頭中川主殿跡、同日役義二付席上被下

享保十巳九月廿九日御留守番頭永見治部右衛門跡

恒岡安左衛門

五百石

元文元辰九月十九日父安左衛門隠居、家督無相違被下、席明石帶刀次

同十月十五日大番頭被仰付、皆川多左衛門跡

延享四卯八月廿二日御書院番頭、御用人兼御奏者、若殿様御部屋可相勤

旨

同廿九日席老人御上ケ芦崎治右衛門上ミ被仰付

寛延二巳九月五日病氣二付御役御免、只今迄之通御右筆部屋へ可罷出旨

巳十二月廿八日死

恒岡安左衛門

五百石

寛延三年正月廿日父安左衛門跡知無相違、寄合引渡席太田三弥次三人下

宝曆五亥七月廿二日御側御小姓支配

同十四申四月十六日御用人御奏者兼

明和五子七月十三日於江戸若殿様附表御用人兼帶

同七寅五月廿八日御書院番頭御馬支配表御用人稲垣安右衛門跡

同六月朔日席一人御上被下、笹治権右衛門次

同九辰七月三日若殿様御傳役、席嶋田清左衛門上へ被仰付

安永七戌十一月朔日若殿様御小姓支配

恒岡安左衛門

五百石

天明二寅十月十四日養父安左衛門隠居、家督無相違、寄合引渡席嶋田清

左衛門次

同四辰五月廿四日大御番頭笹治権右衛門跡

恒岡安左衛門 右仲太

五百石

寛政十年十二月五日父安左衛門跡知無相違被下、寄合引渡席斎藤喜五郎

次

同十一未七月廿九日大番頭天方外記跡

文化十二乙亥年十月十六日病身二付内願之通御役御免、風廻り之儀八御

用捨

同十四丑四月十三日病死

恒岡安左衛門 助八事

五百石

一文化十四丑六月五日父安左衛門跡知無相違被下置、寄合引渡之席斎藤数

馬次

- 一文政五年六月廿七日孝頭寺火消被仰付
- 一同六未十月三日大御番頭林八右衛門跡被仰付
- 一同十亥七月十三日伺遠慮之処今日御免
- 一同十一子八月十九日御役御免、席一人御下ケ被成、依之伺之上、遠慮
- 一天保十亥正月廿九日大御番頭嶋田清左衛門跡被仰付
- 一同十五辰江戸立帰出府、六月廿七日出立、八月廿九日帰着
- 一弘化三年八月朔日御番割二付右中罷出候様被仰付候
- 一嘉永七寅九月十九日来相勤候二付、御留守居役同様之御取扱二被仰付、大御番頭之儀ハ御免被成候
- 一安政二卯四月十二日病死

恒岡兔毛 欽九郎 安左衛門 右仲太 実牧野主殿介弟

五百石

- 一安政二卯六月三日養父安左衛門家督五百石無相違被下置、寄合引渡之席
- 一被仰付候
- 一同三辰十二月廿八日安左衛門与名替
- 一万延元申五月十八日孝頭寺火消被仰付候
- 一同年九月十日安左衛門事右仲太与名替
- 一文久三亥四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用向都而其儘被仰付、風廻り之義ハ御用捨被成候
- 一同日今般農兵御派立二付一組狛帶刀江御附被成候間、私共儀其手江属シ帯刀并掛り西尾十左衛門等江厚申談、致世話候様被仰付候
- 一同四子二月十四日牧野主殿介同貢御咎被仰付候二付、伺之上指扣、十六

日御免

- 一元治と改元、四月十一日狛帶刀方江農兵一組御附被成候処、御軍帳御割替二付御免被成、狛山城方江御附被成候間、其手江属シ山城方江厚申談、是迄之通致世話候様被仰付候、山城方在京中ハ帯刀方江可申談旨
- 一元治元子四月十九日狛山城方御用多二付、訓練出勤無之節ハ芦田信濃江都而申談致世話候様被仰付候
- 一同年五月十九日芝御陣屋未御引渡無之二付、右引渡相濟候迄同所詰被仰付、詰中御台場頭并無息致世話候様、支度出来次第早速致出立候様被仰付、廿九日出立、九月九日帰着
- 一同年六月十四日是迄山県三郎兵衛方附農兵致世話候様被仰付置候処、御軍帳御割替二付、狛帶刀方附農兵致世話候様被仰付候
- 一同月十八日孝頭寺火消御免被成候
- 一同年八月朔日御側役并御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付、且又交代迄ハ是迄之通可相勤旨被仰付候
- 一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候
- 一同二丑正月兔毛与名替
- 一同年二月廿九日京都詰被仰付、三月五日出立、六月五日帰宅
- 一同年五月廿九日於京都御用人御奏者兼被仰付候
- 一慶応二寅三月十五日甥酒井徳次郎重キ御咎二付、遠慮伺之上指扣、同十八日御免
- 一同年八月十一日御旗本訓練掛り被仰付
- 一同三卯正月廿二日訓練懸り被仰付
- 一慶応三卯正月廿七日訓練掛り被仰付候二付、当分昼番之儀御用捨被成候
- 一同年当秋江戸詰被仰付、飯田主税与致交代候様被仰付

一同年三月十二日調練掛り之儀、調練致世話候様与被仰付

但定座以上之面々可致世話事

一同年四月六日大御番頭中根牛介跡被仰付

一同年十月十八日半大隊頭被仰付

但中ノ口致往来候様被仰付

一御坂札一枚ツ、被下置候

一同年十一月廿六日支度出来次第境町御警衛詰被仰付、且又詰中第二遊撃

隊之面々仮支配被仰付、十二月二日出立

一同四辰四月四日昨冬已来格別骨折相勤候段御褒詞

一同月十二日京都方婦

一同年六月廿三日御趣意ニ付半大隊頭御免被成、御取扱向ハ是迄之通

一同年八月廿二日役御番支配稻垣治部跡被仰付

一明治二己二月十六日今般御改革ニ付役御番支配被廢候、仍而御役儀御免被成、御近習ニ被指置候

一同年五月廿五日下午馬御門并三ノ丸御座所御門御警衛被仰付、同廿七日三

ノ丸持切

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米二百三俵五升七合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年六月廿二日予備隊江被入候事

一同年閏十月十八日依病身内願隱居

恒岡琢磨 格之助 実狛帶力弟也

〔士族〕

一明治元辰十二月十六日御備入被仰付、已八月十四日予備隊下改、十一月

廿八日修業隊下改

一同二己正月廿日御含御用有之二付早速上京被仰付、同廿二日出立、二月

五日病氣願之上帰

一同月廿六日三番遊撃隊御雇被仰付

米貳百三俵五升七合

一同三年閏十月十八日養父兎毛依病身内願隱居被仰付、家督米貳百三俵五

升七合無相違被下、小隊江被入候事

但第一大隊四番

一同年十二月八日碩手 年給六俵

一同四未七月格之助事琢磨下名替

一同年十月十三日解隊

土屋¹

土屋十郎右衛門

三百五拾石

元祿八亥八月五日家督

宝永二酉七月廿三日御使番

正徳二辰十二月廿二日御水主頭堀江源右衛門跡

同五未六月廿一日御側物頭桑山権兵衛跡

同年八月廿一日御武具并忍組御預

享保九辰九月廿九日御目付丹羽八郎アト

同十五戌九月五日御奉行千本藤左衛門跡

同十六亥十一月廿三日江戸ニ而五拾石御加増

元文元辰十一月七日町奉行被仰付、大宮跡、与力御預

同三年午七月六日御役料本知ニ御直シ被下、都合三百五拾石

土屋十郎右衛門

三百五拾石

元文五申九月十一日養父十郎右衛門跡知無相違被下、大番

宝曆四戌二月十六日御水主頭井原番右衛門跡

同十一巳七月廿五日御側物頭杉浦幸右衛門跡

土屋十郎右衛門

三百石

明和元申八月廿九日父十郎右衛門跡目、幼年ニ付三拾五人扶持、御留主

番入

同二酉十月廿五日十五歳ニ罷成候ニ付、新知三百石被下、大番入

天明二寅七月八日御使番奈良太郎右衛門跡

同五巳十二月十一日御杉形鎧奉行鈴木牛兵衛跡

寛政二戌八月十五日御目付助荒川又八郎跡

同年十月十六日御泉水預り

同五丑七月十一日御武具并忍之者支配、御泉水預り御免

同十年十二月七日御目付堤安右衛門跡

文化七年七月廿三日新番頭浅見忠右衛門跡

文政元寅十一月病死

土屋十郎右衛門 小金吾事

三百石 外ニ御足三拾石

一文政二卯正月十六日親十郎右衛門家督三百石無相違被下置、大御番組へ
被入

一天保三辰十二月廿八日郡奉行鈴木忠太夫跡被仰付

一同五年九月廿七日杉形御鎧奉行彦坂又兵衛跡被仰付

一同十一子五月廿九日御持弓頭屋敷奉行兼彦坂又兵衛跡被仰付

一同十二丑江戸詰被仰付、三月廿五日出立

一同十四卯八月十七日御目付役大関新五左衛門跡被仰付候

一弘化二巳年江戸御供詰、同三年五月廿日御帰国御道中御供壺人ニ而相勤
候ニ付、御目録銀壺枚被下之

一嘉永元申五月廿五日海岸防禦御取調御用懸り被仰付

一同年八月十日御番割御用懸り被仰付

一同二酉年三月十八日文武之儀思召を以取調被仰出ニ付、武事之儀取調懸
り被仰付

一同年十二月五日御預所掛り被仰付候

一同三戌年江戸御留守詰

一同四亥四月九日先達而神田橋御住居へ両御丸様御立寄ニ付御褒詞

一同年四月廿九日御家流御派立ニ付、御用懸り被仰付候

一同年七月三日齋藤民部同姓数馬儀御不審之儀有之、一家共江御預ケ被成
候ニ付、数馬始掛り合之者共右吟味掛り被仰付候

一同年十月十六日出精相勤候ニ付、長袴格御奉行次席被仰付

一同五子八月朔日御軍帳御改正ニ付、御用掛り被仰付候

一同年十一月十八日思召有之、来丑年江戸御供詰被仰付候、同六丑三月廿
二日御供出立

一同六丑四月九日慎姫様御入輿ニ付、御用掛り被仰付候

一同年七月朔日近海防体御備組之義致心配、并異国船渡来御人数被指出之義格別骨折二付、御短刀被下置候

一嘉永六丑七月四日御内用有之御国表へ立帰被遣候、早速出立可致旨被仰付、同六日江戸表出立、同十六日此表へ着、同廿六日江戸表へ出立

一同年八月廿八日御内御用有之、先達而御国表へ立帰罷越太儀思召候段御褒詞

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付、御召御上下一具被下置候

一同七寅五月廿日江戸御往来御供屯人二而相勤候二付、銀壺枚被下置候

一同年六月十七日去ル十三日塩町方出火之処及大火候節、出精二付御褒詞

一同年閏七月廿九日出精相勤候二付、銀五枚ツ、年々被下置候

一嘉永七寅年八月廿三日御軍制御改正二付、御備組調練之儀追々可被仰出候二付、御内調之趣厚相心得申談行届候様可取斗旨被仰付候

一安政元寅十二月廿二日今度御改正二付、御軍帳定懸り被仰付候

一同二卯二月十八日松平和泉守殿領分井向村卜、御預所西長田村江用水争論公訴之義二付、掛り被仰付候

一安政二卯三月十四日御軍制御改正取調方出精相勤候二付御褒詞、依之御目錄銀壺枚被下置候

一同三辰十月十七日出精相勤候二付、御足高三拾石被下置候、且又格別之思召を以養子小六儀御近習番御雇被仰付、右御雇中御近習番同様御書院

番頭支配二被仰付候

一同五午正月廿五日御省略掛り被仰付、御政事向之儀も是迄之通申談候様町奉行次席二被成下候

一同年六月廿九日内達も有之二付御省略掛り御免被成、御近習二被指置、

御政事心附候儀者申談候様被仰付、御取扱向諸事は迄之通被成下候旨被仰付候

一同年十一月十一日御預所元締役高村藤兵衛跡被仰付候

一同六未十月十一日席其儘御目付役被仰付候

一同十一月五日御預所掛り被仰付候

一文久二戌九月朔日内願有之二付隠居被仰付、養子小六へ家督三百石被下置、大御番組へ被入、是迄被下置候御足高其儘為隠居料被下置候、且又隠居被仰付候二付、原平左衛門同様之御取扱二被成下候

土屋小六 後古六 実十郎右衛門弟

三百石

安政二卯三月十六日津田年来厚心掛重キ手数二も相懸候二付、花葵御紋付御扇子被下置候

一同三辰五月廿二日武術之儀兼而被仰出も有之候処、数軒重キ手数二相懸居年来心掛宜二付、御下緒一掛被下置候

一同年十月十六日格別之思召を以御近習番御雇被仰付、右御雇中御近習番同様御書院番頭支配二被仰付、年始御礼席之儀ハ是迄之通被仰付候

一同四巳四月廿日御近習番御雇相勤候二付、年々銀拾枚ツ、被下置候

一同五午八月十六日支度出来次第江戸詰被仰付候

一同年九月十七日詰中御扶持方五人扶持銀十枚被下置候

但御白銀十枚之儀ハ詰中不被下旨

一同六未年詰越

一同七申三月十五日御供二而帰着

一同年閏三月十一日被召出、御扶持方五人扶持被下置、御書物方被仰付、

- 御書院番組へ被入候、且又被召出、御書物方被仰付候二付、役席之儀ハ
 小栗治右衛門次江被入候、但是迄被下置候銀拾枚之儀ハ以後不被下旨
 一文久二成九月四日養父十郎右衛門儀内願有之二付隠居被仰付、家督三百
 石無相違被下置、大御番組へ被入候、右家督被下置候二付、是迄被下置
 候五人扶持之儀ハ以後不被下候
- 一同六日御使番役大関助左衛門跡被仰付候
- 一同三亥八月廿一日御用有之二付上京被仰付、早速致出立候様、廿三日出
 立、九月廿一日帰、同廿四日又々折返シ出立
- 一元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰着
- 一同年六月廿五日御目付役萩原金兵衛跡被仰付候
- 一同年同日宰相様御上京中格別繁多儀思召候、依之御酒被下置候
- 一同年七月廿四日御用有之二付上京被仰付、翌廿五日出立、八月十二日帰
- 一同年十二月四日賊徒御国内へ入込候二付、為追討出張、依之御手当銀壹
 貫匁被下置候
- 一同二丑三月十四日江戸詰出立、寅四月廿二日帰
- 一慶応二寅六月廿一日役儀其儘御武具支配忍之者預り被仰付
- 一同年十月廿六日御趣意二付忍之者預り之儀御免被成候
- 一同年十一月廿五日御武具御修復御改正中出精相勤候段御褒詞
- 一同年同月廿九日御武具支配其儘御持物頭次席二被仰付、内達之趣も有之
 二付、御目付役之儀ハ御免被成候
- 但中ノ口往来、御坂札壹枚被下置候
- 一同四辰閏四月五日年寄候二付隠居、後古六卜改
- 一明治卜改元、十月廿九日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往
 来候様被仰付

土屋時之介 小六養子

三百石

〔土族〕

- 慶応元丑六月廿四日新撰農兵差配役手伝被仰付候
- 一同二寅四月十六日御趣意二付農兵差配役手伝御免被成候
- 一同三卯二月廿一日三番之補兵隊江被入
- 一同年七月十一日御警衛詰上京、十月十四日帰
- 一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候
- 一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京御供被仰付、相止
- 一同四辰閏四月五日養父小六年寄候二付隠居被仰付、家督三百石無相違被
 下置、遊撃隊江被入候
- 一同月十七日遊撃隊二付夜廻御免被成候
- 一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰
- 一明治二巳四月九日中納言様御東京御供出立、十月十二日帰
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百四拾六俵壹斗壹升四合被下
- 一同年十二月十二日劍術世話役被仰付候事、身分支配是迄之通八等之事
- 一同三午五月廿四日劍術世話役被免候事
- 一同日役配中出精之段御褒詞被成下候事
- 一同年六月廿二日第一大隊五番小隊後絶被仰付候事
- 一同年十二月 常備歩兵隊三番伍長 第二 年給八俵
- 一同四未十月十三日解隊



2

土屋甚五左衛門 助七

百五拾石 役料百石

元禄十二卯十二月五日父市兵衛跡、御扶持方被下

同十六未六月十六日表御小姓、御扶持切米被下

正徳四年十月七日中奥御小姓

享保二酉六月十九日新知、奥御小姓

同三戌五月十一日御膳番川崎小十郎跡

同七寅三月九日於江戸番外

同九辰六月十六日御役御免、大番入

元文元辰十月廿五日与内立合役味岡彦太夫跡

同二巳九月三日於江戸御膳番役御書院番入

同三年五月廿五日筆頭

同年七月六日五拾石御加増

同五申六月五日御使番、御役料被下、飯嶋三五左衛門跡

寛保二戌六月朔日御側物頭田辺五太夫跡

同三亥十二月十五日御目付

土屋甚五左衛門 初幸七

百石

延享二丑七月十一日中奥御小姓被召出

同三寅五月十九日父甚五左衛門跡知無相違、御小姓其儘

同九月廿日御小姓被相除、大番入、遠慮

宝曆六子閏十一月五日不調法有之二付五十石御取上、閉門

同十二年六月廿二日遠慮被仰付、拝領屋敷御取上

土屋市兵衛

百石 外役料百五十石

安永七戌十二月十九日養父甚五左衛門跡知無相違、大番入

天明五巳六月十一日与内立合高屋半左衛門跡

寛政元酉七月廿日御金奉行高松新兵衛跡

同十二申八月廿日勘定拝借奉行岡部市右衛門跡被仰付、御留守番組へ被

入、御趣意金取扱被仰付

享和元酉十月十一日郡奉行村田十太夫跡、役料五拾石

享和三亥三月七日御留主武頭桑山十右衛門跡

文化四卯十一月五日御先物頭本多門左衛門跡、御役料百五十石

同八未閏二月廿一日年寄隠居

土屋新七

百石

文化八未閏二月廿一日父市兵衛年寄隠居、家督無相違、大番入

同十三子三月廿九日病身休息

土屋市兵衛 源吾 甚五左衛門

廿五石五人

一文化十三子三月廿九日養父新七病身内願二付休息被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組江被入候

一文政六未正月廿五日不宜儀有之拝知御取揚、廿五石五人ふち被下置、遠

慮、養子助七心得違二付遠慮被仰付候二付、伺之上遠慮

一天保九戌江戸詰、四月十日出立

一同十四卯四月十六日玉藥奉行滝沢元右衛門跡被仰付候

一同年十二月十六日御持武具奉行広部甚五右衛門跡被仰付、御書院番組江被入候

一嘉永三戌十一月廿日御武具御修覆御用出精二付、金三百疋被下置候

一同四亥五月十六日御掃除奉行大橋金兵衛跡被仰付、御留守番組江被入

一安政四巳十月三日御代官役安川幸助跡被仰付候

一同五年九月廿九日先養子甚四郎儀不届至極之趣相聞候二付、侍御削被成、御国十三里四方追放被仰付、依之市兵衛伺遠慮、十月八日御免

土屋新七郎 運吉

廿五石五人

文久二戌三月十一日親市兵衛年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶

持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一同年閏八月八日御番割二付大御番入

一同年十一月廿四日來春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立、亥三月帰着

一同三亥五月十二日本多飛驒手御物頭指添候様被仰付

一同年六月三日御番頭引纏上京

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子八月十三日京都へ出立、夫方長征、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応与改元、十二月廿八日新七郎与名替

一同三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十日帰

一同四辰六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十

三兩被下候、外二千五百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗四升三合被下

一同三年三月廿日病死

一同年五月十日戊辰北越出張各所攻撃勉励二付、御賞典之内十石廿ヶ年令頒授候事

土屋源吾 伯介 新七郎弟 明治三年廿八歳

文久三亥六月三日御番頭引纏上京

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応二寅三月十一日一番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同三卯九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

米五拾三俵壹斗四升三合

一明治三年五月十日養父新七郎家督米五十三俵壹斗四升三合無相違被下、修業隊江被入候事、但席水谷弥太郎次

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



土屋小弥太

百五拾石 外役料百石

於松岡物頭、御相続後仮役

享保七寅十一月九日御先物頭、五拾石御加増并役料百石被下

土屋五郎太夫

百五拾石 役料百石

元文五申三月廿九日父小弥太跡目無相違、大番入

延享三寅七月十一日御手廻御書院番入

同四卯九月六日御部屋御手廻り

同五辰六月十九日御駕付

宝曆十二午四月廿九日御腰物方御数寄奉行

明和五子七月廿日勤方表二被仰付、役義是迄之通、席末之番外

同九辰六月十四日御使番松原善左衛門跡、役料百石

安永七戌六月廿二日御先物頭皆川平右衛門跡

天明七未九月廿五日御普請奉行三沢勘左衛門跡

同八申八月廿八日郡奉行大野左七郎跡

土屋新之丞

百五拾石

寛政三亥十一月廿九日父五郎太夫年寄隠居、家督無相違、大御番入

寛政四子十月廿五日不行跡二付御暇被下候

土屋隼之助 虎蔵 病死

廿五石五人

寛政四子十月廿五日土屋新之丞義、行跡不宜二付御暇被下候処、父五郎

太夫実真相勤候二付、格別之思召を以家名為相続十人扶持被下、御留守

番組へ被入

同八辰正月十六日御擬作式拾五石五人扶持二被成下、大番入

同十年五月十四日御小姓被仰付

同十一未九月十八日御附御用人支配

土屋九一郎 楠吉

廿五石五人

享和元酉九月十六日養父隼之助病中願之通養子二被仰付、跡目無相違、

大御番入

土屋八左衛門 八之助 助六 惣右衛門

式拾五石五人

文化五辰正月廿九日養父九一郎病身内願二付休息、家督無相違、大御番

入

文政六未四月五日不慎二付遠慮

同十二丑四月廿九日不慎之義有之遠慮

弘化三年閏五月廿五日御祈禱奉行平瀬久作跡

土屋五郎八

〔土族〕

廿五石五人

- 一 嘉永二酉五月廿五日親八左衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督廿五石五人
ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候
- 一 同四亥六月廿日弟外吉義不埒至極之趣相聞候ニ付蟄居、五郎八義も兼而
締り方不参届趣相聞不調法ニ付遠慮被仰付、七月五日御免
- 一 同七寅年十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅へ罷越候始末、
酒狂トハ乍申不宜致業ニ候得共、此度之義ハ御沙汰ニ不被及候間、以来
右様之義無之様番頭へ移りを以被仰付候
- 一 安政三辰五月廿二日年来砲術出精ニ付、花葵御紋付御扇子壺本被下置候
一万延元申十二月十一日倅定吉儀不埒至極之趣相聞候ニ付、侍御削蟄居被
仰付、五郎八儀も兼而異見等不参届趣相聞候ニ付遠慮、廿八日御免
- 一 文久三亥正月廿五日当亥年芝御陣屋詰被仰付候
- 一 同年二月廿六日詰引揚被仰付出立
- 一 元治元子六月廿八日帰
- 一 同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰
- 一 慶応元丑七月十二日御先武具奉行彈薬方兼帯中村惣左衛門跡被仰付候
- 一 同年十一月十六日御趣意ニ付役御番組江被入候
- 一 同二寅七月廿日御留守武具奉行彈薬方兼帯津田四郎太夫跡江入替被仰付、
御留守番組江被入候
- 一 同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候ニ付、金五百足被下
置候
- 一 同三卯二月十六日御趣意ニ付役御番組江被入候
- 一 同年十月廿二日上京、辰三月十七日帰
- 一 同四辰八月五日御趣意ニ付御役御免被成、御広間当番被仰付、御留守番

組江被入候

- 一 明治二巳九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五兩被
下置候
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壺斗四升三合被下
- 一 優待列
- 一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱



土屋市左衛門

拾八石四人

此以前御取立被成候処

安永二巳八月廿日取扱不参届之義有之、御蔵奉行御取上、一統格へ御下
ケ

寛政十二申十二月十六日御勝手役方御取立被成、新番入、役義其儘

文化六巳二月廿日出精相勤ニ付一人扶持御加増

文化十一戌十二月十六日出精ニ付御足充行二石被下

土屋儀左衛門

拾八石四人

文政元寅年七月廿五日父市左衛門休息、家督無相違、新番入

同三辰三月廿日御広式添役

文政七申八月五日御台所目付被仰付

文政八酉正月廿日妻度々離縁ニ付遠慮

土屋市左衛門

拾五石三人

天保八酉五月十一日出精相勤候二付御取立被成、新番格二被成下候

土屋且造 市左衛門

〔士族〕

拾八石四人

一嘉永元申十二月廿八日御趣意二付先年小役人席へ御下ケ被成候処、此度

思召を以以前之通新御番組江被入、元御充行拾八石四人扶持被下置候

一同五子年四月三日御広敷添役

一安政三辰四月廿九日川除奉行被仰付候

一元治元子二月廿五日御勝手役被仰付

一同年七月 上京

一同年八月廿八日当秋京都詰被仰付、夫方長征、丑四月六日帰

一慶応元丑六月廿日出精相勤候二付、役中御足充行式石被下置候

一同二寅二月十三日江戸詰出立

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十月廿二日役新番組二被仰付候

一同三卯九月十七日昨年来臨時御用多之処格別出精相勤候二付、御紋御給

一被下置候

但外二右同断二付銀五枚被下置候

一同年十月十三日江戸方帰

一同四辰四月廿二日不念之儀有之、遠慮伺之上指扣、同廿五日御免

一同年五月十一日今般御趣意二付役中役御番組江被入候

一同年六月廿日御足充行其儘荒子頭被仰付候

巳二月御足充行二石被廢

一明治二巳六月廿一日市左衛門事且造下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升六合被下

一同年十二月九日今般御改革二付役義被免、優待之列被仰付候事

一同三年十月三日是迄居住罷在候持地之内、百八十六坪拜地二被成下候

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同四未五月廿五日依願給禄之内拾貳俵次男才次郎江分禄被仰付候事

未六月廿日御取消二相成

一同五申正月又々右合禄願

米四拾貳俵六升六合

一同年四月晦日東京修行

一同年六月二日群馬馬十二等出仕



堤易左衛門

貳百六拾石 外役料百石

鳥越様二相勤、御卒去以後

元禄十二卯三月十九日被召出、拜知此通被下、御持筒頭

宝永五子八月五日御目付

堤忠左衛門

貳百六拾石

正徳二辰五月八日父安左衛門跡知無相違被下

堤七太夫

式百六拾石 外役料百石

享保二酉二月十一日養父忠左衛門跡無相違

同十四酉正月十六日大番三番筆頭

同十七子七月廿二日御杉形奉行下山半左衛門跡、役料百石

元文六酉二月十八日御先物頭林又左衛門跡

宝曆四戌二月十六日御持弓頭大関新五左衛門跡

同七丑八月十六日倅山三郎^{サン}関ヶ原二而不調法之品有之二付御役御免、御

先物頭格

同八寅七月五日御先物頭雨森作助跡

明和元申十月廿九日御持弓頭市村勘右衛門跡

堤安右衛門

式百六拾石 外役料百石

明和三戌五月十六日父七太夫跡知無相違、大番入

同年七月朔日御小性

安永三年十二月三日御小性頭取

安永七戌六月廿二日御近習番頭取御膳番役

同九子十一月廿一日御書院番一番筆頭吉田弥八郎跡

天明四辰九月廿四日御徒頭長谷部半右衛門跡、御役料百石

寛政元酉三月朔日御先物頭横田勝之助跡

寛政二戌二月廿日御目付助鈴木清左衛門跡

同年八月十五日御目付佐野主水跡

同十年十二月四日病身二付隠居内願有之候得共、御指留被成御役御免、

格式御側武頭格、御近習二被指置

文化二丑年三月七日御簾奉行原田彦八郎跡被仰付候、役料百石被下置候

堤長太夫 七太夫

式百六拾石

文化五辰三月十三日父安右衛門隠居、家督無相違、大御番入

同廿日行状不宜妻度々離縁二付遠慮

文政五年九月晦日若殿様御腰物数寄方奉行裏御用兼帶大谷一右衛門跡被

仰付、御書院番組へ被入

文政十亥十一月二日御時宜役、席末番外

同十二丑四月廿九日倅七郎行状不宜蟄居被仰付、長太夫義も遠慮

天保二卯六月十八日倅七郎蟄居御免

同十二月五日再嫡子二被仰付

天保三辰十一月廿一日御長柄奉行武田平太夫跡、御役料百石被下置

天保八酉九月十六日倅甚兵衛儀難見届儀有之、先達而願之上御国為立退

候処、甚兵衛其年御咎後異見等等閑之趣相聞候二付遠慮

同十亥十月十六日次男九八郎先年真杉十郎左衛門養子罷越候処、及離縁

候始末、病身与乍申兼而行状不宜、心得違之趣二付蟄居被仰付、其方儀

も常々異見等不参届候二付、御役御免被成、御使者次席被仰付、遠慮被

仰付候

堤政平 五一郎 七太夫

〔士族〕

式百六拾石

- 一天保十二年十月十一日親長太夫老年罷成候二付、内願之通隠居被仰付、家督式百六拾石無相違被下置、大御番組江被入
- 一嘉永四亥年江戸詰
- 一同五子正月 旧臘中将御拜任二付、口宣御奉書京都へ持参之御使被仰付、江戸より出立
- 一同六丑七月廿日今度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、砲術訓練致修行候様被仰付、御扶持方三人フチ被下置、同廿七日出立、同七寅年四月 歸着
- 一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張二付御下緒老懸被下置候
- 一安政四巳四月十一日兄甚兵衛儀兼而御法通りも有之候処、猥ニ野先へ鉄砲致持参心得違ニ付逼塞被仰付、依之遠慮伺之上指扣被仰付、同十七日 御免被成候
- 一同年四月廿三日江戸詰出立、然ル処六月朔日松栄院様御逝去二付、御使為御用婦切被仰付、歸着
- 一安政四巳八月廿五日屋敷地之内西之方ニ而三拾坪余御用地ニ被仰付候
- 一文久元酉三月十九日御供ニ而出立
- 一同年十一月十六日和宮様御下向御道固被仰付、巢鴨御屋敷方御持場へ交代罷出候節御先払ニ相成候ニ付、直様御屋敷内へ引取可申之処、其儘其所ニ罷在候段、恐入遠慮伺之上差扣、廿一日御免
- 一同二戌三月十六日御腰物数寄方奉行斎藤門太夫跡被仰付、御書院番組へ被入候、依之四月五日江戸表方歸着
- 一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京
- 一同四子二月十三日殿様御供ニ而歸

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応二寅二月五日格式末ノ番外被仰付、役儀之儀ハ御免被成

一同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意ニ付、御広間当番勤被仰付候

一明治二巳二月五日屋敷地之内先年三十坪余御用地ニ被仰付候処、今度外

塾御取払ニ付已前之通屋敷地ニ被仰付

一同年五月廿五日夜廻勤被仰付、当番勤之儀ハ被免、十一月十日御改革ニ

付夜廻被免

一明治二巳六月廿一日七太夫事政平卜改

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五兩被下候

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米百三十式俵壹斗四合被下候

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申十月十九日老年ニ付隠居、俸捨吉へ

堤捨吉

〔士族〕

現米六拾石式斗六合



堤正誼

五市郎 実七太夫兄甚兵衛実子

〔士族〕

安政三辰五月廿日衆道之儀ニ付風儀不宜ニ付御移り

一同四巳五月廿九日明道館幹事局調御用手伝被仰付候

一同年七月十一日江戸表江罷出候様、修行筋之儀ハ橋本左内へ可申談旨被仰付、八月七日出立

一同五年年(マ、)

同六年年(マ、)

一同七申三月十五日帰着

一同廿五日御趣意ニ付幹事局調御用手伝御免被成候

一同年閏三月十二日他国修行被仰付、太儀ニ付銀壹枚被下置候

一万延二酉二月十四日今般横井平四郎出府ニ付、修行旁同道罷越候様被仰付、右出府中三人扶持被下置候

但別段之訳も有之ニ付為失却月々金貳百疋ツ、被下置候、同三月

廿四日出立、同九月六日帰着

一文久与改元、九月十六日今度横井平四郎義肥後表へ罷帰候ニ付、修行旁

同道罷越候様被仰付、十月五日出立

一同二戌四月十五日帰着

一同年九月廿九日農兵掛り被仰付、郡方吟味役勤方之儀も相心得候様被仰付、御扶持方三人扶持被下置候

一同三亥五月六日支度出来次第立帰上京被仰付、同九日出立、六月十日帰

一同年八月五日被召出、御扶持方五人ふち被下置、御書院番組ニ被成下、

御参府御供被仰付、詰中御供無息頭取且又御手許御用之儀も相勤候様被仰付、御用人支配ニ被仰付候、但是迄被下候三人ふち之儀ハ已後不被下

候

一同年八月十七日殿様御供ニ而出立、十二月江戸へ御上京御供、子二月御

供ニ而帰着

一元治元子三月十五日上京

一同年四月十日御舍御用も有之ニ付当分滞京被仰付、滞京中月々銀三枚ツ、被下置候

一同年五月十三日於京都御繰合も有之ニ付、在京中御聞番役助被仰付、右

勤中銀七枚ツ、御増、都合月々銀拾枚ツ、被下置候

一同年六月廿六日早駆御用ニ而着、翌廿七日出立

一同年八月二日上京、夫方征長出陣

一元治元子九月朔日今度長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、敵地へ深ク進ミ拔群之働達御聽御満足ニ思召候、依之為御賞五拾石御加

増并御短刀一被下置、五拾石ハ家督之節御結被下置候

一元治元子九月十日御使番役被仰付、御役料五拾石被下置、格式末之番外ニ被仰付候

但是迄被下候五人扶持并銀十枚之儀ハ以後不被下候、御舍御用之

儀ハ是迄之通

一同年十月十九日今度応接方被仰付

一同二丑正月廿九日京都へ早駆ニ而江戸表へ出立、同三日折返し京都表へ出立、三月七日御供ニ而帰着

一同年三月廿四日兵科取調被仰付候

一慶応ト改元、四月廿八日今度尾州様江御用有之ニ付、菅沼重記為御使被遣候ニ付副使被仰付、晦日出立、五月五日帰

一同年五月廿五日征長御供、別段心配ニ付手助一被下候

一同年七月二日御軍制取調掛り被仰付候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀へ被下配当金千疋、且又戦功

ニ付五千疋被下置候

一同年八月二日内達之趣も有之ニ付、御軍帳取調掛り之儀ハ御免被成候

- 一 同年十一月十日御目付役見習、御役料其儘御足高三拾石被下置、御役人並被仰付、御使番順席ニ被成下候
- 一 同年十二月六日御軍事掛り被仰付
- 一 同三卯三月十一日病氣内達之趣無扨次第二付、養生中ハ御役御免同様与相心得、尚又出府之儀ハ申談候様被仰付候
- 一 同年八月十一日病氣ニ付再応内願之趣無扨相聞候ニ付、席其儘御役御免被成候、右ニ付是迄被下置候御役料御足高之儀ハ以後不被下候事
- 一 同年十二月十三日軍事局へ相詰、軍事目付勤向相心得候様被仰付
- 一 同四辰三月十二日軍事目付御役料百石被下置候、但席上ケ被仰付、御役人並被仰付、伊藤友四郎次
- 一 同年四月十一日評定役並被仰付、軍事目付之儀も是迄之通被仰付
- 一 同年五月四日評定役本役被仰付、文武掛り物頭嫡席ニ被仰付、御足高五拾石被下置候
- 一 同年六月二日御舍御用有之二付立帰早速上京被仰付、六日出立、十三日帰
- 一 同年同月廿五日会征出立、十一月十七日帰
- 一 明治二巳二月十四日参政職被仰出、以当職軍政局幹事被仰出
- 但月給米七十俵、御役料等相止
- 一 同月廿二日去夏征会出兵之節格別之苦心太儀思召候、且又鼠ケ関戦争之儀ハ頗要衝ニシテ其堅固容易難抜、然ルニ諸隊勇銃不撓モ全力ノ故ト御賞譽之事ニ候、仍被慰其勞此品被下
- 洋製御鞍一具 御短刀一 一式十金
- 一 同月廿七日御用有之二付糸魚川様へ被遣、早速致出立候様翌廿八日出立、三月十九日帰
- 一 同年三月廿七日御用ニ付東行被仰出、四月七日出立
- 一 同年五月十六日今般民部官知事被仰出ニ付、同官方御用伺トシテ罷出、或拜謁願応接ヲ始総而御用取扱可申事
- 一 同年七月十三日東京方帰着
- 一 同年七月廿二日御足高五十石其儘被下候事
- 一 同年九月十一日今般大参事権大参事東京江出立ニ付、其節致同行候様被仰出、同廿七日出立
- 但同日毎々他国御用ニ付為御手当金三拾兩被下候事
- 一 同年十月十四日任福井藩権大参事、宜下候事、同日軍務局幹事被免候事、未正月年給式百十九俵
- 一 同月廿四日右ニ付御取扱左之通
- 一 五節旬朔望登城之節、大参事御逢、畢而直ニ御逢之事
- 但各員一同罷出候事
- 一 掌政内局定出席
- 一 御門々々下座之事
- 一 同年十一月十六日東京方帰
- 一 同月廿一日軍政掛り被仰出候事
- 一 同月廿五日今般御改革、更給禄米三十六俵式斗五升六合被下候
- 一 同年十二月十七日任官中給禄百式拾俵高被成下候事、未正月方任官給被廢
- 但右ニ付御足五十石之分自今不被下候事
- 一 同三年四月廿五日戊辰ノ夏北越出張、日夜軍務勉勵其辛苦不尠、仍慰其勤勞御賞典之内永世百石令頒授候事
- 一 同年同月廿九日小笠原大参事留守中民政掛り被仰出候事

一同年十二月三日東京詰被仰付候事、同十三日出立

一同月十二日在京中大参事之御取扱被仰付候事

一同四未四月十五日昼夜兼行ニ而從東京着、同月廿六日引返東京江亦々昼

夜兼行出立

一同年七月廿三日帰

一同年八月朔日本官被免候事

一同年九月太政官方御達ニ付東京へ出立

一同年十月四日官内省任侍従、從六位

一同五申五月 番長

堤³

此前代あ二出、但安部与号

堤武右衛門

廿石四人

天明六年十二月十六日父武右衛門休息、家督無相違、大番入、御鷹方

享和二戌年九月廿九日御定之年数相満候ニ付相身代末

文化十一戌十二月十六日家業出精ニ付、御紋御上下被下

堤武右衛門 彦作

廿三石四人

一文政四巳十一月廿五日親武右衛門家督廿石四人扶持無相違被下、大御番

組江被入、御鷹方被仰付

一弘化三年三月十五日御鷹迎為御用出立、同年五月三日帰着

一嘉永五子八月廿八日御番割ニ付年数相満候間、順席ニ被仰付候

一万延元申十一月廿日出精相勤候ニ付、御足充行三石被下置候

一元治元子七月四日京都へ出立、八月廿三日帰着

一同年七月廿二日今般御趣意ニ付御鷹被相止候ニ付、御番士勤被仰付候

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相

働候段達御聽御褒詞

一同年十月廿二日徳正院様御祥月日限繰違殺生ニ罷出、遠慮伺之上指扣、

廿五日御免

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一同二丑三月廿日年来出精相勤候ニ付、御足充行三石御加増、都合廿三石

四人扶持ニ被成下候

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋、同五百

疋被下置候

一同年五月十一日小荷駄造营方被仰付候

一同年八月廿二日川戸留吉病中養子願不念之儀有之、伺之上遠慮、同廿六

日御免

一同三卯二月廿五日年寄候ニ付休息

堤武門^{タケ}

彦作 武一

廿三石四人

一慶応三卯二月廿五日祖父武右衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督廿三石四

人扶持無相違被下置、大御番組江被入候

一同年十月廿三日御趣意ニ付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組江被仰付

一明治二巳六月廿日彦作事武一卜改

〔士族〕

- 一 同年八月十四日予備隊被仰付
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米四拾八俵式斗七升四合被下
- 一 同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事
- 一 同年十二月 予備一番隊 年給式俵
- 一 同四年四月七日右解隊被仰出候事
- 一 同年十二月名替、武一事武門

柘植

柘植伊右衛門

- 式百五拾石 外役料百石
- 寛文十戌三月廿三日被召出、五百石被下候処
- 貞享三一同之御暇
- 元禄二巳七月十日重而被召出、一同半知被下
- 宝永三於江戸御使番
- 宝永五子八月十一日御先物頭

柘植伊右衛門

- 二百五拾石 役料百石
- 享保六丑三月十六日養父伊右衛門跡知無相違
- 同十一年十二月廿九日御腰物役
- 同十六亥二月十六日思召有之、御役御取揚、大番入
- 元文元辰五月廿五日大番筆頭
- 同三年七月廿九日御使番、役料百石

- 寛保三亥閏四月五日御水主頭
- 延享三寅六月廿八日御先物頭
- 宝曆七丑九月廿五日御持弓頭屋敷奉行兼榊原助左衛門跡
- 同九卯正月十六日御役御免、番外

柘植市兵衛 初伊右衛門

- 二百五拾石 役料百石
- 宝曆十一巳二月十一日父伊右衛門跡知無相違、大番入
- 同十四申五月十六日大番二番筆頭小栗八郎兵衛跡
- 安永五申正月廿五日御長柄奉行梯左伸太跡、役料百石
- 同八亥七月廿五日御留守物頭石川忠左衛門跡
- 天明三卯八月五日倅平九郎不埒至極之義有之、蟄居、此節遠慮

柘植市兵衛 三郎左衛門 伊右衛門 隱居

- 式百石
- 天明七未三月廿四日父市兵衛隱居、家督無相違、大御番入
- 文化三寅六月十六日思召有之二付、五十石御取揚、遠慮
- 文政五年十一月十一日末ノ番外
- 文政十一子五月廿日御留守物頭加藤武右衛門跡

柘植平太夫 衛守

- 式百石
- 一文政十三寅年六月三日養父市兵衛隱居被仰付、家督式百石無相違被下置、大御番組江被入

- 一天保五年江戸詰被仰付、二月十六日出立
- 一同八酉年江戸詰被仰付、四月十五日出立
- 一同十三寅年江戸詰被仰付、三月廿二日出立
- 一嘉永五子三月十六日御腰物数寄方奉行長谷部作内跡被仰付、御書院番組へ被入候
- 一同七寅六月十九日病身内願之通休息

柘植千歳

貳百石

- 一嘉永七寅六月十九日親平太夫病身二付内願之通休息被仰付、家督貳百石無相違被下置、大御番組へ被入
- 一安政四巳九月十二日病死

柘植常五郎

貳百石

〔士族〕

- 一安政四巳十一月三日親千歳家督貳百石無相違被下置、大御番無役組へ被入候

- 一同七申三月十一日吉田新六家屋敷へ相對替、願之通被仰付候
- 一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候
- 一同二戌十一月廿三日來春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立
- 一同三亥三月廿五日中將様御供二而帰着
- 一同年六月三日御番頭引纏上京、九月六日帰
- 一同年十二月廿四日先達而京都動搖之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美金貳百五十疋被下置候

- 一元治元子七月廿一日京都へ出立、夫方長征、丑正月帰
- 一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀へ出張、同九日帰
- 一慶応二寅十二月廿六日什長被仰付
- 一同三卯十月廿五日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候
- 一同年十一月二日宰相様御上京二付速見迄御見送り出立、同七日帰
- 一同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備支度出来次第上京被仰付、同廿九日出立

一同四辰四月十日帰

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月十一日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更ニ給禄米百五俵式斗八升五合被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十一月十五日兼而酒色ニ耽り不埒至極ニ付、三ヶ年之間給禄之九割被下、非役江被入、謹慎被仰付候事、十二月五日被免

一同四未六月八日不埒之儀ニ付三ヶ年之間給禄之内九割被下候処、今般更

二元ノ如く被下候事

米百五俵式斗八升五合



津田弥太六

貳百石 役料百石

元禄五申十二月廿八日養父又藏跡目として御扶持切米被下

同六酉八月廿三日御手廻り

宝永五御供目付

正徳四年十月廿五日御駕附

同五未五月廿五日新知被下、御腰物役桑山権之助跡

享保八卯正月廿三日伊織様附御番組御免、席御膳番次、平尾新五兵衛跡

同年十月初姫様附平尾新五兵衛跡

同十巳二月十六日五十石御加増、席御留守物頭格二被仰出、但シ御留守

物頭次、平尾新五兵衛跡

同十七子七月廿二日御役料百石被下

元文四未十月九日五十石御加増

津田新兵衛

貳百石 役料百石

享保廿卯十一月五日表御小姓被召出、御擬作並之通

寛保三亥閏四月十一日養父弥太六隠居、三人扶持被下、家督無相違、御

小姓其儘

延享元子十一月三日奥御納戸榎並左次右衛門跡

同四卯八月五日御部屋奥御納戸御腰物方兼

寛延四未十月廿五日御役御免、大番入

宝暦六子十一月廿二日大番三番筆頭比企文左衛門跡

同十二年三月廿九日於江戸御使番東郷三郎右衛門跡、役料百石被下

明和四亥三月廿六日御徒頭一柳新九郎跡

同七寅五月廿八日御先物頭山田次郎大夫跡

貳百石

安永八亥九月廿日養父新兵衛隠居、家督無相違、大番入

同九子十一月廿一日御小姓見習

同十丑二月朔日御小姓本役

天明五巳十月廿六日於江戸御小姓頭取

同六年十二月廿日頭取御免、平御小姓被仰付

同八申四月十九日於江戸御小姓頭取

津田新兵衛 吉三郎

貳百石

寛政元酉八月五日養父次郎太郎跡知無相違被下、大番入

同二戌二月廿日御小姓見習

同年十月廿九日本役、今村伝兵衛跡

同六寅三月九日御近習番坂部十右衛門跡、御書院番組へ被入

津田治郎太郎 弥太六 病死

貳百石

寛政七卯五月廿九日養父新兵衛跡知無相違、大番入

同十一未正月廿二日御小姓

同年九月廿七日中將様御附御近習番御用人支配

同十二申二月廿九日御附御不用二付、大御番入

津田弥太六 鷹三郎事

貳百石

津田次郎太郎

- 一寛政十二申十月廿五日養父治郎太郎病中願之通跡知無相違被下、大御番
入被仰付
- 一同年十一月七日御小姓被仰付
- 一享和元酉年江戸詰
- 一同三亥年江戸詰
- 一文化二丑年江戸詰
- 一同四卯年江戸詰
- 一同六巳年江戸詰
- 一同八未年江戸詰
- 一文政元寅年六月廿四日御近習御側向勤被仰付、御役料百石被下置、御使
番格被仰付
- 一同二卯年江戸詰
- 一同四巳年江戸詰
- 一同五午十月廿三日御側向頭取金子十郎平跡被仰付
- 一同六未年江戸詰
- 一同八酉年江戸詰
- 一同九戌年二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御役御免、御役料其儘御先物頭
次席御近習へ被指置
- 一同年同月廿七日御側物頭跡部主計跡被仰付候
- 一同十亥三月廿九日御座所預り被仰付
- 一同年六月廿三日御目付今立五郎太夫跡被仰付
- 一同十一子年江戸詰
- 一同十二丑年四月十三日火之御番御用出精二付、御目録銀三枚被下置候
- 一同年八月十三日若殿様御附御側向頭取被仰付、支度出来次第江戸詰被仰
付候
- 一天保二卯年二月十五日席其儘御普請奉行波多野五郎左衛門跡被仰付
- 一同三辰年八月七日席其儘御預所郡奉行河合八郎左衛門跡、御役人並
- 一同十亥年二月廿五日席其儘楷五郎様御附御側向頭取被仰付候
- 一同年十月十六日楷五郎様御附御広敷御用人兼帯被仰付候
- 一同十四卯年九月廿五日魏光院様御逝去ニ付御役御免、御役料席其儘御近
習ニ被指置候
- 一同十五辰年七月十九日席其儘御簀奉行彦坂又兵衛跡被仰付
- 一弘化三年十月十七日金津奉行仙石万右衛門跡被仰付候
- 一嘉永二酉年正月廿五日昨秋三國汐見橋石引之節、締め方不参届趣相聞候
付御叱り被成、伺之上御用之外指扣被仰付
- 一同三戌八月十二日年来出精被相勤候ニ付、銀五枚ツ、年々被下置候
- 一同四亥十一月三日丸岡領樋爪為安兩村与十郷用水路論出訴一件ニ付御褒
詞
- 一同五子六月十七日兼而内達之趣も有之二付隠居被仰付、養子弥三郎へ家
督式百石無相違被下置候、右二付川村文平同様之御取扱被成下候、是迄
年々被下候銀五枚其儘被下置候
- 津田弥太六 弥三郎 実大谷半平弟
式百石
- 一嘉永五子六月十七日養父弥太六年寄候ニ付、兼而内達之趣も有之二付隠
居被仰付、家督式百石無相違被下置、大御番組へ被入候
- 一同年九月朔日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候
- 一同六丑三月十一日表御小姓高村伝之丞跡被仰付候

一安政四巳二月廿日大御番六番之筆頭役鈴木牛兵衛跡被仰付、大御番組へ被入候

一万延元申閏三月廿二日太田御陣屋詰出立

一文久元酉年右御陣屋方直様江戸詰越

一同年四月十日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付御褒詞

一同年十一月十六日和宮様御下向之節、巢鴨御道固取扱方不参届伺之上遠慮、廿六日御免

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張、太儀之段御褒詞

一同年十二月廿八日弥太六与名替

一同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中午将様御供二而帰着

一同年八月廿日役儀不参届趣相聞候二付筆頭役御免、右二付伺之上遠慮、八月晦日御免

一元治元子五月十六日大御番二番之筆頭役田辺平学跡被仰付

一同年七月四日京都表へ出立

一同年七月十九日京都境町御門御固メ場ニおゐて戦死致し候

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付公儀被下配当金千疋、且又戦功

二付同五千疋被下

津田正庸 鷹吉 達太郎

〔士族〕

式百三拾石

一文久三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京、同年四月帰着

一元治元子七月廿三日親弥太六儀致戦死候二付、思召を以日数不相立候得

共、家督式百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年同廿四日親弥太六儀致戦死候二付、石碑之義者上方御建被下候

一同年八月廿六日親故弥太六儀今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所

戦争之砌、御人数を励まし致指揮遂戦死候段、達御聴存生二候ハ、御賞賜も可有之処御残念ニ被思召候、依之思召を以其方へ三拾石御加増被成

下候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑五月廿六日御附御小姓被仰付候

一同月廿九日鷹吉事達太郎卜名替

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十月廿六日御附御馬廻被仰付

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十月廿一日御趣意二付御附御馬廻り御免被成、第一遊撃隊へ被入候

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之処、御模様二付途中方引

返シ帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中他之宿所へ罷越、不作法心得違之趣相聞、遠

慮、正月七日今般非常之儀二付御免被成候

一同八日又々急々出立、辰九月十六日帰

一明治元辰十月五日後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御供帰

一同二巳十一月廿七日御改革二付役儀被免

一同年同月廿五日今般御改革二付、更給禄米百貳拾壹俵式斗壹升三合被下

一同年三年五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申五月達太郎事正庸



津田惣左衛門

式百石 外役料百石

於松岡御奉行役、御相統後仮役

享保七寅十一月九日御役御免

同八卯二月七日御先物頭席、御意二付堀新左衛門次へ入

津田九右衛門

式百五拾石 役料百石

享保十四酉四月五日父惣右衛門隠居、家督無相違

元文三年六月五日大御番五番筆頭

寛保二戌六月朔日御使番、役料百石

延享二丑正月十五日江戸御留守居

同五辰七月六日御預所御用懸り

同七月十九日御先物頭順席大谷市右衛門跡、組支配

宝曆四戌三月十八日長袴格式席御付人次

同五亥七月朔日五十石御加増

津田八十郎

式百石

宝曆十辰十二月廿六日父九右衛門跡、幼年二付廿五人扶持被下、御留守

番入

同十二年十一月十五日十五歳罷成候二付、新知式百石被下、大番入

明和五子七月廿日御次詰御書院番入

同七寅閏六月十四日御小姓

同九辰六月十四日若殿様御小姓

天明四辰七月五日御書物奉行松原一郎兵衛跡、御書院番入

同五巳正月十五日病身二付役義御免被成、御近習番格

津田武左衛門 八十郎 九右衛門

式百石

天明五巳十一月廿日養父八十郎跡知無相違、大番入

同六年七月廿四日御小姓

同八申八月廿八日御近習番御供頭日比野彦之丞跡、御書院番入

寛政二戌五月廿八日御腰物数寄方奉行御部屋附兼帯其儘御書院番、但表

役二被仰付

享和二戌八月十一日表御小性被仰付

文化元子十二月十八日御裏役

同六巳九月病死

津田幾次郎 彦之丞

式百石

文化六巳十月廿五日津田武左衛門病中願之通養子被仰付、家督無相違、

大御番入

同七年七月十日御小性

同八未閏二月廿八日表御小姓萩原猪太夫跡
 文政元寅六月十六日病身内願二付表御小性御免
 文政元寅十月十一日病身二付休息被仰付候

津田友右衛門 八十吉事

貳百石

一文政元寅十月十一日養父幾次郎病身二付休息被仰付、家督貳百石無相違
 被下置、大御番組へ被入

一天保九戌十二月十一日其方妻義出奔之始末、兼而家内締り方不参届趣相
 聞、急度可被仰付処、度々赦も被仰出候折柄二付、格別之御憐愍を以遠
 慮被仰付

一同十一子江戸詰、四月十三日出立、同九月六日帰着

一弘化二巳十一月廿日御腰物数寄方奉行松尾源左衛門跡被仰付候

一嘉永三戌九月十一日末之番外御時宜役被仰付候

一安政三辰八月廿四日病死

津田左藏 実尾高仁兵衛次男

貳百石

〔士族〕

一安政三辰年十月十三日養父友右衛門家督貳百石無相違被下置、大御番無
 役組へ被入候

一万延元申四月二日大御番組へ被入候

一同二酉二月廿八日太田御陣屋詰出立

一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移を以慎被仰
 付置候得共、道中并支度之儀も有之二付当分慎御免被成、御国表江罷帰

候上、是迄之通相心得候様被仰付候、廿四日帰着、右二付伺之上遠慮、
 十月朔日御免

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失却も有之二付金百疋被
 下置候

一同年五月廿八日江戸詰出立

一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供

一同年三月廿五日右御供二而京都方帰着

一同廿七日他番へ被入候

一同年五月十二日松平主馬方手御物頭指添扣被仰付

一同年六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御
 褒美金壹両被下置候

一元治元子四月廿五日江戸詰出立

一同年十月三日来丑ノ春迄詰越被仰付候、丑四月七日帰

一慶応二寅十二月廿六日什長被仰付

一同三卯十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同四辰四月朔日上京、七月十九日帰

一明治下改元、九月十四日半小隊長岡田喜藤太跡被仰付、役義二付席末之
 番外格二被仰付

一同二巳三月朔日十一番半隊引纏東京江出立、然ル処御呼戻二付赤坂宿方
 引返、七日帰

一同年四月五日東京江出立、十月廿八日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊後絶被仰付候事

一同年十二月八日予備一番隊押絶 第一年給七俵 未三月廿九日兵隊被免

一同四未四月七日右解隊被仰出候事



津田源之丞

百五拾石 外役料百石

元禄六酉八月廿八日父源之丞家督無相違被下、御普請奉行

宝永二酉七月十三日被仰付

享保十一午三月廿一日御簾奉行国枝小一郎跡

津田源之丞

百五拾石 外役料百石

享保十五戌八月十一日父源之丞隠居、家督無相違被下、大番入、同日師

役被仰付

元文二巳三月十五日御留守作事奉行本多十郎兵衛跡被仰付

寛保二戌六月朔日御先作事奉行本多十郎兵衛跡、役料百石被下

延享元子十月廿五日大藤次兵衛跡、御普請奉行被仰付

宝曆五亥十一月廿九日御簾奉行本多十郎兵衛跡

津田八郎左衛門

百五拾石 役料百石

宝曆六子八月廿九日養父源之丞隠居、家督無相違被下、大番入、同日師

役被仰付

天明四辰八月十日末之番外

同七未三月廿五日御使番相沢八郎右衛門跡、御役料百石

寛政二戌十月十八日御先物頭榎並猪十郎跡

津田源之丞

百五拾石

寛政十年二月廿三日親八郎左衛門年寄内願有之隠居被仰付、家督無相違

大御番入、師役被仰付

文政六未三月四日山奉行石川平八跡

文政八酉十一月三日御留主作事奉行西尾五右衛門跡被仰付

文政十一子正月廿八日御先作事西尾五右衛門跡、役料百石

文政十二巳丑八月十三日御長柄奉行佐野弥三郎跡

津田靱負助 三六 八郎左衛門 源之丞

百五拾石

一文政十二丑年十二月十一日親源之丞家督百五拾石無相違被下置、大御番

組江被入、流儀之鉄砲師役被仰付候

一嘉永五子三月十六日御書院番組へ被入候

一安政二卯三月十四日御家流炮術追々被仰出候処、弟子引立厚致世話候二

付御褒詞、依之御目錄御紋御上下一具被下置候

一同三辰十月十一日格式末之番外被仰付候

一同四巳四月廿二日数代師役相勤、別而近来出精太儀思召候、依之御目錄

銀五枚被下置候

一同五午十一月五日席其儘、御役料之趣を以廿五石被下置候

一文久元酉十二月十六日御使番格二被成下候

一同二戌七月十一日当秋芝御陣屋詰被仰付、長谷川八十郎与致交代候様被仰付候、閏八月廿二日出立

一同三亥五月十一日公儀御役方御台場見廻等有之節、万端御不都合之儀無之様相心得応答致候様被仰付

一同年同月廿八日取調御用も有之二付、右応答之儀ハ御免被成候

一同年九月廿六日帰

一同年十月七日農兵教授方被仰付、炮術所頭取之儀ハ是迄之通相心得候様被仰付候

一元治元子九月廿二日京都詰被仰付、詰中堺町御門御固大砲方被仰付、早速致出立候様、同月出立、十二月帰

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑正月廿五日上京、四月廿九日帰

一慶応二寅六月廿一日席其儘小馬印奉行山形熊之助跡被仰付、御役料廿五石御増、都合五十石被下置候

一同年九月朔日諸物頭指添并農兵掛り役配無息之面々階級打被仰出候二付、万端引受致世話候様被仰付

一同三卯五月廿日御役料炮術所頭取其儘、小馬印奉行之儀ハ御免被成候

一同年十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又席御役料其儘御留守組支配被仰付、砲術所頭取之儀ハ御免被成候

一同年十二月廿八日源之丞事鞞負助卜改

一明治二巳二月十六日今般御改革二付御役儀御免被成、御広間当番勤被仰付、無程御用捨

一同年五月五日病死



津田庄左衛門

式拾五石五人

延宝五巳七月十八日被召出

正徳元卯十一月七日御旗本武具奉行

津田四郎左衛門

式拾五石五人

享保十一午三月廿一日庄左衛門家督被下

津田久左衛門

式拾五石五人

享保十三申九月廿一日養父四郎左衛門跡目被下、大番入

宝曆三酉二月十一日番改、佐野内十右衛門跡

明和七寅閏六月廿日御代官御留守番入

天明元丑十二月十一日於在方心得違之義有之、役義御免、大番入、遠慮

津田四郎左衛門 小十郎

百石 役料百五十石

天明五巳九月廿五日父久左衛門休息、家督無相違、大番入

同八申九月四日御小性堀江伝之丞跡

寛政二戊五月廿八日御小姓頭取助

同七卯正月廿八日頭取

同八辰七月十五日新知百石

同十年七月四日於江戸二定府二被仰付

同十一未九月十八日御用人支配

享和元酉四月廿八日御近習番頭取御膳番

享和三亥二月御供頭御時宜役兼辻十郎右衛門跡

文化元甲子九月十七日御広式御用人介近藤太郎兵衛跡、御役料^(マ、)

同四卯九月四日御広式御用人本役、御役料百五拾石、長袴席

同六巳八月十九日御国許へ引越被仰付候二付御役御免、御役料其儘御先

物頭次席、但引越之義ハ去月廿八日被仰付候

同年十月廿日家屋敷被下

同年十一月五日御先武頭堀勘左衛門跡

文政三辰六月廿二日御広式御用人、家内共江戸引越

同九戌二月廿一日貞照院様御附兼帯

同年八月廿五日年来出精二付銀五枚年々被下

津田四郎左衛門 小十郎

百石

天保七申五月十一日親四郎左衛門令病死候処、年来御奉公実躰相勤候二付、格別之思召を以家督相統被仰付、百石無相違被下置、無役御留守番組へ被入

百石

一天保十一子十一月廿五日養父四郎左衛門家督百石無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一嘉永元申江戸詰被仰付、四月十日出立

一同五子年江戸詰、同六丑四月十七日帰着

一安政元寅十二月廿八日四郎左衛門与改

一同五午三月三日病死

津田四郎平 恒次郎 実井戸勘藏弟

百石

〔士族〕

一安政五午四月廿三日津田四郎左衛門病中願之通養子二被仰付、家督百石

無相違被下置、大御番無役組江被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌十一月廿五日來春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥正月廿五日中午將様御供二而帰着

一同年六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張二付、朝廷^カ為御褒

美金貳百五十疋被下置候

一元治元子四月廿六日江戸詰出立

一同年十月三日來丑春迄詰越被仰付候、丑四月七日帰

一慶応元丑十二月廿八日四郎平与名替

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同年閏四月廿日御馬廻被仰付

津田四郎左衛門 三作

一同年五月朔日上京、同月廿七日帰
一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰
一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰肝煎御供頭兼

一四等官周防謙介次

一月給米一年分十俵被下候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年十月廿八日御家従被免

一同日修業列江被入候事

一同日は迄御手許御用相勤太儀二被思召候二付、為御酒代金千疋被下候

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

津田⁵

津田藤藏

百五拾石 外役料百石

貞享四卯八月廿六日御手廻二被召出

宝永五子閏正月十七日新知

正徳六申正月十八日御留守物頭御鷹方支配八木平六跡

享保十一年三月十六日御側物頭、五拾石御加増、役料百石、富田平藏跡

津田藤左衛門

百五拾石 役料百石

享保十一年十一月廿一日養父藤藏跡無相違、大番入

同廿一辰五月廿一日表御小性

元文二巳十一月廿八日中奥

延享元子十一月三日御膳番

同三寅五月廿一日御書院二番筆頭

同四卯八月廿五日御部屋付御小姓部屋へ罷出、御前向御用可相勤旨、馬

飼料百石被下、末之番外、席浅見忠右衛門次

寛延三年十一月朔日席御側物頭格

宝曆八寅十二月十一日於江戸御近習勤御免、飼料席其儘、来春御国へ引

越

同九卯七月廿五日御側物頭高田金太夫跡

明和七寅八月七日御広敷御用役服部吉左衛門跡、長袴格中根九右衛門次

安永五申十一月七日新番頭葛巻庄兵衛跡

津田藤兵衛

百五拾石

天明二寅二月十一日養父藤左衛門跡知無相違、大番入

津田藤左衛門

廿五石五人

寛政十年三月十六日父子共二不調法之義有之二付、父藤兵衛拜知百五拾

石被召上、蟄居被仰付、御擬作廿五石五人扶持被下置、大御番組へ被入、

閉門

文政二卯七月廿日御広敷御用達御留守番入

文政十二巳丑十一月廿日高橋一太夫跡御代官被仰付

天保二卯十一月十六日倅元橋不行狀二付逼塞被仰付、藤左衛門義伺之上
遠慮被仰付候

天保八酉五月廿九日休息

同年十一月廿五日勤中御武具御修復御改正出精二付御褒詞

津田藤三郎 四郎太夫倅

廿五石五人

津田四郎太夫 元橋事

廿五石五人

一天保八酉五月廿九日親藤左衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同年十二月十一日不慎之趣相聞候二付遠慮被仰付

一同十一年五月廿九日不慎之趣相聞候二付閉門被仰付

一同十二丑四月八日御日柄殺生二罷出、遠慮相伺之所差扣被仰付、同月三

日御免

一弘化五申三月五日心得違之趣相聞候二付閉門被仰付

一文久二戌六月廿九日倅虎三郎儀兼而行狀不宜、其上不埒之致業有之二付

蟄居被仰付、且又其身儀も異見等不参届二付遠慮被仰付、七月十七日御

免

一元治元子二月廿九日御先武具奉行并彈藥方兼帶、田辺讓右衛門跡被仰付

候

一同年七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、丑正月帰

一同二丑二月朔日敦賀賊徒警衛出張、同九日帰

一慶応与改元、閏五月十二日御留守武具奉行彈藥方兼帶被仰付、御留守番

組へ被入候

一同年同日、昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀式枚被下置候

一同二寅七月廿日年寄候二付休息

一文久二戌六月廿九日兼而行狀不宜、其上不埒之致業二付蟄居

一元治元子十月廿九日、一昨年蟄居被仰付、当夏於家内一家対面御免被成

候処、今度思召を以救被仰出候二付、願之通御咎御免被成候

一子十二月十四日再嫡子願之通被仰付

一同年十二月賊徒一件出張、為御手当銀式百匁被下

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月十七日農兵差配手伝被仰付

一同年七月廿日親四郎太夫年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無

相違被下置、大御番組へ被入候

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処御模様二付途中方

引返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立可致処、病氣二付出立不致候

一明治二巳正月廿日病身二付無役組江被入候

一同年八月十四日予備隊被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三年六月廿二日病身二付隠居被仰付



津田繁右衛門

式拾五石五人

享保四亥被召出

同七寅五月廿八日於江戸御切米五石御加増、都合廿五石五人扶持被成下、

浅草御屋敷御近所火消

此後代を二出、但織田与改

田久左衛門被仰付
同八卯九月廿日師役

津田猪作

百石

安永九子七月廿日養父伝七病身二付休息、家督無相違、大番入、同日指

南

天明三卯十二月十一日師役



津田伝七 文九郎 父伝右衛門

百石

元禄十一寅十二月五日父跡目五人扶持

正徳二辰三月十九日御切米廿石三人扶持被成下、同日師役、鉄砲

享保十巳十二月十六日玉葉奉行安倍喜兵衛跡

元文元辰十月五日調合役

延享二丑五月廿五日新知

宝暦十一巳十一月廿九日数十年実躰相勤候二付末之番外

亥ノ九月十一日死

※「剥札」つ末にあり

津田伝右衛門

百石

天明五巳十一月十一日養父猪作跡知無相違、大番入、流儀之鉄砲後見祖

父伝七へ被仰付

寛政四子十二月十六日師役被仰付

同十一未七月廿五日侍御削、十三里追放

士御削追放

後文化五辰四月十六日二代目伝七実子栄五郎流儀之炮術相心掛

候二付、御徒二被召出

津田伝七 初栄五郎

拾五石三人

一天保十二丑正月廿日家業厚致心配候二付、御徒目付方御取立被成、新御

番組江被入候、但御徒目付之儀ハ御免被成候

一同十四卯三月廿九日御台所目付被仰付候

津田伝七

百石

明和四亥十月五日養父伝七跡知無相違、大番入、流儀後見萩原長兵衛津

一同年十二月十六日荒子頭水野新助跡被仰付候

一嘉永二酉五月廿五日勤中御足充行三石被下置候

一同五子八月五日家業心配致し其上指南之面々大勢取扱候二付、大御番組へ被入、御先武具奉行平田幾郎右衛門跡被仰付候

一嘉永六丑三月五日旧冬心得違之趣相聞候二付、御叱り被成候処伺遠慮之処、三月十一日御免

一同七寅閏七月廿九日年寄候二付休息

津田榮五郎 実戸田七兵衛次男

拾五石三人 三石二口御足

〔士族〕

一嘉永七寅閏七月廿九日養父伝七儀年寄候二付休息被仰付、家督拾五石三人扶持無相違被下置、大御番組被入、流儀之鉄砲指南被仰付候

一安政二卯三月十四日御家流砲術之義追々被仰出有之候処、弟子引立厚致世話候二付御褒詞、依之御紋御上下一具被下置候

一安政二卯三月十六日高嶋流砲術厚心掛皆伝二相運候二付、花葵御紋附御扇子被下置候、猶以十左衛門申談引立候様被仰付候

一同四巳四月廿二日数代指南相勤別而近來出精太儀二思召候、依之御目錄銀五枚被下置候

一安政四巳十一月廿日此度大砲科御端立二付、御家流頭取其儘右科頭取兼勤被仰付候

一同五午五月廿五日武芸所開館以來困窮相勤少御充行二も候得者、御足扶持式人扶持被下置候

一同六未五月廿九日横浜御警衛二付砲術御用有之候間、支度出来次第詰被仰付候

一同七申三月十五日御供二而帰着

一万延与改元、九月朔日此度御番割有之候処、御番士人少二付当分当務繰合七御番組相勤候様被仰付候

一文久二戌二月廿日御足式人扶持其儘御足充行三石被下置候

一同九月廿九日今般農兵御端立二付、西尾十左衛門申談致教授候様被仰付、尤砲術所頭取之義ハ是迄之通相心得候様

一文久二戌十月十六日御番御免被成候

一同年十二月二日御都合も有之二付他番江被入候

一同三亥二月十二日番頭引纏上京

一元治元子三月十六日西尾十左衛門滞京中弟子引立方并稽古所之儀、万端引受致世話候様被仰付候

一同十七日御軍制取扱御用掛り被仰付

一同年七月四日京都表へ出立、九月十一日帰

一同年十月 長征出立、丑正月廿八日帰

一慶応元丑五月廿八日大砲奉行被仰付、役御番組江被入候、尚又大砲支配申談候様被仰付候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀被下配当金千疋被下置候

一同年十一月三日砲術所肝煎見習被仰付、御足充行式石御増、都合五石被下置候

一同三卯三月廿四日砲術所役配其儘軍事方兼被仰付

一同年十月十六日大砲方御用二付早速上京被仰付、廿一日出立

一同廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成、且又同日砲術教授方頭取被仰付候

一同廿五日出精相勤候二付役中銀拾五枚ツ、年々被下置候

一同年十一月十一日御都合も有之二付、勝手次第御国表江罷帰候様被仰付、廿七日帰

一慶応四辰六月廿六日会征出立、十一月十五日帰

一明治卜改元、十二月廿一日砲術教授方其儘生兵局教授方頭取被仰付

但砲術教授方頭取之儀ハ御免被成候

一明治二巳二月十五日 月給十俵

一同月廿二日会征出張ニ付千五百疋被下、外二十三両

一同年五月十六日砲術所教授方頭取試補被仰付 月給米貳十俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同年十二月九日年来砲術出精ニ付金五千疋被下候事 予備隊

一同三年三月朔日夕御足五石式口之内式石不被下候事

一同年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内十五石十ヶ

年令頒授候事

一同年十月三日是迄居住罷在候屋敷地拜地ニ被成下候

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱



筒井十太夫

百五拾石

正徳四年八月朔日 (マ、)

享保七寅二月於江戸中奥御小姓被仰付

同三月九日於江戸御切米五石御加増、都合廿五石五人扶持被成下、同日

順席被仰付

同九辰閏四月十三日表御小姓

同年八月十六日御小姓御免、大番へ入

同十七子九月十九日御手廻御書院番入

元文元辰十二月十一日新知被下

同三年五月十九日御腰物数寄方奉行被仰付

寛延三年九月廿五日御加増被下

宝曆四戌六月廿五日御腰物数寄方奉行御免、末ノ番外、年来出精相勤候

二付御近習ニ被指置、席松永次

筒井仁右衛門 左内

百五拾石 役料百石

延享二丑正月廿一日中奥御小姓被召出

同四卯十月廿三日御部屋御小姓

寛延三年十月廿五日御小道具方御書院番入

宝曆六子五月十六日養父十太夫ア卜無相違、御役其儘

明和四亥閏九月十六日御膳番

同五子七月廿三日御書院番壺番筆頭

安永三年六月廿六日御使番河津孫十郎跡、御役料百石

筒井三右衛門 仁右衛門

百石 外役料百五十石

安永五申十一月廿五日父仁右衛門跡知無相違、大番入

天明七未八月廿九日於江戸不埒之儀有之、拜知之内五拾石被召上、遠慮

寛政六寅二月廿日山奉行高屋半左衛門跡、御留守番入

同年八月廿八日御鵜方御書院番入、川村文平跡

享和二戌十二月二日御使番川地仁十郎跡、御役料百五十石

文化八未閏二月廿一日御先物頭土屋市兵衛跡

同年七月九日病死

筒井仁右衛門 左内

百石

文化八未八月廿九日父三右衛門跡知家督無相違、大御番入

文政七申七月廿九日無役御留守番世話役久田五左衛門跡

天保九戌二月病死

筒井十太夫

百石

一天保九戌三月廿九日親仁右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入

候

一弘化四未江戸詰被仰付、三月 出立

一嘉永二酉八月三日多田彦左衛門家へ替被下

但鉄砲場出来候地面江替被下候御内評也

一嘉永三戌江戸詰被仰付、四月十日出立

一同六丑二月四日病死

違被下置、大御番組へ被入候

一安政二卯三月十四日御家流砲術之義追々被仰出候処、相弟子之面々引立

厚致世話候二付御褒詞、依之御紋御上下一具被下置候

一安政四巳四月廿二日先代以来砲術心掛相手寄候面々致世話、別而近来出

精太儀二思召候、依之御目錄銀三枚被下置候

一同五午十一月十六日趣法立中数打等致候二付、為御手当銀百匁被下置候

一万延元申九月朔日此度御番割有之候処、御番士人少二付当分当務繰合七

御番組勤候様被仰付候

一同年十二月廿八日仁右衛門与改

一文久二戌九月廿九日今般農兵御端立二付、西尾十左衛門申談致教授候様

被仰付、尤砲術所頭取之義ハ是迄之通被仰付候

一同年十月十六日御番御免被成候

一同三亥十月十日仁右衛門事猪左衛門与名替

一元治元子四月十三日上京、病氣願之上八月十三日帰着

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑閏五月十四日御趣意二付役御番組へ被入候

一同廿九日御書院番組へ被入候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月十一日近来格別御用多相勤候二付、年々銀拾五枚ツ、被下置

候

一同三卯十月廿一日御趣意二付流儀之師役御免被成候、且又同断二付砲術

所頭取御免被成、年来出精相勤候二付御書院番組二其儘被指置、銀拾枚

被下置候、右二付是迄被下置候銀拾五枚之儀ハ以後不被下候

一同年十二月廿二日御書院番其儘大砲方被仰付

筒井直門 ナヲト 小太郎 仁右衛門 猪左衛門 二九郎 実鱸長左衛門弟〔士族〕

百石

一嘉永六丑三月廿五日養父十太夫病中願之通養子二被仰付、家督百石無相

一同四辰四月廿七日支度出来次第京都御警衛詰被仰付
 一同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、但出張ニ付已二月廿二日十
 三兩被下候

一明治二巳二月十七日今般御改革ニ付御役御免被成、御広間当番勤被仰付

一同年六月十六日猪左衛門事二九郎卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下、予備

隊

一同三年四月廿五日戊辰北越出張、軍事精励ニ付御賞典之内十石三ヶ年令

頒授候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同五申七月二九郎事直門ナラト

柄田

塚田喜兵衛

百石

寛文十戌於江戸被召出、百五拾石被下候処

貞享三一同半減之通被下

貞享四卯六月廿七日新番入

塚田助左衛門

百石

最前自分被召出、三人扶持

正徳元卯十一月七日父喜兵衛家督無相違、自分御扶持上ル

享保九辰七月廿五日御馬別当山田又四郎跡
 同十一年三月廿九日新番方御書院番入、相身躰末席

塚田与次内

百石

享保十二未八月五日新番被召出

同十七子九月九日廿石被下都合廿石三人、席上ヶ被下

同十八丑十一月廿五日父助左衛門跡無相違、御馬方、相身躰

延享二丑三月十一日順席

寛延二巳三月十五日御厩別当

宝曆四戌十月十九日御書院番入

柄田与次内

百石

宝曆十一巳八月廿九日父与次内休息、家督無相違、大御番入、御馬方其

儘

天明七未正月十六日御厩別当役勝村三太左衛門跡、御書院番入

寛政元酉十二月廿三日於江戸出精相勤候二付、御近習番格被仰付

同六寅十月十六日御近習番格被指除、遠慮

同十三酉正月十一日御近習番格

文化元子十月廿八日末之番外

文化五辰正月十五日出精相勤候二付、銀五枚年々被下

文化六巳十一月十六日年寄内願隠居、年々銀二枚ツ、被下

柄田与次内 権之丞

百石

文化六巳十一月十六日養父与次内年寄内願隠居、家督無相違、大御番入、御馬方被仰付

同十四七月廿五日御厩別当、御書院番入

文政四巳六月廿九日伊勢参宮途中御近習卜同道、心得違二付指扣

柄田与次内 権之丞

百石

一文政十二丑十一月廿日親与次内年寄候二付休息、家督百石無相違被下置、

大御番組へ被入

一天保五年江戸詰、四月十六日出立

一同十四卯年江戸詰、十月廿二日出立

一嘉永三戌十月廿日御書院番組へ被入

一同五子九月廿九日御厩別当勝村三太左衛門跡被仰付候

一同年十一月四日病死

柄田権之丞

百石

一嘉永五子年十二月廿四日養父与次内家督百石無相違被下置、大御番組へ

被入、御馬方被仰付候

一安政四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一万延元申五月三日家業厚心掛候二付、御書院番組へ被入候

一文久二戌四月十二日江戸詰出立

一文久二戌閏八月廿四日出火之節、臨時御用火元見兼被仰付候

一同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被仰出候二付、陸通り御先へ出立

一同三亥三月廿五日右御供二而京都方帰着

一同年四月廿日養方之弟糸之助儀、不届之所業致し令出奔候二付立帰候へ

ハ、御国追放被仰付等二候、権之丞儀も兼而締り方不参届、不調法之事

二候、依之遠慮被仰付候、急度相慎罷在候様被仰付、五月十一日御免

(慶応三) 一同年八月五日近年病身罷成、家業不自由之趣二付休息

柄田定^{シヅカ} 駒之助 権之丞養父与次内実子 (士族)

百石

一文久二戌六月十一日馬術修行として出府罷在候二付、修行中三人扶持被

下置

一同年閏八月廿四日出火之節臨時御用火元見兼被仰付候

一同年十月十八日中将様御供并出火之節、臨時御用火元見等被仰付候二付、別格之訳合を以御扶持方式人扶持御増、都合五人扶持被下置候

一同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被仰出候、陸通り御先へ出

立

一同三亥三月廿五日右御供二而帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京、同子四月廿三日御供二而帰

一元治元子六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、

依之銀式枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑五月十一日家業心懸宜二付御馬方定御雇被仰付、右御雇中御扶

持方三人扶持被下置

一 同年十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一 同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一 同三卯正月廿二日用馬乗方仕立方飼方等取調掛り被仰付候

一 同年二月朔日取調為御用立帰出府被仰付、同七日出立

一 同年二月六日御馬方並二被仰付、是迄之通御扶持方三人扶持被下置候

但出府留守中も被下置候事

一 同年四月十九日江戸表方帰

一 同年六月六日遠馬為試京都表江罷越候様被仰付、同十日出立、然ル処馬

煩出し脇本宿二滞留、同月十九日同所方帰

一 同年八月五日養父権之丞近年病身罷成家業不自由之趣二付休息被仰付、

家督百石無相違被下置、役御番組へ被入、御馬方被仰付候、且又用馬乗

方猶以厚相心得候様被仰付候

一 同年十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月十七日帰

一 同四辰六月廿五日会征出立、十月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十式

兩被下候

一 明治二巳正月廿九日御馬役并御厩吟味役兼勤被仰付、且又御趣意二付家

業之儀ハ御免被成候

一 同年二月廿六日上京、三月十七日帰

一 同年四月七日東京江出立

一 同年十月十二日帰藩被仰付候事、十一月五日帰

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一 同三年三月廿日馬術世話役被仰付候事

但八等

一 学校附属

一 同年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内金貳拾五兩被下候事

一 同年五月八日弟衆之助儀去ル四日他行仕、夜二入候へとも罷帰不申、出奔之体二相見得、恐入遠慮伺之上指扣、同十一日被免

一 同月十二日右衆之助召連来候処、土籍取放禁錮

但同十四日病氣二付囲江入置為相慎置申度旨願之通

一 同年六月十二日御用有之ニ付海津迄可罷越候事、同十四日出立、廿七日

帰

但委細之儀ハ御馬支配へ可承合事

一 同年七月九日ル七一御雇入、途中致心配候二付金千疋被下候事

一 同年十一月十四日任三等教授

但馬術掛り

一 同年十二月十二日任准三等教授 年給三十三俵

但馬術掛り

一 同四未十月廿四日御改革ニ付職務被免候事

但馬御扱ニ相成候ニ付引渡済迄ハ是迄之通

一 同五申五月駒之助事定^{シツカ}



塚谷源左衛門

百石

正徳三巳七月廿三日御鷹匠方御取立、新番入

享保六丑九月七日御切米五石御加増、廿五石三人フチ被成下

同九辰二月十九日新知百石被下、御鷹匠頭岸茂左衛門跡

元文六酉正月廿五日隠居、年寄候二付

塚谷九藏

百石

元文四未三月十七日被召出、御鷹方見習、三人扶持被下、御留守番入

同六酉正月廿五日父源左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督無相違被下、

大番入、御鷹方、但自分扶持ハ上ル

塚谷治右衛門

百石

寛保二戊五月十一日養父九藏跡目被下、大番入、御鷹方

安永二巳正月十六日御書院番入

塚谷源左衛門 休息

百石

天明三卯年正月廿五日父治右衛門跡知無相違、大番入、御鷹方被仰付

塚谷源左衛門 奥次郎事

百石

一文化四卯五月廿九日養父源左衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督百

石無相違被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候

一文政十一子江戸詰被仰付、七月十六日出立、翌丑四月廿四日帰着

一同十三寅江戸立帰出府被仰付、閏三月十五日出立

一天保九戌十二月五日養子留之助心得違之趣相聞、急度可被仰付処、度々

赦も被仰出候折柄二付、格別之御憐愍を以逼塞被仰付候、依之源左衛門

義締り方不宜、其上異見等不参届二付遠慮

一同十五辰三月廿九日御鷹匠頭岸五郎左衛門跡被仰付、是迄五郎左衛門罷

在候御役屋敷へ替被下

一嘉永六丑三月五日常男源三郎義思召を以江戸表へ被遣、長剣致修行候様

被仰付、右修行中式人扶持并月々金壹歩ツ、被下置候

一安政三辰九月十六日年寄候二付隠居被仰付、年来相勤候二付御目錄銀三

枚被下置候

塚谷義左衛門

百石

一安政三辰九月十六日養父源左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組江被入、御鷹方被仰付候、且又脇田奥右衛門家屋敷

へ替被下候

一同五午三月廿日御拝領之御鷹迎為御用出立

一同年五月十二日御滞府被仰出候二付帰着

一同七申正月十九日御拝領御鷹迎為御用出立、三月二日帰着

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一元治元子七月廿二日今般御趣意二付御鷹被相止候二付、御番士勤被仰付

候

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相

勤候段達御聴御褒詞

- 一 同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候
- 一 慶応元丑十月八日小荷駄造営方被仰付候
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀^方被下配当金千疋、同五百疋被下置候

一 同三卯四月廿五日年寄候二付休息

塚谷捨作 義左衛門倅

百石

- 一文久三亥十二月十一日近來御鷹方人少二而困窮相勤候二付、為御手当銀百五拾匁被下置候

一元治元子四月十三日京都御番士御雇詰被仰付、詰中五人扶持被下置候、
 出立、八月廿二日帰着

一 同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相
 働候段達御聽御褒詞

一 同年十二月賊徒一件二付出張被仰付、依之為御手当銀貳百匁被下置候

一 慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一 同二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一 同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀^方被下配当金千疋、同五百疋被
 下置候

一 同年四月廿九日三番之補兵隊へ割替

一 同年九月十八日帰

一 同三卯四月廿五日親義左衛門年寄候二付休息被仰付、家督百石無相違被
 下置、大御番組江被入候

一 同年九月廿日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候

- 一 同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立
- 一 同四辰十一月晦日病氣二付帰
- 一 同年三月十三日病死

塚谷石之介

元知百石

一 慶応四辰閏四月四日兄捨作病中願之通相続被仰付、家督幼年二付御定之
 通御扶持方拾人扶持被下置、御留守番組江被入候

一 同五日幼年二付御広間当番勤御用捨被成候

一 同年五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一 明治二巳八月十四日今般無役組ノ名目被廢候二付、修業生卜可唱候事
 但学校管轄并御礼席是迄之通

一 同年十一月廿八日今般給禄御改革被仰出候処、元知ヲ以適宜御改正之上、
 更御規定之通米五拾六俵三斗九升九合被下候、然ル処算違二付六拾俵四
 斗三升六合被下候事

但幼年二付給料之六割ヲ以扶助料被下候米三拾四俵五升七合也

一 同三午二月四日宮下常次郎代勤為致度旨願之通被仰付候、依之給禄米六
 十俵四斗三升六合高二被成下候事



辻盛庵 的庵

廿五石五人

享保十一年十二月十九日於江戸被召出

〔士族〕

元文五申正月廿八日智高院様付奥医

延享元子十月廿一日奥医

寛延二巳五月六日表御用可相勤旨

宝曆七うし四月七日倅弥三八出奔いたし候二付、表医師被仰付、御叱遠慮

辻好庵

廿五石五人

宝曆九卯五月廿五日父盛庵休息、家督無相違被下、表医師

同十四申四月十九日奥医

辻十郎右衛門

百石

明和六丑十一月五日父好庵跡目、幼年二付七人扶持被下置、表御医師

安永四未六月十九日若殿様御相手、御医師被指除、御小性大道寺滝之丞

次被仰付

同八亥正月廿八日十五歳二相成候二付、御切米廿五石五人扶持御直被下

天明元丑六月十一日御附御小性

寛政五丑十月廿日於義丸様御附御小性頭取

同六寅三月十五日御部屋附御近習番被仰付、御書院番組へ被入、席御表

御納戸上席、役席八丹羽市左衛門上席

同八辰四月十五日御近習番頭取格二被成下、御表御近習番被仰付

同九巳四月廿八日新知百石被下置

同年十月朔日御近習番頭取格其儘、御書院番組二被指置、御小性頭取被

仰付

同十一未二月廿八日御近習番頭取御膳番被仰付

同十一未九月十八日御用人支配

享和元酉八月三日御附御近習頭取其儘二而奥ノ御番

同年十一月廿八日御表様御小性頭取、格式末ノ番外被仰付

同式戌十二月六日御徒頭次席、御近習番御供頭并江戸御時宜□□

同三亥二月六日席其儘中将様御近習頭取、奥之番席其儘

文化二丑五月十三日御徒頭大道寺十右衛門跡、役料五十石

同十二亥六月朔日御使番村上郡太夫跡被仰付、御役料百五拾石被下置候、

根来半兵衛次

同十三子七月九日御供頭兼帶

文政三辰正月十五日御役其儘御先物頭次席大道寺七右衛門次

文政十一子十二月十六日年来相勤候二付、銀五枚ツ、年々被下置候

文政十二丑十月御趣意二付、家内共御国元へ引越被仰付

同年十二月三日御先物頭大野猪兵衛跡被仰付、来寅年御留守詰被仰付

天保二卯十二月十六日御側物頭大関助左衛門跡

天保五年五月廿四日年寄候二付隠居被仰付、養子益三郎家督百石無相

違被下置、大御番組へ被入候、且又十郎右衛門儀年来相勤候二付、是迄

被下候銀五枚其儘被下置候

辻十郎右衛門 益三郎事

廿五石五人

一天保五年五月廿四日養父十郎右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江

被入

辻

一同年十二月十五日若殿様御附御近習番被仰付、御書院番入

一同六年江戸詰、三月廿八日出立、同年六月九日帰着

一同年六月十一日超倫院様御逝去、二付御役御免、大御番入

一同九戌五月十一日御広敷御用達被仰付

一同十二年江戸詰

一同十三寅五月四日於江戸表御門所心得違二付、拜知并役儀御取揚、御充

行廿五石五人扶持被下置、大御番組江被入

一嘉永元申十二月五日御右筆本役被仰付、来春ニ至り家内共江戸表へ引越

被仰付

一同二酉九月十六日役儀御免、伺之上遠慮十一日、同九月廿六日御免

一安政元寅十二月八日次男徳太郎出奔二付、遠慮伺之上差扣被仰付置候処、

同十四日御免

一同二卯五月四日病身二付内願之通休息

辻平六 浅之助 五郎左衛門

〔士族〕

貳拾五石五人

一安政二卯五月四日親十郎右衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督廿五

石五人扶持無相違被下置、大御番組江被入候

一同五年九月十五日御内用御右筆見習被仰付候

一文久元酉十二月十日御内御右筆本役并御右筆部屋兼帯被仰付、御書院番

組へ被入候

一同三亥三月廿三日御前様御供二而御国へ着、廿五日折返シ出立

一同年十二月 五郎左衛門卜改

一元治元子五月朔日御用弁之訳も有之二付、御右筆部屋之方重ニ相勤候様

被仰付候

一同年七月廿九日御用弁之訳も有之二付、御右筆部屋之方重ニ相勤候様被

仰付置候処、御用指支候ニ付是迄之通御用部や之方重ニ相勤候様被仰付

一慶応二寅三月十九日当分御右筆部屋之方重ニ相勤候様被仰付

一同年十二月六日御代拜御物頭使者被仰付

一同三卯八月五日迄迄表御右筆重ニ相勤候様被仰付置候処、今度御趣意ニ

付尚又重ニ相勤、平日出勤も御右筆部屋江罷出御用向相勤候様、御内用

御右筆之方指支候節ハ、手伝御用相弁候様改而被仰付

一同四辰正月廿五日今般御趣意ニ付御国表江引越被仰付、然ル処直ニ詰

一同年三月六日御趣意ニ付支度出来次第御国表へ罷帰候様被仰付、四月十

五日着

一同年四月廿九日家屋鋪飯田主税罷在候屋敷地ニ於而新規之家作被下置候

一同年閏四月廿五日御書院番其儘、扨御納戸役高田敏吉跡被仰付候

一同日今般江戸御屋鋪引扨諸向跡仕廻等致心配候ニ付、銀壹枚被下置候

一明治二巳四月廿日今般御改革ニ付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同年五月四日元御書院番組席ニ被仰付、御広間番

一同年六月廿日五郎左衛門事平六卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



土田源五兵衛

拾八石三人

延享元子十一月十一日三石御加増、御留守番へ御取立、御小姓目付方御

土蔵番中村利兵衛跡

拾八石三人

文政十一子三月十一日養父一右衛門家督無相違、無役御留守番入

天保二卯六月廿五日大御番組入

土田源助

拾八石三人

延享三寅六月廿八日父源五兵衛休息、家督無相違被下、大番入

土多源内 忠次郎 源五兵衛

拾八石三人

一天保十五辰八月廿九日父市右衛門家督拾八石三人ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候

〔土族〕

土多忠右衛門

拾八石三人

寛延三年四月五日父源助跡目被下、大番入

明和五子九月廿三日相身牀末

安永五申八月十四日御土蔵番御留守番入

天明八申七月廿五日御土蔵番相ミ、大御番入

一万延元申六月廿六日御番御供皆勤二付御紋御帷子被下

一文久三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日帰着

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿八日出立、十月晦日帰

一同年十月廿四日於京都表番改役近藤十兵衛跡被仰付

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿五日帰

一同年七月五日御番両度皆勤二付御紋御帷子被下置候

一同年十一月三日御趣意二付役義其儘御書院番組江被入、但勤方は迄之通

一同三卯十月廿五日役儀其儘御留守番組へ被入候

一同年十二月廿八日忠次郎事源五兵衛与名替

一明治元辰十月廿二日已来服忌令掛り同様相心得相勤候様被仰付

一同年十二月十六日老母へ仕方を始兼而心得方宜趣達御聴御褒詞

一同月廿日為失却当年限銀壹枚之当りを以被下置候

一明治二巳六月十七日源五兵衛事源内卜改

一同年十一月九日今般御改革二付御広間当番被廢候、依之役儀被免候事

但席大平弥嘉良次

一同月廿五日御改革二付、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同年十二月九日御本丸預り被仰付候事 年給六俵

都筑¹

都筑三郎左衛門

廿石三人

寛保二戌十一月五日御徒目付^ろ御取立、上水奉行、大番入、川地五左衛門跡

宝曆七うし五月廿九日御代官、二石御加増、藤井曾兵衛跡、御足高五俵

ハ上ル、御留守番入

同十一巳四月十六日御役御免、大番入

同七月廿五日御掃除奉行岡嶋清右衛門跡、御留守番入

同十四申十一月十一日御代官大越猪左衛門跡

都筑三郎左衛門

廿石三人

明和三戌八月五日父三郎左衛門休息、家督無相違、大番入

同年九月十六日御定之年数相満候二付相身躰末

天明八申三月十一日御広式御用達御留守番入

寛政二戌五月廿八日致姫様附御広式御用達

寛政二戌九月廿日御定之年数相満候二付順席二被仰付

同四子九月十四日御花畑絵奉行嶋津右太夫跡

文化六巳十月廿日年寄候二付休息被仰付

都筑三郎左衛門 大吉

式拾石三人

文化六巳十月廿日親三郎左衛門年寄休息、家督無相違、大番入

都筑甚平 加一郎

廿石三人

文政十三寅十二月五日父三郎左衛門休息、家督廿石三人扶持無相違、無役御留守番入

天保四巳三月廿日高江又五郎家屋敷御替被下置

天保八酉十二月十一日不慎之趣相聞候二付遠慮

天保十亥正月廿九日病身内願二付休息

同十一子九月十六日当春不慎其上不宜趣二付遠慮

都筑利八郎

廿石三人

〔士族〕

一天保十亥正月廿九日養父甚平病身二付内願之通休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十一子九月十六日養父甚平当春不慎之上不宜儀有之、遠慮被仰付

一同十二丑三月廿五日兼而家内取締り方不参届趣二付遠慮

但此節も養父甚平御国立退被仰付、右二付利八郎義も御咎、四月

十六日遠慮御免

一安政三辰五月廿二日年来柔術出精二付、花葵御紋付御扇子一本被下置候

一同年十月廿五日川狩二罷越候節御場所を不弁不法之趣相聞、依之遠慮被仰付、十一月十日御免

一同四巳四月廿二日御製造方見習被仰付候

一同五年十一月十六日制産方被仰付候、同日出精相勤候二付、銀三百匁被下置候

一文久二戌九月十一日制産方吟味役御勘定吟味役打込勤被仰付候

一同三亥九月五日屋敷地御用地ニ被仰付、代地之儀ハ製造局地所之内ニ而相当之坪数被下置、是迄之居宅悉皆引移候様被仰付、右引料之儀ハ取調之上追而被下置候旨

一同年九月廿七日右同断之処御都合も有之ニ付、先達而御用地ニ相成候新屋敷、元御徒地之内ニ而相当之坪数被下置候

一同年十一月廿一日出精相勤候二付銀三枚ツ、年々被下置候

一元治元子六月廿日出精相勤候二付銀四枚御増、都合七枚ツ、年々被下置候、同日御勘定吟味役打込勤之義ハ御免被成候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一慶応元丑五月廿八日御趣意ニ付役御番組ニ被仰付候

一同二寅五月廿日製造奉行御用多之節、助同様相心得諸事取扱候様被仰付

一同三卯二月十六日御代官役有沢勘介跡被仰付、御留守番組江被入候

但転役被仰付候二付、是迄年々被下置候銀七枚之儀ハ以後不被下候

一同四辰閏四月十一日御代官役其儘郡方吟味役兼勤被仰付候

一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付

一同年二月十七日民政局庶務方下被仰付 月給十五俵 後米ハ不被下候

一同年七月十九日御代官役之義ハ被免候事、但月給米是迄之通

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付役義被免

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三年正月十日治水堤防等格別致出勤ニ付、金三百足被下候事

都筑²

都筑栄 元武生家来 午四十二

一嘉永四亥正月(マ)

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給禄之儀ハ適宜御改正之上更被下候事

一同三年正月廿三日米四拾六俵四斗式升被下

一同年八月廿二日福井へ引越被仰付候事

一同年九月十日御花畑ニ而百九十六坪拜地被下候事

一福井引越被仰付候二付、是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之義ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り

一同年十月十二日予備隊江被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同六年六月廿二日病死ニ付倅逸藏へ家督

都築逸藏

〔士族〕

妻木

妻木玄真

式拾五石五人

元禄十六未九月廿五日養父宗雲跡目無相違、御外科
享保四亥六月十一日長病二付玄孝へ跡目、五人扶持被下

妻木宋雲

廿五石五人

享保四亥六月十一日養父玄真長病二付為跡目御扶持方五人被下、外科
同十巳二月十三日御切米御扶持廿石三人被下
同十七子九月十九日二人扶持二五石御加増被下、都合式拾五石五人

妻木宗伯

廿五石五人

明和二酉二月廿五日父宋雲休息、家督無相違被下、表御外科

妻木栄輔

廿五石五人

天明四辰九月十一日養父宗伯跡目無相違被下、表御外科
寛政八辰十月四日奥御外科
文政九戌九月十六日年来出精二付奥御医師格、且家業年来厚心懸医学所
も精二入致世話二付、金貳百疋被下

文政十一子九月廿九日病身内願之通休息被仰付、家督無相違倅敬蔵へ被

下、表外科被仰付、思召を以隠居之御取扱被成下候

妻木敬斎 敬蔵

式拾五石五人

一文政十一子九月廿九日父栄輔病身二付内願之通休息、家督無相違、表御外科被仰付、父栄輔儀思召を以隠居之御取扱被成下候

一同十二丑十一月十六日奥御外科

一同十三寅年江戸詰、四月十日出立

一天保三辰年为御迎立帰り、四月二日出立

一同四巳年(マ、)

一同五午四月十日為御迎出立

一同十四卯四月廿三日為御迎出立、六月十日帰着

一同十五辰年正月十三日御見送り二而出立、二月廿日帰着

一弘化三年三月七日為御迎出立、五月十二日帰着

一同四未三月十九日御見送り二而出立、四月廿六日帰着

一嘉永元申六月急御出府御供二而出立、七月御供二而帰着

一同三戌四月八日為御迎出立、五月十二日御供二而帰着

一同四亥年江戸御見送り

一同五、十一月十四日休息、思召を以隠居之御取扱二被成下候

一万延二酉正月廿五日本草講師年来相勤候二付年々銀三枚ツ、被置下候

妻木達トヲル 元真 敬斎

廿五石五人

一嘉永五子十一月十四日親敬斎病身二付内願之通休息被仰付、家督廿五石

五人扶持無相違被下置、表御外科被仰付候

一同年同月十六日與御外科被仰付候

一同六丑三月廿二日為御見送立、同四月廿八日帰着

一安政元寅十二月十六日種痘之義ニ付御褒詞

一同三辰十二月十六日除痘館当番致勤候ニ付御褒詞

一同四巳四月十九日句読師兼助講被仰付

一万延元申十二月十一日弟讓逸不埒至極之趣相聞候ニ付蟄居被仰付、其方

儀も兼而異見等不参届趣相聞候ニ付遠慮

一文久元酉十月四日弟謙叔兼而行状不宜、其上心得違之趣有之ニ付、願之

上御国為立退候、依之遠慮伺之上指扣、七日御免

一同三亥八月十七日御参府御供ニ而出立、御見送相済、折返シ帰着

一元治元子八月廿八日御上京御供立、夫方征長、丑二月二日帰

一同年十二月敬齋卜名替

一慶応二寅十二月十六日出精相勤候ニ付、奥御医師格ニ被仰付候、本道之

儀も相心得候様、且又昼御番相勤候様被仰付候

一明治二巳五月朔日内務局当番被免候

一同年八月二日敬齋事達下改

一同月十二日元御留守番席江被入、御広間当番勤被仰付、家業之儀ハ被免、

席中野千次郎次

一同年十一月七日依病氣願隠居

妻木元藏 小木巳三郎 言造 妻木言造 実小木左平次三男 達養子〔士族〕

元治元子十月十五日長征出立

妻木

一 医道修行

一慶応三卯三崎宗記同道京都、同四辰三月帰

一同四辰六月廿五日会征出立、巳三月三日病人引纏帰着、巳二月廿二日出

張ニ付十式両被下候

一同年七月廿日今度越後表へ出張被仰付候処、難渋之訳も有之ニ付為御手

当銀七百匁被下置候

一明治二巳八月十四日妻木達養子願之通被仰付

一同月廿一日言造事元藏下改

式十五石五口

一同年十一月七日養父達儀依病氣願隠居被仰付、家督廿五石五口無相違被

下、進業生被仰付候事、但席半井清次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同年十二月十九日修業隊江被入候事、但支配是迄之通

一同三年二月四日病院調合方被仰付候事

但修業隊其儘

一上級

一同年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励ニ付、御賞典之内十石三ヶ年令頒

授候事

一同年六月二日十五等ニ被仰付候事、但年給是迄之通

一同月十五日病院看頭被仰付候事、但上級

一同年七月廿二日病院書記被仰付候事、但上級

一同年十月十日任病院調合所取締 十五等 掛所

一同年十二月十二日任四等医 年給式拾八俵

但診察方兼調合所取締

一同四未十二月四日病院御改革ニ付免職

一同十八日更二会社魁病院大司藥生兼診察方



辻岡玄順

十五人

天明四辰五月廿四日表御医師被召出、五人扶持被下置

同年七月五日五人扶持御加増、奥医

同六年十月廿七日御匙医格

同九酉正月十四日御匙医、御足扶持五人扶持被下置

享和四子二月廿日御足扶持御加増御結被下

文化七年十月廿三日隠居、折々御機嫌窺

辻岡玄順 東庵

拾五人

文化七年十月廿三日養父玄順隠居、家督無相違、表御医師

同廿七日奥御医師被仰付

同八未四月廿九日於江戸御匙医、仁之助様御用引受

同九申四月廿八日於江戸当詰中留主フチ五人

同十一戌四月廿六日於江戸向後江戸詰中留守扶持五人

文政十亥九月廿四日隠居、折々御機嫌伺罷出候様被仰付候

辻岡玄順 東庵事

百石

一文政七申江戸詰被仰付候

一文政十亥九月廿四日養父玄順病身内願二付隠居被仰付、家督拾五人ふち

無相違被下置、表御医師被仰付候

一同年十月十六日奥御医師被仰付

一同十一子十二月十六日御匙医師被仰付候

一同十二丑江戸詰被仰付、四月十四日出立

一天保三辰江戸詰被仰付、十一月三日出立

一同六未十一月五日江戸詰中留守ふち五人扶持被下置候

一同七申江戸詰被仰付、四月十五日出立

一同十亥江戸詰被仰付、九月朔日出立

一同十四卯江戸詰被仰付、九月六日出立

一弘化四未江戸詰被仰付、三月 出立

一嘉永元申九月十五日出精相勤候二付、新知百石被下置候

一同四亥二月五日病身二付内願之通隠居被仰付候、且又年来相勤候二付御

召御羽織一被下置候

辻岡東庵 実山脇元恭弟

百石

一嘉永四亥二月五日養父玄順義病身内願之通隠居、家督百石無相違被下置、

表御医師被仰付

一同五子十二月十六日種痘之儀致出精候段達御聴太儀思召候段、御側御用

人を以被仰付候

一安政三辰五月十三日坪井信良講席等江も爾々不罷出、兼学之体無之趣相

聞如何之事二候、左様之心得二而八当今思召を以被仰出候御趣意通二相

背候間、以来信良江相手寄原書相学候様被仰付候

一同四巳四月十九日助講師句読師兼助教被仰付候

一同五年十一月十六日北国筋湊々見分爲御用公儀御役人中罷越候二付、附

廻り御用被仰付候、十二月十一日御褒詞

一文久二戌六月十四日奥御医師被仰付、支度出来次第芝御陣屋詰被仰付、

同廿四日出立

一同年八月 病死

辻岡直江 東園

百石

一文久二戌閏八月廿九日親東庵家督百石無相違被下置、表御医師被仰付候

一元治元子十月十七日修行願之上上京、丑四月四日帰

一明治二巳正月十六日助句読師被仰付

一同年三月十五日東園事直江卜改

一同年四月十日東京江出立

一同年五月廿六日奉願英医ウリース隨身仕候処、尚又同人預り之大医学校

江入塾願之通被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月十九日修業隊江被入候事、但支配是迄之通

一同三年三月廿六日長崎県江爲修行横浜方出船、九月廿日親対面願罷越引

返無程出立

一同年十月三日本多興之輔返上屋敷内ニ而式百廿五坪坪地被下候

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同四未三月十四日先般被下候坪地、更ニ御用ニ相成候事

一同五申五月長崎医学校方申来

引間 石田 辻岡

文部本省方御達之趣ニ付公費被廢、月俸相立不申不得止退校之

次第之処、右三人共追々進業且規則之年限も有之ニ付、留校相

成候様

返事

右同断ニ候得共当県ニ而者難斗ニ付、見込も有之候ハ、直ニ同

省へ御届之上御処分有之度との事也

〔士族〕

坪井

元治元子年公儀へ被召出候二付、其身一代ニ而剝取ニ相成

坪井信良

拾人扶持

一嘉永六丑九月三日被召抱、其身一代御扶持方拾人扶持被下置、御外科次

席被仰付

一同七寅四月十三日御用之節ハ奥御医師同様相勤候様被仰付候

安政三辰年御供ニ而御国詰

一安政三辰五月十三日奥御医師格被仰付、其身一代之名目被相除候

一同四巳四月十二日今度於明道館洋学所御取建ニ相成候二付、以来医学所

御用透之節ハ同所江相詰、教導方致世話候様被仰付候

一同年四月十九日講師被仰付候、且又原書教授兼

一同年十一月晦日蕃書調所出役教授手伝被仰付候段、昨廿九日堀田備中守

殿方御書付を以被仰出候、右相勤候内従公辺爲御手当拾人扶持并壹ケ

年金拾五両ツ、被下置、委細之儀ハ古賀謹一郎殿承可含旨ニ候、尚又厚

相心得相勤候様被仰付候

一万延二酉正月十五日御匙醫師格被仰付、靈岸島御屋敷住居之上、洋学之儀も厚致世話候様被仰付、右二付御足五人扶持被下置候

一文久三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供

一同年三月八日松平豊前守殿へ御聞番御呼出二付罷出候処、医学所教授職相勤候様可致、是迄之御充行其儘被下之、尤竹内渭川院緒方洪庵可談旨被仰付候、但同月十八日於京都被仰付

一同廿三日中将様御供二而京都方御国江着、同廿八日江戸へ出立

一元治元子五月廿五日御匙醫師被仰付候

一同年十一月 御席を以拜閱被仰付候

一同 差出奥御醫師被仰付、二拾人扶持被下置、役中式百俵外二御番料式百俵被下置候

一同 法眼被仰付候

一同二丑二月朔日今般公辺江被召出候二付、是迄被下置候御扶持方十五人扶持之儀ハ以後不被下候



佃貢 元武生家来 午三十八

〔士族〕

一 嘉永七寅三月 (マ、)

一 明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上二付士族二被仰付、給祿之儀ハ適宜御改正之上更被下候事

一同三年正月廿三日米六拾俵四斗三升六合被下候

一同年五月廿五日本多興之輔願之儀二付、押而強願申立心得違二付謹慎、

六月十日被免

一同年九月三日御不審之筋有之、出福被仰付候処、夫々御調之上御分り相成候二付帰宅可致事

一同月十日去月廿二日福井へ引越被仰付候処、杉田説三郎返上下屋敷内二而式百廿五坪拜地被下候事

一 是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之義ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候、但百日限り

一同年十月十二日修業列江被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申七月十九日第五区土居原町組副戸長

四 福井藩士履歴 て



寺沢勘左衛門

百石

貞享四卯九月七日表御小姓被召出

宝永三戌八月廿九日御代官

享保五子七月廿一日御預所御代官

同六丑十月廿五日新知、京都御用引越被仰付、本多武兵衛跡、但シ大番入

同十月廿九日京御目付

同十一午四月五日五拾石御加増、御役料百石、格式御使番並被仰付

同十六亥十一月廿九日御役御取揚遠慮

同十二月廿五日遠慮御免、五拾石被減、大番入

延享元子十一月七日休息

寺沢八郎

百石

延享元子十一月七日父勘左衛門休息、家督無相違、大番入

宝曆六子正月十六日御右筆見習、御家老中方跡部多仲高橋純助申談相勤

候様

同七うし十月廿四日御役御免

寺沢藤左衛門

百石

安永八亥九月廿日養父八郎休息、家督無相違、大御番入

天明八申八月十日道奉行上水方取扱候様被仰付

同九酉正月十四日奥御納戸御書院番入

寛政二戌十月廿九日御腰物数寄方奉行御部屋附兼帯

同三亥二月四日御部屋附御近習番

同十年十二月七日席其儘御附奥御納戸役沢木彦左衛門跡

文化元子十月廿四日御留守作事奉行岡部市右衛門跡

同二丑十月廿九日郡奉行、小栗次右衛門跡下領支配被仰付、役料五十石被下置

同七年六月廿一日御預所郡奉行真田五郎兵衛跡、御役料都合百五十石、

席御先物頭次、御役人並

文化九申七月三日御先物頭雨森甚四郎跡

文化十一戌十二月三日隠居

寺沢又助 四郎兵衛

百石

文化十一戌十二月三日父藤左衛門隠居、家督無相違、大番入

寺沢藤左衛門 多之助

百石

一天保二卯三月十一日養父藤左衛門病中願之通養子被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組へ被入

一同八酉年江戸詰、四月十五日出立

一同十二丑年江戸詰、三月廿三日出立

一同十五辰九月 遠慮伺之上差扣

一弘化四未年江戸詰、三月十六日出立

一嘉永二西六月廿九日無役御留守番組世話役榊原仁右衛門跡被仰付

一同七寅六月四日御勘定拝借奉行御趣意金取扱山崎七郎右衛門跡被仰付、

御留守番組へ被入

一安政元寅十二月五日於御趣意方大橋御備金、兼而以心配今般御修覆無御

滞相濟候二付御褒詞

一安政三辰五月九日御札所奉行林作助跡被仰付、大御番組へ被入候

一同年十月廿五日新札引替之節出精相勤候二付、御紋御上下一具被下置候

一安政五年五月十一日格式末之番外二被仰付、役儀之義者御免被成候

一文久三亥十月七日御纏奉行被仰付候

一元治元子五月二日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、役

儀之義ハ御免被成候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑八月十四日病死

寺沢勘之介 四郎

〔士族〕

百石

文久二戌七月十一日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、詰中御扶持方

五人扶持被下置候、十月十九日出立、同三亥九月廿四日帰着

一元治元子六月廿六日御舍御用有之、早速上京被仰付、五人ふち被下置、

一同廿八日出立、八月廿三日帰

一同年十二月賊徒一件二付出張被仰付、依之為御手当銀貳百匁被下置候

一慶応元丑十月五日親藤左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年十一月廿三日今度大坂表へ出張二付願之上引上、四郎事勘之介卜改

名

一同年同月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀被下配当金千疋被下置候

一同三卯十一月二日宰相様御上京二付速見迄御見送り出立、同七日帰

一同年同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立

一同四辰四月十日帰

一同年九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京へ出立、十月十二日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十表四斗三升六合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

寺木

寺木源左衛門 弥一右衛門

拾八石三人

元文元辰八月廿一日小役人格方御取立、三石御加増、新番入御取立、御

大工頭其儘

寺木十右衛門

拾八石三人

延享二丑七月廿五日父源左衛門休息、跡目無相違、大工頭

寺木十太夫

廿石三人

宝曆四戊閏二月五日養父十右衛門跡目被下、新番入、養父之通大工頭可相勤旨

明和三戊七月廿九日役義出精二付大番入

天明三卯正月十六日式石御加増

寛政二戊九月廿日御定之年相満、相身躰末

寺木十太夫 忠太郎

廿石三人

文化四卯十月廿九日父十太夫義年寄内願二付休息被仰付、家督無相違、大御番入、大工頭被仰付、十太夫儀年来相勤候二付、御目録式百疋被下置

同七年十二月十一日当時勤方御免、御留守番へ被入

同九申十月十九日無役御留守番入

文政十二丑三月廿日御花畑繪奉行大平弥次右衛門跡被仰付、御留守番入

天保四巳正月廿九日御旗本御武具奉行新海助左衛門跡

同九戌五月廿九日御祈禱奉行成瀬平左衛門跡被仰付、大御番組へ被入

寺木十太夫 十次郎事 十右衛門

式拾石三人

一天保十亥五月十一日親十太夫年寄候二付休息被仰付、家督廿石三人扶持

無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同年十二月四日御定之年数相満候二付順席被仰付

一安政四巳八月廿日御作事改役皆崎次右衛門跡被仰付候

一同九月廿九日十太夫与名替

一同五午二月十六日御普請方割場役所御作事方役所へ為引移候二付、御普請方改兼被仰付候

一同年七月十一日此度桜御門頼当御普請中格別出精二付御褒詞

一同年十二月十一日今度外国奉行始湊為見分御通行之節、出精二付御褒詞

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一文久元酉十一月十一日今度大橋御門御普請中出精相勤候二付、金式百疋被下置候

一同三亥八月廿九日御代官役竹内嘉藏跡被仰付、御留守番組江被入候

一元治元子八月廿九日御趣意二付役儀御免被成、御留守番組二其儘被差置、是迄出精相勤候二付銀七枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一慶応元丑十月十六日昨年御趣意二付御役御免被成候処、是迄出精相勤候

二付御書院番組へ被入、年々銀五枚ツ、被下置候

一同二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付

候

一同三卯二月廿五日年寄候二付休息

寺木兵四郎 孫吉 兵士郎 十太夫養子

廿石三人

文久三亥五月廿五日当亥年御參府之節御番士役配御雇御供被仰付、逗留

中五人扶持被下置候旨、八月十七日出立、十二月江戸方御上京御供

一元治元子二月十三日御供二而帰着

一同年二月廿日支度出来次第上京被仰付、在京中五人扶持被下置候、三月十一日出立、四月十二日帰

一同年十一月二日京都詰早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騒乱二付立帰罷越

一同年十二月右同断出張、御手当貳百匁被下

一同二丑正月十九日再上京、五月六日帰

一慶応元丑閏五月十八日一番之補兵隊被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十二月兵士郎与名替

一同三卯二月廿五日養父十太夫年寄候二付休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年三月九日賀陽宮様御附人被仰付、御扶持方五人ふち被下置候

但為失却月々三両ツ、、外衣装料拾兩被下置候

一同年四月二日上京、然ル処御先方御断二付同月十三日帰

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処、御模様二付途中方引返帰

一同年十二月廿八日兵士郎事兵四郎卜改

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、已二月廿二日出張二付十三兩被下候、外二千五百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石廿ヶ

年令頒授候事

一同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十月廿八日病死

寺木健夫 タケヲ 喜登多 已十九歳

〔士族〕

米四拾貳俵六升

一明治三年十一月十九日養父兵四郎家督米四拾貳俵六升無相違被下、非役

江被入候事

一同五申五月喜登多事健夫 タケヲ

寺本

寺本仲 新五右衛門

〔士族〕

廿三石五人

一嘉永二酉十一月三日かとか

一慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出、新番組二被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候

一同三卯正月廿二日砲術所世話役被仰付

一同年九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候

様被仰付、十月七日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付御酒被下置候

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一 同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三
兩被下候、外三千疋

一 明治二巳二月十八日大砲隊彈藥預被仰付 年給貳俵

一 同年六月廿一日新五右衛門事仲卜改

一 同月廿八日大砲彈藥差配方被仰付

一 同年九月十二日予備隊江被入候事

但席久保虎太郎次

一年給已後不被下候

一 同年九月廿九日多年精勤之處御藩制御改革二付、為御慰勞廿五兩被下置
候

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米五十俵壹斗五升被下

一 同三年四月廿五日戊辰北越出張各所戰爭拔群尽力二付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一 同年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一 同年十二月 予備一番隊 年給貳俵

一 同四未四月七日右解隊被仰付候事

五 福井藩士履歴と



富永新左衛門

三百五拾石

元祿二巳四月五日父新左衛門跡目無相違被下

富永新左衛門

三百五拾石

享保五子二月廿八日父新左衛門隱居、家督無相違被下

寬保二戊五月廿五日隱居

富永新左衛門

三百五拾石

寬保二戊五月廿五日養父新左衛門隱居、家督無相違、席磯野多宮次

寬延四未二月廿九日御側御小姓支配

富永新左衛門

三百石

初衛守 病死

寶曆三酉十一月五日新左衛門病中相願置候新吾義病死、家斷絶之處、新

左衛門義家柄其上御側役相勤候二付、格別之趣を以名字御立被下、新知

三百石被下、寄合席本多五郎右衛門次

同九卯五月十一日指扣

寬政十年十二月九日来相勤候二付御紋御上下被下

富永孫四郎

三百石

享和三亥二月十六日父新左衛門跡知無相違、寄合席仙石万右衛門次

文化十一戌十二月十六日来武術出精二付御召御上下被下

文政二卯二月七日無役御留守番支配

富永新左衛門 延次郎事

三百石

一文政七申十月七日親孫四郎跡知三百石無相違被下、寄合席飯田作左衛門

次

一天保九戌江戸立歸出府被仰付、七月四日出立、九月十一日歸着

一同十五辰二月廿九日無役御留守番支配仙石万右衛門跡被仰付

一嘉永元申九月十五日御用人見習被仰付、役中御足高五拾石被下置

一同二酉正月廿三日御用人月番打込勤被仰付

一同三戌江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同四亥四月九日於江戸表御用人御奏者兼被仰付候

一同年十一月十七日遠慮伺之上指扣被仰付置候處、御免被成候

一安政二卯二月廿四日御世譜掛り被仰付候

一同三辰正月十六日当秋江戸詰被仰付、詰中御足高五拾石被下置候

一同年四月廿日此度黄門様御遠忌二付、於運正寺御廟御造營被仰出候處、

纒之日數二而宜出来太儀二思召候段被仰出候

一安政三辰五月六日御鵜支配被仰付候

一同年江戸詰被仰付、八月廿三日出立

一同五年十月十八日此度北国筋湊々御見分為御用公儀御役人被罷越候二付、

右御用掛り被仰付候

一同十二月十一日右御用懸り出精二付御褒詞

一万延元申八月廿日來酉ノ春江戸詰被仰付、詰中外二御足高五拾石被下置、

正中引揚可致出府之旨被仰付候

一同年九月十日來酉春江戸詰被仰付候処、持病爾々無之二付詰之義ハ御免被成候

一文久元酉十二月十一日御鷹支配被仰付、御鶴支配之儀ハ御免被成候

一同二戌八月朔日御番割御用掛り被仰付候

一同年十月廿二日病身二付内達之通御役御免被成、御近習二被指置候、且又是迄役中被下置候御足高之儀ハ不被下候

一元治元子二月廿九日隠居

一同二丑正月八日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節者中ノ口致往来候様被仰付候

富永半哉 浜之助 衛守 実水谷織部次男
三百石

〔士族〕

文久二戌二月十一日当戌年大袍為御用芝御陣屋御雇詰被仰付、右詰中御

扶持方五人扶持被下置候、三月廿六日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供二而帰着

一元治元子二月廿九日養父新左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督三百石無相違被下置、寄合之席被仰付候

一同年三月十三日酒井与三左衛門方手へ御附被成候間、申談厚世話致候様被仰付候

一同年四月十一日昨年酒井与三左衛門方江農兵一組御附被成候処、今般御

軍帳御割替二付御免被成、稲葉采女方江増御附被成候間、申談致世話候様被仰付、采女方在京留守中ハ与三左衛門方江可申談旨

一同年四月十九日稲葉采女方御用多二而調練出勤無之節ハ、本多孫四郎都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日孝顕寺火消被仰付候

一同月十四日御軍帳御割替二付農兵二組稲葉采女方江御附被成、熊谷熊之助義先達而農兵之義厚申談候様被仰付置候処、今度酒井与三左衛門方江農兵一組御附被成候間、其手へ属シ是迄之通相心得候様被仰付候

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑二月廿二日御側役并御用人見習役中御足高五拾石被下置候、右二付惣御小姓表御小姓支配被仰付候

一同年三月七日征長御供方罷帰、無間も敦賀表江出張太儀之段御褒詞、但二月朔日出張、同九日帰

一慶応卜改元、六月廿五日御用人月番打込相勤候様被仰付

一同二寅八月十一日御旗本調練掛り被仰付

一同年十一月 居宅出火二付伺之上遠慮、同十五日御免

一同三卯正月廿二日御趣意二付御役御免被成、調練掛り被仰付、依之以来中ノ口往来御用人下ノ部屋江罷出候様被仰付

一同日御役御免被成候二付、是迄役中被下置候御足高之儀ハ以後不被下候

一同年九月廿九日調練致世話候様被仰付置候処、御免被成候

一同年十二月廿八日浜之助事衛守卜改

一慶応四辰正月八日殿様御出馬之節御供被仰付、且又子弟輩御供之面々差配被仰付

一同廿五日今般勅使御通行之節御用人勤被仰付候

一同年三月五日下馬御門并三ノ丸御座所御門御預ケ被成、御警衛向厚相心得相勤候様被仰付

一明治卜改元、十月廿三日子弟輩嗜調練放發等之節、砲術教授方頭取并軍事方頭取申談取締致世話候様被仰付

一同年十二月廿八日半哉与名替

一同二巳五月廿五日夜廻勤之儀ハ御免被成候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百四拾六俵壹斗壹升四合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年七月廿二日第一大隊四番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰

東郷¹

東郷三郎右衛門

三百五拾石

元禄五申十月十六日父仁右衛門跡知無相違

元禄八亥六月廿一日御杉形鍵奉行

正徳三巳閏五月十三日御先物頭

東郷仁右衛門

三百五拾石

享保八卯八月六日養父三郎右衛門跡知無相違、大番

同十三申九月廿九日御杉形酒井六郎右衛門跡

同廿一辰五月十三日御側物頭被仰付、屋敷奉行共大井三右衛門跡

延享元子十月廿五日新番頭高村四郎左衛門跡

寛延元辰七月廿八日御奉行加藤武右衛門跡

同二巳二月五日札所兼役

寛延四未八月廿三日死

東郷三郎右衛門 初八郎右衛門

三百石

元文二巳七月廿三日中奥御小姓被召出

同年十一月廿八日奥御小姓

同五申閏七月七日表御小姓

同年十一月十八日中奥御小姓

寛保三亥七月廿五日奥御小姓

延享元子十一月三日新知百石被下

同三寅五月十一日御膳番御書院番入

同年九月十九日御役御免、大番遠慮

寛延四未十月十六日父仁右衛門跡無相違被下、大番入、其身へ被下百石

上ル

宝曆十辰三月五日御使番井上半太夫跡

同十二年二月十一日家内不締不慎之趣在之、御使番御免、大番入遠慮

明和二酉五月廿日不慎之趣在之、五拾石被召上、閉門

東郷仁右衛門 平蔵

貳百石

明和三戌十二月十六日兄三郎右衛門病中願之通養子被仰付、家督百石被減貳百石被下置、大御番入

安永三年三月五日蟄居、養子仁助へ新知貳百石被下、大御番入
但宝曆七丑弟二而罷在候内不慎二付蟄居、其後御免

東郷三郎右衛門

貳百石 役料百石

安永三年三月五日養父仁右衛門蟄居、家督無相違、大番入、遠慮

寛政八辰二月十六日郡奉行日比野彦之丞跡、御役料五拾石被下置候

同九巳五月三日伺遠慮

享和元酉三月朔日御水主頭松波甚左衛門跡、御役料都合百石

文化三寅六月十日御先武頭野村三郎右衛門跡

文政元寅六月廿五日伺遠慮、四男宗玄義二付

同三辰六月廿二日年寄二付隠居

東郷仁右衛門 次郎助

貳百石

文政三辰ノ六月廿三日父三郎右衛門隠居、家督無相違、大御番入

文政十三年寅九月十三日郡奉行佐々木小左衛門跡被仰付、御役料五十石

天保五年五月八日内願之通御役御免、御使番次席被仰付

同年九月廿七日郡奉行土屋十郎右衛門跡、席味岡彦太夫上、御役料五拾

石被下置候

同十亥正月廿九日御奉行萩原長兵衛跡

東郷三郎右衛門 庄助

貳百石

一天保十四卯年六月十日親仁右衛門家督貳百石無相違被下置、大御番組江被入

一弘化四未年江戸詰被仰付、三月十八日宿割二而出立

一同年十月廿五日於御国表不慎二付遠慮、同十一月十五日御免

一嘉永三戌年江戸詰

一安政四巳二月十八日暁長屋出火二付伺之上遠慮被仰付、同廿六日御免被

成候

一同六未三月廿三日江戸詰出立、同七申三月十五日御供二而帰着

一万延元申六月廿九日昨年江戸表御本丸炎上之節、御人数被指出候処、取

斗方致心配出精二付金貳百疋被下置候

一文久元酉十一月十一日御腰物数寄方奉行横井孫左衛門跡被仰付、御書院

番組へ被入候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応二寅二月五日末之番外御時宜役被仰付

一同年十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一同月廿九日御趣意二付席其儘、御時宜役之儀ハ御免被成候

一明治元辰九月廿五日大馬印奉行岩上樞太夫跡被仰付、年来相勤候二付、

年々銀貳拾枚之当りを以被下置候

一同二巳二月十六日年寄二付隠居

東郷竜雄 左一郎 三郎右衛門侍

〔士族〕

式百石

文久三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰

一同年八月五日御参府御供被仰付、詰中御扶持方五人扶持被下置候、同十

七日出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月十三日御供二而帰

一元治元子十月十六日征長出立、丑二月三日帰

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊伍長被仰付候

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付、御雇中銀三拾枚ツ、被下置候

一同月廿九日宰相様御上京御供被仰付候、十一月二日出立、辰二月廿九日

帰

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同日一番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候

一同年九月八日御警衛詰上京

一明治卜改元、九月廿三日御附御小姓被仰付

一同年十二月廿八日左一郎事竜雄卜改

一同二巳二月十六日親三郎右衛門年寄二付隠居被仰付、家督式百石無相違

被下置、御附御小姓其儘被仰付候 月給六俵

一同年三月六日中納言様御供帰

一明治二巳四月九日中納言様御供二而東京江出立、十二月廿八日帰

一同年九月廿四日従二位様御近習被仰付

但等級并月給米是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下

一同三年二月廿四日御用有之二付中国筋江罷越候様被仰付、同廿七日出立、

四月七日帰

一同四未四月五日当分年給 十四級 式拾式俵壹斗八升式合四勺

一同年五月七日是迄御家政格別御改革被為在候へ共、今一層御釐正被成度

二付役儀被免候事

一同月廿四日東京ヨリ帰着

東郷²

東郷門太夫

百石

延宝五巳五月廿五日御手廻被召出

宝永五子閏正月十七日新知被下、御纏奉行

正徳三巳七月廿三日鵜方一通被仰付、席御使番上

享保六丑五月十五日御纏御免

東郷平太夫

百石

享保十一年三月廿一日養父門太夫家督無相違被下

延享三寅七月十一日与内吟味立合河合庄藏跡

延享四卯十月七日死

東郷門太夫

百石

延享四卯十二月十一日父平太夫跡無相違被下、大番入
宝曆七丑七月廿二日御手廻御書院番入

東郷吉藏

百石 役科百五拾石

宝曆十二年十二月廿二日養父門太夫跡知無相違、大番入

明和五子七月廿日御小性

安永五申四月十六日於江戸御近習番御書院番入

天明二寅六月十四日御近習番是迄之通、御供頭

同六年五月廿七日奥御納戸三浦善太郎跡

寛政四子七月三日役義其儘格式末ノ番外真杉所左衛門次

同五丑七月十一日御徒頭杉田孫一郎跡、役料五拾石

同十年二月廿三日御使番役須崎三郎右衛門跡、御役料百五拾石ニ被成下

候

文化元子六月十九日御先物頭水野藤兵衛跡

同七年六月廿一日御側物頭梁田七左衛門跡

同年十一月十七日御泉水預り

同十一戌二月五日御武具支配忍之者預り中村仲代り

同年十一月十二日内願ニ付隠居被仰付

東郷平太夫 又蔵事

百石

一文化十一戌十一月十二日養父吉藏病身内願ニ付隠居被仰付、家督百石無

相違、大御番組へ被入

一文政九戌四月十五日江戸詰被仰付、出立

一同十一子十月十六日御金奉行大木与右衛門跡被仰付

一同十二丑五月十一日役義不念之趣有之、御役御免被成、伺之上遠慮

一天保二卯二月十五日御金奉行小栗次右衛門跡被仰付

一同三辰三月十一日山奉行磯野仲右衛門跡被仰付

一同十亥六月十六日御札所奉行松永次郎左衛門跡被仰付、大御番組へ被入

一同十三寅二月廿九日郡奉行中村八太夫跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同十五辰正月十六日新札出来之節先役中出精ニ付、御紋御上下一被下之

一同年八月十二日御水主頭成瀬惣右衛門跡被仰付、御役料都合百五拾石被

下置候、御役屋敷へ替被下

一嘉永元申十二月三日御先物頭宮北権六跡被仰付、屋敷元屋敷へ替被下

一同五子六月九日加藤道庵揚家屋敷へ替被下

一同七寅四月廿四日京都へ御使者為御用出立、五月八日帰着

一同年六月十九日御普請奉行高島市郎右衛門跡

一安政元寅十二月五日今般大橋御修復無御滞相濟候ニ付御褒詞

一安政三辰四月廿日此度黄門様御遠忌ニ付、於運正寺御廟御造営被仰出候

処、纒之日数ニ而宜出来太儀思召候段被仰出候

一同年六月廿八日御旗奉行上坂藤太夫跡被仰付候

一同六未八月廿六日病死

東郷惺^{サトシ} 東一 信八 平太夫

〔士族〕

一安政四巳四月十四日年中荒川支合皆勤ニ付御褒詞

一同六未十月十六日親平太夫家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一万延元申四月十三日中将様御附御近習被仰付候

一文久元酉九月十六日帰着

一同年六月十日御近習番根来紀之允跡被仰付候

一同二戌六月十三日御内移り有之、願之上信八与改名

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、十二月御供二而

江戸方上京

一同四子正月九日御書物方被仰付候、同二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応二寅二月五日御馬廻筆頭役被仰付

一同年十月廿六日御馬廻り其儘筆頭役之儀ハ御免被成候

一同三卯二月十四日信八事平太夫卜名替

一同年三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月廿一日御馬廻り其儘御供方指添被仰付候

一同四辰三月十四日上京、五月廿七日帰

一同年八月九日本多興之輔方始御先手之面々、昼夜出張格別精勵之趣太儀

二思召候、依之諸事為御慰勞御手許方被遣候、此段興之輔方始へ可申達

旨被仰出候、依之早速致出立候様被仰付、同十三日出立、九月廿日早駆

帰

一明治卜改元、十月十四日平太夫事惶卜改

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰肝煎御供頭兼

一四等官西村元吉郎次

一月給米一年分十俵被下候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年七月廿二日第三大隊二番小隊分隊長被仰付候事

一同年九月十五日第三大隊一番小隊江繰揚ケ二相成候事

一同年十二月八日職務被免候事

一同日子備三番隊押絶 第一年給七俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事



枳屋半右衛門

百五拾石

元禄九子三月廿六日父半右衛門跡知無相違、此節迄自分御手廻相勤

同十五、三月御水主頭

宝永五子三月十三日御先物頭

枳屋半右衛門

貳百石 外役料百石

正徳五未五月廿五日父半右衛門隠居、家督無相違被下

享保二酉六月廿六日御手廻御書院番入

同四亥五月十六日御目付

同六丑五月十五日御水主頭

同十巳八月十六日御目付

元文元辰七月朔日御勝手吟味役新規被仰付、席長袴

延享元子十月廿五日札所惣奉行、五拾石御加増
寛延二巳二月五日御役御免、席新番頭次

枳屋八左衛門 縫次郎

貳百石 役料百石

寛延元辰八月廿八日御手廻被召出、御切米、御書院番入

宝曆六子八月廿九日養父半右衛門隠居、家督無相違被下、勤方其儘、自

分御切米ハ上ル

同八寅正月廿二日御供目付山本源左衛門跡

同十三未六月廿二日御水主頭、役料百石、比企文左衛門跡

明和五子七月廿八日御先物頭浅井弁左衛門跡

天明六年十二月四日郡奉行田辺久蔵跡

同八申八月十日新番頭彦坂又兵衛跡

寛政五丑七月十一日隠居

枳屋半右衛門

貳百石

寛政五丑七月十一日父八左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督無相違、大

番入

文化七午八月十六日病死

枳屋八左衛門 半之丞

貳百石

文化七午十月十一日父半右衛門家督無相違、大御番入

文政十亥閏六月十六日大御番三番之筆頭役久世八左衛門跡被仰付

枳屋縫之助 栄太郎

貳百石

天保六未年三月十一日親八左衛門家督貳百石無相違被下置、大御番組へ
被入候

同十亥五月八日御小姓被仰付候

弘化二巳正月廿八日御小姓頭取加賀九郎右衛門跡

同三午閏五月六日病身内願御小姓頭取御免、御書院番組へ被入候

嘉永元申八月廿五日兼而心得方不宜、家内不和熟之趣相聞不調法之事ニ

候、依之可被仰付儀可有之処、病身内願之趣も有之二付、家督百五拾石

養子政之助へ被下置逼塞被仰付、父子共政之助ハ遠慮、急度相慎候様被

仰付

枳屋政之助 実弟

百五拾石

〔士族〕

一 嘉永元申八月廿五日養父縫之助儀兼而心得方不宜、家内不和熟之趣相聞

不調法之事ニ候、依之急度可被仰付処、病身内願之趣も有之候得ハ、格

別之御憐愍を以休息之上上逼塞被仰付、養子政之助へ家督百五拾石被下置、

大御番組へ被入、遠慮被仰付候

一同五子年江戸詰、同六丑四月十九日帰着

一 安政五午二月廿日御家流砲術所詰同様被仰付候

一同年六月十七日江戸詰出立

一万延二酉二月廿九日太田御陣屋詰出立

一文久与改元、十二月廿七日大砲方頭取被仰付候、二ヶ所御台場御筒并御
附属小道具彈藥等教授方申談取扱候様被仰付候

一同二戌正月十七日大御番無役世話役田辺平学跡被仰付、大御番無役組へ
被入候、二月三日帰着

一同年四月三日太田御陣屋詰中横浜表江致出張候二付、御褒詞之上銀壹枚
被下置候

一同年閏八月七日大御番筆頭役助波多野五郎左衛門跡被仰付候

一同三亥七月八日支度出来次第上京被仰付候、相止

一同年十一月十一日大御番一番之筆頭役加賀九郎次郎跡被仰付

一元治元子四月十五日上京

一同年七月廿二日早驅御用ニ而着、同廿三日折返し出立、八月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯四月十一日役儀其儘格式末之番外二被仰付、御役料廿五石被下置
候

一同年十月十八日席其儘二番之予備小隊頭、御役料御増都合三拾石被下置
候

一同四辰三月十二日小隊頭田中伝左衛門跡御使番格、御役料相増都合五拾
石被下置候

一同年閏四月廿六日切支丹信仰之者百五十人御預ケ二付、為警衛出坂被仰
付、五月朔日出立、廿六日帰

同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰

一明治二巳二月廿二日其隊於奥州熊谷村進撃之際、勇奮苦戰遂挫賊勢候儀、

其指揮行届候段深令賞歎候段御感状被成下、長々出張太儀思召、仍二十
金被下、外三三千疋

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米八拾弍俵壹斗弍升壹合下賜

一同月廿七日今般御改革二付解隊被仰出、当役被免候

一同三午三月廿日一番小隊長被仰付候事

但年給四十俵被下候事

一席当分従前之通

一六等之御取扱

一同日支度出来次第東京詰被仰付候事、四月朔日出立

一同年五月七日戊辰北越出張、各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世三

十石廿ヶ年弍拾石、都合五十石令頒授候事

一同月廿五日第一大隊八番小隊長更被仰付候事

一同年七月三日半小隊御減二付従東京帰

一同年閏十月朔日東京ヨリ帰

一同年十二月八日任中尉 年給七十三俵

但常備第六小隊

一同四未十月十三日今般解隊被仰出候二付職務被免候事

富田

富田平藏

百五拾石 外役料百石

元禄十四巳三月七日於江戸御切米

正徳元卯十一月七日新知

同四年十月七日五十石御加増、御書院被入、奥役

享保五子十一月九日於江戸御徒頭、御役料被下、上月武左衛門跡

同八卯七月十三日御側物頭上川式左衛門跡

同十一年三月十六日御役御免、大番入

元文五申六月五日御使番日比定右衛門跡

寛保三亥四月廿八日於江戸津田弥太六跡役被仰付、席前波忠兵衛次

同年六月廿八日御役御免、大番入、席河合彦作次

同年八月五日御先物頭中村太郎左衛門跡

延享四卯九月廿三日御目付秋田三五左衛門跡

延享五辰七月廿二日隱居

富田忠太夫

百五拾石

延享五辰七月廿二日親平藏隱居、家督無相違被下、大番入

寛延三年三月病死

富田左内 千秋平藏 富田平藏

百五拾石

寛延三年四月廿九日養父忠太夫跡知無相違、大番入

安永七戌閏七月廿五日休息

富田左内

百五拾石

安永七戌閏七月廿五日養父平藏休息、家督無相違、大番入

寛政六寅十一月五日休息

富田弥兵衛 半次郎

百五拾石

寛政六寅十一月五日養父左内休息被仰付、家督無相違、大番入

文化六巳ノ五月廿四日大御番一番筆頭役加藤茂右衛門跡

文政五年八月五日御使番杉浦雄藏跡、御役料百石被下置、有馬御入湯二

付御留守故評定所二而被仰付

文政十亥十月十五日御先物頭三岡孫右衛門跡

富田弥六郎

百五拾石

天保二卯二月十五日養父弥兵衛隱居、家督百五拾石無相違、大御番組へ

被入

富田四方之助

百五拾石

弘化三年四月廿五日親弥六郎家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被

入

富田四方介 八藏 団四郎 弥平兵衛 弥平

百五拾石

一弘化四未十月十一日兄四方之助病中養子願之通被仰付、家督無相違、大

御番組江被入

〔士族〕

- 一 嘉永三戌江戸詰、四月十一日出立
- 安政二卯江戸御供詰
- 一 安政三辰九月廿日先達而船川ニ罷越候節、心得違之趣相聞不調法之事二候、依之遠慮被仰付、十月十四日御免
- 一 安政四巳二月十五日大御番無役組世話役皆川善兵衛跡被仰付、大御番無役組江被入候
- 一 万延元申十月五日大御番六番之筆頭役鱒江十太夫跡被仰付候、但役席松原信太郎次へ被入
- 一文久二戌四月十六日江戸詰出立
- 一 同年八月七地下地御人少之処中将様臨時日之御登城被仰出候処、格別出精相勤候ニ付金百疋被下置、失却之儀ハ取調之上追而可被下旨
- 一 同三亥正月廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供、三月廿五日御供ニ而御国へ着
- 一 同年二月五日於京都当亥春芝御陣屋詰被仰付候、四月六日出立
- 一 同年九月三日御内御用有之江戸表方着、同七日折返シ出立
- 一 同年十二月 於江戸表弥平兵衛卜改
- 一元治元子七月四日京都表へ出立、八月歸着
- 一 同年八月廿七日御先物頭河合太郎太夫跡被仰付、御徒頭次席ニ被成下、御役料五拾石被下置候
- 一 同年十月十六日組之者召連京都詰被仰付、詰中堺町御門御固被仰付、早速可致出立旨、廿日出立、十二月帰
- 一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候
- 一同二丑正月廿五日上京、四月廿八日帰
- 一 慶応二寅二月廿日御役料五拾石御増都合百石ニ被成下、御先物頭順席ニ被成下候
- 一同三卯十月十八日席御役料其儘第一遊撃隊半隊長被仰付
- 一同廿一日宰相様御上京御供被仰付
- 一同廿八日右御免被成、殿様御上京御供被仰付候
- 一 同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備支度出来次第上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十日帰
- 一 慶応四辰四月四日昨冬已来格別骨折相勤候段御褒詞
- 一 同年同月廿五日一番之遊撃隊長被仰付、席上ケ被仰付候
- 一 同年九月八日上京、十一月十六日帰
- 一 明治卜改元、十一月七日御練合も有之二付、一番遊撃隊之面々引纏勝手次第罷帰候様被仰付、同十一日帰
- 一同二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰
- 一 同年六月弥平兵衛事弥平卜改
- 一 同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更ニ給禄米八拾弍俵壹斗弍升壹合下賜
- 一 同月廿七日今般御改革ニ付解隊被仰出、当役被免候事
- 一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊長被仰付候事
- 一 同年閏十月廿四日依願倅登佐雄江給禄之内弍拾俵分禄被仰付候事
- 壬申七月廿五日如元合禄願之通
- 一 同年十二月八日職務被免非役江被入候事
- 一同四未二月十四日族長被仰付候事
- 但役給弍弍俵被下候事
- 一 同年六月十五日任戸長
- 一 同年七月 弥平事四方介卜名替

富田²

御取立已前御記録ニ有之

富田厚積^{アツミ} 材輔

〔士族〕

拾五石三口

一明治二己三月十二日訓導勤中新番格ニ御取立被成候

月給十俵 御足三石八当二月被廢

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米三十五俵四斗五升下賜

一同月廿八日文学所大訓導被仰付候事

一同年十二月廿日材輔事厚積卜改

一同三午二月九日文学佐教被仰付候事

但席大谷直衛次

一同月五日宿浦安嶋浦辺御用地之内江土着開墾仕度、尤当勤之者ハ是迄之

通御城下ニ罷在、家族之者ハ其地江為引移申度、願之通被仰付候上ハ、

右地所之内五千坪御渡被下候様願之通被仰付候事

但地所之儀ハ民政寮江可申談事

一同年十月二日為取調御用東京并沼津表江可罷越事、同五日出立、十一月

十二日帰

一同年十二月十二日任一等教授 年給七十三俵

但文学懸り

一同月 先般土着奉願候得共御役中ハ此表ニ罷在候ニ付、右中当時罷在

候居住之分拜地願之通

一同四未七月十七日制度兼歴史

一同年九月二日文学教官

一同年十月十三日以当職校内取締兼被仰付候事

一同年十二月十五日任一等教授

支那学兼国学

一同五申四月廿五日任足羽県権大属

学校掛り 文学一等教授如故

一同年六月十四日今般陸軍省御用ニ付、管内明細地図取調掛り申付有之候

条、学校休業中右取調相心得掛り官員へ可申談事

一同年十月廿八日管内明細地理図取調之儀、今般正院方も更ニ御達ニ付右

取調掛り官員へ可申談事

戸枝

戸枝一郎兵衛

式拾石三人

元文元辰八月廿八日於江戸小役人方御取立、新番入、御勝手請込役其儘

延享二丑正月廿九日式石御加増、御代官御留守番入

戸枝一郎兵衛

廿石三人

宝曆五亥三月廿二日父一郎兵衛年寄候ニ付休息、家督無相違、大番入

戸枝一郎兵衛

廿石三人

明和五子十月五日父一郎兵衛跡目無相違、大番入

同七寅九月廿九日相身躰末

安永八亥九月廿五日弟村上三悦養子三了儀不宜義有之二付、父子縁を切其方へ引取、蟄居為致置候様被仰付、此節遠慮

戸枝仁左衛門

廿石三人

天明元丑七月廿五日兄一郎兵衛病中養子被仰付、家督無相違、大番入

戸枝大五郎 病死

廿石三人

寛政四子五月廿九日戸枝仁左衛門病中願之通養子二被仰付、家督無相違被下置、大番入

同六寅十月五日御定年数相満候二付、順席二被仰付

戸枝久太夫 一兵衛

廿石三人

寛政十二申四月十一日養父大五郎家督無相違、大番入

文政四巳二月病死

戸枝市郎兵衛 巳之助事

廿石三人

一文政四巳年四月廿日養父久太夫跡目無相違、無役御留守番入

一同十二丑 大御番入

一天保五年六月五日御右筆見習被仰付

一同十亥年江戸詰、四月十四日出立

一同十一子五月十一日御内用御右筆吉倉茂右衛門跡

一同十五辰六月廿日表御納戸役市村三右衛門跡、御足充行以後不被下

一弘化四未十月廿五日不慎二付遠慮

一嘉永元申八月十一日御留守武具奉行小木三郎兵衛跡被仰付

一同三戌十一月廿日御武具御修覆御用出精二付、金三百疋被下

一同年同月廿九日御籙本武具奉行川村五左衛門跡被仰付、御書院番組へ被入

一安政二卯正月廿八日御祈禱奉行岡十次兵衛跡被仰付、大御番組へ被入候

一同四巳二月五日御広敷御用達被仰付、御留守番組江被入候

一同五午四月廿五日御役御免被成、大御番組へ被入候

一同六未六月十七日横浜御警衛二付詰被仰付出立

一同年八月廿一日横浜二而病死

戸枝彦作

廿石三人

〔士族〕

安政四巳九月十六日外塾師助被仰付候

一同六未七月十三日矢嶋徹之介江戸留守中生徒引立方三寺三作申談、猶又厚可致心配旨被仰付候

一同年十月廿五日親市郎兵衛家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候、且又家督被下置候処、外塾師助之儀ハ是迄之通被仰付候

一同年十一月十六日外塾勤中御番御供御免被成候

一万延元申九月朔日此度御番割有之候処、御番士人少二付当分当務繰合七、

御番相勤候様被仰付候

一元治元子十一月十六日外塾師被仰付

但此度矢嶋徹之介出府被仰付候二付、右留守中同人致世話候生徒

之義も引受致世話候様被仰付、外塾師勤中忒人扶持被下置候事

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑閏五月十一日御趣意二付役御番組江被入候

一同年九月十一日新屋敷外塾御預ケ被成候

一同年十二月廿七日新屋敷外塾御預ケ被成置候処、以前之通家塾二而生徒

致世話候様被仰付

一明治二巳二月御足充行式口被廢 月給八俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十二俵六升被下

一同月廿七日御改革二付役儀被免

一同年十二月二日訓蒙被仰付候事 未正月年給式拾八俵

一同三年閏十月 第五塾掛り 新屋敷西中通り 伺二而如此

一同四未九月二日御改革二付職務被免候事

徳山

此前代か二出、但河合与号

徳山茂太夫

拾八石三人

天明四辰二月十一日養父藤兵衛跡目無相違、大番人、御鷹方

寛政十年八月晦日相定之年数相満候二付相身躰末

文化十四丑正月廿九日内願二付休息

拾八石三人

文化十四丑正月廿九日養父茂太夫内願二付休息被仰付、家督無相違、大

御番人、御鷹方

徳山五平 勝次郎事 茂太夫 五太夫

拾八石三人

一文政十三寅八月廿日親藤兵衛家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番

組へ被入、御鷹方被仰付候

一嘉永七寅正月十四日江戸表へ出立

但御鷹迎御用之処異国船一条二付右之通引揚出立、然ル処五月十

三日帰着

一安政五年十一月十一日五太夫与改名

一同六未八月十一日先達而相願河野浦へ潮湯治罷帰候途中、心得違之趣有

之、御番頭方内達之上急度叱之処、遠慮伺之上指扣、十六日御免

一文久二戌四月十一日出精相勤候二付御書院番組へ被入、御目錄銀三枚被

下置候

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着

一元治元子七月廿二日今般御趣意二付御鷹被相止候、依之御鷹方御免被成

候

一同年十月十六日長征出立、丑六月朔日帰

一慶応元丑七月十二日御書院番其儘御簾本武具奉行弾薬方兼帯内田唯作跡

被仰付候

一同二寅七月廿日御簾本現物引請被仰付候

一同年十一月四日支度出来次第京都御警衛詰被仰付候、同月十三日出立、

卯三月廿一日帰

一 同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金五百疋被下置候

一 同三卯四月十一日用水奉行被仰付、御留守番組江被入

一 明治二己二月十六日民政局庶務方被仰付 月給十五俵

一 同年六月廿一日五太夫事五平卜改

一 同年七月十九日御代官役之儀ハ被免候事、但月給米是迄之通

一 同年十一月廿一日今般御改革二付役義被免候事

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事

一 同日司計局権少属被仰付候事

一 同日造営方被仰付候事、但水利堤防往還道路掛り

一 同月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一 同三午正月十日治水堤防等格別致精勤二付、金千疋被下候

一 同年九月十三日任少属、但勤向可為従前之通事

一 同年十二月十二日任権少属 年給廿八俵

但会計寮勤仕 治水方九頭竜川

一 同四未五月五日居屋敷地之内北ノ方御用地相成候事

一 同年六月朔日御改正二付免職

一 同年九月晦日職務中不束之儀有之二付、五十日謹慎被仰付候事

一 同五申三月十八日新潟県へ早々可致出頭事

一 同年四月十五日十四等出仕

徳山茂左衛門 川合茂右衛門 徳山茂右衛門 茂助

拾八石三人

文化三寅正月十日御徒目付方御取立、新番入、御前様御附御広式添役

同六巳八月十四日役儀御免、御国元へ家内共引越被仰付候

同七年八月廿五日御泉水番高木庄右衛門跡

同十三子十月明里御藏奉行

文政五午十月廿五日休息

徳山茂左衛門 茂助

拾八石三人

一文政五午十月廿五日養父茂左衛門休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相

違被下置、新番組へ被入

一天保三辰四月廿五日御供勤被仰付

一安政五午二月五日近來眼病相煩、其上老年二罷成候二付、内願之通休息

被仰付候

徳山順一 鉄太郎 仁太夫 二太夫

〔士族〕

拾八石三人

一安政五午二月五日親茂左衛門義近來眼病相煩、其上老年二罷成候二付内

願之通休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組江被入

候

一万延元申十二月廿八日仁太夫与改

一文久三亥十月十日仁太夫事二太夫与名替

一 同年十月十三日中将様御供二而上京、子四月廿三日同断帰



一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月二日帰

一慶応二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊ト被仰付候

一同廿五日新番組ニ被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組江可被入候処、御広間当番勤被

仰付、御留守番組江入候

一明治二己六月十七日二太夫事順一ト改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

徳山³

※「剝札」と末にあり

徳山唯一 徳山茂太夫養方之伯父

五人扶持 外ニ役中御足式石 外ニ年々銀式拾枚ツ、

一安政二卯三月十五日其身一代被召出、大御番格ニ被成下、御扶持方五人

扶持被下置、御側役支配ニ被仰付候

一同日助教役被仰付、役中御足式人扶持被下置、是迄被下候銀式拾枚之儀

者以後不被下候

一同年五月廿九日右ニ付蒙養師被仰付候

一安政三辰四月廿八日昨年明道館御端立之处出精ニ付、御下緒一御帯地一

被下置候

一同年十一月十四日御軍制之儀ニ付橋本左内次席被成下、是迄之通御側役支配被仰付候

一同四巳八月廿二日明道館之儀ニ付伺之上遠慮被仰付、廿六日御免

一安政四巳十一月三日御趣意ニ付都講被仰付、学徒教育筋之儀猶以厚致心配候様被仰出候

一同五午九月廿九日明道館御端立已来出精相勤候ニ付、年々銀式拾枚ツ、被下置候

一同六未十二月十三日明道館都講御免被成、役中被下置候式人扶持不被下候、右ニ付遠慮伺差扣、同廿日御免

一元治元子五月廿日助教役被仰付、右役中御足式人扶持被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当百匁被下

一慶応元丑五月六日役中御足三人扶持御増、都合五人扶持被下置候

一同年十一月四日会読之儀重ニ世話致心配候様被仰付

一同三卯二月廿五日御書院番組へ被入候

一同四辰閏四月十六日明道館祭酒被仰付、格式末之番外ニ被仰付候

一明治二己正月十一日病死

一同月廿九日明道館御端立已来致精勤生徒引立方も宜ニ付、出格之思召を以其身一代之名目可被相除之処、令病死候ニ付勤功を不被没、一家御立

被下、御扶持方七人扶持被下置、御番組被入候間、相続之者可成丈血统之者ニ而相撰可申上旨被仰付

徳山純^{アツシ} 東斧太郎 純吾 左膳 徳山左膳 達也 実東新十郎弟 (士族)

文久元酉十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方

五人扶持被下置候

一同二戌三月廿八日出立、同年九月朔日病氣願之上帰着

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京

一同年十二月廿八日於京都表純吾卜改

一元治元子六月五日中川宮被任御頼当分御附人被仰付、御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第上京被仰付、為失却月々金三兩ツ、被下置、且又

為衣裳金拾兩被下置候、十二日出立

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀老枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当弍百匁被下

一慶応二寅三月三日来卯ノ春迄詰越被仰付

一同年四月廿九日宮様思召を以左膳卜改

一同年八月廿日当節柄物価沸騰難渋、願之上前後之例ニ不拘金弍兩弍歩衣裳料之内江御手当被成下候

一同三卯四月廿五日御先方御断二付京方婦

一同年六月廿五日宮様附之儀御免被成候

一同年七月廿日明道館典籍方被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候

一同四辰閏四月十六日明道館授読被仰付、勤中三人扶持被下置候

但是迄年々被下候銀之儀ハ以後不被下候事

一明治二己正月廿五日外塾師介吉田謹一郎跡被仰付

一同年四月廿四日徳山唯一家名相続被仰付、月俸七口被下候

一同日訓蒙被仰付候、四等官田川廉介次、月給八俵

一同年六月廿日左膳事達也卜改

一同年七月十二日当分明新館勤之事

一同年九月朔日毛屋外塾御預被成候事

一同月廿二日故唯一已来家作仕罷在候地所御茶園地一円願之上拝借被仰付

一同年十月十六日外塾江通勤二而八子弟輩教授方不行届之儀も有之ニ付、

外塾江引移度旨、願之通被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米弍拾六俵弍斗七升四合被下

一同年十二月廿五日毛屋元外塾所野村彦郎屋敷二被下候間引渡可申事

一同三午三月十四日小身難渋二付願之通土着被仰付候事

但身分支配従前之通

一宿浦広野二而三百歩御渡被下候事

一十ヶ年之間無年貢之事

一同年五月十九日御家従被仰付候事

但正二位様御詩作御相手

一席芦田寛次

一同日支度出来次第東京詰被仰付候事、同晦日出立

一同年六月十四日正二位様御詩作御相手其儘、御手許記録之儀も心得候様

被仰付候事

一同日御邸内習学所書生致世話候様被仰付候事

一同年八月九日御移有之、願之通達也事純卜改

一同年十二月十九日土着願下ヶ仕度、当時之地所拝地二被成下候様願之通

被仰付

一同四未二月廿九日刑部省任権少録

一同年三月廿七日右二付御家従被免候事

一同年七月八日任司法権少録

徳山⁴

御取立以前御記録ニ有之

※「剝札」と末にあり

徳山三左衛門

拾八石三人

万延元申十二月廿日出精相勤候ニ付御取立被成、役儀其儘新番組へ被入

候

一文久元酉三月 御参府御見送り

一同年十月廿五日堀土居奉行被仰付候

一同二戌三月十一日荒子頭被仰付候

一元治元子十月十六日長征出陣、丑二月十一日帰

一慶応二寅十月廿二日役新番組ニ被仰付候

一同三卯三月十六日明里御蔵奉行被仰付

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付、役中御留守番組江被入候

一同廿九日病死

徳山初士 岩太郎 三左衛門倅

〔士族〕

一拾八石三人

一慶応二寅十一月五日御趣意ニ付御徒被指免、親江御返し被成候、但是迄

出精之段御褒メ

一同日京都御警衛詰被仰付、同十一日出立

一嘉永七寅九月廿九日御徒ニ被召出、御充行近年御定之通被下置

候

一安政六未三月廿二日江戸詰出立、同七申三月御供帰

一文久三亥二月十日殿様御上京御供出立

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立

一同年十二月江戸方御上京御供、子二月十三日御供帰

一元治元子八月七日上京、同十七日帰

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

メ

一同年十二月初士与名替

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年四月十七日当分渡辺隼太江御附属被成候

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年六月廿日親三左衛門家督拾八石三人扶持無相違被下置、遊撃隊江被

入候

一同廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三両被下

候、外二百疋

一明治ト改元、十月十八日先達而於村上表隊長并役向江も不相違、渡り人

甚吉と申者打捨候致業、不束之儀ニ付可被及御沙汰之处、今度之儀ハ戦

功も有之ニ付不被及御沙汰候間、以来心得違無之様被申渡候

一同二巳十月六日屋敷地之内西南之方御用地被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年正月十日柔術世話役被仰付候事、但支配是迄之通

一同年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉励ニ付、御賞典之内十石十ヶ年

令頒授候事

一同年五月廿四日柔術教導助役被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候屋敷地拝地ニ被成下候

一同四未十月廿四日御改革ニ付職務被免候事
 壬申六月隠居

徳山英純 源兵衛 磐 初士弟 明治三年廿歳

〔士族〕

文久三亥四月十六日太鼓役御雇被仰付、金七百疋ツ、年々被下置候

一同年十一月十四日御趣意ニ付太鼓役御免被成候

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一明治二巳六月廿日源兵衛事磐下改

一同三年十二月八日以御雇常備小隊江被入候事 但三番 年給六俵 十式

俵高

一同四未四月三日東京増詰出立

一同年十月十三日解隊之処東京府御用掛り 区兵

一同五申六月廿五日兄初士病身相成願之上家督

米三拾九俵四斗三合



土肥喜三太

廿三石五人

一嘉永三戌十一月六日かとか

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行

之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同三卯九月廿日第一級ニ相進候ニ付、花葵御紋御上下被下置候

一同月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候様被

仰付、十月七日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候ニ付、御酒被下置候

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三

兩被下候、外ニ五百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内十石十ヶ

年令頒授候事

一同年六月廿二日第一大隊一番小隊江被入候事

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同年三月十三日田原町抱屋敷下拝地振替願之通

但是迄之拝地与力町也

一同五申正月十五日病身ニ付倅政太郎へ家督

土肥政太郎

一米五拾俵壹斗五升

明治五申正月十五日親喜三太病身ニ付家督

〔士族〕



戸田弥次兵衛

式拾五石五人

貞享三寅六月十六日養父金兵衛跡目被下、用水奉行

元禄元辰六月十六日二被仰付也

正徳三巳八月廿一日用水役御免、御代官

同五未八月二日五石式人扶持御加増

戸田弥次兵衛 御暇

百石

享保七寅二月十六日父弥次兵衛跡目被下

同十九寅六月廿五日御代官

寛保三亥二月廿一日増代官二役

延享二丑七月朔日新知被下

寛延三午九月廿五日御役御免

宝曆三酉六月十一日与内檢地奉行市橋惣助跡、御留守番入

同十一巳十一月廿九日御暇、但下代病死後算用不埒之趣申達、永々役義

相勤候処不調法二付

御暇 後天明六年六月五日弥次兵衛倅弥太郎御徒二被召出、居へ物打

被仰付

戸田七兵衛

拾八石三人 外役中御足式石

天保九戌七月廿九日御徒目付方御取立被成、新番組江被入、御勘定吟味

役差添被仰付、其儘詰被仰付

天保十一子十一月五日御作事改役永田順右衛門跡被仰付

同十三寅五月十六日御勘定所吟味役指添

天保十五辰四月九日出精相勤候二付、役中御足充行式石被下

弘化二巳三月五日心得違之趣有之二付、御役御免遠慮

弘化四未正月廿九日御作事改役

戸田金左衛門 弥太郎

拾八石三人

〔士族〕

一嘉永元申九月廿九日親七兵衛家督拾八石三人ふち無相違被下置、新御番

組江被入候

一同五子六月十六日御台所目付中野文左衛門跡

一同七寅九月八日御内用御右筆書方手伝被仰付候

一安政三辰正月十六日川除奉行坂井安太夫跡被仰付候

一万延元申十月十一日小普請方被仰付候

一文久三亥八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一元治元子十月十六日長征出陣、丑二月朔日帰

一慶応元丑七月十一日三ノ丸御座所御普請御用掛り出精二付、御目錄銀式

枚被下置候

一同二寅正月十六日荒子頭被仰付候

一同年十月廿二日役新番組二被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付役中役御番組江被入候

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同年十二月九日今般御改革二付役儀被免、優待列被仰付候事

一同三年十月三日下馬御門内二而百八十二坪坪地被下候

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同五申五月弥太郎事金左衛門

戸田²

此先代号竹沢卜、夕ニ出ル

※「剝札」と末にあり

戸田半右衛門 竹沢半蔵 左野右衛門
廿石三人

一天保六未正月廿日養父左野右衛門病身ニ付内願之上休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入、御馬医被仰付

一弘化二巳年江戸詰、三月 出立

安政元寅十二月廿八日左野右衛門与改

一文久二戌十二月廿八日戸田半右衛門与名替

一同三亥二月十二日番頭引纏上京

一元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当百匁被下

一慶応元丑九月廿二日御趣意ニ付役御番組江被入候

一同三卯正月十六日御趣意ニ付馬医御免被成、大御番組江被入候

一同年二月廿五日年寄候ニ付休息

戸田義規 半蔵 半右衛門倅

〔士族〕

式拾石三人

文久三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京

一同年三月廿五日右同断、中将様御供ニ而帰着

一同年八月廿八日上京出立、同子四月廿三日御供ニ而帰

一元治元与改元、六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思

召候、依之銀式枚被下置候

一同年 上京出立、八月廿三日帰着

一同年十月十五日長征出立

一慶応二寅三月十一日一番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月十五日補兵隊御免被成候

一同廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯二月廿五日親半右衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石三人扶持

無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年十月十九日御警衛増詰上京

一同年十二月六日二条御城方御下り之節暫時御供欠候ニ付伺之上遠慮、同

十日今度非常之儀ニ付御免

一同四辰二月廿九日京都方帰

一同年六月廿五日会征出立、巳三月十九日柏崎病院方帰着、巳二月廿二日

出張ニ付十三兩被下候、外二三千疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米四十式俵六升被下

一同年十二月十五日重傷之処未平癒至ラス可為難義ニ付拾貫匁被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力ニ付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一同日優待列被仰付、療養中金五十兩被下候事

一同年十月三日先年買求候地所之義願之通拜地被成下候

但会計寮監正寮江可相達事

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役ト唱

一同四未十一月廿五日療養中年々五拾金ツ、被下候処、現米十二石五斗ツ

、ニ引直シ被下候

一同五申五月半蔵事義規ヨシノリ

戸田³

戸田周助 竹沢信太郎 実内藤周助次男

〔士族〕

式拾石三人

- 一 安政五年十一月五日養父太郎兵衛儀腰痛難儀ニ付内願之通休息被仰付、家督式拾石三人扶持無相違被下置、大御番組江被入、御馬医被仰付候
- 一 同六未六月十四日横浜御警衛ニ付、詰支度出来次第致出立候様被仰付候、同廿四日出立、翌申四月十九日帰
- 一 万延元申七月十一日右詰中臨時横浜へ出張ニ付御褒詞
- 一 一文久二戌十二月廿八日戸田周助与改姓名
- 一 同三亥九月五日家屋敷江戸町御茶園地外塾所へ替被下候
- 一 元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着
- 一 同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候
- 一 慶応元丑九月廿二日御趣意ニ付役御番組江被入候
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候
- 一 同三卯正月十六日御趣意ニ付馬医御免被成、大御番組江被入候
- 一 同年三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十八日帰
- 一 同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰
- 一 同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三兩被下候、外二百疋
- 一 明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾式俵六升被下
- 一 同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内十石十ヶ年令頒授候事

- 一 同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事
- 一 同年十二月八日兵隊被免非役江被入候事

東条

東条一郎太夫 安太夫

- 一 安政四巳五月廿九日倅八十八於御用先不慮之儀ニ而致死去候段、不便与之御沙汰ニ付、依之格別之御憐愍を以再勤之上、最前之通新御番格ニ被仰付、御充行拾五石三人、外ニ御足充行式石共被下置候
 - 一 万延元申九月十五日一郎太夫与名替
 - 一 一文久三亥五月 病死
- 近藤四郎右衛門次へ入筈

豊田

豊田半一 加藤半左衛門事 加藤八郎助 十右衛門 半左衛門 豊田舎人 百五拾石

〔士族〕

嘉永二酉九月十六日遠方へ川狩ニ罷越致逗留候次第、御法通りも不弁心得違ニ付遠慮

- 一 同六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表江罷出、砲術調練致修行、御扶持方式人扶持被下置、猶委細之儀者御奉行へ可申談旨被仰付候
- 一 同七寅三月廿二日品川御殿山御固場へ出張心配罷在候ニ付、御下緒一掛被下置候
- 一 同四月十八日帰着

一文久三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年六月廿六日砲術所世話役被仰付候

一同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一同四子二月七日京都表方帰

一元治元子二月廿日親半左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百五十拾石無相違被下置、大御番組へ被入候、且又家屋敷石原万千次郎家屋敷江替被下

候

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中骨折相勤候ニ付、銀杓被下置候

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一同年十二月 半左衛門卜名替

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿六日帰

一同三卯正月廿二日砲術所世話役御免被成候

一同年十月廿一日新撰隊教授方被仰付、役御番組へ被入候

一同四辰五月十一日御留守番筆頭役望月八郎右衛門跡被仰付、御留守番組

江被入候

一明治与改元、十二月廿八日加藤半左衛門事豊田舎人卜改

一同二巳二月十六日今般御留守番支配御廢ニ付御役御免被成、御広間当番

勤被仰付

但番列其儘

一同年五月四日元御書院番組席ニ被仰付

一明治二巳六月廿一日舎人事半一卜改

一同年七月六日同姓岩之丞儀御答被仰付、恐入伺之上指扣、同九日御免

一同年八月十日屋敷地之内西ノ方御用地ニ被仰付候、坪数之儀ハ追而可相

達候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未三月十九日依願給禄之内廿俵ツ、二男外吉三男万弥江分禄被仰付候事

一同五申正月十五日右分禄之处元之如く合禄願之通

米八拾式俵壹斗式升壹合

一同年四月廿五日老年ニ付隠居

豊田一郎 加藤虎三太 武一 衣俵 キヌイ 豊田衣俵
舎人俵 明治三年廿歳

〔士族〕

一慶応二寅四月八日京都詰、親介抱願之上出立、九月廿五日帰

一同三卯二月廿一日二番之補兵隊江被入候

一同年四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同年十二月廿八日虎三太事武一卜改

一同四辰正月八日二番之補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相

止

一八月 御備入

一同年九月六日補兵隊ニ而会征出立、巳二月六日帰、同廿一日右出張ニ付

御手当五兩被下候

一明治卜改元、十月廿九日武一事衣俵卜改

一同二巳七月九日衣俵事一郎卜改

一同三午五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、

但年給三俵

一 同年九月廿五日寄宿所入込後学業怠惰ニ付、寄宿相除ケ登校指留候事

一 同日右ニ付恐入伺之上慎、十月四日被免

一 同年十二月八日常備三番隊 年給六俵 十式俵高

一 同四未十月十三日解隊

一 同五申四月廿五日親半一老年ニ付願之上隠居被仰付、家督

一米八拾貳俵壹斗貳升壹合

土居

土居延寿 哥島 延寿

〔士族〕

拾口

一 明治二巳十月廿五日多年精勤深ク太儀ニ被思召、一家御立被成、月俸十

口被下士族ニ被仰付候間、相統之者見込願出候様被仰付候事

但外二月俸三口終身被下候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十六俵

一 同四未二月十六日是迄老女之御充行被下候処被相止、養子出来候迄一ヶ

月廿俵之割ヲ以更ニ被下候事

但終身被下候御扶持方ハ従前之通被下候事

一 同年三月四日願之通白井貫弥江相統被仰付

ノ

土居貫弥 留三郎事 白井貫弥

〔士族〕

豊田

無息中

一文久三亥十二月八日太鼓役被仰付、為失却月々金五十疋ツ、被下候事

一元治元子五月四日江戸表方引越着

一 同月七日宰相様御伽御雇被仰付、銀五枚ツ、年々被下置候

一 慶応三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月廿日帰着

一 同年九月十二日年頃ニ相成候ニ付、御伽御雇免被成候

ノ

米三拾六俵

一 明治四未三月四日願之通土居延寿相統被仰付、家督米三拾六俵被下、非

役江被入候事

一 同年九月 洋学修行、東京出立

六 福井藩士履歴 な



中根鞞負

七百石

於松岡御家老職之処、御相続後

享保七寅二月廿八日式百石御加増、都合此通、同日御用人、席萩野孫右衛門上

中根鞞負

七百石

享保十五戌四月五日父鞞負カトク無相違、寄合席菅沼与一郎次

同十六亥正月廿六日大番頭菅沼与一郎跡

延享元子十月廿五日御書院番頭明石將監跡、御徒御駕附支配

同十二月廿八日御吟味之上一人御上ケ

寛延三年十一月十一日御中老

中根内膳

七百石

明和二酉十一月廿五日父鞞負家督無相違被下置、席寄合引渡永見右門次

同三戌九月十九日御側

同五子七月六日御用人御奏者兼

同九辰七月三日御書院番頭恒岡安左衛門跡

中根鞞負

七百石

安永二巳九月五日養父内膳跡知無相違、寄合引渡席永見縫殿次、三人下り

同五申八月廿日御藏火消

同十丑二月朔日御側見習

天明二寅十月十四日御側本役水谷次郎助跡

同七未正月十五日表御小姓支配

同年三月十四日御趣意二付御用人助

同八申八月十日御用人稻葉織部跡

寛政五丑八月廿九日御鷹支配

中根孫右衛門 左太郎 玄蕃 又六 鞞負

七百石

寛政八辰三月廿四日鞞負跡知無相違被下、寄合引渡席笹治権右衛門次

文化元十月廿四日御側役御用人見習御小姓支配

同三寅十二月廿五日御用人御奏者兼

同四卯九月十日御鵜支配

同十二亥十二月二日御傳役席雨森源四郎上

同十三子正月十六日御傳役其儘御中老見習

同月廿九日御政事向等取扱本役同様、且月番も相勤候様

同十五寅五月三日於江戸御内用向格別出精二付、御脇指被下

同年十二月十五年始御礼席を初都而御中老之御取扱

文政三辰十月十五日御中老御附御傳役兼佐野内膳跡被仰付

中根親負 榮太郎事 隱居御取扱之上改雪江

七百石

一文政十三寅十月廿五日親孫右衛門家督七百石無相違被下置、寄合引渡之

席被仰付、佐野小太郎次

一天保二卯二月廿七日御側役御用人見習被仰付

一同五午江戸詰被仰付、四月五日出立

一同六未四月十六日於江戸表御用人御奏者兼被仰付

一同九戌年江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同年十二月十四日今般御養子被仰出、御用掛り出精二付御褒詞

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛り出精二付、紗綾二卷被下之

一同十二月廿三日御用人其儘御勝手掛り被仰付、当年江戸詰之義ハ御

免被成候

一同十三寅正月廿二日江戸立帰出府ニ而出立、五月四日帰着

一同十四卯江戸立帰出府被仰付、二月廿六日出立、四月廿七日帰着

一同年右同断、十月廿六日出立、十二月廿七日帰着

一同十五辰右同断、四月九日出立、五月廿五日帰着

一同年七月十一日内達之趣も有之二付、御勝手掛り之義ハ御免、思召被為

在格別之御簡略被仰出候ニ付、右取締り御用掛り被仰付候

一同年八月廿三日御趣意銀取扱以前ニ復候ニ付掛り被仰付候

一弘化二巳三月五日不参届趣有之二付、御役并御簡略懸り其外掛り共御免

被成、遠慮被仰付

一同三年六月四日大御番頭中川主膳跡被仰付、席壹人御上ケ被成雨森小十

郎次

一同年七月九日御側御用人見習被仰付、席秋田八郎兵衛次

一同四未三月七日御側御用人本役被仰付候

一嘉永元申六月急御出府御供ニ而出立、八月四日帰着、右二付十二月七日

御褒詞

一同二酉三月御供詰被仰付出立

一同年十二月十五日今般御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付御脇差被下置、

外縮緬式卷被下之

一同三戌六月御内御用有之、江戸表へ立帰出府被仰付出立

一同四亥三月十九日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御用御指支ニ付御免被

成候

一同六丑三月廿二日御供出立

一同年四月九日慎姫様御入輿ニ付御用掛り被仰付候

一同年七月朔日今度異国船渡来之節、御固御人数繰出方を始、不容易骨折

相勤御満足思召候

一同年同日御役義以来御武器之義格別心配致被置候故、今度御人数被指出

ニ付而も御指支無之義ハ、全兼々行届候故と御満悦思召候、此段申聞候

様被仰出候

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付木綿御召御

紋御綿入一銀杓枚被下置候

一同七寅年閏七月五日格別出精相勤候ニ付角場百坪被下置、場所之儀ハ追

而可申達旨被仰付、八月二日松本地方渋谷権左衛門元下屋敷地面之内、

西ノ方ニ而百坪被下置候旨被仰付、但御役中於居屋敷角場取建当主斗致

稽古候様被仰出候

一安政二卯二月朔日御内御用有之二付、江戸立帰出府被仰付、同月十日出

立、五月四日帰着

- 一 同年三月廿六日御軍制御改正御用掛り出精二付御褒詞
- 一 同三辰十一月十五日近來御用多之処出精相勤候二付、角場へ御添地被下置、下屋敷ニ被成下候
- 一 同四巳三月廿八日昨年被下置候下屋敷拝領地、勝見川下浅見七郎右衛門組裏畑地之内ニ而五百坪被下置、且又先年被下候油町角場百坪之儀ハ揚地被仰付候
- 一 同年四月廿五日江戸御供詰出立
- 一 同五午四月廿四日來未ノ春迄話越被仰付候
- 一 安政五午七月六日中将様御用兼被仰付候
- 一 同年同月七日今般御家督御相続、御用掛り被仰付候
- 一 同年十月廿日中将様御用兼之義ハ御免被成候
- 一 同年十一月廿一日今般御家督御相続、御引移御用懸り出精二付、縮緬二卷被下置候
- 一 同六未十月廿四日江戸表方帰着
- 一 同十一月五日内達之通御役御免被成、御近習ニ被指置、御側御用人次席被仰付候
- 一 同七申三月十一日太田御陣屋御普請宜出来、御役中右御用掛り江戸詰中出精二付、御召御給一銀三枚被下置候
- 一 万延二酉正月廿二日御側御用人被仰付、席秋田彈正次
- 一 同年二月十六日当春江戸詰被仰付候
- 一 同三月廿二日出立
- 一 文久与改元、十月廿日乍太儀來々亥ノ春迄話越被仰付候
- 一 同二戌四月七日先達而御持場替一件二付、酒井十之丞不快中掛り同様被仰付候処、出精二付御褒詞
- 一 同年閏八月七日御手許御内用繁多、且失却も有之二付、年々金五拾兩ツ、被下置候
- 一 同年十月廿五日中午將様御上京御供被仰付候
- 一 同年十月廿六日格別御用多之処出精相勤候二付、御足高百石被下置候、右二付是迄年々被下置候金五拾兩以後不被下候
- 一 同三亥正月十日近々中将様御船ニ而御上京被仰出候処御用有之、早驅ニ而陸通り御先出立、依之金三十兩被下置候
- 一 同年三月廿八日帰着、但御供之処御用有之、途中ハ京都へ引返し御用相濟右之通
- 一 同年五月二日御内御用有之二付、支度出来次第立帰上京被仰付、同七日出立、六月朔日早驅ニ而帰着
- 一 文久三亥六月十四日多き御役柄相勤、度々内外を阻絶シ人心を害ひ候段、不届ニ付蟄居被仰付、倅牛之介へ家督七百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付、遠慮被仰付候、父子共急度相慎罷在候様被仰付
- 一 同年十一月七日別段御用筋之訳柄も有之二付、蟄居御免被成、御側御用人隠居之御取扱ニ被成下、早々致上京候様被仰付、滞京御用向取扱中銀式百枚被下置候、九日出立
- 一 元治元子二月廿五日公用方被仰付、御取扱之儀者御側御用人同様ニ被成下、右勤中弍百俵被下置候
- 一 同年五月五日帰着
- 一 同八月御側御用人隠居之御取扱ニ被成下、且又年來勤功も有之二付、年々銀五拾枚ツ、被下置候
- 一 雪江と改
- 一 同月十八日上京以來宰相様御職務中御内用向厚相心得、格別骨折相勤御

満足ニ被思召候、依之御拵付御短刀被下置候

一同年八月十二日御内調御用有之二付、乍太儀上京之上致出坂候様被仰付、早速致出立候様被仰付、翌十三日出立、同月廿日早驅帰

但右二付為失却金式拾兩被下置候

一同年同月廿六日御供外立帰上京被仰付、九月廿九日帰

一慶応元丑九月廿六日宰相様御出坂被遊候二付、思召を以御供被仰付、右御用中御中老勤被仰付、五十人扶持被下置候

一同年十月三日宰相様今庄迄被為入候処、御風氣二付御帰城、依之十一月五日右御供御免被成候

一同年十二月十日思召を以御中老役被仰付、御扶持方五拾人扶持被下置、今度御内御用有之二付出坂被仰付、早速可致出立旨、同十二日出立、翌

寅二月七日帰着

但右御扶持方被下置候二付、是迄被下候銀五拾枚之儀ハ以後不被

下候

一慶応二寅二月十日兼而内達之趣も有之二付、重キ御用之外日勤之儀ハ致勝手次第候様被仰付

一同年三月二日御役御免内願之儀、御指留被成度思召ニ候へ共、内存無扱趣ニも相聞候二付御免被成、尚重キ御用之節ハ致加談可申、其余心付之

義ハ無遠慮可申出候、御取扱向故山内遊庭同様被仰出、拾人扶持被下置候、但御用之節ハ御中老同様相心得候様被仰出候

一同年八月十四日御内用有之二付立帰上京被仰付、急速致出立候様、同十六日出立、同月廿九日帰

一同三卯三月廿九日今般御模様ニ方宰相様御上京可被遊儀も可有之二付、御供被仰付、右御用中御中老勤被仰付候、但以来座席之儀秋田玄蕃次被

仰付、出勤之節ハ御中老部屋ニ可罷在事

一同年四月六日上京中御扶持方五拾人扶持被下置候
但是迄被下置候拾人扶持上京中ハ不被下候事

一同月十二日御上京御供出立

一同年八月九日同断帰

一同年八月廿五日出格之思召を以、已来御家老格隠居之御取扱ニ被成下、依之左之通被仰付

一年始御礼於韃鞮之間被為詰候事

一御座所御門并三ノ丸御座所御門下馬御門致下座候事

一御坂札御中老之通

一他国御用之節ハ千石高二被成下候

ノ

一同月廿七日座席之儀ハ高知隠居之次ニ被仰付候

一同年九月廿五日議事懸り

一同年十月廿一日今般宰相様御上京被遊候二付、思召を以御供被仰付、右御用中御家老格ニ被仰付、御中老御用之儀も相心得候様被仰付候
但十一月二日宰相様御上京之処不慎ニ付願之上居残、御供不致候、

然ル処五日出立

一 徴士参与職被仰付

一同四辰四月十六日徴士勤中御役儀御免被成

但是迄被下候拾人扶持之儀ハ、別段之義ニ付其儘被下置候

一他国御用之節被下候千石高之儀者、地高同様之儀ニ付其儘被下

置候

一同年五月三日徴士参与職之儀御免被成候

- 一 同年八月八日京都帰
- 一 同月廿五日当分御供之儀ハ御免被成候、尚時宜ニ寄上京被仰付
- 一 明治二己九月廿六日大政復古之時ニ際シ、其藩ヲ助ケ力ヲ皇室ニ尽シ候段叡感不浅、仍賞其功劳禄四百石下賜候事
- 高四百石 依功劳永世下賜候事
- 一 同年十月廿日東京江出立、十二月廿日帰
- 一 同三年四月廿五日丁卯之冬皇室御維新事務御多端之際、日夜奔走尽力、其勤劳不少、仍御賞典之内永世百五十石令頒授候事

中根牛介

〔士族〕

七百石

- 安政二卯三月十六日鰐淵昨寒稽古中数多之支合ニ付御褒詞
- 一同三辰五月廿二日右同断
- 一同四巳四月十四日鰐淵昨年中皆勤、殊ニ寒稽古数多支合ニ付御持御扇子二本被下置候
- 一文久元酉四月十二日当年親同道江戸表江願之上詰罷在候处、御用人勤向御用多指支之節ハ助勤被仰付候
- 一同年五月十一日砲術調練修行被仰付候
- 一文久二戌十月廿五日中午將様御上京御供被仰付、御道中并御逗留中御書院番頭并御用人助被仰付候
- 一同三亥正月十日近々中將様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸通り御先へ出立、三月廿五日御供ニ而帰着
- 一同年六月十四日親鞞負儀重き御役柄相勤、度々内外ヲ阻絶シ人心を害ひ候段不届ニ付蟄居被仰付、牛之介へ家督七百石被下置、寄合引渡之席ニ

被仰付、遠慮被仰付、父子共急度相慎罷在候様被仰付、七月五日御免

一同年八月朔日御側役并御用人助
一同年十月廿日御側役其儘御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付候

一同年十二月十日支度出来次第上京被仰付、同十七日出立、子二月御帰国御供帰着

一元治元子三月七日御用人月番打込勤被仰付候
一同年八月廿六日大御番頭松平源太夫跡被仰付候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰
一慶応元丑七月十日御軍制掛り被仰付、厚申合早々取調候様

一同年十一月晦日大坂表江出張
一同二寅九月十九日帰
一同年十一月三日御趣意ニ付三番之大御番頭江入替被仰付

一同年十一月十四日真田信濃守殿藩中赤松小三郎儀、兵学巧者之趣ニ候处、當時在京ニ付右兵学取調候様思召候、依之早速上京被仰付、同十九日上

京、十二月十二日帰
一同三卯四月六日別段之思召を以二番之補兵隊頭被仰付

一同日今般宰相様御上京被遊候ニ付、補兵隊之面々引纏御供被仰付
一同日思召を以御用人同様之御取扱被成下候、四月十二日出立、八月十二

日御供ニ而帰省
一慶応三卯九月廿七日御趣意ニ付御役御免被成候、御取扱是迄之通被仰付

一同年十月十八日第一遊撃隊頭被仰付候、依之御取扱向左之通
一年始ヲ始御礼席寄合着席ニ被成下候事

一折々御機嫌伺可罷出事

一格別之思召を以御留川棧切場拝領被仰付候事

但已来之例ニハ無之候事

一御用人同様之御取扱被相止候事

一中ノ口往来可致事

一御坂札被下候事

一同年十一月廿六日殿様御上京被遊候節、第一遊撃隊之面々引纏御供被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処御模様ニ付途中方引返シ帰

一同廿六日先達而遊撃隊之面々之内今庄宿陣中心得違之趣相聞、夫々御答被仰付候ニ付、遠慮伺之上差扣、廿九日御免

一同四辰正月七日第一遊撃隊之面々引纏急々出立被仰付、八日出立

一同月十八日御滞京中御用人勤向之儀も相心得候様被仰付、同廿六日御用薄ニ付御免

一同年二月廿七日先達而第一遊撃隊引纏上京被仰付候節、京都表方申参り候趣有之ニ付、急速馳登候様途中迄被仰付越候へ共、彼是遲滞ニ及候段不束ニ付遠慮被仰付、然ル処同晦日当節非常之折柄ニ付、出格之訳を以御免被成、御用之外慎被仰付、三月六日御免

一同年閏四月朔日半大隊頭被仰付、御取扱向是迄之通勝手次第罷帰候様被仰付、同月七日帰、但閏四月十六日御番大隊之半大隊頭被仰付

一同年六月廿六日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、七月八日出立、十一月十七日帰

一明治与改元、十二月廿八日牛ノ介事牛介与名替

一同二巳二月二日勝見川下下屋敷地御用地ニ仰付、代地之儀ハ追而可被下

置候

一同月十六日今般御改革ニ付半大隊頭被廢候、仍御役儀御免被成御近習ニ被指置候

一同十七日砲隊長被仰付 月給七十俵

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米式百四拾壹俵三斗式升七合

下賜

一同廿七日今般御改革ニ付解隊被仰出、当役被免候事

一同三年六月廿二日第二大隊十番小隊長被仰付候事

一同年十一月四日拜地之内西北之方百八坪小林作助江以相对貸渡、家作為

致度願之通被仰付候

一同年十二月八日職務被免、常備第一小隊江被入候事

一同四未二月十七日非役江被入候事

一同年三月十九日依願給禄之内六拾俵弟西一江分禄被仰付候事

米百八拾壹俵三斗式升七合

中根²

※永見一学の後にあり

中根半藏

百五拾石

延宝二寅九月八日父左五右衛門跡目百石

元禄十丑七月廿六日五拾石御加増

享保十巳三月五日小御馬印役奈良八太夫跡

中根十郎左衛門

貳百石 役料百石

享保六丑十月十五日中奥御小姓被召出

同七寅二月廿一日表小姓

同十一年十一月十五日中奥御小姓

同十三申八月廿五日養父半蔵隠居、家督無相違被下、御小姓其儘自分御

アテガヒ上ル

同十五戌二月九日御殺生方御書院番入

同十七子七月十八日御小道具

同月廿八日御徒頭、御役料百石、西尾源太左衛門跡

同廿一辰五月十一日御側物頭

元文三年五月十五日御目付中村八太夫跡

寛保三亥正月十九日御奉行岩上梶太夫アト

延享三寅八月十八日五十石御加増

宝曆三酉五月九日惣請込、江戸詰月番御免

同年十二月十六日手引兩人被下、一人六石二人扶持ツ、此節御預ケ之

組之者松原仲右衛門へ引渡候様

同十一巳三月四日御免遠慮

中根九右衛門

貳百石 役料百石

寛保二戌六月五日内奥御小姓被召出

延享元子十一月三日奥御小姓

同二丑三月廿一日御小道具方

同三寅五月十一日御書院番入、野廻り定御供

同四卯九月六日御部屋御小道具方

同年十一月十一日於江戸新知被下

宝曆三酉六月十一日中奥御納戸

同十一巳三月四日親十郎左衛門御役御免、遠慮被仰付候二付、指扣相願

候処其通被仰付、同四月十六日御免

同年四月廿五日十郎左衛門隠居、家督無相違、勤方其儘自分百石上ル

明和三戌五月十七日御杉形奉行山田次郎太夫跡、役料百石被下

同五子七月二日御広式御用懸り女中支配山崎七郎右衛門跡、席御持物頭

次席

同年十二月二日長袴格服部吉左衛門次

同七寅四月十日若殿様御側向万端締り役兼

安永九子五月廿七日名目御広敷御用人ト改ル

天明四辰六月廿七日席御上ケ被下、町奉行次席高村四郎左衛門次

寛政二戌五月廿八日致姫様附御広式御用人

中根新左衛門 三十郎

貳百石

天明二寅七月八日御近習番二被召出、御合力銀十五枚被下、御書院番入

同年十月十四日御小性見習

同四辰六月廿四日御小性本役

同八申六月廿一日奥御納戸格御近習番御書院番入

同九酉正月十四日奥御納戸

寛政二戌八月三日席其儘御裏役

同三亥十一月廿九日父九右衛門内願之趣有之二付隠居被仰付、家督無相

違被下置、御書院番御裏役其儘被仰付

同十年三月廿日御裏役其儘御部屋附二被仰付、是迄之通奥御納戸席御部屋附奥御納戸打込席二被仰付

享和二戌九月二日奥御納戸高村藤兵衛跡

文化四卯正月晦日杉形御鍵奉行佐々木藤左衛門跡、御役料百石

文化六巳正月廿七日御側武頭高田孫左衛門跡

同七年七月廿三日御武具支配三寺与右衛門跡

同年十月十七日御目付佐々木藤左衛門跡

文化十一戌正月十六日御奉行上坂与三右衛門跡

同十五寅三月病身二付御役御免被成、御奉行次席、御役料其儘

中根新左衛門 新六事

式百石

一文化十五寅五月三日親新左衛門家督式百石無相違被下置、大御番組へ被入

一文政五年七月四日御小姓鱒江太兵衛跡被仰付

一同六未江戸詰被仰付

一同八酉江戸詰被仰付

一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御小姓御免、大御番組へ被入

一同十二丑十月六日謙五郎様御附御側向頭取見習、席末之番外被仰付

一天保二卯二月十五日若殿様御側向頭取見習被仰付

一同三辰年江戸詰被仰付、三月廿日出立

一同四巳八月十八日謙五郎様御附御側向頭取見習佐々木小左衛門跡被仰付

一同六未二月十八日御役料五拾石被下置候

一同八酉十月廿九日郡奉行矢野権平跡被仰付候

一同十一子二月廿九日上領支配被仰付候

一同十二丑三月十一日御先物頭飯沼源左衛門跡被仰付、御役料百石被下置候

候

一同十五辰五月廿三日御目付秋田三五左衛門跡被仰付候

一弘化二巳六月六日遠慮伺之上差扣被仰付候

一同三午江戸詰被仰付、四月三日出立

一同四未十月二日遠慮伺之上差扣之処、今日御免

一嘉永元申十二月三日御奉行岡田金左衛門跡被仰付

一同三戌江戸詰被仰付、三月廿九日出立

一同六月廿二日昨年来御祝事を始過分御物入之処、厚致心配候二付御褒詞

一同年十月廿二日来々子年迄詰越被仰付候

一嘉永四亥四月九日先達而神田橋御住居江両御丸様御立寄二付御褒詞

一同五子正月十一日新番格御台所頭久能佐右衛門御用之外指扣被仰付置候

一御具足餅頂戴罷出、不念二付遠慮伺之上差扣被仰付、同十三日御免

一同年閏二月十四日旧臘中将御拝任二付、御国許江罷帰候節、伊勢八幡御

代拜被仰付候

一同年三月十五日帰着

一同年五月八日御住居御普請宜出来詰中御用掛り出精二付、御目録銀式枚

被下置候、且又公辺方之御奏詞之趣も被仰渡

一同年七月廿八日公料血ヶ平村御領分上海下海浦与山論之儀二付公訴相願、

右二付掛り被仰付

一同六丑二月十七日御役御免被成、御近習二被指置、御役料其儘被下置、

御広式御用人次席

一 同年七月十一日御預所元締役市村勘右衛門跡被仰付、御奉行次席被仰付
 一 同七寅十一月十二日年寄候ニ付隠居被仰付、川村文平同様之御取扱被成
 下

中根新^{アラタ} 喜太 新左衛門
 貳百石

〔士族〕

一 嘉永七寅十一月十二日親新左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督貳百石無
 相違被下置、大御番組へ被入候

一 安政二卯正月廿八日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一 同三辰正月十六日御小姓被仰付候

一 同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一 同五午七月六日殿様御附御小姓被仰付候

一 同六未年詰越、同七申三月御供ニ而帰着

一 一文久元酉三月十九日御供ニ而出立

一 同年九月朔日御小姓頭取被仰付候

一 同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日帰着

一 同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、同十二月江戸方

御上京御供

一 同四子正月九日中将様御附御近習御側勤格式末之番外被仰付、年々銀貳

拾枚ツ、被下置候

一 同月新左衛門与名替

一 元治元子四月廿三日宰相様御供ニ而京方帰

一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒

被下置候

一 同年八月十四日宰相様御近習御側勤其儘御供頭見習被仰付、御徒頭次席
 二被成下、御役料五拾石被下置候

但御役料被下置候ニ付、是迄年々被下候銀貳拾枚之儀ハ已後不被
 下候

一 同年九月五日宰相様御膳番奥御納戸役之儀も致兼勤候様被仰付候、且又
 今般御省略筋厚相心得申談候様被仰付候

一 同年十月十一日御目付役被仰付、御役料都合百石被下置候

一 同月十五日長征出立、同二丑二月朔日帰

一 同二丑四月十五日支度出来次第京都詰被仰付、同月廿二日出立

一 慶応二寅 帰

一 同年六月五日御側向頭取被仰付候

一 同三卯二月廿七日今般殿様御立帰御上京御供被仰付、御道中御目付本役

同様振退勤被仰付、三月十日出立、四月四日帰

一 慶応三卯十月十八日殿様御上京被遊候節、御供被仰付候

一 同四辰正月六日宰相様為伺御機嫌早速上京被仰付、同日出立、同十四日

帰

一 同年閏四月四日松平日向守様榊原式部大輔殿江為御使者被遣、同月廿二

日帰

一 明治卜改元、十二月七日殿様御上京御供被仰付、同十三日出立、巳二月

六日帰

一 同二巳二月十日糸魚川様へ為御使被遣、早速致出立候様翌十一日出立、

同廿日帰

一 同年同月十五日御役名近習頭下被仰付

但月給米一年分七十俵

一是迄被下置候御役料ハ不被下候

一同月廿二日御用有之二付立帰上京被仰付

一同月廿七日監察被仰付候、但席浅井権十郎次

一同年六月十二日新左衛門事新下改

一同年十一月七日御家従頭取被仰付候事

但庶務并御裏取締兼

一等級月給是迄之通

一同月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下候、後年給五

拾俵

一同四未正月四日東京江出立、同二月五日帰着

一同年二月十六日御東京御供出立、五月廿三日御供帰着

一同年四月五日当分年給 十一級 五拾八俵壹斗八升式合四勺

一同五申 東京

一同年八月晦日御書下ケニ而免職

一同日正四位様御側勤被仰付候事 月給廿五兩



中川主殿

六百五拾石

寛文十一亥九月廿五日養父将監跡知千三百石無相違

貞享三二統半知、大御番頭

元禄十六未八月十三日被仰付

中川主膳

六百五拾石

一正徳二辰十二月五日父主殿家督無相違被下

享保七寅十二月十八日大番頭、席上ケ被下、牧野清兵衛次

同十九寅六月廿九日大番頭御免、席本座へ下ル

中川六左衛門

六百五拾石

延享二丑二月十六日養父主膳跡知無相違、席林主水次

宝曆十一巳十一月十一日大番頭引渡席磯野多宮次、牧野主殿跡

安永九子五月廿七日御留守居宇都宮勸ケ由跡

中川六左衛門

六百五拾石

天明四辰二月五日父六左衛門跡知無相違被下、寄合席秋田八郎兵衛次

寛政元酉五月廿九日大御番頭斎藤喜五郎跡、引渡席稲葉織部次

同十一未十一月十六日御留守居役斎藤喜五郎跡

文化六巳九月病死

中川李之助

六百五拾石

文化六巳十一月十六日父六左衛門跡知無相違、寄合席

文化八未二月朔日大御番頭斎藤数馬跡、席林主水次

文政二卯正月病死

中川主膳 哲三郎事

六百五拾石

一文政二卯三月十一日実兄奎之助病中願之通養子被仰付、家督無相違被下、寄合席秋田長之丞次

一同六未十月五日孝頭寺火消被仰付

一同十一子八月廿日大御番頭恒岡安左衛門跡被仰付

一天保五年八月廿八日伺之上遠慮

一同十三寅火之御番二付江戸詰被仰付、六月十三日出立

一弘化三年六月四日御留守居役飯田作左衛門跡被仰付

一嘉永七寅八月十四日隱居被仰付候

中川淵 隱居後真島一帰 イツキ

六百五拾石

一嘉永七寅八月十四日養父主膳儀近来病身二罷成候二付隱居被仰付、家督

六百五拾石無相違被下置、寄合之席被仰付候

一同年九月十九日大御番頭恒岡安左衛門跡被仰付候二付、引渡之席被仰付

候

一同年九月廿二日今般御軍制御改正二付、御備組訓練被仰出候処、大御番

士ハ勿論御備組扱申義ハ当然之事二候得ハ、御内調二相加り御趣意通厚

相心得、御軍帳掛り申談候様被仰付候

一安政三辰四月十六日京都細工人躰之者を昨年長々為致逗留候趣相聞、不

束之儀二付御叱り被仰付、依之遠慮伺之上指扣被仰付、同十九日指扣御

免

一同年八月朔日御番割被仰出候二付、右中罷出候様被仰付候

一文久二戌九月八日思召被為在候二付御懇意之御取扱二被仰付、日々朝之

内御座所江相詰、支配向々厚心を尽し可申談旨、依之都而御用人同様之

振合、每朝御機嫌伺も御用人一列二罷出可申上、且御直二御尋之義も可

有之御直二も可申上、尤評定所御用部屋江も無案内罷出可申達旨被仰出

候

一同年十二月廿五日来年始御式中御用人仮兼帯被仰付

一同三亥正月十九日御留守居役水谷織部跡被仰付候

一同年八月廿一日大御番頭荒川十右衛門跡被仰付、御取扱向之儀ハ是迄之

通被仰付候

一同年八月廿六日自分并御番組之面々上京被仰付候、此段申渡引纏早速可

致出立旨被仰付、同廿九日出立

一同四子二月十一日御繰合も有之二付、御帰国御礼使者被仰付

一元治与改元、四月十一日御軍帳御割替二付農兵二組狛山城方手江御附被

成、厚申談是迄之通致世話候様被仰付

一同年四月十九日狛山城方御用多二付訓練出勤無之節ハ、芦田信濃へ折々

申談致世話候様被仰付候

一同廿三日宰相様御供二而帰

一同年六月十四日は迄山県三郎兵衛方附農兵致世話候様被仰付置候処、御

軍帳御割替二付、狛帶刀方附農兵致世話候様被仰付候

一同廿五日、昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下

置候

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿四日帰着

一同年八月廿六日今度乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、出張之処御役

義不行届之趣相聞候ニ付御役御免被成、伺之上差扣、九月二日御免

一元治元子十二月賊徒一件出張、右ニ付御手当銀壹貫六百匁被下置候

一慶応元丑九月廿日御留守居役高田作之丞跡、引渡之席被仰付

一明治元辰十月廿二日御留守居役其儘御奏者兼勤被仰付、御取扱向ハ是迄之通被仰付

一同年十一月廿日内願之趣も有之ニ付、御役儀御免被成候、且又年来相勤

候ニ付、席其儘御近習ニ被指置候

一同二巳二月十六日年寄ニ付隠居

一同三年正月廿日中川淵事真嶋イツキ一帰

中川トシエ稔トシエ枝 亘 稔トシエ衛 淵 俣

六百五拾石

〔士族〕

一文久四子正月十八日親淵京詰罷在候ニ付、願之上上京

一明治元辰十二月廿八日亘事稔衛ト改

一同月十六日御備入被仰付

一同二巳二月十六日親淵年寄ニ付隠居被仰付、家督六百五十石無相違被下

置、御門所御警衛被仰付候、席牧野貢次

一同年五月十七日遊撃隊江被入、御門所御警衛夜廻之義ハ被免候

一同年九月廿七日以遊撃隊生兵教授方手伝被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給緑米二百廿四俵二斗六合被下候

一同三年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月 常備歩兵隊一番伍長 四年給七俵

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年七月十一日稔衛事稔枝ト改名

一同年十月十三日解隊之処東京府御用ニ而居残り 区兵小頭



中川伝兵衛

三百五拾石

於松岡御奏者、御相続後

享保七寅二月廿八日百石御加増、都合此通、同日御奏者席稲葉要人次

同十巳十月廿五日寄合カ番外ニ被仰付、此席ニ成

中川平太左衛門

二百五拾石 役料百石

享保十五戌八月廿五日父伝兵衛思召有之隠居、拜知三百五拾石之内式百

五拾石被下、大番入

元文五申五月十八日大番四番筆頭

寛保二戌六月廿九日御水主頭下山彦三跡

延享元子十月廿五日御先物頭大崎七太夫跡

寛延四未正月十六日御持弓頭加賀九郎右衛門跡

同年十月廿五日御奉行東郷仁右衛門跡

宝曆十一巳三月四日御役御免、御先物頭次席、遠慮

明和三戌八月五日御先物頭立岩太郎左衛門跡、役料百石

中川伝兵衛 隠居

貳百五拾石 役料百石

安永二巳年八月十一日父平太左衛門隱居、家督無相違、大番入

天明七未七月廿五日大番二番之筆頭役樋口喜左衛門跡

寛政五丑九月五日御使番高田孫左衛門跡、御役料百石

同八辰十月四日御持弓頭屋敷奉行兼帶市村市十郎跡

中川惣右衛門 隱居

貳百五拾石

寛政十二申八月廿四日父伝兵衛家督無相違、大番入

享和元酉十月廿九日御附御小姓御用人支配

同三亥十一月十六日御趣意二付御免、大御番入

文化元子五月廿四日表御小姓

文政六未十月三日末番外御時宜役

文政十亥年二月十六日浅井弁左衛門跡杉形御鎗奉行被仰付、御役料百石
被下置

文政十二丑三月廿九日御先物頭真杉小平次跡

中川平太左衛門 伝兵衛事

貳百五拾石

一文政十三寅八月廿八日養父惣右衛門隱居被仰付、家督貳百五拾石無相違

被下置、大御番組へ被入

一天保六未江戸詰被仰付候

一同九戌江戸詰被仰付、四月十日出立

一同十二丑八月五日大御番四番之筆頭堀勘左衛門跡被仰付候

一天保十五辰江戸詰被仰付、正月十三日出立

一弘化四未十月廿日長子保太郎不行状心得違二付蟄居、且又平太左衛門兼
々異見不参届二付遠慮

一嘉永三戌十月廿五日格式末之番外被仰付候

一同五子六月十七日御使番役沢木八左衛門跡、御役料百石被下置候

一安政三辰六月廿八日御水主頭河津佐太夫跡被仰付候、但河津佐太夫御役
屋敷へ替被下候

一安政三辰十月十七日御先物頭次席御脇物頭小川治兵衛跡被仰付、同日真

杉所左衛門揚家屋敷へ替被下候

一同六未十二月三日御先物頭加藤所左衛門跡被仰付候

一万延元申六月廿一日家屋敷花木右門家屋敷へ替被下候

一同二酉二月九日年寄候二付隱居被仰付候

中川廉藏 金之助

貳百五拾石

一万延二酉二月九日親平太左衛門年寄候二付隱居被仰付、家督貳百五拾石

無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌十一月廿五日來春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥二月廿九日中将様御附御近習被仰付候

一同年三月廿五日御供二而京都方帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京、十二月十七日帰

一同年十二月十日病身二付内達之通御附御近習御免被成、大御番組江被入

候

一同四子正月廿三日表御小姓沢木禄平跡被仰付

一同年二月七日今度表御小姓被仰付候二付、席之儀岩城重九郎次江被入候

〔士族〕

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候
一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付
帰

一同二寅二月五日御附御馬廻被仰付、但席大谷千熊次

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立可致処不快二而居残、七月七日出
立、十月御供二而帰

一同三卯三月廿七日病氣内達之趣も有之二付御附御馬廻御免被成、御留守
番組江被入

但御広間当番勤之儀ハ御用捨被成下候

一同年十一月廿七日御広間当番勤被仰付

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組江可被入之处、御広間当番勤被
仰付、御留守番組ニ其ま、被指置候

一明治二己五月廿五日夜廻勤被仰付、当番勤之儀ハ被免

一同年六月廿一日金之助事廉蔵下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百式拾六俵四斗三升四合被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役下唱

永見¹

永見縫殿 初百助

五百石

天和三亥五月廿五日御先代五百石

貞享三一統半知

元禄十一寅三月六日御小姓頭取、此節五拾石御加増

宝永三戌三月廿一日御奏者、此節式百石御加増

正徳元卯十一月七日御役御免

享保五子二月廿八日隠居

永見右門

六百石

享保五子二月廿八日養父縫殿隠居、家督無相違

同六丑十一月十五日御側御小姓支配共水谷織部跡

同十一年三月九日御奏者

同十九寅七月十一日大御番頭中川主膳跡

元文五申五月九日御書院番頭多賀谷舍人跡

延享元子十月廿一日御用人、百石御足高

同三寅五月十一日御足高本知ニ御直シ、都合六百石

永見右門

六百石

宝曆十辰七月廿二日養父右門病中願之通養子被仰付、家督無相違被下、

席引渡笹治権左衛門次

永見縫殿

六百石

明和三戌四月廿五日養父右門跡知無相違、寄合引渡席斎藤喜五郎次

安永二己三月五日運正寺火消

永見主殿 木津摩 志津摩

六百石

寛政二戊五月十一日父縫殿跡知無相違被下置、寄合引渡席太田三弥次

同九巳七月十二日孝頭寺火消

文化二丑年八月五日大御番頭菅沼式部跡

文化十一戊五月廿一日於江戸御用人御奏者兼御書院番頭格

文政三辰十月十五日御附御傳役兼御中老見習中根鞆負跡、席中根鞆負次

同九年戊四月三日於江戸御中老

文政十二丑於江戸表若殿様御傳役被仰付、御取扱是迄之通り

天保五年八月十九日思召を以御側御用人御附、御傳役其儘

永見志馬 登馬 織之助

六百石

一天保七申八月廿日親主殿家督六百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付

一同十亥正月廿九日孝頭寺火消恒岡安左衛門跡被仰付

一同十五辰十一月十九日御殯中御見廻為御使者江戸表へ出立、同十二月廿

四日帰着

一嘉永五子五月九日病死

永見^{シメ}司馬 敬之進 主膳 実皆川多左衛門次男

六百石

一嘉永五子六月廿九日永見志馬病中願之通養子被仰付、家督六百石無相違

被下置、寄合引渡之席被仰付候

一同年八月十六日家屋敷大道寺多宮家屋敷へ替被下候

一同年九月廿八日大御番頭酒井十之丞跡

一同七寅八月朔日御番割中可罷出旨被仰付候

一同年九月廿二日今般御軍制御改正二付、御備組訓練被仰出候処、大御番

士ハ勿論御備組扱方之義ハ当然之事ニ候得ハ、御内調へ相加り御趣意通

厚相心得、御軍帳掛申談候様被仰付候

一安政三辰十二月廿八日主膳与名替

一同六未五月廿九日病身二付内願之通大御番頭御免被成、風廻り之儀ハ御

用捨被成候

一万延元申九月九日大御番頭永見多門跡被仰付候

一文久二戊九月八日思召被為在候二付、御懇意之御取扱二被仰付、日々朝

之内御座所へ相詰支配向々厚心を尽し可申談旨、依之都而御用人同様之

振合、毎朝之御機嫌等も御用人一列ニ罷出可申上、且時々御尋之儀も可

有之候間、御直ニも可申上、尤評定所御用部屋へも案内無之罷出可申達

旨被仰出候

一同年十二月廿五日来年始御式中御用人仮兼帯被仰付候

一同三亥正月十九日役儀其儘御用人御奏者兼被仰付、且又是迄中川淵相番

之御番組相番二被仰付候

一同廿五日当亥年芝御陣屋詰被仰付、御番組引纏罷越候様

一同年三月六日早速出立被仰付、九日出立

一同年九月五日御用人兼勤被仰付置候処御免被成、昨年被仰出候已前之通

可相心得旨

一元治元子四月十一日御軍帳御割替二付、農兵二組酒井外記方江御附被成

候二付、其手江属シ御番組役配等之儀を始、外記方江厚申談致世話候様、

且又農兵之義二付而ハ西尾十左衛門江申談候様

一元治元子六月十四日是迄酒井外記方附農兵致世話候様被仰付置候処、御軍帳御割替二付、芦田信濃附農兵致世話候様被仰付候

一同年七月三日御陣屋ヲ帰着

一同年十月十日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付候

一同十三日上京被仰付、出立之儀ハ御指図可有之旨

一同年十一月廿六日殿様小倉表江被遊御着候二付、宰相様ヲ御歎の御見廻被遣候、依之早速小倉表江出立致候様、且又尾張前大納言様へも御見廻

被仰遣度旨二付、芸州広島へ立寄御使者相勤候様被仰付、同廿九日出立、

丑正月帰着

一元治二丑正月司馬与名替

一慶応卜改元、九月廿二日屋敷地之内東方御用地ニ被仰付、代地之儀ハ御都合次第追而被下置候

一同年十月廿二日遠慮伺之上差扣被仰付置候処、御免被成候

一同三卯正月廿二日御書院番組支配被仰付、役席之儀ハ大御番頭上ニ被成下、御取扱向大御番頭同様被仰付

一同年十月十八日当分御書院番組二組共致支配候様被仰付候

一明治元辰十月廿日屋敷地之内先年御用地ニ被仰付代地、田原町下三ツ橋地方ニおゐて三百坪被下置候

一同月廿二日御書院番支配其儘御奏者兼勤被仰付、御取扱向ハ是迄之通被仰付候

一同二巳二月十四日行事被仰出候 月給三十俵

一同年十月廿四日当役被免、御門所御警衛被仰出候事

但折々御機嫌伺可罷出候事

一御坂札被下候事

一同年十一月十日今般御改革二付、御門所御警衛被免候事

一同月廿五日今般御改革二付、更給禄米式百拾九俵壹斗七升壹合被下候

一同三午三月十三日今般当屋敷拜領之面々一ヶ所返上可仕旨二付、下田原

町下屋敷返上

一同年七月廿五日予備隊触支配願取次被仰付候事

一同年八月七日病身ニ付願之通隠居

永見忠雄 クヰラ 捨之丞 鉾哉 主殿 シメ 司馬養子

〔士族〕

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月帰

一同年十二月鉾哉卜名替

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同年十二月廿八日主殿与名替

一同二寅三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意二付被相止候

一同四辰九月八日明治卜改、九月六日越後表へ可致出張処不快二付延引、快二付同月十七日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張二付御手当五兩

被下候

一 御備入被仰付

一明治巳八月 主殿事忠雄卜改

米式百拾九俵壹斗七升壹合

一同三午八月七日養父司馬病身ニ付願之通隠居被仰付、家督米式百十九俵

壹斗七升壹合無相違被下、第一大隊式番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未三月十九日依願給禄之内八十俵養弟敬之介江分禄被仰付候事

米百三拾九俵壹斗七升壹合

一同年十月十三日解隊

永見²

永見多門

五百石

元祿十四巳九月十一日父藤太夫跡目被下

同十六未六月四日觸頭被仰付

正徳元卯十一月七日觸頭御免

延享元子十月廿五日中根鞞負跡、大御番頭

永見丹下

五百石

宝曆五亥十月十一日父多門隱居、家督無相違、寄合席多賀谷舍人次

同十辰六月十六日大御番頭多賀谷舍人跡、引渡席毛受伝三郎次

永見多門

病死

五百石

安永十丑正月十五日父丹下隱居、家督無相違被下、寄合席牧野主膳次

同年四月廿九日運正寺火消

寛政十一未十一月十六日大御番頭中川六左衛門跡、引渡席秋田八郎兵衛

次

永見小八郎 松ノ助 助六 多門 兵衛

五百石

寛政十二申十月十一日親多門跡知無相違被下、寄合席天方数馬上

同廿五日運正寺火消

文化五辰閏六月十二日御側役御用人見習、御小性表御小性支配

同九申八月十四日御用人御奏者兼任、於江戸

同十二亥十二月廿日於江戸御鶉支配中根鞞負跡

文政七申十月七日御書院番頭御用人奏者兼、高田波門跡被仰付候

文政八酉正月廿九日弟才次郎不慎之趣有之、逼塞被仰付候二付、小八郎

儀伺之上指扣被仰付

文政十亥十月十九日病身二付内願之通御役御免、但席其儘月番夜廻り見

除被仰付

文政十二丑三月病死

永見丹下 小作

五百石

文政十二丑五月四日養父小八郎家督五百石無相違、寄合席被仰付

同年同月十一日從祖父岩尾不埒之趣有之、先年も御咎被仰付候処、又々

不慎其上不宜趣有之御国立退、且又伯父才次郎是又度々不慎之趣有之蟄

居、右二付伺之上遠慮

永見多門 与吉

五百石

一天保十二丑十一月十六日兄丹下病中願之通養子被仰付、家督五百石無相

〔士族〕

違被下、寄合之席被仰付

一 同十五辰三月十六日孝頭寺火消被仰付

一 嘉永二西十二月十一日猥二在辺へ罷越、身分を不弁心得違之趣相聞、不調法之事二候、依之遠慮、且又養方之弟又作義も同道罷越、不束之趣相聞候二付御呵被成候

一 同三戌年十二月廿三日家来山形周藏与申者、百姓共へ対し心得違有之二付、暇指出候様被仰付候、依之与吉義遠慮伺之上指扣被仰付候処、同廿五日御免

一 同五子正月廿一日旧臘中将御拜任二付京都へ為御使者出立、二月八日帰着

一 安政三辰五月九日大御番頭菅沼重記跡被仰付候、同日大御番頭被仰付候二付、引渡之席被仰付候

一 同四巳十月五日養父故丹下養家之大伯父岩尾儀、御中陰中心得違之趣相聞、遠慮被仰付候二付、多門儀遠慮伺之上指扣、同八日御免

一 同五午三月十一日家屋敷御用屋敷二被仰付、雨森謙太郎家屋敷へ替被下候

一 同年三月十八日宇都宮勘解由地境与四拾三坪余振替地二被仰付候

一 同六未五月廿五日横浜御警衛二付詰被仰付出立、万延元申四月廿日帰着

一 万延元申七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ致出張、太儀二付御褒詞

一 同年八月朔日今度御番割中致出勤候様被仰出候

一 同年九月八日太田御陣屋詰中不行届之儀有之二付、御役御免被成候

一 文久二戌四月十一日家屋敷三ノ丸内御目付御用所江替被下候、但元屋敷也

一 同三亥正月十九日御用人見習

一 同年三月廿九日今度蒸気船御出来二付、為運用長崎表江罷越候様被仰付候、四月三日出帆、五月十四日帰

一 同年五月廿九日御用人見習其儘御側役被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付

一 同年六月十六日御用人月番打込相勤候様被仰付候

一 同年七月廿八日当秋江戸詰被仰付、菅沼重記と致交代候様被仰付候

一 同年八月九日当秋江戸詰被仰付置候処詰引揚、御参府御供被仰付、十七日出立之処大垣駅方御用有之、同廿一日着之処直様折返し出府

一 同年同月廿九日屋敷地御用二付、代地之儀ハ下馬於御門内相当之坪数被下置、建物之儀ハ是迄之居宅悉皆引移被仰付、右引料之儀ハ取調之上追而被下置候

一 同年九月廿三日右同断之処御都合も有之二付、御舟町御水主組地之内二而相当之坪数被下置候

一 元治元子三月五日右御舟町屋敷地御都合も有之二付御用地二被仰付、代地之儀へ追而相当之屋鋪地被下置候旨、当分是迄吉田作太夫罷在候家屋敷御貸被成候

一 同年四月十九日是迄右同断之処御都合も有之二付、下馬御門内御留守御右筆部屋当分御貸被成候

一 同年五月二日江戸方帰着

一 同年五月廿五日家屋敷是迄吉田作太夫罷在候屋敷地被下置、建物之儀ハ昨年被仰出候通居宅悉皆引移候様被仰付、右引料之儀ハ取調之上追而被下置候、但先年御用地二相成候当時外塾所御取払之節ハ拜地二被下置候

一 同年六月朔日御用人御奏者兼被仰付候

一 同年八月廿六日大御番頭皆川宮内跡被仰付候、右二付引渡之席被仰付候

- 一 同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候
- 一 同二丑四月十五日支度出来次第京都詰被仰付、御番組之面々引纏罷越候様被仰付、同廿九日出立
- 一 慶応二寅四月十七日京都表方帰
- 一 同年十一月三日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付
- 一 同三卯三月廿九日今般御模様方宰相様御上京可被遊儀も可有之二付、御供被仰付、四月十二日出立、八月九日帰着
- 一 同四辰四月五日北陸道惣督御通行之節、心配相勤候二付御褒詞
- 一 明治卜改元、十月廿二日今般御趣意二付御右筆部屋被相止、依之御役儀御免被成、席其儘御近習二被指置候
- 一 同二巳二月五日屋敷地之内先年七十三坪余御用地二被仰付候処、今度外塾御取払二付已前之通屋敷地二被仰付
- 一 同月廿六日今度外塾御取払二付三十坪余御用地二被仰付、七十三坪余屋敷地二被仰付
- 一 同年五月廿五日下午馬御門并三ノ丸御座所御門御警衛被仰付、同廿七日三ノ丸持切
- 一 同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞御紋木綿御羽織一被下置候
- 一 同年十一月十日御改革二付、御門所御警衛被免
- 一 同月廿五日今般御改革二付、更給禄米式百三俵五升七合被下候
- 一 優待列
- 一 午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱
- 一 同三午閏十月廿五日非役触支配被仰付候
- 一 同四未二月十四日触支配被免候事
- 一 同五申十一月廿五日病身願之上隠居
- 永見清 又作 造酒 多門養父丹下実子 明治三年三十九歳 [士族]
- 一文久二戌十二月十六日中将様御上京御供御用二付江戸表江出立之処、御都合二付途中方京都へ
- 一 同三亥三月廿五日右御供二而帰着
- 一 同年七月八日上京被仰付、相止
- 一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中御扶持方五人扶持被下置候、三月五日出立
- 一 同年三月廿九日、一昨戌年十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都表へ可罷越筈二而此表致出立候処、俄二御船行相成候二付途中方京都へ罷出、夫方大坂へ為御迎罷越御供二而京都江到着之処、失却も有之趣二付金壹兩被下置候
- 一 同十日在京中無息伍長被仰付候
- 一 同年四月十七日帰着
- 一 同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候
- 一 同日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京取調等致心配太儀之御褒詞
- 一 同月廿六日御舍御用有之二付早速上京被仰付、御ふち方五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰着
- 一 同年十月十六日長征出陣、丑二月六日帰
- 一 丑四月廿九日親介抱願上京、寅四月十七日帰
- 一 慶応元丑閏五月十八日補兵隊伍長被仰付候
- 一 同二寅三月十日定座番外以上補兵隊御趣意二付被相止



一同十一月二番之補兵隊伍長勤向被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀^方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月廿六日嚮導被仰付

一同三卯正月廿四日二番之補兵隊筆頭役被仰付、役中銀廿枚ツ、年々被下置候

置候

一同年四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊筆頭御免被成候

一同年十二月廿八日又作事造酒卜改

一同十五日補兵隊半隊長被仰付、今度御上京御供被仰付、相止

一同四辰四月廿五日被召出、一番之遊撃隊半隊長被仰付、御扶持方五人扶持被下置、役儀二付席末之番外格二被成下、役中御足三人扶持被下置候

一慶応四辰九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御東京御供出立 月給廿俵 御足三口被廢

一同年六月造酒事清卜改

一同年十月十二日東京^方帰

一同三午五月廿四日第一大隊四番半隊長被仰付、役中給禄米廿俵高二被成

一同三午五月廿四日第一大隊四番半隊長被仰付、役中給禄米廿俵高二被成

下候事

一同年十二月八日任少尉 但常備第九小队 年給三十六俵 十式俵高

一同四未十月十三日解隊

一同五申十一月廿五日養父多門病身願之上隠居、家督

一給禄米九拾式石六斗式升五合

永見治部右衛門

五百石

御先代千石

貞享三一統半知

天和三亥十二月五日大番頭

宝永七寅正月十八日御留守居役

正徳二辰十二月五日役義二付席御上被下

享保十巳秋死去

永見平之進

五百石

享保十巳十月廿五日養父治部右衛門跡目無相違、席寄合、多賀谷舎人次

寛保元酉六月廿一日萩原猪太夫下代堀江勘兵衛与申者、致乱心

平之進宅へ罷越、平之進を討果候二付、平之進養子吉五郎勘兵

衛を討留候旨、依之拜知被召上、新二吉五郎へ三百石被下

永見隼人 初吉五郎 永見平之進養子

三百石

寛保元酉八月十五日被召出、新知三百石被下、席番外松平源太夫次

延享元子十一月三日御側見習

同四卯三月六日見習御免、寄合松原多膳次

宝曆十四申四月十六日御側御小姓支配

明和二酉十二月廿六日御小姓支配御免

同五子七月十三日於江戸御用人、御足高百石

同七寅五月廿八日若殿様御用人恒岡安左衛門跡
同九辰七月八日表御用人御奏者兼

安永二巳閏三月十四日御足高被召上、役義御免遠慮、養子喜十郎義ハ不
慎二付遠慮

天明四辰七月廿日養子喜十郎義和順之上実方へ相返候、兼而家内取扱不
宜二付遠慮

永見清左衛門 六郎右衛門

三百石

天明六午五月廿五日養父隼人隱居、家督無相違被下、寄合席仙石藤之丞
次

享和二戌十二月廿日倅式部不協之義有之二付御追放被仰付、其節席御下
二被成、閉門被仰付

文化三寅年五月廿七日触頭水野善左衛門跡

文政元寅年六月十一日病死

永見一学 弁三郎

三百石

文政元寅年八月五日父清左衛門跡知無相違、定座番外席水野小膳次

文政 触頭被仰付

天保十二丑四月 病死

永見要人 松次郎事 隼人

三百石

〔士族〕

一天保十二丑六月五日親一学家督三百石無相違被下置、定座番外席美濃部
半七次

一同十三寅九月十六日妹義先達而令出奔候始末、不埒之趣相聞候二付、急
度為相慎差置候様被仰付、隼人義も兼而締り方不参届趣相聞候二付遠慮

一同十四卯十二月廿八日触頭海福孫八跡被仰付

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀壹貫匁被下置候
一慶応元丑十一月廿九日御趣意二付御役御免被成、是迄年来相勤候二付御
近習二被指置候

一同二寅五月廿一日今度御供皆勤御改被仰出候二付、触頭勤中之訳を以取
調掛り被仰付

一同年十月廿二日役新番頭被仰付候

一同四辰三月十二日御役儀御免被成、御近習二被指置候
一明治二巳五月廿五日夜廻勤之儀ハ被免

一同年六月十六日隼人事要人ト改

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞奥縞御袴地一
反御盃一ツ被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百四十六俵壹斗壹升四合被下候

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

一同四未四月十五日依願給禄之内四十五俵次男銳雄江分禄被仰付候事

米百壹俵壹斗壹升

一同五申五月廿五日老年二付倅齊へ家督

永見^{ヒトシ}齐 弥作 要人倅 明治三年廿八歳

〔士族〕

文久三亥七月八日上京被仰付、相止

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一元治元子四月廿三日宰相様御供二而京方帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候
候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当貳百匁被下

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同二寅三月十日定座番外以上、補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同十一月三日三番之補兵隊伍長勤向被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下金千疋、且又戦功ニ付貳千五百疋被下置候

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同廿八日齊与名替ヒトシ

一同三卯七月十一日御警衛詰上京、十月十四日帰

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、御扶持方五人扶持被下置候

一同日二番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

一同年九月十日御警衛詰上京、巳二月六日帰

一明治三午五月廿四日第一大隊二番小隊後絶被仰付候事

一同年十二月 常備歩兵隊二番伍長 年給 二番 八俵 十貳俵高

一同四未十月十三日解隊

一同五申二月廿五日親要人老年ニ付立替家督

一米百四拾六俵壹斗壹升四合、内四拾五俵弟銳雄へ分禄

永見吉治 数馬 銳雄トシオ 要人次男 明治三午廿四歳

〔士族〕

元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置、三月五日出立、四月十七日帰着

一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京取調等致心配太儀之段御褒詞

一同廿六日御含御用有之、早速上京被仰付、五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰着

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相勤候段達御聴一段之事ニ被思召候、依之為御賞御小柄一被下置候

一同年十月十六日長征出陣、丑二月六日帰
一同年十二月 数馬卜名替

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同二寅三月十日定座番外以上補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下配当金千疋、且又戦功ニ付貳千五百疋被下置候

一同年七月九日内達之趣も有之二付、二番之補兵隊へ被入候

一同三卯正月廿五日仕長被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候

一同年四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、御扶持方五人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳二月廿二日越後国小松村戦闘之際、鋭進拔群之拳動不淺御感賞之段、御感状被成下候

一同日長々出張太儀被思召、仍十三両被下、外二御三所物被下

一 同年十二月十二日柔術世話役被仰付候事、身分支配是迄之通、八等之事

一 同月十七日役中給禄式拾俵高二被成下候事

一 同三年四月廿五日戌辰北越出張各所戦争拔群尽力ニ付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一 同年五月十五日、去ル十日夜行之節町人体之者ト突当り組合候節、大勢

ニ而致打擲候次第心得方不宜、已来右体心得違無之様支配頭へ御移りを

以御異見被成候事

一 同月廿四日柔術世話役被免候事

一 同日役配中出精之段御褒詞被成下候事

一 同日第一大隊一番小隊後絶被仰付候事

一 同年十二月 常備歩兵隊三番伍長 一年給九俵 十式俵高

一 同月十八日数馬事銳雄ト改

一 同四未四月十五日依願同姓要人給禄之内四十五俵被下候事

一 同月十九日東京区兵増詰被仰付、五月朔日出立

但詰中第五軍曹

一 同年十月十三日解隊之処東京府御用ニ而居残り 区兵

一 同五申八月廿五日宮内省仕へ

一 同年九月二日兄斉病死ニ付家督、右ニ付四拾五俵合禄

米百四拾六俵壹斗壹升四合

一家督ニ付銳雄事吉治与改

1 奈良

奈良佐近右衛門

三百石

元禄元辰二月廿五日養父左次右衛門為跡目被下

正徳二辰十二月五日御長柄奉行

享保八卯二月七日御簾奉行西尾源太左衛門跡

奈良忠左衛門

三百石

享保十二未十二月五日養父左近右衛門跡無相違、大番入

同十七子正月十一日大番二番筆頭

同廿一辰五月十三日御使番川瀬次太夫跡

寛保二戌六月朔日御水主頭同人跡

同三亥閏四月五日御目付西尾源太左衛門跡

宝暦三酉正月十六日長袴格式、御附衆次

同年五月六日席御上ケ鈴木十左衛門次

同五亥十月十一日寺社町奉行岩上梶太夫跡

同十三未七月五日金津奉行番外席荒川孫六次、荒川惣右衛門跡

明和五子七月朔日支配下取扱不宜、其上役所向不締り、当春御城下町筋

へ百姓共立入候節取扱方心得違之趣有之、不調法ニ付御役御免、大番入、

遠慮

奈良太郎右衛門

三百石 外四百石与力預

明和七寅十二月十六日父忠左衛門最前御役義共年来相勤候ニ付、此度年

寄ニ付隠居ニ被仰付、家督無相違、大番入

安永七戌六月廿二日御使番波多野五郎左衛門跡

天明二寅七月八日御目付榎並伊十郎跡

同八申六月十五日札所御目付兼帶

寛政二戌八月十五日御預所郡奉行

同六寅正月十六日御前様御附御広式御用人荻野四郎右衛門跡

同八辰正月十六日御預所元締役武田平右衛門跡、席御奉行次

同年八月三日御目付役太田三郎兵衛跡、席其儘

文化元十月廿四日町奉行荒川十右衛門跡

文化三、六月病死

奈良権太夫 善五郎

三百石

文化三寅八月十六日父太郎右衛門跡知無相違、大御番入

同十四丑三月十六日大御番三番筆頭役生田十左衛門跡被仰付候

文政五年十二月十五日御使番波多野五郎左衛門跡

文政六未十月三日杉形鎗奉行榊原助左衛門跡

文政七申三月廿九日御側物頭野中健藏跡被仰付、御座所預り

文政八酉十一月三日御目付鈴木十左衛門跡被仰付

天保五年十二月十五日長袴格御奉行次席被仰付候

天保十一子正月廿三日御役御免、御先物頭次席、伺之上右遠慮指扣、席

松原仲右衛門次

天保十三寅十二月十六日新御番頭西村仙右衛門跡

弘化二巳二月九日寺社町奉行鈴木主税跡

同三年七月九日病身二付内願之通御役御免、御近習御広敷御用人次席大

関新五左衛門次

奈良太郎右衛門 勝之助事 権太夫 実川村藤十郎弟

貳百七拾石

一 弘化三年十月廿五日養父権太夫家督無相違被下置、大御番組へ被入

一 嘉永四亥三月十一日身分をも不弁不埒至極之趣相聞、不調法之事二候、

依之拜知之内三拾石御取揚被成、遠慮被仰付候、四月六日御免

一 同五子閏二月十六日牧野左次兵衛死後達書之儀二付遠慮、伺之上指扣被

仰付候処、同十九日御免

一 同六丑三月宿割二而江戸出立、同七寅五月十一日宿割二而帰着

一 同七寅三月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒褰掛ケ被下置候

一 安政四巳十月十三日御家流炮術所詰被仰付候

一 同五午五月七日江戸詰出立

一 同年十二月太郎右衛門与名替

一 万延二酉二月晦日太田御陣屋詰出立

一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移を以慎被仰

付置候得共、道中差支致之儀も有之二付、当分慎御免被成、御国表江罷

帰候上是迄之通相心得候様被仰付候、同廿五日帰着、伺之上遠慮、十月

二日御免

一 同二戌正月十六日大御番無役世話役波多野五郎左衛門跡被仰付、大御番

無役組へ被入候

一 同年四月三日太田御陣屋詰中横滨江出張、失却も有之二付金百疋被下置

候

一 同年八月廿五日津田源之丞芝御陣屋詰留守中、炮術所肝煎始頭取申談、

相弟子引立方厚致心配候様被仰付候

一同年九月八日大御番無役組被相止候二付、御書院番組へ被入、役儀之儀者御免被成候

一文久二戌九月廿九日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候、尤炮術所世話役之義ハ是迄之通相心得候様

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年十月十二日中将様御上京二付宿割出立、同月晦日帰

一同年同月廿四日於京都表御腰物数寄方奉行被仰付

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑十一月廿一日病死

奈良半之助

貳百七拾石

一慶応二寅正月十二日親太郎右衛門家督貳百七拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同三卯十月廿三日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付候

一明治二巳六月六日五番遊撃隊江被入候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百三拾七俵五升被下

一同三午三月廿八日学校踏級生中修業隊江被入候事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同五申二月十日洋学修行東京

奈良

2

奈良助右衛門

百五拾石

元禄七戌六月三日父助右衛門為跡目貳百五拾石
享保三戌年百石被召上

奈良助右衛門

百五拾石 役料百石

享保十五戌八月十一日父助右衛門休息、家督無相違、大番入

延享元子十一月五日大番五番筆頭熊谷小兵衛跡

宝曆二申六月廿五日御使番葛卷治部右衛門跡、役料百石

同十辰七月廿五日御先物頭尾高治部右衛門跡

同十三未九月五日御目付鈴木忠右衛門跡

明和六丑正月十四日御簾奉行千本長右衛門跡

奈良助右衛門

百五拾石

明和七寅四月廿九日父助右衛門跡知無相違、大番入

享和二戌十一月年来御進物番出精相勤候二付、御紋御上下被下置

文化三寅十二月十一日末之番外御時宜役

文化五辰閏六月二日御留守物頭前田彦次郎跡

文化六巳ノ二月十八日隠居被仰付候

奈良助右衛門 八五郎

百五拾石

- 文化六巳ノ二月十八日養父助右衛門隠居、家督無相違、大御番入
- 文政五年十二月廿四日大御番三番筆頭奈良權太夫跡被仰付
- 同六未二月十五日郡奉行長谷川源之進跡、役料五拾石被下置
- 文政十亥二月廿三日御水主頭上月久右衛門跡、御役料百石被下
- 文政十二丑七月四日御奉行役河崎三郎助跡被仰付、沢木八左衛門家屋敷へ替被下
- 同十三寅十二月十日御札所支配兼帶
- 天保二卯十二月十四日倅伝太郎丈吉心得違遠慮被仰付、伺之上指扣
- 天保三辰八月七日隠居

奈良助右衛門 伝太郎 古都

百五拾石

- 一天保三辰八月七日親助右衛門隠居、家督百五拾石無相違被下置
- 一同八酉年江戸詰、四月十五日出立
- 一嘉永五子三月十六日御金奉行渋谷与五左衛門跡被仰付候
- 一同六丑正月廿九日御預所御金奉行松江三郎右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候
- 一安政三辰五月九日御勘定拝借奉行御趣意銀取扱寺沢藤左衛門跡被仰付候
- 一安政五午正月十六日御書院番組へ被入、役義之義ハ御免被成候
- 一万延元申九月十六日格式末之番外被仰付候
- 一文久二戌閏八月四日年寄二付隠居
- 一明治二巳六月十二日助右衛門事古都卜改

奈良元作 茂登作

百五拾石

〔士族〕

- 嘉永四亥七月五日文相心掛御家中弟子致世話候趣奇特二付、御手元カ
- 四書五經一部被下置、子弟共江貸遣し引立候様被仰付候
- 一安政二卯四月三日学文所詰被仰付候
- 一同年五月廿九日講究師被仰付候、且又学文所未夕全備ニも相成兼候得者、是迄素読致世話候二付、外塾之趣を以当分是迄之通致世話候様被仰付候
- 一同三辰四月廿一日明道館役掛り出精二付、美濃紙一束御袴地一被下置、且又生徒引立出精二付御袴地一被下置候
- 一同年六月十九日内達も有之二付外塾之儀ハ御免被成候
- 一同年九月廿二日蒙養師助被仰付候
- 一同四巳八月廿三日明道館之儀二付伺之上遠慮
- 一同五午九月廿九日蒙養師被仰付、銀五枚ツ、年々被下置候
- 一同六未七月廿三日御用之儀も有之二付、修行旁九州筋へ罷越候様被仰付候、但シ此度三岡石五郎儀も被遣候間可申談旨、然処九月十八日出立
- 一同七申閏三月三日帰着
- 一同年同十二月他国修行被仰付太儀二付、銀壹枚被下置候
- 一万延元申四月十六日蒙養師其儘訓導師被仰付、御扶持方五人扶持被下置候
- 但館中席之儀ハ都講次、是迄被下候銀五枚之儀ハ以後不被下候事
- 一文久元酉六月三日文事之儀二付御用有之、支度出来次第出府被仰付候、同十二日出立
- 一同年七月三日御講書御相手被仰付、且又両御屋敷学問所之儀申談致世話

候様被仰付、於府中別段三人扶持被下置候

一同二戌五月十日帰着

一同年閏八月四日親助右衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候、右ニ付是迄年々被下置候五人扶持之儀ハ以後不被下、將又蒙養師訓導師共其儘館中席之儀も是迄之通被仰付候

一同五日蒙養師訓導師共其儘被仰付候ニ付、御番組御免被成候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京

一同年十一月十六日於京都表御滯京御用向取扱被仰付

一同年八月廿日訓導師其儘御書院番組江被入、蒙養師之儀ハ御免被成候

一元治元子四月十日御含御用も有之二付当分滯京被仰付、滯京中月々銀三枚ツ、被下置候、五月十七日帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀被思召候、依之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方十月十一日早驅ニ而帰、十二日折返シ出立、夫方長征

一同年九月廿日在京中御含御用振退勤被仰付候

一同年十月十九日今度応接方被仰付候、丑三月御供ニ而帰

一同二丑四月朔日御含御用有之二付出府被仰付候、同五日出府中為失却月々銀拾枚ツ、被下置候旨

一慶応ト改元、四月廿八日右出府被仰付置候処、今度毛受鹿之介江戸表江為御使被指出候ニ付右副使被仰付、同晦日大早驅出立

一同年閏五月十一日昨秋征長御供被仰付候ニ付、別段致心配相勤候ニ付、銀式枚被下置候

一同年九月三日当節柄御用薄ニも相成候ニ付、御含御用御免被成、勝手次

第罷帰候様被仰付、十月十七日帰

一同年十一月四日明道館学監并外塾之儀も都而取扱候様、格式末ノ番外ニ被成下、役中年々銀拾枚ツ、被下置候、且又御用有之節ハ御用部屋江罷出候様被仰付

一同二寅十一月廿九日御目付役見習、御役料五拾石被下置、御使番順席ニ被成下、御役人並被仰付、学監之儀も是迄之通被仰付

但御役料被下置候ニ付、是迄年々被下置候銀拾枚之儀ハ以後不被下候

一同三卯三月廿九日今般御模様ニより宰相様御上京可被遊儀も可有之二付、立帰御供被仰付、四月十二日出立、五月五日帰

一同年六月六日当秋京都詰被仰付、八月廿二日出立

一同年九月廿五日定式掛り

一同四辰正月六日早驅御用ニ而京都方罷越、翌七日引返出立

一同年三月十六日御目付本役被仰付、御役料都合百石被下置、当秋迄詰延被仰付候

一同年七月十八日御内用有之二付、立帰御国表江罷越候様被仰付、同廿二日早驅着、八月二日早驅ニ而折返上京、九月四日帰

一同明治二巳二月十五日監察被仰付、月給米七十俵、御役料ハ不被下候

一同月廿七日御用有之二付糸魚川様へ被遣、早速致出立候様、翌廿八日出立、三月十九日帰

一同年十一月廿七日今般御改革ニ付当役被免候事

一同日任権少参事、刑法寮勤被仰付候事

一同月 今般御改革ニ付、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合下賜

一同三年十月廿四日御用有之二付立帰東京江可罷越事、閏十月朔日出立、

未二月七日婦

一同四未二月八日任少参事

一同年八月廿七日御用有之上京被仰付、九月十日出立

一同年十一月廿七日任宇和島県権参事

一同年十二月八日免本官

一同日大蔵省七等出仕

奈良³

奈良八太夫

百石

延宝三卯十一月十日父八左衛門隠居之節、兄波々伯部小右衛門拜知被下

享保八卯八月六日小馬印奉行小林又右衛門跡

同十巳正月廿七日死去

此後代は二出、但波々伯部卜改

中村¹

中村八太夫

百五拾石 外役料百石

延宝八申九月廿六日被召出、式百石被下候処

貞享三一統半知

元禄十五年十月七日五拾石御加増、大御馬印奉行同日被仰付

中村八太夫

百五拾石 役料百石

正徳二辰十一月廿一日養父八太夫家督無相違

同四年二月五日御手廻り

同五未五月廿五日御供目付

享保三戌三月十九日御使番高田孫左衛門跡

同十巳八月十六日御水主頭栃屋半右衛門跡

同十二未十一月十六日御先物頭今村段右衛門跡

同十九寅六月六日御普請奉行今村段右衛門跡

元文元辰七月廿二日御目付栃屋半右衛門跡

中村八太夫

百五拾石 役料百石

元文三年六月五日養父八太夫跡知無相違、大番入

宝暦二申十二月廿二日御留守作事奉行松田跡

同九卯正月十六日御先作事奉行松田弥一右衛門跡、御役料百石

同十辰七月廿五日御先物頭永田四郎兵衛跡

安永三年六月十四日御普請奉行浅井弁左衛門跡

中村八太夫

百五拾石

天明八申五月廿二日養父八太夫隠居、家督無相違、大番入

寛政二戌二月廿日御小性見習

同年十月十五日御小性本役

同七卯九月廿日御近習番津田新兵衛跡、御書院番入

同九巳二月十三日御小性頭取今村伝兵衛跡

同十年三月廿四日御膳番席御近習番御書院番入

同年七月四日於江戸御膳番

同十一未九月十八日中将様御附御用人支配

同十二庚申年閏四月廿日中将様御附御近習番御免被成候、御書院番入被

仰付候

文化元甲子十月廿日末之番外御時宜役被仰付

中村八太夫 音助事

百五拾石

一文化九申五月十六日養父八太夫家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ

被入

一同十四丑七月五日若殿様御小姓恒五郎様御附兼帯被仰付

一文政元寅江戸詰被仰付、同三辰年帰着

一同五午江戸詰被仰付

一文政七申江戸詰被仰付候

一同九戌江戸詰被仰付、三月廿四日出立

一同十亥十一月二日奥御納戸役被仰付

一同十二丑江戸詰、三月廿八日出立

一天保四巳江戸詰被仰付

一天保五午九月廿九日末之番外御時宜役被仰付

一同十亥正月廿九日郡奉行東郷仁右衛門跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同十一子二月廿九日中領支配被仰付

一同十三寅二月廿九日江戸御間番役山田藤兵衛跡被仰付、御役料都合百石

被下置、御先物頭次席、家内共引越被仰付候、依之四月十三日出立

一同十四卯十二月廿八日当秋神田橋御住居江御立寄、御用掛り出精二付御

褒詞

一弘化元辰三月十四日神田橋御住居へ御立寄、御用掛り出精二付右同様

一同二巳四月十一日御側物頭次席被仰付

一同年七月十九日、一昨年以來御札所御趣法一件公辺向始取調出精二付、

御召御上下一被下之

一同四未九月十二日神田橋御住居へ御立寄、御用掛り出精二付御褒詞

一嘉永元申正月十五日鳥子紙御献上之節、御用掛り出精二付右同様

一同年十二月十五日急御出府之節、御用掛り出精二付御褒詞

一同二酉十二月十五日今般御婚姻御用掛り出精二付、御召御小袖一銀拾枚

被下之

一同年同月同日右御縁組御用向取調二付、銀式枚別段五枚被下之

一同四亥四月九日先達而神田橋御住居江両御丸様御立寄二付御褒詞

一同年七月五日出精相勤候二付長袴席御広敷御用人次被仰付候

一同年十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安両村与十郷用水路

論、且又泥原新保浦丸岡領川崎村与出入及出訴候処、彼是出精二相勤二

付御目録之通被下置候、御目録御紋御上下一具銀三枚

一同年十二月十六日中将御拜任二付、御用懸り被仰付

一同五子閏二月十五日御昇進御用掛り出精二付、御目録金式百疋被下置候

一同年四月廿五日御住居御普請御用掛り出精二付、御目録銀壹枚被下置候

一同年六月九日新番頭市村勘右衛門跡被仰付、定詰中出精相勤候二付、御

召御上下沓具并銀拾五枚被下置候、跡役於御国表被仰付候間、代り之者

着迄御聞番役是迄之通可相勤旨、且又於御国表山田藤兵衛家屋敷被下置候、同年九月五日帰着

一安政三辰五月廿二日来炮術出精二付、花葵御紋付御扇子一本被下置候

一同四巳六月十五日席其儘御側物頭中村久藏跡被仰付候

一同五年十一月十一日御座所預り被仰付候

一同六未十二月十三日来申年太田御陣屋詰被仰付、詰中御目付本役同様并

御聞番代り相勤候様被仰付候

一同廿日右同趣之処、先年御聞番長々相勤難儀之訳合も有之趣二付、御聞

番代り之儀ハ御免被成候

一万延元申閏三月廿一日太田御陣屋詰出立

一同年四月二日右詰中御徒頭取扱被仰付候

一同年六月十九日御泉水預り被仰付、御座所預り之儀ハ御免被成候

一同年八月十七日訳合有之太田御陣屋詰御免被成、勝手次第致出立候様被

仰付、九月九日帰着

一同年十月九日席其儘御役御免被成候

一文久元酉九月廿三日席其儘御脇物頭大谷半平跡被仰付、御役料百石被下

置候

一同二戌閏八月四日年寄候二付隠居

一元治二丑正月八日思召を以折々御機嫌伺罷出候様被仰付、其節々中ノ口

致往来候様被仰付候

修行、御扶持方式人扶持被下置、猶委細之儀ハ御奉行へ可申談旨被仰付

一同七寅三月廿三日品川御殿山御固場へ出張心配罷在候二付、御下緒一掛

被下置候

一同四月十八日帰着

一安政七申正月廿五日当申年太田御陣屋詰御雇被仰付、詰中御扶持方三人

扶持被下置候、閏三月廿一日出立

一万延与改元、八月十七日訳合有之、太田御陣屋御雇詰御免被成、勝手次

第致出立候様被仰付、九月九日帰着

一文久二戌閏八月四日親八太夫年寄候二付隠居被仰付、家督百五拾石無相

違被下置、大御番組へ被入候

一同年十二月廿八日唯七郎与名替

一同三亥二月十日番頭引纏上京、三月廿五日中午將様御供二而帰着

一同年八月廿六日早速上京被仰付同廿八日出立、子四月廿三日宰相様御供

二而帰

一元治元子六月廿五日宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下

置候

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、三月朔日帰

一慶応与改元、十月十九日江戸表へ出立、同年十二月六日今度御趣意二付

勝手次第罷帰候様被仰付、同廿六日帰

一同三卯三月十日御上京御供出立、直御警衛詰、七月十八日帰

一同年十一月廿五日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候

一同四辰三月十六日御金奉行沢木又八郎跡被仰付、役御番組江被入候

一明治二巳十月廿七日以当役楮幣局司事仮被仰付候事、同廿九日被免

中村唯七郎 八五郎

〔士族〕

百五拾石

嘉永六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表江罷出、砲術訓練致

給八俵

一 同年十一月四日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付候事

一 同月四日御金方被仰付候事、但席伊藤庵上、月給米一年分八俵被下候事

一 同月廿一日司計局少属被仰付候事

一 同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一 同三年二月七日今般御改革二付御金方被廢候、依之少属被免、予備隊江

被入候事

但席永田十郎次

一 同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

中村²

中村太郎左衛門

百五拾石 外役料百石

先御代御扶持切米、其後新知百五拾石

貞享三一同減、百石被下

宝永二酉七月十三日御徒頭

同年九月廿三日五拾石御加増、都合此通り

正徳元卯十一月七日御側物頭

中村太郎左衛門

百五拾石 役料百石

正徳五未五月廿五日御手廻り被召出、御合力銀

享保六うし十月十五日御供目付日比源右衛門跡

同十三申八月廿五日養父太郎左衛門隠居、家督無相違、太郎左衛門へ三

人フチ被下、御供目付其儘自分御功力銀上ル

同十六亥十一月廿五日御水主頭小栗九右衛門跡、役料百石

同廿一辰五月十三日御先物頭河合彦作跡

寛保三亥八月五日御目付長谷川権右衛門跡

延享元子十月十五日病氣二付御役御免、御先物頭並大木与右衛門跡

同四卯八月廿二日御先物頭、役料百石被下、蟬江善右衛門跡

中村太郎左衛門

百五拾石 役料百石

宝曆十辰十一月廿九日父太郎左衛門家督無相違、大番入

明和五子正月十六日大番一番筆頭飯沼十郎太夫跡

安永八亥五月十六日御使番長谷部半右衛門跡、役料百石

天明元うし十一月廿日御長柄奉行佐々木小左衛門跡

中村太郎左衛門 仲

百五拾石

天明六年六月廿日養父太郎左衛門隠居、家督無相違、大番入

同年七月廿四日御附御小性

寛政十年七月廿八日御部屋附御小性頭取松江長太夫跡

享和三亥七月廿日末ノ番外御時宜役

文化三寅十一月廿二日御使番岩城仙太郎跡、御役料百石

文化六巳二月晦日御側物頭小川治平跡

同七年十月十七日御武具支配中根跡

同十四二月七日忍之者預

文化十一戌二月五日御目付中根新左衛門跡

文政九戌十一月十六日出精相勤候二付長袴席御奉行次、且又内願之趣在

之二付、御札所目付兼役御免被成候

同十一子正月廿八日年来出精二付五拾石御足

文政十二丑二月十六日病身二付御役御免、御足高御役料其儘御側物頭次

席御近習被指置

中村仲 熊之助

百五拾石

一文政十二丑年十一月十六日親太郎左衛門隱居被仰付、家督無相違被下置、

大御番組江被入

一天保八酉年江戸詰被仰付、四月十六日出立

一同十一子年江戸詰被仰付、四月十五日出立

一嘉永二酉年十一月十六日御金奉行大谷第八跡被仰付

一同四亥年江戸詰

一同四亥九月十九日於江戸表病死

中村仲 鉄之助 仲 太郎左衛門

百五拾石

一嘉永四亥十一月十一日親仲家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

候

一同年同月十六日親仲勤中役所締り方不参届趣相聞候二付、被仰付方も可

有之処、令病死候二付不及御沙汰候

一安政三辰十二月廿八日仲与名替

一同四巳四月廿日江戸詰出立

一同七申二月九日江戸詰出立

一文久元酉四月十四日帰着

一同年十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰被仰付候

一同二戌三月廿八日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供二而帰着

一同年七月八日支度出来次第上京被仰付候、相止

一元治元子二月廿三日大御番組頭助大野権之助跡被仰付

一同年七月廿一日京都表へ出立、十月九日帰

一同年十月三日御書院番組江被入、筆頭役助之儀ハ御免被成候

一同年 征長出陣、丑三月帰

一慶応元丑五月廿六日砲術所世話役被仰付候

一同年六月廿九日御書院番其儘大馬印奉行雨森宇右衛門跡被仰付

一同年十二月廿八日太郎左衛門与名替

一同二寅二月十六日御留守番筆頭役岩上梶太夫跡被仰付、御留守番組江被

入候

一明治二巳二月十六日今般御留守番支配御廢二付御役御免被成、御広間当

番勤被仰付

但番列其儘

一同年五月四日元御書院番組席被仰付

一同年六月廿一日太郎左衛門事仲下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

中村
3

中村政右衛門

百石

延宝八申八月廿五日父市右衛門跡目百五拾石被下

貞享半知

享保十二未十一月五日番外被仰付、大馬印奉行波々伯部九兵衛跡

中村權太夫 政右衛門

百石

享保廿一辰二月十一日父政右衛門跡知無相違被下、大番入、同日鑓師役被仰付

中村市右衛門

百石

宝曆十二午七月廿九日養父權太夫跡知無相違、大番入、同日師役
明和元申九月廿五日御書院番入

中村市右衛門

百石

安永六酉八月十一日父市右衛門跡知無相違、大番入、同日師役被仰付
寛政元酉十二月廿三日於江戸御書院番入

寛政十年十一月廿五日格式末ノ番外、毛利六郎右衛門次

文化六巳ノ二月十八日大御番井原兵左衛門跡、御役料百五拾石被下置

同八未三月廿一日御長柄奉行大久保喜兵衛跡

文化十二乙亥正月廿七日病身内願ニ付隠居被仰付

中村市右衛門 惣太郎 多膳 政右衛門

百石

文化十二乙亥正月廿七日父市右衛門隠居、家督百石無相違、大御番入、師役被仰付

文政七申ノ二月廿一日御書院番入被仰付

天保三壬辰十一月五日格式末ノ番外

天保五年五月廿四日御使番役御供頭兼帶、御役料百五拾石被下置候

同十二丑六月廿九日役義其儘御先物頭次席被仰付候、御側物頭

天保十四年卯六月病死

中村多膳 房次郎 政右衛門 市右衛門

百石

〔士族〕

一天保十四卯七月廿五日親市右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入、

鑓師役被仰付

一弘化二巳年江戸詰、三月 出立

一嘉永三戌九月十一日御書院番組江被入

一同六丑年江戸詰、三月御供ニ而出立

一安政四巳四月廿二日家業宜其上数代師役相勤、別而近来出精太儀ニ思召、且又今度師役肝煎被仰付、格式末之番外ニ被成下、役中銀式拾枚ツ、年

々被下置候

一同六未十月十一日御使番順席ニ被成下、御役料五拾石被下置候、且又御役料被下置候ニ付、是迄年々被下候銀廿枚之儀ハ以後不被下旨

一万延元申十二月廿八日市右衛門与名替

一文久元酉五月八日御目付役高田孫左衛門跡被仰付候、御役料都合百五拾石被下置候、右ニ付師役肝煎之儀ハ御免被成候

一同二戌三月廿三日旧臘諸組之者共江放發御手当銀被下之儀ニ付、不念之儀有之、遠慮伺指扣、廿五日御免

一同年四月五日江戸詰出立

一同年七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談ニ付、御用掛り被仰付候

一同年九月十九日伺之上差扣被仰付、同廿日御免

一同三亥正月六日中将様近々御船ニ而御上京被遊候ニ付陸路上京出立、三月廿五日御供ニ而帰着

一同年五月廿二日御軍帳御變革ニ付掛り被仰付

一同年八月廿九日家屋敷小川常太郎家屋敷江替被下候

一同年九月五日家屋敷小川常太郎家屋敷へ替被下候処、指支之筋も有之ニ付是迄之通被指置、都筑利八郎屋敷地之内ニ而稽古所建物不足之分拝借被仰付候

一同廿二日御用有之支度出来次第立帰上京被仰付、廿五日出立

一同四子二月十八日今般中将様京都御守護職被為蒙仰候ニ付、早駆ニ而帰着

一元治与改元、三月七日御軍制取調御用掛り被仰付候

一同年四月廿二日家屋敷松原次郎左衛門家屋敷へ替被下候

一同年五月十六日去月御番中夜廻三度廻可相伺候、不心付候ニ付遠慮伺之

上指扣、同十七日御免

一同月十八日昨秋上京以来宰相様御在京中格別御用多之処出精ニ付、御召御帷子一御小柄被下置候

一同年六月十三日御番割御用掛り被仰付

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一慶応元丑七月二日武芸所掛り被仰付候

一同二寅正月廿九日京都詰被仰付、四月十八日出立、十二月五日帰

一同三卯九月廿五日定式掛り

一同四辰四月五日北陸道惣督御通行之節、心配相勤候ニ付御裏詞

一同年十月五日幸姫様御簾中様御手許へ御引取ニ付、御用掛被仰付候

一明治卜改元、十月廿二日幸姫様御引越ニ付御道中御供被仰付、依之立帰上京被仰付、十一月十日出立、同廿九日帰

一同年十二月七日殿様御上京御供被仰付、同十三日出立、巳二月六日帰

一同二巳二月十五日御裏取締被仰付、月給米七十俵、御役料ハ不被下候

一同月廿日槍術師役已来被免候、但相手寄候者江相談可為勝手事

一同日年来流義致世話勤方被思召候、仍金貳千五百疋被下置候

一同年六月十六日市右衛門事多膳卜改

一同年十一月七日三ノ丸御座所振退勤被仰付候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年三月廿五日今般御改革ニ付当役被免、優待之列被仰付候事
但席矢野権平次

一同日年来勤功有之ニ付、為慰勞年々金貳拾五兩ツ、被下候事

一 優待列

一同三年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同日非役上席、但軍務寮支配之事
一同六年四月五日老年ニ付隠居、倅益雄へ家督

中村益雄

〔士族〕

一貳拾七石七斗九升六合



中村權太夫

廿石三人

元祿四未六月十三日父太郎兵衛跡目

同十一寅三月十六日用水奉行

正徳三巳八月廿一日用水御免

同五未八月二日三石御加増、御代官

寛保三亥二月廿九日休息

中村市郎右衛門

百石 役料百五拾石

寛保三亥二月廿九日養父權太夫休息、家督被下、大番入

延享四卯九月六日五石式人フチ御加増、御手廻り、御書院番入

宝曆六子九月廿二日御供目付野中市兵衛跡

明和元申八月六日新知百石被下

同五子七月九日若殿様奥御納戸

同九辰七月三日若殿様御附末之番外本多武平跡被仰付

安永五申三月廿日江戸詰之節迄御足高五十石被下
同七戌六月廿二日若殿様御腰物奉行出淵平兵衛跡
同八亥十月廿日御使番海福久右衛門跡、御役料百五拾石被下

中村權太夫

百石

天明六年六月廿日父一郎右衛門隠居、家督無相違、大御番入

寛政五丑九月廿九日道奉行上水方取扱兼堀武左衛門跡

同十二申八月廿日上水奉行御趣意ニ付兼帯御免、道奉行忝人役前々之通

被仰付候

文化六巳正月廿八日御近習番御書物方数賀山跡

文化九壬申十月二日末ノ番外御近習ニ被指置、席三沢勘左衛門次

同十三子十一月病死

中村久藏 金次郎事

百石

一文化十三子十二月廿三日父權太夫跡知百石無相違被下置、大御番組へ被

入

一文政三辰十月十一日御小姓被仰付

一同四巳江戸詰被仰付候

一同四巳四月七日於江戸表若殿様御附御近習番被仰付、御書院番組へ被入、

恒五郎様御附兼帯被仰付

一同六未支度出来次第江戸詰被仰付候

一同八酉江戸詰被仰付、三月廿七日出立

一同九戌二月廿一日於江戸表御裏役被仰付候

一同十一子江戸詰

一同十二丑十一月十六日與御納戸役茂呂喜六跡被仰付候

一天保二卯江戸詰被仰付候

一天保五午江戸詰被仰付

一同六未江戸詰被仰付罷越候処、天梁院様御尊骸御供二而帰着

一同六未九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被

差置、御用筋之儀ハ是迄之通可申談旨

一同年同月十六日與御納戸役被仰付

一同七申二月廿日御近習番頭取御膳番被仰付

一同年秋江戸詰被仰付、八月廿五日出立

一同九戌年御供二而帰着

一同九戌江戸詰被仰付、九月二日出立

一同年十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被

差置、勤方之儀ハ追而可被仰付、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月廿九日御近習頭取御膳番被仰付候

一同十亥十月江戸表方帰掛ケ伊勢八幡江御代拝相勤罷帰ル

一同十一子四月十一日御近習頭取御膳番其儘、御書院番二番之筆頭役岩城

藤左衛門跡被仰付

一同年江戸詰被仰付、八月廿八日出立

一同十三寅江戸詰被仰付、八月十一日出立

一同十四卯七月廿二日御使番役堀勘左衛門跡被仰付、御役料百五拾石被下

置候

一嘉永元申五月廿八日御先物頭成瀬惣右衛門跡被仰付

一同五子年江戸詰

一同七寅三月廿五日御普請奉行高間文四郎跡被仰付候

一同年六月十七日、去ル十三日塩町方出火之処、及大火候節出精二付御褒

詞

一安政元寅十二月五日今般大橋御修復無御滞相濟候二付御褒詞

一同三辰四月十五日御側物頭高島市郎右衛門跡被仰付、同日御座所預り被

仰付候

一同廿日此度黄門様御遠忌二付、於運正寺御廟御造営被仰出候処、纔之日

数二而宜出来太儀被思召候段被仰出候、但先役中也

一安政四巳二月十五日年寄候二付隠居

中村藤次郎

百石

一安政四巳二月十五日養父久藏年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違、

大御番組へ被入候

一同年十一月廿五日御製造方見習被仰付候

一同五午五月廿五日心得違之趣有之二付、御製造方見習御免、御呵被成候、

同日遠慮伺之上指扣被仰付、同廿九日御免

一同六未九月十五日病死

中村常次郎

百石

一安政六未十一月五日親藤次郎家督百石無相違被下置、大御番無役組へ被

入候

一文久二戌閏八月十七日病死

中村雪^{キヨシ} 藤太 実常次郎祖父久藏実子

〔士族〕

百石

文久二戌十月八日同氏常次郎病中願之通家督相統被仰付、知行百石無相違被下置、大御番組江被入、御番御供御免被成候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立

一同年十二月廿二日御附御小姓被仰付

一同四辰閏四月十五日御附御馬廻被仰付、但川地平馬次

一同月十九日京方帰、五月晦日出立、十二月九日帰

一明治二己二月二日上京、三月六日御供ニ而帰着 年給貳俵 在京中六俵

一同年四月九日中納言様御供ニ而東京江出立、八月廿五日帰

一同年十月四日奥詰被仰付候事

但年給当分是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月二日東京江出立、午九月朔日帰

一同四未二月廿八日今般御改正ニ付御家従被免候事

一同年四月廿五日依願給禄之内貳拾俵甥増吉江分禄被仰付候事

米四拾俵四斗三升六合

一同五申五月藤太事雪



中村条右衛門

貳拾五石五人

寛文四辰十一月於江戸被召出、三人扶持被下

同七未正月於吉江御扶持切米被下

宝永六丑冬御充足之五石貳人扶持被召上処

正徳二辰三月十九日右御切米之通被下

同五未六月廿一日玉薬奉行栗原作右衛門跡

享保十三申九月十四日休息

中村庄太夫

廿五石五人

享保十三申九月十六日父条右衛門休息、家督無相違、大番入

同十七子五月廿九日御祈禱奉行荒川徳右衛門跡

寛保三亥二月五日御預所御代官上坂甚五右衛門跡

延享元子三月廿二日表御代官松沢跡、当分御預所も兼役

中村丈助

百石 外五拾石御足

宝曆九卯正月廿二日父庄太夫跡目無相違、大番入

同十一巳四月評定所留役松山一郎右衛門跡

同年六月十一日御内用御右筆跡部多助跡

安永二巳三月朔日新知百石被下

天明元うし十月廿五日格式末之番外、有賀六郎右衛門跡
同六年五月廿七日御足高五拾石

中村藤九郎 条右衛門

百石

寛政二戌九月十六日養父丈助跡知百石無相違、大番入
同十二申十月十五日中将様御附御近習番前波十次郎跡、於江戸表被仰付
享和元酉五月十三日御附御近習番御免、大御番入

中村宗兵衛 庄兵衛事

百石

一文化五辰三月十一日養父藤九郎病中願之通養子被仰付、家督百石無相違
被下置、大御番組へ被入
一同九申十一月廿八日御小姓被仰付

一同十酉江戸詰被仰付

一同十二亥江戸詰被仰付

一同十四丑江戸詰被仰付

一文政二卯江戸詰被仰付

一文政三辰五月廿日表御小姓被仰付

一同年十二月十七日御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同六未江戸詰被仰付

一同七申八月十五日御裏役比企六郎右衛門跡被仰付候

一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番組へ被入

一同十三寅八月廿八日若殿様御附御腰物数寄方奉行御表様御用兼帯

一天保五年九月廿七日末之番外御時宜役被仰付候
一同十一子五月廿九日御使番役片山平七跡被仰付、御役料百五拾石被下置
候

一弘化四未二月十二日御先物頭井原丞助跡被仰付

一嘉永四亥二月十三日年寄候二付隠居被仰付候

中村庄兵衛 孫太郎

百石

一嘉永四亥二月十三日父宗兵衛年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被
下置、大御番組江被入

一同七寅年十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅へ罷越候始末、
酒狂とハ乍申不宜致業二候得共、今度之儀ハ御沙汰ニ不被及候間、以来

右様之義無之様番頭へ移りを以被仰付候

一安政元寅十二月廿八日庄兵衛与改

一同六未正月廿五日砲術所世話役被仰付候

一同七申二月八日江戸詰出立

一文久元酉四月十四日帰着

一同年八月 病死

中村操 仲之助

百石

一文久元酉九月廿九日兄庄兵衛病中願之通養子二被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入候

一同二戌十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

〔士族〕

一同三亥三月廿五日中午將様御供二而着

一同年六月十四日上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都動搖之節、為御守衛出張二付朝廷を為御褒美金貳百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日上京出立、夫を長征出立、丑正月帰

一同年十二月操卜名替

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十八日帰

一同四辰三月十一日病氣内達之趣も有之二付、御留守番組江被入候

一同年五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一同年六月朔日遊擊隊江被入、支度出来次第京都御警衛詰被仰付、同十日出立、九月十五日帰

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御供帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未四月廿二日依病氣願兵隊被免候事

享保九辰四月十三日表御小姓

同年八月十六日御小姓御免、大番入

同十五戌八月五日御手廻御書院番入

同十七子九月十九日御駕附

同十八丑二月廿八日新知百石被下

元文五申五月九日御書物奉行松田弥一右衛門跡

中村第藏

百石

宝曆四戌閏二月十六日父庄左衛門休息、家督無相違、大番入

同六子九月廿二日御手廻り

同十辰二月十六日御駕附吉田弥一右衛門跡

同十一巳十月廿二日病身二付御手廻り御免、大番入

同十四申五月廿二日御書物奉行織田半左衛門跡、御書院番入

明和五子七月九日小馬印奉行丹羽市左衛門跡

中村庄左衛門

百石

安永五申正月廿日養父第藏跡知無相違、大番入

同年十一月廿九日表御小性見習

同八亥正月十六日御小性見習

同年三月廿五日御小性本役

同九子八月四日表御小性

享和二戌年十二月十一日表小性筆頭役



中村庄左衛門

百石

元禄十六未三月九日被召出

文化元子十二月廿五日御徒頭大谷孫太夫跡、役料五十石
 文化七年十月十七日御使番千本長右衛門跡、御役料都合百五十石
 文化十三年七月四日御先物頭平岡六郎兵衛跡
 文政六未年十月三日年寄候二付隠居

中村庄左衛門 祐藏事

百石

一文政六未十月三日父庄左衛門隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御
 番組へ被入

一同十一子江戸詰被仰付、三月七日出立

一天保二卯江戸詰被仰付候

一同六未江戸詰被仰付

一同九戌六月廿五日御預所御金奉行原田十兵衛跡被仰付、御留守番組へ被
 入

一同十五辰十一月十一日山奉行高坂武右衛門跡被仰付

一嘉永元申四月廿日御勘定奉行御趣意金取扱上坂五右衛門跡被仰付

一同二酉十一月十六日末之番外御時宜役被仰付候

一同五子六月十七日御水主頭下河三右衛門跡

一同七寅六月四日年寄候二付隠居被仰付候

中村捨八 捨八 庄左衛門

百石

〔士族〕

一嘉永七寅六月四日親庄左衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被
 下置、大御番組江被入候

下置、大御番組江被入候

一安政三辰二月廿三日御近習番吉田石五郎跡被仰付、御書院番組へ被入候
 一同五年九月廿五日表御小姓被仰付候、席中野啓助次へ被入候
 一文久元酉三月八日御腰物并奥御納戸御荷物引纏江戸出立
 一同二戌五月六日右同断着

一文久二戌十二月十三日中将様御上京被遊候二付、御供為御用江戸表へ出
 立、翌亥三月廿三日御供二而京都方帰着

一同三亥七月廿日長屋方出火、焼失二付伺遠慮、廿七日御免

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、同二丑二月朔日帰

一慶応二寅十月廿六日御馬廻り被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月十二日御小姓被仰付、但席周防謙介次江被入候

一同年十二月廿八日捨八事庄左衛門与名替

一同四辰五月廿八日御旗奉行太田三郎兵衛跡被仰付、御書院番組江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、已二月廿二日出張二付十三
 兩被下

一明治二己二月十六日今般御改革二付御役御免被成、御広間当番勤被仰付
 候、但番列其儘

一同年六月廿一日庄左衛門事捨八卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

予備隊

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内十石三ヶ年令
 領授候事

領授候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱



中村庄助

式拾五石五人 高不都合吟味可有

延宝六年六月十四日養父惣兵衛為跡目拾五石三人扶持被下

貞享二丑年五石壱人扶持御加増

享保七寅順席被仰付

中村半太夫

廿五石五人

享保九辰七月五日父庄助跡目無相違、大番入

寛保三亥二月廿一日御祈禱奉行中村庄太夫跡

中村惣兵衛 休息

廿五石五人

延享五辰四月十六日父半太夫跡目被下、大番入

宝曆十一巳六月十一日評定所留役中村次郎太夫跡

明和元年九月十一日御内用御右筆

同七寅六月五日御祈禱奉行伊藤惣太夫跡

寛政五丑九月朔日表御納戸大河原清右衛門跡

同十年十二月十一日御代官有賀市右衛門跡、御留守番入

中村十兵衛

廿五石五人

文化元子八月九日父惣兵衛休息被仰付、家督無相違、大御番入
同三寅六月十六日思召在之二付遠慮
文政九戌十二月十六日表御納戸役河村三太夫跡被仰付

中村半太夫

廿五石五人

一文政十三寅三月十六日親十兵衛年寄休息、家督廿五石五人扶持無相違被

下置、無役御留守番組へ被入

一天保五年九月三日大御番組入

一弘化二乙巳五月十六日用水奉行川地権内跡被仰付、御留守番組へ被入

一同四未十一月十六日御広敷御用達

一嘉永二酉年江戸詰、三月廿三日出立

一同年十月十九日御上屋敷大奥向御用掛り二付、金式百疋被下

一同年十二月十五日今般御前様御引移御用掛り二付、御紋御上下一被下

一安政三辰三月十五日御台所頭高木藤左衛門跡被仰付候

一同七申三月廿九日御代官役宮下平四郎跡被仰付候

一文久三亥八月廿九日年寄候二付休息

中村祿三郎

廿五石五人

一文久三亥八月廿九日親半太夫儀年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人

扶持無相違被下置、大御番組江被入候

一元治元子七月朔日上京、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当三百匁被下置候

〔士族〕

- 一 同二丑正月廿五日旧冬出張先ニおゐて心得違相聞遠慮、二月十五日御免
- 一 慶応与改元、四月廿九日京都詰出立、翌寅四月十七日帰
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀ヲ被下配当金千疋被下置候
- 一 同三卯十月十九日御警衛増詰上京
- 一 同年十一月十七日於御国表心得違之趣相聞候ニ付御叱り、伺之上遠慮、同廿三日御免
- 一 同四辰二月廿九日京都ヲ帰
- 一 同年四月廿五日六番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候
- 一 同年五月廿日遊撃隊五番江被入、支度出来次第上京被仰付、後拒役之儀ハ御免被成候
- 一 同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三兩被下候、外二三千疋
- 一 明治二巳二月廿一日五番遊撃隊第一後拒被仰付候
- 一 同年三月九日後絶第一ニ被仰付
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下
- 一 同月廿七日御改正ニ付当役被免
- 一 同三年二月十日小学生長被仰付候事
- 一 同年三月廿八日学校踏級生中修業隊江被入候事
- 一 同年四月廿五日戊辰北越出張、各所戦争拔群尽力ニ付御賞典之内永世十石ツ、令頒授候事
- 一 同月廿八日取調為御用東京江罷越候様被仰付候事、五月朔日出立、六月廿七日帰
- 但小笠原大参事出立之節随従可致事
- 一 同年七月九日ルセ一御雇入途中致心配ニ付、金二千疋被下候事

- 一 同月廿二日為修行ルセ一江寄宿被仰付候事
- 但御賄料ハ被下候事
- 一 同年十月十日任権少属
- 但御雇教師
- 一 掌政堂管轄
- 一 同年閏十月廿八日御用有之二付立帰東京江可罷越事、十一月八日出立
- 但由利從四位下可致同道事
- 但十二月十九日御雇外国人福井へ被遣ニ付附添被仰付、正月十四日帰着
- 一 同四未正月十七日学校出仕
- 但御雇教師警衛勤、且又勤向之儀ハ佐々木権六江可申談事
- 一 同年二月廿二日御雇教師附添相勤候ニ付、金貳千疋被下候事
- 一 同年三月十八日御用有之二付大坂迄被遣候事、翌十九日出立、四月晦日帰
- 但九州辺迄罷越也
- 一 同年六月朔日御改正ニ付出仕被免事
- 一 同年九月 養蚕取調東京出立
- 一 同五申四月 東京府第六大区六ノ小区々長

中村

8

中村源兵衛

拾七石四人

宝永元申四月廿二日御取立

享保七寅年相身躰末席被仰付

中村立藏

拾七石四人

享保八卯十一月十六日父源兵衛年寄迄相勤候二付、願之通次男立藏へ源兵衛御扶持切米無相違被下置、大御番二被仰付、父源兵衛相身躰末席二被仰付

中村源助

拾七石四人

享保十三申二月十一日養父立藏跡目無相違被下、大番二入
寛延元辰八月廿九日順席被仰付

中村源兵衛 休息

拾七石四人

宝曆五亥七月五日養父源助跡目被下、大番入

相馬源兵衛 中村源八郎 次郎左衛門 平太夫 相馬平太夫

拾七石四人

文化二丑年三月五日父源兵衛休息被仰付、家督無相違被下置、大御番入

文化三寅六月十六日閉門

文政六未四月五日不慎二付遠慮

同年六月十六日妹片山^方御返被成候二付遠慮

同年十月十六日妹不慎二付妹義蟄居、源兵衛御徒下り遠慮、押込



中村利兵衛

拾八石三人

享保十九寅九月十五日御小姓目付^方御取立、御留守番入、三石御加増、御土藏番被仰付、小堀元右衛門跡

中村利兵衛

拾八石三人

延享元子十一月七日父利兵衛休息、跡目無相違
宝曆七うし八月廿五日御土藏番大久保仁太夫跡、御留守番入

同十一巳六月十一日病身二付御土藏番御免被成、大番入

同年十月廿九日相身躰末

同十四申四月十四日病死

中村儀右衛門

拾八石三人

明和元申六月五日父理兵衛跡目無相違、大番入

天明四辰十一月廿九日御定之年数相満候二付順席

寛政九巳正月十六日番改役宮下平四郎跡

文化五辰七月廿五日玉葉奉行小川七右衛門跡

文政元寅九月四日休息

中村利兵衛 八郎 儀右衛門

十八石三人

文政元寅九月四日父儀右衛門休息、家督無相違、無役御留守番入
同五年十月二日大御番入

中村一郎左衛門 虎吉 市郎左衛門

拾八石三人

一天保九戌七月十六日親利兵衛家督拾八石三人扶持無相違被下置、無役御
留守番組へ被入
一同十三寅六月廿九日大御番組へ被入
一安政六未九月十日病死

中村雪 小一郎 八郎助 八郎

拾八石三人

〔士族〕

安政六未十月廿九日親一郎左衛門家督拾八石三人扶持被下置、大御番無
役組へ被入候

一文久二戌十二月廿八日八郎助与名替
一同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日帰着
一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿八日出立、子四月廿三日御供二而
婦

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之
御酒被下置候

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿三日帰着
一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月八郎与名替

一同三卯三月十日御上京御供出立、直二御警衛詰、七月十八日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、九月十五日帰

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御

供婦

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同年十二月八郎事雪卜名替



中村弥五左衛門

拾八石三人

享保十八丑三月十五日新番御取立、三石御加増、御鷹方

中村弥五左衛門

拾八石三人

宝曆五亥十一月廿二日父弥五左衛門休息、家督被下、新番御鷹方

明和九辰十一月廿九日御定之年数相満候二付、大番入

天明元うし十二月廿四日家内不締り二付新番組へ被入、遠慮

中村武左衛門

拾八石三人

寛政四子十月廿九日養父弥五左衛門年寄内願有之二付休息被仰付、家督無相違被下置、新番組へ被入、御鷹方被仰付
文化十一戌十一月廿九日休息

中村弥五左衛門 竜太郎

拾八石三人

文化十一戌十一月廿九日父武左衛門休息、家督無相違、新番入、御鷹方

中村与三太郎

拾八石三人

文政十一子正月十六日養父弥五左衛門家督無相違、新番入
天保八酉五月廿一日病死

中村久之助

拾八石三人

一天保八酉七月十一日養父与三太郎病中願之通養子二被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新番組へ被入、御鷹方被仰付
一嘉永三戌九月十六日御定之年数相満候二付、大御番組へ被入
一同七寅正月十六日近來病身二付内願之通休息被仰付候

中村駒吉 実荒川喜代太弟

拾八石三人

一嘉永七寅正月十六日養父久之助養病身内願二付休息被仰付、家督十八石三人扶持被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候
一安政四巳四月十四日年來鎗術出精二付、花葵御紋付御扇子壺本被下置候
一文久二戌五月廿五日病身二付内願之通休息

中村量哉

カズヤ 山田精一郎 中村精一郎 謹吾 精一郎 量也
実山田定右衛門養家之弟

〔士族〕

拾八石三人

万延元申十一月十一日御趣意通りも有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候
一同二酉二月廿一日御都合も有之二付、支度出来次第出立被仰付
一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移りを以慎被仰付候得共、道中并支度之儀も有之二付当分慎御免被成、御国表江罷帰候上是迄之通相心得候様被仰付候、廿四日帰着、廿八日慎御免
一同二戌正月十六日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候
一同年四月廿九日中村駒吉養子願濟
一同三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失却も有之二付金百疋被下置候
一同年五月廿五日養父駒吉病身二付内願之通休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候、依之御陣屋詰之儀ハ御免被成候
一元治元子七月朔日上京出立、八月廿四日帰着
一同年七月廿二日今般御趣意二付御鷹被相止候二付、御番士勤被仰付候
一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑四月廿八日上京、翌寅四月十七日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀に被下配当金千疋被下置候

一同三卯三月九日賀陽宮様御附人被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

但為失却月々金三両ツ、外衣裳料金拾両ツ、被下置候

一同年四月二日上京御先方御断ニ付同月十三日帰

一同年十月十日精一郎事謹吾卜改

一同年十月十九日御警衛増詰上京

一同年十二月廿八日謹吾事精一郎卜改

一同四辰二月廿九日京に帰

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御
供帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同年十二月廿八日精一郎事量也卜改

一同三午四月三日蓮ヶ浦辺へ土着開田仕度、尤当初ハ御城下ニ罷在家族之
者其地江為引移申度、願之通被仰付候上ハ、十楽村八十平へ御渡之地所

相对を以讓受申度、就而ハ糞シ運漕為便利吉崎浦西本願寺裏門前岩崎卜

申地所江家作仕度、七十坪御渡被下置候

但土着願之通家作地所御渡之儀ハ難及取揚之事

一同年五月三日今度土着願之通被仰付、然ル処家族共於吉崎浦桶屋二平居
宅借受近々為引移、私儀ハ乙部鐘三郎縁者ニ付当分同居仕度、是迄之拜

地返上仕家作之儀被下置候様、願之通被仰付候ハ、相对ヲ以卒族堀江長

平へ讓渡申度、願之通被仰付

一同月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未(マ)

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同五申五月量也事量哉

中村

中村金兵衛

拾七石三人

宝曆十辰五月廿三日新番並御取立

明和七寅九月廿九日新番入

天明二寅八月廿五日年来出精二付式石御加増被下、都合拾七石三人扶持
被成下候

中村金兵衛

拾七石三人

天明三卯十月十一日父金兵衛跡目無相違被下置、新番入、御鷹方

文化七午八月廿九日御定之年数相満候二付、大御番入

中村金兵衛 六歳

拾七石三人

一文政八酉三月五日父金兵衛年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、

大御番組へ被入、御鷹方被仰付候

一嘉永五子正月十五日御拝領御鷹迎出立

一同年十一月廿五日出精相勤候二付、御充行三石被下置候

一安政三辰九月十六日御鷹匠頭御用向取扱被仰付、御書院番組へ被入候、依之勤中順席二被成下、且又塚谷源左衛門罷在候御役屋敷へ替被下候

一安政四巳十二月十八日病死

一安政五午二月五日家屋敷脇田奥右衛門家屋敷江替被下候間、家内之者共奥右衛門屋敷へ為引移候様、金兵衛一家共之内へ可被申渡候様被仰付候

中村敬藏 虎太郎 金兵衛

〔士族〕

拾七石三人

一安政五午二月八日親金兵衛家督拾七石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候

一同六未九月廿五日御定之年数相満候二付相身躰末席二被仰付候

一万延元申十二月廿八日金兵衛与改

一文久二戌三月廿日御拝領之御鷹迎為御用江戸出立

一同年四月廿五日於江戸表御鷹匠頭御用向取扱岸惣左衛門跡被仰付、右勤中御書院番組へ被入、順席二被成下、御足充行三石被下置、家屋敷是迄惣左衛門罷在候御役屋敷へ替被下候

但相身躰末席カ

一同五月九日着

一同三亥二月十日御上京御供

一元治元子七月廿二日今般御趣意二付御鷹被相止候、依之御鷹匠頭御用向取扱御免被成、其儘御書院番組二被入置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月帰

一慶応元丑九月廿二日脇田久右衛門家屋敷江替被下候

一同二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一同四辰八月五日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付、四番大隊之四番小隊江附属、支度出来次第越後表江出張被仰付、同十日出立、十一月十五日帰

一明治卜改元、十二月 指扣、同十二日御免

一同月廿一日其隊之器械并彈藥差配方卜被仰付、製造局へ附属被仰付但大隊江附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍六両式步被下

一同年六月廿一日金兵衛事敬藏卜改

一同月廿八日御広間当番勤被仰付、役儀之儀ハ被免候事、但元御書院番組二被入候

一同年九月廿九日精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞金式十五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾八石壹斗壹升五合被下

優待列

一同三午四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、金廿五両被下候事

一同三午閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同六年四月十一日老年二付俸六助へ家督

中村六助

〔士族〕



中村甚左衛門

廿石五人

明和三戌九月十六日小役人方御取立、新番入、役義其儘
同五子九月五日役筋不宜趣有之二付、役義御取上、遠慮

中村甚右衛門 初安右衛門

廿石五人

安永四未三月十一日養父甚左衛門休息、家督無相違、新番入
同年同月十六日川除奉行

天明八申九月五日川除吟味役

寛政十午正月十六日川除奉行掃役被仰付、年寄候二付遠路在出御見除年
来相勤候二付、金貳百疋被下置候

中村惣右衛門 茂三郎 甚左衛門

廿石五人

寛政十午十二月十一日養父甚右衛門休息、家督無相違、新番入

文化三寅八月廿五日御定年数相満候二付、大番入

文政十三庚寅七月廿九日玉葉奉行中野郡兵衛跡

天保八酉五月廿九日御留守武具奉行飯尾惣太夫跡、御留守番組へ被入

天保十二丑七月廿日御代官役伊黒源五右衛門跡被仰付

同十四卯二月十六日休息

中村工タクミ 桃十郎 甚左衛門 惣左衛門 惣右衛門 隠居後苦楽
美沢田丈右衛門弟

〔士族〕

廿石五人

- 一天保十四卯二月十六日養父惣右衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入
- 一嘉永六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、炮術調練致修行候様被仰付、御扶持方三人フチ被下置、同廿五日出立、同七寅四月帰着
- 一同七寅年二月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒志掛ケ被下置候
- 一安政三辰九月五日御番割二付相身躰末被仰付候
- 一安政四巳十一月廿日御製造方見習被仰付
- 一同五午七月五日御製造方当分御用薄二付、勤向御用捨被成候
- 一同六未六月十七日横浜御警衛詰被仰付出立、翌申四月十九日帰
- 一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下
- 一同年七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ出張二付御褒詞
- 一同年八月廿五日御先武具奉行堀新左衛門跡被仰付候
- 一文久二戌十二月廿八日惣左衛門与名替
- 一同三亥五月廿二日役儀其儘彈藥方兼帯被仰付候
- 一元治元子三月三日上京、五月七日帰
- 一同年六月廿五日、昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候
- 一同年十月廿二日大坂表江出立、夫方長征、丑二月三日帰
- 一慶応元丑閏五月十二日出精相勤候二付、役中年々銀三枚ツ、被下置候
- 一同日昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀式枚被下置候
- 一同年七月十二日御役御免被成候
- 一同年十二月廿八日惣右衛門与名替
- 一同二寅四月七日京都詰出立、十一月廿四日帰

一同三卯五月廿九日御書院番組江被入候

一明治二巳二月十八日大砲隊彈藥預被仰付

一明治二巳六月廿六日惣右衛門事工下改

一同月廿八日御広間当番勤被仰付、役儀之儀ハ被免候事

一同年九月十二日器械方寺本仲跡被仰付候事

但席大町金五郎次

一年給式俵被下候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十七俵壹斗式升九合被下

一同月廿七日御改革ニ付製造局被廢候、依之当役被免

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役下唱

一同年十一月廿五日依願隱居

未四月廿八日工事苦楽

中村末終^{ミツイ} 李桃多 午十八歳

米四拾七俵壹斗式升九合

一明治三年十一月廿五日父工依願隱居被仰付、家督米四十七俵壹斗式升九

合無相違被下、小隊江被入候事、但第一大隊五番

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同年十二月 李桃多事未終下名替



中村仁右衛門

拾八石三人

安永四未二月廿六日於江戸御取立、新番入、御勝手役其ま、

中村忠太夫 仁右衛門

拾八石三人

天明四辰十月十一日父仁右衛門休息、家督無相違被下、新番入

寛政二戌九月卅日御広式添役高木他之助跡

同八辰正月十六日御貝役

享和三亥十二月五日病身ニ付役義御免

文化十四丑七月五日二ノ丸御花壇預り中山政右衛門跡

文政九戌五月三日病身ニ付役儀御免

文政九戌十一月十一日病身内願ニ付休息

中村仁右衛門 又助

拾八石三人

一文政九戌十一月十一日養父忠太夫病身内願ニ付休息被仰付、家督拾八石

三人扶持無相違被下置、新番組へ被入

一弘化元辰十二月十六日御趣意ニ付御留守番組へ被入

一安政六未七月廿五日腰痛ニ付内願之通休息

一万延元申六月廿六日勤中御番御供皆勤ニ付、金壹両被下置候段、倅孫市

へ被仰付候

中村立栄^{タツエイ} 孫市 宮門

〔士族〕

拾八石三人

安政六未七月廿五日親仁右衛門腰痛有之難儀ニ付内願之通休息被仰付、

家督拾八石三人扶持置被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割ニ付大御番入

一同年十一月廿五日來春殿様御上京被遊候ニ付、為御待請出立

一同三亥五月十二日本多飛驒手御物頭指添扣被仰付

一同年六月四日御番頭引纏上京、九月六日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張ニ付、朝廷方為御褒美式

百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、十二月帰

一慶応元丑十二月廿八日宮門与名替

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処御模様ニ付途中方

引返帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中他之宿所へ罷越、不作法之趣相聞遠慮、正月

七日今後非常之儀ニ付御免

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、已二月廿二日出張ニ付十三

兩被下候

一明治卜改元、十月十八日先達而於村上表隊長并役向江も不相達、渡り人

甚吉与申者打捨ニ致業、不束之儀ニ付可被及御沙汰之処、今度之義ハ戰

功も有之二付不被及御沙汰候間、以來心得違無之様被申渡候

一同二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍十三兩被下

一同年七月四日宮門事立榮卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米三拾九俵四斗二合被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵ニ付、御賞典之内金廿五兩被下
候事

一同年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備大礮隊伍長、照準兼 年給十俵

一同四未十月十三日解隊

永田

永田四郎兵衛

百石

明曆元未七月父跡目百五拾石被下

貞享三並之通被減下

元禄元辰七月十一日御留守物頭被仰付

正徳三巳閏五月十三日御役御免、席此如被仰付

永田儀太夫

百五拾石

正徳元卯十一月七日御徒目付方大番入被仰付、御先武具奉行

同三巳十月晦日父四郎兵衛隠居、家督無相違、其上五拾石御加増被下、

同日豊姫様附渋谷与五左衛門跡役被仰付

永田四郎兵衛

百五拾石 役料百石

正徳四年十一月廿五日父儀太夫跡無相違

享保六丑十月十五日御手廻り

同十七子六月五日御供目付

天文五申五月九日御使番浅井源左衛門跡、役料百石

延享三寅六月廿八日御長柄奉行真田源太左衛門跡

寛延二巳六月五日御先物頭岡三郎右衛門跡

永田四郎兵衛 忠太夫

百五拾石

宝曆十辰七月十一日父四郎兵衛跡知無相違被下、大番入

同六寅閏十一月十四日御近習番御書院番入

永田三郎助

百五拾石

寛政七卯十二月廿九日養父三郎助跡知無相違、大番入

被仰付

天保五年九月十六日進物番年来出精相勤候二付、御紋御上下被下置

天保八酉三月廿八日病死

永田四郎兵衛

百五拾石

宝曆十四申四月廿二日養父四郎兵衛跡知無相違、大番入

安永九子十一月廿一日御近習番御書院番入

永田四郎兵衛 多八郎

百五拾石

一天保八酉四月九日親三郎助家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

一弘化二巳年江戸詰、三月十六日出立

一嘉永四亥年江戸詰

一同七寅九月廿一日病死

永田儀太夫

百五拾石

安永十丑四月十六日養父四郎兵衛跡知無相違、大番入

永田喜四郎

百五拾石

一嘉永七寅十一月十一日養父四郎兵衛家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政三辰九月廿日致出火候二付伺之上遠慮被仰付、同廿七日御免

一同五年十一月廿五日不埒至極乱心同様之趣相聞候二付、拜知被召上、実

父粕谷彦左衛門方へ御返シ之上侍御削被成、御国拾三里四方追放被仰付

永田三郎助

百五拾石

寛政元酉四月廿五日養父儀太夫跡知無相違被下、大番入

同二戌五月廿九日御小姓見習

同六寅二月廿九日御小姓本役被仰付

候

永田^{シゲシ}重 虎吉 儀平 実西村勘五兵衛次男

〔士族〕

廿五石五人

安政五年十一月廿五日同苗喜四郎儀不埒至極乱心同様之趣相聞候ニ付、
拜知被召上実方へ御返シ之上侍御削被成、御国十三里四方追放被仰付候、
然処結城以来旧家之儀ニ付、格別之御憐便を以家名御立被下、御充行廿
五石五人フチ被下置、新番組江被入候、同日伺之上遠慮、十二月二日御
免

一同六未三月廿日武芸厚出精之趣師役方内達も有之ニ付、修行中銀弍枚ツ
、被下置候

一同年六月十四日横浜御警衛ニ付御人数之内へ御雇詰、支度出来次第致出
立候様被仰付候、同廿四日出立、翌申四月十九日帰

一万延元申七月十一日右詰中臨時横浜江出張候ニ付御褒詞

一同年十二月廿八日儀平与改

一文久二戌十一月十日農兵教授手伝被仰付候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依
之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月八日帰

一同二丑四月七日御舍御用有之ニ付、中国筋へ罷越候様被仰付候

一慶応与改元、五月二日京都表へ出立、同廿一日早駆ニ而帰、同廿三日又

々出立

一同年十月五日京都方早駆ニ而着、其後出坂

一同二寅四月廿七日昨年来御舍御用心配相勤御用弁相成候ニ付、銀五枚被
下置候

一同年六月十七日在坂中御繰合も有之ニ付、当分御聞番御用之儀も相心得
候様被仰付、右御用中月々銀拾枚ツ、被下置候

一同年九月十三日京都御聞番添役被仰付、右ニ付長詰被仰付、是迄月々被
下候銀拾枚其儘被下置候

一同月廿三日御国表へ罷越、十月十六日出立、但修行中年々被下置候銀弍
枚之儀ハ以後不被下候

一同年十月十四日京都御聞番添役勤中別段五人扶持被下置候

一同廿二日役新番組ニ被仰付候

一同三卯六月十六日家屋敷揚屋敷ニ被仰付

一同年十月十九日京都方早駆ニ而着、同日夜折返シ出立

一慶応三卯十一月九日御滞京中御台所頭并目付兼被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付役中役御番組江被入候

一同年六月二日御聞番添役其儘御勤役助被仰付、勤中御足弍人扶持御増、
都合七人扶持被下置候

一同年九月朔日御東行為御用聞東都表江罷越候様被仰付、御指図次第致出
立候様被仰付、同十六日出立

一明治卜改元、九月廿二日月々銀拾枚ツ、被下置候処、今般惣与内割替御手
当相増候ニ付、已後不被下置候

一同年十二月三日今般還幸被仰出候得共、御都合も有之ニ付、今暫滞在候
様被仰付

一同二巳四月十二日東京方早駆、御国へ着

一同日公用人被仰付候

但三等官木内甚兵衛次

一月給七十俵

一 公用人勤中月俸十七口半被下候

但是迄被下候七口ハ已後不被下候

一 岡崎邸内御用取扱兼被仰付

一同月十九日西京江出立

一同年六月廿日今度御賞典被仰出二付、石清水八幡宮江御代參被仰付候事

八幡宮江金五百疋被供候事

一同年八月八日今般西京表公用人指置候二不及旨御達有之二付、東京詰被

仰付候事、但右二付九月十八日東京江罷出

一同年十月八日東京江家内引越被仰出

一同月廿三日行事勤向之義も相心得候様被仰付候事

一同年十一月三日公用人其儘兼行事試補被仰付候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同月廿九日行事試補之儀ハ被免、詰中行事御用取扱候様被仰付候事

一同年十二月十五日東京詰家族引越二付詰中十八口被下

一同三午正月十四日今般行事局被廢候二付行事取扱被免、御用向之義ハ是

迄之通可相心得之事、同

任大属、同四未

免職

一同四未五月十九日家族藩地居住被仰付候事

一同日立帰、為御用藩地へ可罷越事

一同年六月廿三日帰藩二付為失却金百五拾円被下候事

一同年七月五日大谷千熊家屋敷被下候事

一同五申五月儀平事重^{シゲシ}



永田忠四郎

十三人半扶持

元禄十四巳十月朔日跡目被下

元文二巳三月五日番改高橋伊太夫跡

宝曆十一巳十一月廿九日数十年実躰相勤候二付、末之番外津田伝七次被

仰付、御擬作御扶持方二御直十三人半扶持被成下、只今廿石四人扶持也

永田伝内 休息

十三人半

明和二酉十二月十一日父忠四郎隠居、家督無相違、大番入

同七寅閏六月廿日番改荒川三郎太夫跡

安永三年三月五日御役御免、遠慮

同十丑二月十一日番改内田安右衛門跡

寛政八辰二月廿五日御簾本武具奉行御書院番入、山本小兵衛跡

永田順右衛門 伝之助 忠四郎 伝内

拾三人半扶持

寛政十二庚申八月十一日養父伝内家督無相違被下、大御番入

文化三寅六月十六日三人半扶持御取揚、遠慮

同十四丑年十二月五日御広式御用達大橋十兵衛跡

文政九戌五月廿五日御代官竹内五郎兵衛跡被仰付

天保四巳六月十六日役前心得違之趣相聞御役御免、大御番組へ被入、遠

慮被仰付候、且又倅順太郎儀不埒之趣相聞、逼塞被仰付

同七申三月五日用水奉行福嶋忠兵衛跡、御留守番入

同九戌五月十一日御勘定吟味役岡田金左衛門跡被仰付候

同十亥五月十一日御作事方改役仙石喜左衛門跡

天保十一子十二月五日御花畑繪奉行吉田平次右衛門跡被仰付、数年相勤

候二付、三人半扶持御足扶持被下置

同十三寅年七月廿日御足三人半扶持御加増、都合拾三人半扶持被下候

永田順右衛門 忠四郎

拾三人半扶持

天保十三壬寅十二月五日親順右衛門家督無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

弘化四未八月十一日心得違之義有之、内願之通休息之上遠慮

永田十郎 彦三郎 伝内 順右衛門 実順右衛門弟

拾三人半扶持

一弘化四未八月十一日養父順右衛門儀心得違之儀在之、休息之上遠慮被仰

付、家督拾三人半ふち被下置、無役御留守番組へ被入、遠慮被仰付候

(嘉永)
一同六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、炮術訓練致修

行候様被仰付、御扶持方三人扶持被下置、同廿五日出立、同七寅四月三

日帰着

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒袴掛ケ被下置候

一安政二卯三月十六日鎗術出精之趣相聞候二付、御褒詞被成下候

一同三辰五月廿二日年来右同断二付、花葵御紋附御扇子一本被下置候

一同年十二月廿八日伝内与名替

一同四巳四月廿二日明道館内へ武芸稽古所御集被成候二付、中村政右衛門稽古所詰被仰付候

一同五年十月五日右稽古所詰被仰付置候処、政右衛門内達之趣も有之二付、詰御免被成候

一同六未三月廿日年来鎗術相心掛候趣、師役方内達も有之二付、御下緒一

掛被下置候

一万延元申十一月五日御番改役田口五太夫跡被仰付候

一同年十二月廿八日順右衛門与改

一文久三亥二月十二日番頭引纏上京

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立、子四月廿三日宰相様御

供二而帰

御酒被下置候

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之

御酒被下置候

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿三日帰

一同年十月十二日御簾本武具奉行彈藥方兼帯平井佐右衛門跡被仰付、御留

守番組へ被入候

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑閏五月十二日御都合二付御書院番組へ被入候

一同年同日昨年来非常之御用繁相勤候二付、銀式枚被下置候

一同年九月廿八日出坂、十月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同年十一月十一日役儀其儘御武具方吟味役兼被仰付、且又御武具御修復

御改正中格別出精相勤候二付、役中年々銀五枚ツ、被下置候

一慶応二寅十一月廿五日役前之儀二付遠慮伺之上指扣

一同三卯二月十六日御勘定吟味役被仰付、役中御足三人扶持被下置、役御

番組江被入候

一同年八月二日今度於御座所御建繼御普請被仰出候二付、御用掛り被仰付

一同年八月十二日当秋京都詰被仰付、九月朔日出立

一同十七日京都詰中御金奉行并表御納戸役仮兼帯被仰付候

一同年十一月九日御滞京中御台所頭并目付兼被仰付

一同四辰二月十七日在京中会所御用取扱被仰付

一同年三月廿八日当秋迄詰延被仰付

一同年五月九日御役名已来御勘定方卜被仰付

一同年六月八日勝手次第罷帰候様被仰付、十八日帰

一明治卜改元、十二月十一日御広敷御用達被仰付、御留守番組へ被入候、

但御足扶持已後不被下候

一同月廿八日順右衛門事十郎与改

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾五俵四斗壹升被下

一同三年正月十三日右同断二付役儀被免、同日予備隊江被入候事

一同年六月廿九日病死

永田広 午十二歳

米貳拾七俵貳斗四升六合

一明治三年八月十九日父十郎家督、幼年二付御規則之通米廿七俵貳斗四升

六合被下、修業列二被入候事

米四拾五俵四斗壹升

〔士族〕

一同年九月四日伊東権平次男文次郎江代勤願之通被仰付候、依之給禄米四十五俵四斗壹升高二被成下候

半井

半井為竹 後黙真

五拾人扶持

先御代七百石

貞享三御減之節、御扶持二被成下

宝永七寅二月廿一日隠居、但是迄倅知庵へ被下候十人扶持、隠居扶持二

被成下、黙真と号

半井為竹 初知庵

五拾人扶持

初部屋住二而被召出、十人扶持被下、知庵と号

宝永七寅二月廿一日父為竹家督無相違被下

正徳二辰二月十六日行跡不宜候二付御改易

半井黙真 初為竹 初二出、再度二出

三拾人扶持

初宝永七寅二月廿一日隠居被仰付候節、是迄倅知庵へ被下候十人扶持を

以隠居扶持二被成下

正徳二辰二月倅御改易之節も此分ハ黙真へ其儘被下置

其上同四年三月十八日式拾人扶持御加増、都合三拾人扶持被成下

半井瑞庵

三拾人扶持

享保九辰七月廿九日養父默真へ被下候御扶持無相違被下

半井仲庵

百五拾石五人

元文元辰九月十九日養父瑞庵休息、家督三拾人扶持無相違被下

延享三寅五月十八日奥医

同四卯十一月廿九日御匙、新知百五拾石五人扶持被下

明和五子七月十六日若殿様附

同九辰六月十四日隱居

半井道泉

百五拾石五人

明和九辰六月十四日父仲庵隱居、家督無相違、表御医師

安永四未十月廿五日奥医

同七戌閏七月七日奥医師御免、表御医師

同十丑正月十五日奥医師

天明三卯十二月五日若殿様御匙医

文化七午四月十一日養子元貞不慎二付逼塞、道泉義伺之通遠慮

同八未閏二月廿五日隱居

百五拾石五人

文化八未閏二月廿五日養父道泉年寄隱居、家督百五拾石五人無相違、表御医師

文政十亥六月八日御匙医被仰付

文政十二丑二月十六日浅姫君様御附兼帶、当秋江戸詰被仰付、同九月十

四日江戸出立、同月廿五日着

同廿七日不埒之儀有之二付御匙医御免、表御医師御下ケ被成、閉門被仰

付

半井保^{タモツ} 元冲 仲庵

百五拾石五人

天保三辰五月廿九日御匙医師被仰付候

一天保八酉七月五日奥御医師御雇被仰付候

一同十亥四月十六日被召出、奥御医師被仰付、御扶持方三人ふち被下置候

一同十一子六月十六日親仲庵病身内願二付隱居被仰付、家督百五拾石五人

扶持無相違被下置、奥御医師其儘、当秋江戸詰、是迄被下置候三人ふち

以後不被下候

一天保十一子江戸詰被仰付、八月廿六日出立

一同年十二月廿日於江戸表御匙医師被仰付候

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月二十一日出立

一嘉永元申急御出府被遊候二付、御供二而六月五日出立、同年七月御供二

而帰着、右二付十二月七日御褒詞

一同二酉御供二而三月廿六日出立

一同四亥年江戸御供詰

- 一 同五子十月十四日当分江戸定御供被仰付、詰中御足高三拾石被下置
- 一 同年十二月廿四日種痘御端立以来心配行届候趣相聞候二付、帶地一被下置候
- 一 同六丑三月廿二日御供出立
- 一 安政元寅十二月廿八日仲庵と名替
- 一 安政二卯江戸御供詰
- 一 同三辰十月十五日江戸詰中御足高式拾石御増、都合五拾石被下置候
- 一 同四巳三月廿五日医学館教授被仰付候
- 一 同年四月十九日蘭家教授被仰付候
- 一 同年四月廿五日江戸御供詰出立
- 一 同五年午詰越、同六未四月七日帰着
- 一 同六未九月廿五日出精相勤候二付、是迄江戸詰中被下候御足高五拾石以後年々被下置候
- 一 同七申閏三月十六日江戸詰出立
- 一 一文久元酉四月十九日帰着
- 一 同年六月十六日出精相勤候二付、御足高五拾石御増、都合百石被下置候
- 一 同二戌正月廿日家業之儀二付願之上肥前長崎へ出立、夫方直二江戸詰
- 一 同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日御供二而帰着
- 一 同年十月十三日中将様御供二而上京
- 一 元治元子四月廿三日右御供二而帰着
- 一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候
- 一 同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候
- 一 慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付帰
- 一 同二寅四月六日医業格別宜、且又年来出精相勤候二付、出格之訳を以太刀目録格御広敷御用人次席被仰付
- 一 同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰
- 一 同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着
- 一 同四辰四月十日大奥女中引纏京都表江出立、同月廿七日帰
- 一 明治二巳二月十八日中納言様為御機嫌御伺御簾中様方被遣、早速致上京候様、廿八日出立
- 一 同月晦日御執匙可相勤事
- 一 同年三月十三日京方帰
- 一 同年六月十九日医学館掛り被仰付候事
- 一 同年七月十七日仲庵事保^{タモツ}卜改
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米九拾五俵三斗四升九合被下
- 一 同月廿八日和蘭医学御派立已来其術日々開候次第、多年心配其砌不勤、依之修身米四拾俵^ツ、被下候事
- 一 但御足高百石、自今不被下候事
- 一 同三午四月五日小道具町川端地所之内、元小道具之者持分従来借り受居候処、今般御茶園地相成候旨承知仕候、右地所是迄之通拝借仕度旨、当分願之通被仰付
- 一 同年六月四日医員頭取被仰付候事
- 一 但十二等
- 一 一年給無之事
- 一 同日今般御執匙之名目被廢候二付、臨時御執匙御用可相勤事

但本文御用ニ付、勤中年給十式俵被下候事

一同年七月十八日医員頭取自今医長卜可唱事

一同月廿五日年給五十俵被下候事

一同日今度相当之年給被下候ニ付、御執匙御用ニ付被下候年給之儀ハ

自今不被下候事

但別段御取扱ハ有之候事

一同年九月十七日今般上級已下之者共、追々難渋之趣相聞候ニ付、御救助

相願候節、銘々取調も不仕医員一同卜申上、不念ニ付伺之通遠慮、同廿

二日被免

一同年十一月十日臨時御執匙御用被仰付置候ニ付、已来年々金三十兩ツ、

被下候事

但御家祿之内方被下候

一同月十三日任一等教授 年給七拾三俵

但医学掛り

一同四未十二月四日医学教授

但追而被定候迄ハ等級年給従前之通

一同五申正月病死

半井澄^{サヤカ} 玄瑞 驢輔 清 保倅 明治三年廿四歳

〔士族〕

文久二戌十二月廿日医術為修行出府罷在候ニ付、右修行中御扶持方三人

扶持被下置候

一元治元子十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑正月廿九日医道為修行長崎表へ罷越候様被仰付、二月八日出立、

同二寅八月十三日帰、同廿二日親対面願之上上京、九月六日帰

一同年十二月十六日奥御医師御雇被仰付、医学館教授方助被仰付候

一同四辰六月廿五日会征出立、十二月九日帰、已二月廿二日出張ニ付十式

兩被下候

一明治二己二月十六日被召出、月俸五人口被下置、奥御医師被仰付、早々

上京詰中御匙医師格ニ被成下、外ニ御足月俸二人口被下置候

一同月廿四日上京、三月十二日帰

一同年三月廿一日元瑞事驢輔

一同年四月九日中納言様御供ニ而東京江出立、十一月十四日帰

一同年九月朔日驢輔事清下改

一同年十一月廿五日清事澄下改

一同月廿八日医学所佐教被仰付候事

一同年十二月十七日役中給禄式十俵高二被成下候事

一同三年正月廿三日役儀其儘病院頭取被仰付候事

一同年二月四日以医学佐教病院頭取介当直兼被仰付候事

一同年四月廿五日戊辰北越出張軍事精励ニ付、御賞典之内十石三ヶ年令頒

授候事

一同年七月廿二日病院役輩之儀ハ被免候事

一同年十月五日今度大坂府へ百日之間修行願御指許相成ニ付而ハ、年給不

被下筈ニ候得共、職務勉強之事ニ付其儘被下候事

一同月十二日大坂江出立

一同年閏十月十七日軍事病院医官申付候事

一同年十一月十日軍事病院医官指免候事

一同年十二月十二日任二等教授 年給五十四俵 十式俵高

但医学掛り

一同四未五月二日以当職病院主務

一同年八月廿日御用之儀候間、至急大坂府医学校へ罷出候様、文部省より御

達有之候間可致出坂候事

一同十九日任文部中助教

一同五申正月十五日父保病死二付家督

一米九拾五俵三斗四升九合

成瀬¹

左近士新五右衛門 成瀬新五右衛門

百五拾石

さに出ス

※佐久士にあり

成瀬²

成瀬又右衛門

廿五石五人

宝永七寅五月廿九日父勘左衛門跡目被下

延享元子十一月十一日御持武具奉行御書院番入、田辺奥左衛門跡

宝曆二申十月十六日表扨御納戸内田七郎左衛門跡、大番入

同七丑五月廿九日御代官小川長左衛門跡、御留守番入

同十一巳四月十六日御役御免、大番入

同十二年六月廿二日不慎、其上倅亀蔵義も不宜品在之、父子共御呵遠慮

明和二酉十二月十一日休息

成瀬惣右衛門

百石 外役料百五十石

明和二酉十二月十一日父又右衛門休息、家督無相違、大番入

安永三年八月六日御近習番格御供方御書院番入

同五申八月五日御供方御免、大番入

同九子十月五日御広式御用達原田伝左衛門跡、御留守番入

天明四辰十一月十五日御近習番御書院番入

同六年七月廿四日奥御納戸役田口惣兵衛跡

寛政六寅二月廿九日御近習番頭取大谷市右衛門跡

同年八月廿八日新知百石

同八辰十月四日御近習番頭取是迄之通二而、御書院番一番之筆頭役松波

甚左衛門跡

同十年三月廿四日於江戸御近習番頭取筆頭是迄之通二而、奥御納戸兼帯

同十一未九月廿八日御書院番被除候二付筆頭役御免

同十二申二月廿九日末之番外御時宜役

文化五辰閏六月二日御長柄奉行岡部市右衛門跡、御役料百五十石被下

文化五辰十月病死

成瀬惣右衛門

百石

文化五辰十二月五日父惣右衛門家督無相違、大御番入

文化十一戌十二月九日表御小性

同十二亥九月十一日若殿様御附御近習番、恒五郎様御附被仰付候迄兼帯

勤被仰付、御書院番入

同十三子四月若殿様御小性

文政三辰六月五日同御附奥御納戸役御書院番入

文政九戌年十一月十六日御膳番被仰付

文政十二己丑年八月十三日御膳番其儘、御近習番頭取萩野鍋八郎跡

文政十三寅八月廿八日御近習番頭取其儘、御書院番一番筆頭役彦坂又兵衛跡

衛跡

天保三辰五月廿三日末ノ番外御時宜役

同五年九月廿七日御徒頭毛利六郎右衛門跡、御役料五拾石被下置候

同九戌年二月五日御使番役出淵平兵衛跡、御役料都合百五拾石被下置候

同十二丑六月廿九日御水主頭内田小左衛門跡

天保十五辰八月十二日御先物頭内田小左衛門跡

嘉永元戊申五月廿八日隠居

成瀬又五郎

百石

〔士族〕

一 嘉永元申五月廿八日養父惣右衛門隠居被仰付、家督無相違被下置、大御

番組江被入

一同六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、砲術訓練致修

行候様被仰付、御扶持方三人フチ被下置、同廿五日出立、同七寅五月十

三日帰着

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張ニ付御下緒褄掛ケ被下置候

一同年同日西洋流大小砲差配役相勤候ニ付金三朱被下置候

一 安政四己四月廿日江戸詰出立

同年九月十四日今度神田橋御住居御引揚ニ相成、御人御繰廻御都合も有之ニ付、御国表へ御返シ被成、十月四日帰着

一万延元申六月廿六日御番皆勤ニ付時服被下

一文久元酉三月十九日御供ニ而出立

一同二戌四月三日横浜表へ臨時致出張、太儀之段御褒詞

一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中午将様御供ニ而帰着

一同年九月廿六日京都江出立、子四月廿三日宰相様御供ニ而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之

御酒被下置候

一同年七月二日御金奉行波々伯部八十八跡被仰付、御留守番組へ被入候

一同年十二月賊徒一件之節、御留守御用相勤候ニ付御手当式百匁被下

一慶応元丑五月廿八日御趣意ニ付役御番組江被入候

一同年十月十六日江戸詰出立

一同二寅九月廿九日御趣意ニ付勝手次第罷帰候様被仰付、十月十九日帰

一明治二己四月廿日今般御改革ニ付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同年五月四日元御書院番組席ニ被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞式十五兩被下

置候

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

成瀬隼太 又五郎倅 明治三年廿九歳

〔士族〕

文久三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京
同年三月廿五日中將様御供二而右同断帰着

一同年八月廿八日上京出立、子四月廿三日御供着

一元治元子六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、
依之銀式枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑正月十六日京都堺町御門為御警衛上京被仰付、十九日出立、寅正月廿九日帰

一慶応二寅四月十一日本多興之輔方へ増御附属被成、大坂表へ出張被仰付候、支度罷在御指図次第出立被仰付候

一同年十一月三日八木郡右衛門為指添支度出来次第京都詰被仰付、同十三日出立

一同年十二月廿六日御先第十小队指添被仰付

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相止

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治下改元、十二月十三日御上京御供出立、巳二月六日中納言様御供帰

一同三年五月廿四日第一大隊二番小队入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵 十式俵高

一同四未十月十三日解隊

一同六年四月五日父又五郎老年二付家督

一式拾七石七斗九升六合

成瀬

3

成瀬平左衛門

百石

元禄二巳九月十六日父加右衛門跡知無相違被下

同五申三月五日御代官被仰付

享保二酉六月廿一日御代官役病氣二付御免

成瀬甚兵衛

百石

享保三戌三月六日父平左衛門病身二付家督無相違被下

己亥六月廿七日江戸二而死去

成瀬平左衛門

廿五石五人

享保四亥八月廿九日養父甚兵衛跡目被下

同廿卯十月廿一日御金奉行

元文二巳十一月廿一日御役御取上、拜知御取上、御切米被下

延享二丑二月廿九日番改

宝曆二申十一月廿二日御持武具奉行成瀬又右衛門跡、御書院番入

成瀬嘉右衛門

廿五石五人

宝曆十一巳十月十一日父平左衛門休息、家督無相違、大番入

安永四未閏十二月十六日御番改青木新右衛門跡

天明八申八月十日御旗本武具奉行太田猪左衛門跡、御書院番入

成瀬平左衛門 与兵衛

廿五石五人

寛政九巳九月十六日父嘉右衛門跡目無相違、大番入

文化元子八月廿五日御右筆見習竹内岩太郎跡

同三寅ノ十一月十一日御右筆本役御書院番入

同十三子三月廿九日眼病内願御右筆御免

同六月十一日御番改堀又右衛門跡

文政三辰八月廿五日御留守武具奉行岡十郎太夫跡、御留守番入

同七申十月五日御籜本奉行木村藤右衛門跡、御書院番入

文政十一子三月十一日御代官土多一右衛門跡被仰付、御留守番入

天保二卯三月十六日御祈禱奉行長崎七左衛門跡

天保七申二月廿日倅勇太行状不宜趣有之遠慮被仰付候二付、遠慮伺之上

指扣被仰付候

成瀬甚兵衛 勇太

廿三石四人

天保九戌七月十六日親平左衛門家督廿五石五人扶持無相違被下置、無役

御留守番組へ被入候

天保十三寅六月廿九日大御番組へ被入

天保十四癸卯年十一月十六日忒石壺人扶持御取揚、遠慮被仰付

天保十五、四月廿日病身二付内願之通休息被仰付

成瀬誠一郎 幸吉 幸右衛門 平左衛門 実小林八郎助弟

〔士族〕

廿三石四人

一天保十五辰四月廿日養父甚兵衛病身二付内願之通休息被仰付、家督廿三

石四人ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候

一安政四巳十一月廿五日御製造方見習被仰付

一同五年四月廿三日病氣二付内願之通御製造方見習御免被成候

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一文久二戌十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一同三亥六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年九月廿九日御広敷御用達被仰付、御留守番組江被入候

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張二付、朝廷^方為御褒

美式百五十疋被下置候

一元治元子十二月賊徒一件御留守御用、御手当百匁被下

一慶応三卯十二月廿六日養子和十郎儀、先達而今庄へ宿陣中心得違之趣相

聞、遠慮被仰付候二付伺之上差扣、廿九日御免

一同四辰四月十日大奥女中引纏上京

一明治卜改元、九月廿三日京^方帰

一同年十月五日今度被仰出二付幸右衛門事平左衛門卜改

一同二巳二月十五日御役名御裏庶務方執事卜被仰付

一同年六月廿日平左衛門事誠一郎卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾八俵式斗七升四合被下

一同三年正月十三日右同断二付役義被免

一同日御家従被仰付候事、但御裏庶務執事勤

一 同年十月廿八日奥詰被仰付候事

但席笥恪三郎次

一十四級

一 同四未四月五日当分年給 一十四級 式拾式俵一斗八升式合四勺

一 同年五月八日御家従被免候事

一 同五申三月廿五日養子和十郎へ被下候給禄、辛未九月家禄二結込大蔵省

江御達相成候事

廿五石五人

宝曆六子七月廿三日御右筆見習御擬作未不被下、仍而番入之御沙汰無之

宝曆十三未七月廿二日養父仁左衛門休息、家督無相違、大番入

同月廿九日御右筆本役御書院番入、五石二人扶持御足擬作被下

明和元申十月廿九日御足擬作御加増二被成下

安永二巳三月朔日御内用御右筆多部三左衛門跡

同三年六月十四日番改永田伝内跡

天明五巳八月廿日御留守武具奉行大河原清右衛門跡、御留守番入



中山忠兵衛

式拾石三人

寛文十二年子十月家督、吉江二而父御取立

宝永三戌八月廿九日御代官

享保二酉六月廿一日勤方不宜二付御代官役御取上

中山權九郎 喜右衛門

百石

安永元辰二月十六日御右筆見習

安永三年六月十四日御右筆見習被召出、本役御書院番入、銀拾枚五人

扶持被下

天明四辰四月廿九日御近習番

同七未三月十四日父權九郎休息、家督無相違、御書院番組御近習番其儘

寛政二戌十月十五日新知百石被下

同六寅三月九日奥御納戸役東郷吉蔵跡

中山仁左衛門

廿石三人

享保四亥九月廿九日養父忠兵衛跡無相違被下、大番入

同七寅冬順席

同八卯八月十一日用水奉行御留守番

同十六亥十一月五日御代官丹羽与一右衛門跡

中山藤右衛門 数馬 仁左衛門

百石

寛政九巳三月廿五日父權九郎家督無相違、大御番入

同年十月五日御小性

同十一未九月十八日御用人支配

中山權九郎

同十二申正月十五日定府被仰付、於江戸

同年十月十五日中将様御附御近習番根来半兵衛跡被仰付

享和元酉八月三日御裏役笹木甚五兵衛跡

文化二丑五月十三日御膳番根来半兵衛跡

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付、御附御膳番御免、大御番入、

但去月廿八日御国元へ家内共引越被仰付候

同年十月廿日家屋敷被下

文化八未九月十一日御勘定拝借奉行嶋津喜太郎跡、御留守番入

文政三辰十月十日御徒頭笹川藤内跡、御役料五拾石被下置

文政五年六月十日御使番山崎七郎右衛門跡、御役料都合百五拾石被下置

文政十亥五月六日御先物頭大関助左衛門跡

天保四巳 月病死

中山藤右衛門 忠兵衛

百石

一天保四巳七月廿五日親藤右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入

一同年十月十六日若殿様御附御近習番猪子孫次郎跡被仰付、御書院番組江

被入

一同五年年江戸詰、三月廿八日出立

一同六未六月五日超倫院様御逝去二付、御役御免被成、大御番組江被入

一同十一子年江戸詰、四月十五日出立

一同十五辰年江戸詰、正月十日出立

一弘化元辰十一月九日御本丸炎上之節、精出候趣公辺御沙汰有之、其節罷

出出精二付、御目錄金式百疋被下置候

一同年十二月十九日御本丸炎上之節、高足相用候趣不束之事二候、依之御

叱り

一嘉永二酉八月三日御広敷御用達真杉小平次跡被仰付

一同三戌年江戸詰、四月六日出立

一同五子三月十六日御預所御金奉行落合丈右衛門跡被仰付

一同年九月十八日於江戸表弟太一令出奔候二付、伺之上指扣被仰付、同廿

二日御免

一同年九月廿五日弟太一儀於江戸表御門限相背候始末、急度可被仰付等之

処、令出奔重々不屈致至極之事二候、江戸表之儀とハ乍申兼而申付方不

参届趣相聞候二付遠慮、十月十四日御免

一安政三辰十月十一日御腰物数寄方奉行高橋寛輔跡被仰付、御書院番組へ

被入候

一同六未六月十一日末之番外御時宜役被仰付候

一同七申正月廿一日病死

中山権九郎

百石

安政二卯三月十六日年来鎗術厚心掛重手数二も相懸候二付、花葵御紋付

御扇子被下置候

一同七申三月十一日養父藤右衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

候

一同廿日当年太田御陣屋詰被仰付、閏三月廿二日出立

一文久元酉四月六日帰着

一同廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、銀壹枚被下置候

一同二戊閏八月十日支度出来次第江戶詰被仰付、出立
 一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日御
 供二而京都方着

一同年七月八日支度出来次第上京被仰付候
 一元治元子十月病死

中山静吾 仙石保吉 中山保吉 藤右衛門 実仙石喜左衛門弟 〔士族〕

百石

安政三辰五月廿二日出淵皆勤二付御褒詞

一同四巳四月十四日右同断

一万延元申十月十一日来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方

五人扶持被下置、且又御都合も有之二付詰引揚、十二月十一日出立

一文久元酉九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移を以慎被仰付置
 候得共、道中并支度之儀も有之二付慎御免被成、御国表江罷帰候上是迄
 之通相心得候様被仰付候、同廿五日帰着、廿九日慎御免

一同二戊正月十六日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方
 五人扶持被下置候

一同年四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失却も有之二付金貳百疋被
 下置候

一同年閏八月廿一日出立、同三亥九月廿四日帰着

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京、同四月廿三日御供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、
 依之銀壹枚被下置候

一同年 上京出立、八月廿三日帰着

一同年九月 中山権九郎養子願濟

一同年十一月廿八日養父権九郎家督百石無相違被下置、大御番組江被入候
 一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑四月廿八日上京、翌寅四月十七日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候
 一同年十二月藤右衛門与名替

一同三卯八月廿九日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候

一同年十月十八日御警衛詰引揚上京、辰二月廿九日帰

一同四辰閏四月七日上京

一同年七月廿四日製造局小銃方被仰付、役御番組江被入候

一同月廿九日京方帰

一明治二巳二月十八日 月給十俵

一明治二巳六月廿六日藤右衛門事静吾下改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同月廿七日今般御改革二付製造局被廢、依之役儀被免

一同日予備隊江被入候、但翌廿八日修業隊卜可相唱事

一同三午五月廿四日第一大隊一番小队入被仰付候事

一同年十二月八日常備大砲隊彈藥司 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



中山平右衛門

廿五石五人

元禄八亥年被召出

享保七寅七月廿六日八石一人御加増、都合廿五石五人、御手廻り被仰付、

御書院番入

享保十五戌七月廿五日御手廻り御免、大番入

中山半右衛門

廿五石五人

寛政二戌四月十一日養父新平跡目無相違、大番入

中山増司

廿五石五人

享保十八うし九月十八日養父平右衛門カトク無相違、大番入

同廿一年辰五月廿一日中奥御小姓被仰付

元文二巳四月十五日表御小姓被仰付

同三年十一月十六日表御小姓御免、大番入

同五申六月五日表御小姓帰役

廿五石五人

一文政十二丑十月五日親半右衛門年寄候二付、内願之上休息被仰付、家督

無相違被下置、御留守番組へ被入

一天保五年五月三日大御番組入

一安政卯三月十一日病身内願之上休息

中山半右衛門

廿五石五人

延享元子六月十六日養父増司跡目無相違、大番入

明和二酉十月廿九日笹木一雄家屋敷之義二付不参届取扱有之二付、御呵

遠慮

安永二巳九月病死

中山半右衛門 増次 実半右衛門弟

式拾五石五人

一安政二卯三月十一日養父半右衛門病身二付、内願之通休息被仰付、家督

廿五石五人ふち被下置、大御番組無役組へ被入候

一同三辰九月十六日大御番組へ被入候

一万延元申十二月廿八日半右衛門与改

一文久二戌十一月廿五日来春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥三月廿五日中将様御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月六日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式

百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表江出立、夫方征長、十二月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

中山新平

廿五石五人

安永二巳十月廿五日養父半右衛門跡目無相違、大番入

- 一慶応二寅五月十二日小荷駄造宮方被仰付候
- 一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候
- 一同三卯五月十一日御趣意二付御留守番組江被入候
- 一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組へ可被入之処、御広間当番勤被仰付、御留守番組二其儘被指置候
- 一明治二巳二月十六日年寄二付休息

中山鹿之介 半右衛門養子

廿五石五人

- 一文久二戌十一月廿五日來春殿様御上京二付為御待受出立
- 一同三亥三月廿五日中將様御供二而帰着
- 一同年六月三日御番頭引纏上京、九月六日帰
- 一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

〔士族〕

- 一元治元子二月廿四日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置、三月四日出立、四月十七日帰着
- 一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候二付、早速上京取調等致心配太儀之段御褒詞

- 一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、十二月帰
- 一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰
- 一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候
- 一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰
- 一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候
- 一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相止

- 一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候
- 一同年九月十日御警衛詰上京、巳二月六日帰
- 一明治二巳二月十六日養父半右衛門年寄二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、遊撃隊江被入候
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下
- 一同三午五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事
- 一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵
- 一同四未十月十三日解隊



3

中山源助

廿石四人

- 享保十九甲寅九月十一日御徒目付方御取立、新番入、式石御加増、御具役中沢七兵衛跡
- 元文三年五月廿五日御書院番入、一人扶持御加増

中山岩五郎

五人扶持

- 寛延三年二月五日父源助跡目、幼年二付御定之通御扶持方被下、御留守番入

中山仙右衛門

拾七石三人 外八石二人御足

明和五子九月十一日中山岩五郎名跡御立被下、御留守番組へ被召出、五人扶持被下

安永九子十二月十一日年数相満候ニ付相身躰末

寛政八辰五月十一日御右筆見習、御足扶持五人扶持、都合十人

同十二申二月同日本役之通相勤候様被仰付

享和元酉十月廿五日御書院番入

同三亥三月御右筆本役、拾七石三人扶持被成下、順席、八石式人扶持御足

中山仙右衛門 金十郎事

拾三人半扶持

一文化三寅六月廿九日養父仙右衛門願之通養子被仰付、家督拾七石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入

一同十三子七月廿日不埒ニ付遠慮被仰付

一文政六未四月十五日不慎ニ付閉門被仰付

一天保二卯六月廿三日用水奉行石井甚平跡被仰付

一同五午五月廿九日御勘定吟味役井上弥太夫跡被仰付候

一同六未江戸詰被仰付、七月十一日出立

一同年十一月七日今般御家督ニ付御用掛り出精ニ付、御紋御上下一被下之

一同八酉十一月廿日出精相勤候ニ付、詰中御足充行三石被下置候

一同九戌江戸詰被仰付候

一同年三月十九日謹姫様御婚姻御用掛り出精ニ付、金五百疋被下之

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛り出精ニ付、御召御上下一被下之

一同十亥四月十二日御住居御普請宜出来出精ニ付金三百疋、別段式百疋被下之

一同年四月十三日出精相勤候ニ付、詰中被下置候御足充行三石御加増、都合廿石三人扶持被成下候

一同年十二月廿五日江戸御屋形御普請御用掛りニ付、金百疋被下之

一同十二丑江戸詰被仰付、八月十一日出立

一同十四卯三月廿五日昨年公辺方御住居御入用巨細相調候様被仰出候ニ付、右御用掛り出精ニ付金式百疋被下之

一同十五辰正月十六日昨年江戸詰中神田橋御住居御模様替御用多ニ付、金百疋被下置候

一同年同日吟味役頭取被仰付、役中御足充行式石被下置候

一弘化二巳十月廿九日病身ニ付内願之通御役御免被成、年来出精相勤候ニ付、銀三枚被下置候

一同四未正月十三日吟味役頭取被仰付、木内甚兵衛上席、役中御足充行式石被下置候、同廿九日御量制掛り兼帯被仰付候

一同年十二月晦日御本城橋御繕御普請之節、出精ニ付御褒詞

一嘉永元申十月廿五日出精相勤候ニ付格式末之番外被仰付、役義其儘御充行拾三人半扶持ニ御直シ被下候、但是迄被下候御足充行式石以後不被下候

一同二酉九月廿五日御武具御修復中掛り被仰付候

一同三戌三月五日昨年柳御門頼当御普譜ニ付、御用掛りニ付御褒詞

一同年十一月廿日御武具御修復御用出精ニ付、金式百疋被下置候

一同年十二月十八日小者給銀百五拾匁并御扶持方壺人ふち被下置候

一同年十二月廿五日海岸台場御築立并大砲御鑄造ニ付、御用掛り被仰付

一同六丑正月廿九日隱居被仰付

中山⁴

中山太郎左衛門

廿石三人

寛政三亥十月廿五日御徒目付方御取立、大番入、是迄之役筋可相勤旨

同七卯十二月十六日式石御加増、都合廿石三人扶持ニ被成下候

同九巳七月五日在方吟味役被仰付、御留守番組へ被入

同十二申八月廿日上水奉行被仰付、大御番組被入ル

文化二丑三月御代官林孫兵衛跡

文化八未閏二月廿五日年寄休息

中山与一右衛門 与十郎 太郎左衛門

式拾石三人

文化八未閏二月廿五日父太郎左衛門年寄休息、家督十八石三人無相違、

御留守番入

同九申十月十九日御趣意ニ付無役御留守番入

文化十二乙亥三月五日大御番入

文政五年九月廿五日上水奉行相沢武兵衛跡

同七年十月五日御広敷御用達

中山太郎左衛門 与十郎

廿石三人

一文政九戌三月十六日養父与一右衛門休息、家督無相違、無役御留守番組江被入

一同十一子八月廿日妻縁を致離別、養父与一右衛門娘不埒之趣有之、兼而不締り之趣不調法ニ付閉門被仰付、同十月十一日御免

一天保十二丑四月廿八日年数相満候二付、相身体末江御取立

一弘化四未二月十四日玉薬奉行斎木佐次右衛門跡

一嘉永五子九月廿五日御代官役坂田助右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候

一安政二卯年七月七日病死

中山東一 八十次郎 太郎左衛門 実妹尾平八弟

廿石三人

〔士族〕

一安政二卯八月廿九日養父太郎左衛門家督廿石三人扶持無相違被下置、大

御番無役組へ被入候

一同五午三月廿五日大御番組へ被入候

一万延元申十二月廿八日太郎左衛門与改

一文久三亥八月十七日御參府御供ニ而出立、同十二月江戸方御上京御供、

子二月十二日帰

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿五日帰

一同年七月五日御番皆勤ニ付時服被下置候

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之処御模様ニ付途中方

引返帰

一同四辰正月七日御留守番組江被入候
 一同年五月十一日今般御趣意二付無役組へ可被入之処、御広間当番勤被仰付、御留守番組二其儘被指置候

予備隊

一明治二巳六月廿一日太郎左衛門事中山東一卜改
 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四十式俵六升被下
 一同三年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

中山⁵

御取立已前御記録二有之

中山武治平 十兵衛 政右衛門

拾五石三人

〔士族〕

元治元子十月八日於京都表御具役被仰付、右役中新番格二被仰付、同月長征、丑二月四日御国江帰

一同年十二月 政右衛門と改

一慶応四辰閏四月十六日喇叭役被仰付、御具役之義ハ御免被成、勤中是迄之通新番格二被指置候

一明治二巳二月廿七日喇叭手被免、掌政局当番勤被仰付、且又出精相勤候
 二付席其儘被指置候

但身分支配之儀ハ可為司計局幹事

一同年六月廿日政右衛門事武治平卜改

一同年九月廿九日多年相勤候二付、為御慰勞銀七貫匁被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年六月三日優待列被仰付、掌政堂当番之儀ハ被免候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱
 一同年十一月廿八日居住罷在候屋敷地拝地被下候

中沢

中沢七兵衛

廿石四人

享保十七子九月廿九日御徒方御取立、新番へ入、三石御加増、御具役同十九甲寅八月十五日二石壹人フチ御加増、御具役御書院番入
 寛延四未四月十一日休息

中沢甚兵衛

廿式石四人

寛延四未四月十一日父七兵衛休息、家督被下、大番入
 同年五月廿五日父跡、御具役御書院番入
 宝曆十一巳十月廿九日御定年数相満候二付、相身躰末二被仰付
 天明四辰十一月廿九日御定之年数相満候二付順席
 寛政十二申十二月十六日式石御加増

中沢七兵衛

廿二石四人

文化五辰三月廿日父甚兵衛休息、家督無相違、大御番入
 同年四月五日御具役御書院番入
 天保三辰十二月十六日出精相勤候二付、御紋御上下被下置候

嘉永二酉三月五日御預所御代官役安原作右衛門跡被仰付、御留守番へ被入

一月給米一年分八俵

席安西関六次

中沢七平 甚兵衛

廿式石四人

一嘉永三戌十一月廿九日父七兵衛年寄候ニ付休息、家督廿式石四人扶持無相違被下置、無役御留守番組江被入

一安政二卯八月三日合薬方被仰付、御製造方申談相勤候様被仰付候

一同四巳年正月十八日御製造方吟味役被仰付候

一同年二月十九日立婦江戸表へ出立、閏五月帰着

一同年十二月十一日御普請を始種々御端立御用多之処、格別出精相勤候ニ付、銀七枚被下置候

一同五年十一月十六日出精相勤候ニ付、銀五百匁被下置候

一万延元申十月廿日出精相勤候ニ付、銀三枚ツ、年々被下置候

一文久元酉十月五日制産方年来出精相勤候ニ付、小者給老人扶持銀三百匁被下置候、但是迄被下置候銀三枚之儀ハ以後不被下候事

一元治元子十一月十三日御代官役伊藤武兵衛跡被仰付候、右ニ付是迄被下候小者給之儀ハ以後不被下候事

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応四辰閏四月十一日御書院番組江被入、年来出精相勤候ニ付、年々銀

五枚ツ、被下置、役義之儀ハ御免被成候、御広間番

一明治二巳三月 指扣被仰付、同廿一日被免

一同年五月廿四日農民政局庶務方被仰付

但勘定方

一同年六月廿一日甚兵衛事七平卜改

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付、役儀被免候事

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗七升六合被下

一同三年正月十五日老年ニ付願之通隠居

中沢岩太 午十三歳

〔士族〕

米式拾八俵壹斗九升七合

一明治三年正月十五日親七平老年ニ付願之通隠居被仰付、家督、幼年ニ付

御規則之通米式十八俵壹斗九升七合被下、修業生被仰付候事

米四拾七俵壹斗七升六合

一同月廿四日滝勘蔵弟武内盛雄江代勤為致度旨願之通被仰付候、依之給禄

米四拾七俵壹斗七升六合高二被成下候

一同年九月四日加納虎八弟量平江代勤引替願之通被仰付候事

中野

中野惣左衛門

式拾石四人

享保十巳二月十六日役人方御取立、初姫様附、新番入、御部や様御取次、

奥御用も是迄之通可相勤旨

元文四未七月十八日二石御加増

中野忠兵衛

廿石三人

寛保三亥八月十六日養父惣左衛門跡目被下、新番入

延享四卯二月廿一日御普請御作事吟味方宮下金太夫跡

宝曆六子二月廿九日用水奉行御留守番入、松沢万右衛門跡

同八寅八月七日御役御免、大番入

明和八卯二月廿九日御広式御用達野田喜右衛門跡、御留守番入

安永六酉三月廿日御留守武具奉行伊藤七郎兵衛跡

同九子十二月十一日年数相満、相身躰末

天明四辰正月十六日御持武具奉行久津見三内跡、御書院番入

中野郡兵衛

廿石三人

天明九酉正月十四日父忠兵衛年寄休息被仰付、家督無相違被下置、大番

組江被入

寛政五丑九月朔日用水奉行松山藤助跡、御留守番組へ被入

同九巳正月十六日御持武具奉行竹内伝蔵跡、御書院組へ被入

文化元子八月廿九日御定年数相満候二付順席

文化十酉正月廿五日休息

中野郡兵衛

廿石三人

文化十酉正月廿五日父郡兵衛年寄二付休息、家督無相違、無役御留守番

入

文政三辰八月十一日大御番入

同十一子二月廿五日玉葉奉行関忠太夫跡

文政十三寅七月廿五日役義等閑之儀有之二付御役御免、遠慮

天保五年五月三日御先武具奉行吉田八郎左衛門跡被仰付候

中野惣左衛門 平太郎

廿石三人

一天保十亥正月廿九日親郡兵衛年寄候二付休息被仰付、家督廿石三人扶持

無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十三寅六月廿九日大御番組へ被入

一嘉永七寅十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅へ罷越候始末、

酒狂とハ乍申不宜致業二候得共、今度之儀ハ御沙汰二不被及候間、以来

右様之儀無之様番頭江移りを以被仰付候

一安政三辰六月十四日番改役川崎平三郎跡被仰付候

一同年十二月廿八日惣左衛門与名替

一万延元申六月廿六日御番両度皆勤二付、御紋御帷子被下

一文久二戌十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥三月御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒

美式百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、丑二月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応与改元、十月十六日出精相勤候二付、年々銀五枚ツ、被下置候
一同二寅二月三日病死、順席也

中野哲之助 加藤哲之助 実加藤清十郎弟

〔士族〕

廿石三人

文久二戌七月十一日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、詰中御扶持方

五人扶持被下置候、同閏八月廿二日出立、同三亥九月廿四日帰着

一同三亥正月廿五日廿五歳相成候二付三人扶持御扶助被成下候

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一同四子正月十八日山階宮被任御頼当分御附人被仰付、翌丑五月四日帰

一元治と改元、四月十日失却も有之二付月々金三兩ツ、御手当被下置候

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依
之銀壹枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一慶応二寅三月廿四日中野惣左衛門病中願之通養子二被仰付、家督廿石三

人扶持被下置、大御番組へ被入候

一同年四月十六日山階宮様御附人被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

但為失却月々金三兩ツ、外ニ衣装金拾兩被下置候

一同月廿四日上京十一月十三日帰

一同年八月廿日当節柄物価沸騰、難洪願之上前後之例二不拘金式兩式歩、

衣裳料之内へ御手当被成下候

一同三卯三月十一日御精進日繰違、鳥殺生二罷出途中方罷帰候得共、恐入

遠慮伺之上指扣、同十四日御免

一同年十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、十

二月十七日探索方并参与附属被仰付

一同四辰三月廿二日御都合も有之二付御国表へ御返被成、同廿六日帰

一同年四月廿五日在京中不埒之趣相聞候二付順席末席二被仰付遠慮、閏四

月十六日御免

一同年閏四月廿三日上京、九月十八日帰

一明治二巳三月三日東京出立之処、御呼戻二付同五日途中方帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十一日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾式俵六升被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

中野²

中野文左衛門

拾八石三人

安永七戌二月廿五日御勝手請込方御取立、新番入

天明元丑十二月十一日御広式添役

不調法有之、御徒江御下ケ

又々天明八御取立

天明八申十一月廿五日小役人方御取立、新番入、御台所目付堀江武右衛

門跡

中野次郎作

拾八石三人

寛政五うし六月廿五日養父文左衛門休息、家督無相違被下、新番組へ被入

中野文左衛門 左内 病死

拾八石三人

寛政六甲寅八月廿日中野次郎作病中願之通養子二被仰付、家督無相違被下置、新番組江被入

中野文左衛門 文吾 鉄五郎

拾八石三人

※中野儀右衛門の後にあり

一寛政十二申四月十一日文左衛門病中養子願之通被仰付、家督無相違拾八石三人扶持被下置、新番組へ被入

一文化十三子七月廿日不埒二付遠慮被仰付

一天保十四卯十二月十六日会所預り古物方記録方兼帶嶋崎伝太夫跡被仰付

一嘉永二酉正月十六日御台所目付藤井久左衛門跡被仰付

一同五子三月十六日西村源左衛門家屋敷へ替被下

一同年六月十六日休息被仰付候処、年来相勤候二付金貳百疋被下置候

中野文治郎 実富田長左衛門次男

〔士族〕

拾八石三人

一嘉永五子六月十六日養父文左衛門年寄候二付休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一安政五年十一月廿五日御定之年数相満候二付大御番組へ被入、御趣意二

付大御番無役組へ被入候

一同六未二月廿九日大御番組へ被入候

一文久元酉六月十一日野村治右衛門家屋敷へ替被下候

一文久三亥九月廿七日家屋敷下与力町片岡良太夫東隣家屋敷江替被下候

一同年八月十七日御参府御供二而出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月十三日帰

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿五日帰

一同年七月五日御番皆勤二付御褒詞

一同三卯十月廿一日新撰隊教授方被仰付、役御番組へ被入候

一同四辰八月五日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付、四番大隊之三番小隊へ附屬、支度出来次第越後表へ出張被仰付、同十日出立、巳七月十日帰

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器械并彈藥差配方卜被仰付、製造局へ附屬被仰付

但大隊江附屬之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍而六両式歩被下

一同年四月六日十五番隊器械并彈藥差配方被差免候

一同年七月十一日御広間当番勤被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

予備隊

一同三午四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵二付、御賞典之内金貳十五両被下候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

中野³

中野新左衛門

廿石四人

安永元辰十二月十六日御取立、新番入、御広式添役其儘

中野新左衛門

病死

廿石四人

寛政元酉閏六月廿五日父新左衛門休息、家督無相違被下置、新番入、御

広式添役

享和元酉五月廿八日御留主番入、御広式御用達嶋津十太夫跡

中野新左衛門

新八

廿石四人

文化四卯七月六日養父新左衛門病中養子願之通被仰付、家督無相違被下

置、大御番入

同六巳七月廿八日御国元へ家内共引越被仰付

同年十月廿日家屋敷被下

文政七申十一月五日御広式御用達被仰付、御留守番組へ被入、定府被仰

付、来酉秋引越被仰付

同年八月九日役儀其儘浅姫君様御附

文政十二丑六月六日御勘定吟味役兼帯被仰付

天保二卯六月十八日御勘定吟味役御免

天保五年十月廿三日日本所御屋敷奉行矢崎甚左衛門跡

中野篤藏

式拾石四人

天保六未六月五日養父新左衛門跡目式拾石四人扶持無相違被下置、大御

番組へ被入候

天保九戌十二月十二日松栄院様御附御広敷御用達西川八左衛門跡被仰付、

御留守番組へ被入

弘化四未ノ四月 病死

中野新八 鉄太郎

〔士族〕

廿石五人扶持

一弘化四未六月四日親篤藏跡目、幼少ニ付御定之通式拾石四人扶持之義五

人扶持被下置、無役御留守番組江被入

一嘉永三戌九月三日拾五歳罷成候ニ付、御充行式拾石四人扶持ニ御直シ被

下置候

一文久元酉九月六日靈岸島御屋敷稽古所定詰被仰付候

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張太儀之段御褒詞

一同三亥三月廿八日靈岸島御屋敷飯御台場大砲打方被仰付、当分御番御使

者御用捨被成候

一同年四月五日右打方御免被成候

一同年六月十二日江戸表方引越着

一同年九月廿七日是迄都筑利八郎罷在候家屋敷被下置候

一元治元子四月十五日上京、八月廿二日帰着

一同廿二日御都合も有之二付、新屋敷元御徒地ニ新規出来之家屋敷へ替被下候

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付公儀方被下配当金千疋、戦功二付五百疋被下置候

百疋被下置候

一同三卯十一月廿五日第一級二相進候二付花葵御紋御印被下置候

一同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十日帰

日帰

一同四辰九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京出立、同年十月十三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾五俵壹斗四升四合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊

一同月十八日鉄太郎事新八卜改

一同四未六月東京出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰



中野与次右衛門

拾八石三人 外二七石二人御足

天明三卯正月十六日御帳付方御取立、新番入、御右筆部や下請込書方は迄之通

同五巳十一月廿日御帳付勤方ハ御免

同六年六月十一日御右筆認方多候節ハ、右認方も相勤候様

寛政二戌六月十三日御右筆御書院番入、順席被仰付、御擬作三石御加増、都合拾八石三人扶持被成下、外二御足擬作七石式人扶持被下、下請込日勤是迄之通

同八辰正月十六日御紋御上下拝領

勤是迄之通

同八辰正月十六日御紋御上下拝領

中野与次右衛門 儀右衛門

百石

寛政九巳三月廿五日養父与次右衛門家督無相違、大御番入

同年五月廿五日御右筆見習

同十年二月十六日御右筆本役市橋文太夫跡被仰付、御書院番組へ被入、御足擬作七石二人扶持被下置

御足擬作七石二人扶持被下置

文化七年九月廿九日是迄家作持居候御茶蘭地、以後拝領地ニ被成下

文化十酉二月十三日御右筆受込御帳付支配久野文四郎跡

同十一戌正月十五日於江戸出精相勤二付、御足充行七石式人扶持御加増被成下

被成下

文政六未五月朔日於江戸新知百石被下置、尤銀被下ハ相止

文政十二丑十二月十一日於江戸表出精相勤二付、格式末ノ番外被仰付

中野儀右衛門 啓助

百石

天保三壬辰九月廿九日親与次右衛門隱居被仰付、家督百石無相違、大御
番組へ被入

天保九戌五月十一日御広式御用達被仰付候

中野啓助 弁吉

〔士族〕

百石

一弘化三午九月十一日親儀右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一安政二卯二月十一日表御小姓鱸長左衛門跡被仰付候旨

一同五年八月廿二日江戸詰出立

一同六未年詰越

一同七申三月七日御腰物御先荷物差添帰着

一文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一元治元子四月廿三日右御供二而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀被思召候、依之御
酒被下置候

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月九日帰

一同年十月廿六日御馬廻り被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、同四月四日帰

一同年十月廿一日御趣意二付御馬廻り御免被成、御書院番組へ被入候

一同四辰四月五日御書院番其儘御広敷御用達被仰付候

一明治卜改元、十一月十日幸姫様為御迎上京、同廿九日帰

一同二巳二月十五日御役名御裏庶務方執事卜被仰付

一同月廿四日上京、三月十二日女中引纏帰

一同年四月十日女中引纏東京江出立、午正月二日帰

一同年九月廿四日奥詰被仰付候事、但年給米式俵在京中六俵被下

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合下賜

一同三年二月廿七日御簾中様青松院様来ル三月御東上二付御供被仰付

一同年三月廿四日右御供二而東京江出立

一同年四月十一日詰中御供頭介被仰付候事、六月十四日被免候事

一同年八月十日当時御用薄二付、高田利雄初着之上八勝手次第致出立候様

被仰付、九月五日帰

一同四未二月廿八日今般御改正二付御家従被免候事

南部

南部源兵衛

廿石三人

享保十巳二月十六日役人方御取立、新番入、初姫様附御部や御取次奥御

用も只今迄之通可相勤旨

元文四未七月廿八日式石御加増

延享二うし八月十六日休息

南部次右衛門

廿石三人

延享二うし八月十六日父源兵衛休息、家督被下、新番入

宝曆十四申三月廿九日御座所御広式御用達

明和元申九月十一日御定之年数相満候二付、御留守番入

同五子十月廿日江戸御屋敷奉行

同七寅閏六月廿日御留守武具奉行下川勇右衛門跡

南部文左衛門

廿石三人

安永八亥九月十一日父次右衛門跡目無相違、大番入

天明八申十一月十一日御定之年数相満候二付相身跡末

南部次右衛門 死

廿石三人

寛政二戌正月廿五日養父文左衛門跡目無相違被下、大番入

南部牧吾

廿石三人

文化二丑四月廿九日養父次右衛門跡目無相違被下置、大御番入

南部源兵衛 巳之助 病死

廿石三人

文化四卯十一月十一日養父牧吾病中願之通養子二被仰付、家督無相違、

大御番入

文化九申八月廿九日御定之年数相満候二付順席

南部源兵衛 金吾

廿石三人

文政十二丑十二月五日源兵衛病中願之通養子被仰付、家督無相違被下置、

無役御留守番組へ被入

天保五年五月三日大御番組入

弘化二巳十月廿九日玉葉奉行鈴木作太夫跡

同四未十一月十六日用水奉行中村半太夫跡

嘉永元申十一月病死

南部源次郎 実木内甚兵衛次男

廿石三人

一 嘉永二酉正月十六日養父源兵衛家督廿石三人ふち無相違被下置、無役御

留守番組へ被入候

一 安政四巳閏五月廿九日御製造方見習被仰付

一 同五年十一月十六日制産方被仰付候

一 同日出精相勤候二付銀三百匁被下置候

一 同六未十二月十九日制産方御用二而大坂表へ出立、申二月三日帰着

一 万延元申九月十六日制産方御用二而肥前長崎表江出立

一 酉五月廿三日帰着

一 文久二戌十一月廿六日養蚕御端立方格別出精相勤候二付、御足式人扶持

被下置候

一 同三亥九月三日黒竜丸御船乗組勘定方被仰付、四日出帆

一 同年十月三日此度制産方御附属二付郡方吟味役被仰付

一 同年十二月廿七日長崎表方帰着

〔士族〕

- 一元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当銀百匁被下
- 一慶応元丑五月廿五日賊徒一件、別段骨折二付銀式枚被下候
- 一同年九月廿日御足扶持其儘産物会所吟味役被仰付候
- 一同三卯五月十日産業掛り被仰付
- 一同四辰正月十二日会所御用二付出坂、三月廿二日帰
- 一同年五月廿九日産業方卜被仰付
- 一同年八月廿五日御代官并郡方吟味役兼勤被仰付、但転役二付是迄被下置候御足式人ふち之儀ハ已後不被下候
- 一明治卜改元、十月十一日御役御免被成、御広間御番士勤被仰付、御留守番組ニ其儘被指置候
- 一同二巳八月廿七日農民政務方被仰付
- 但月給米一年分十五俵被下候事
- 一徳山五平次
- 一同年十一月廿一日今般御改革二付役儀被免候事
- 但附送り之義ハ追而御指図相待可申事
- 一同日民政局権少属被仰付事
- 一同月廿五日今般御改革二付、更給禄米四拾式俵六升被下
- 一同三午正月十三日治水堤防等格別致精勤二付、金三百疋被下候
- 一同年四月十八日今般御改正二付権少属被免、修業隊江被入候事
- 一同年七月廿五日会計寮権少属被仰付候事、但造営方
- 一同年十二月十二日会計寮出仕、但年給十俵
- 一同四未二月十二日藩庁一集相成候二付、御改正中不及出仕候事
- 一同年六月朔日御改正二付免職
- 一同五申七月十九日第二区域之橋組副戸長

南部²

御取立以前御記録ニ有之

南部真彦 彦助

〔士族〕

拾五石三人 外御足式石

文久三亥正月十九日出精相勤候二付御取立被成、新番格二被仰付候、但京都ニ而被仰付

一同年二月五日席之儀ハ八田嘉左衛門次へ割入被仰付候

一同年四月廿日京都方着

一同年十二月十六日出精相勤候二付御足充行之内三石御増、都合拾五石三人ふちニ被成下候

一元治元子十月十六日長征出陣、同二丑二月廿八日帰

一慶応元丑五月十一日於出張先自己之取斗方有之趣相聞不調法之事ニ候、依之御役御免被成遠慮被仰付候、急度相慎可罷在旨被仰付、閏五月二日御免

一同年七月十一日先役中三ノ丸御普請中格別出精二付、銀壹枚被下置候

一同年十月十四日御趣法講掛り被仰付候

一同三卯正月廿七日御含御用有之二付箱館表江罷越候様被仰付候、尚又他国会所奉行へ申談候様被仰付

一同年二月四日右之通被仰付置候処、御都合も有之二付出府被仰付、同七日出生、四月三日帰

一同年五月二日御札所受込役被仰付候

一同年十二月十三日江戸表江出生、辰正月四日飛脚ニ而帰

一同四辰正月十一日御含御用有之二付出府、早速致出生候様被仰付、翌十

二日早かけ出立、同廿六日立二而江戸方御内飛脚二而二月六日京都江着
一同年二月 会計方二而北陸道鎮撫勅使附廻下筋江罷越、巳四月十二日
長岡方帰着

一明治二巳四月廿八日東京江出立

一同年七月廿七日左之通被仰付

大録申付候事、当役ヲ以出納庶務掛り申付候事

一同年八月 任柏崎県大参事、右宣下候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年三月十二日家内之者柏崎県江引越願之通被仰付、同十九日出立

一同年 彦助事真彦卜改

一同年十一月廿八日居住罷在候持地之内二而九十六坪拜地被下候、未六月

廿日御取消

一同四未十一月廿日任柏崎県権参事

南部³

南部彦九郎 佐伯幾次郎 彦之進 南部彦之進

〔士族〕

拾五石三人

一安政五年正月廿日親次郎助不埒至極之趣相聞不調法之事二候、依之侍御

削被成蟄居被仰付、家督拾五石三人扶持被下置、新番組へ被入、遠慮被

仰付候、二月十一日御免被成候

一文久元酉三月廿五日元席へ被入候

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁多勤太儀二思召候、依

之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月三日帰

一同年十二月彦之進卜名替

一慶応三卯十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組二被仰付候

一同四辰五月十一日遊撃隊江被入候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三

両被下候、外五百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革二付、更二給禄米三十五俵四斗五升被

下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石十ヶ

年令頒授候事

一同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十一月十五日兼而行状不宜且不廉恥之儀有之二付、二ヶ年之間給禄

之九割被下非役江被入、謹慎被仰付候事、十二月五日被免

一同四未六月八日行状不宜二付二ヶ年之間給禄之内九割被下候処、今般更

二元ノ如く被下候事

一同五申正月廿五日元御長柄南部金之助卜禄振替 七石二口ノ適宜

一米式拾俵式斗九升壹合 南部卜改姓

永井

永井与五左衛門

拾八石四人

享保七寅十二月十八日松岡御徒小頭方御取立、新番被仰付

永井与五左衛門

拾八石四人

享保十一年三月廿一日養父与五右衛門休息、家督無相違、新番入

寛延元辰八月廿九日大番入

永井与五右衛門

拾八石三人

寛延三年四月十九日御徒方御取立、三石御加増、新番入、御具役勝木勘

助跡

宝曆十辰二月廿九日父与五左衛門家督無相違、大番入、自分御擬作上ル、

御具役御免

明和元申九月五日御具役御書院番入

同七寅五月廿七日御具役御免、大番入

同九辰十月廿九日相身躰末

天明三卯八月五日養子半市義与五右衛門へ対シ取扱不宜候二付、父子并

妻縁を切実方へ相返蟄居、此節伺遠慮

永井与五左衛門 八郎

拾八石四人

寛政五丑十二月五日養父与五右衛門年寄内願二付休息被仰付、家督無相

違被下置、大番入

同八辰九月四日御定之年数相満候二付順席

永井与五左衛門 八郎 荣吉

拾八石四人

一文政三辰三月十一日父与五左衛門跡目無相違被下置、無役御留守番組江

被入候

一同十二丑大御番組江被入候

一天保十亥三月五日御右筆見習被仰付候

一同十四卯四月五日江戸詰被仰付候二付本役同様相勤候様被仰付、詰中失

却被下置候割合を以、廿五石五人ふち同様被成下候

一同年五月三日御右筆本役被仰付、御書院番組へ被入、御足充行七石壺人

ふち被下置候

一弘化四未江戸詰被仰付、三月十九日出立

一同年病氣願之上、六月廿日御国表へ帰着

一同年七月八日病死

永井清也^{セイヤ} 五郎左衛門

式拾三石四人

一嘉永四亥八月廿九日親与五左衛門家督拾八石四人扶持無相違被下置、無

役御留守番組へ被入候

一同六丑六月廿日御右筆見習被仰付、大御番組へ被入候

一同七寅八月廿二日御内用御右筆見習被仰付候

一同年九月八日御右筆見習被仰付候

一安政三辰年十二月廿一日御右筆本役被仰付、御書院番組へ被入、御足充

行七石壺人扶持被下置候

〔士族〕

- 一同七申二月五日江戸詰出立
- 一文久元酉四月十六日帰着
- 一同三亥二月十日殿様御上京被遊候ニ付御供、三月六日帰着
- 一同年三月廿八日弟彦吉出奔ニ付遠慮伺差扣、四月朔日御免
- 一同年十月十三日中将様御供ニ而上京
- 一同年十二月廿八日於京都表五郎左衛門と改、子五月十二日帰
- 一元治元子五月十六日在京中不埒之趣相聞不調法之事ニ候、依之御役御免被成、大御番組江被入、遠慮被仰付、是迄役中被下置候御足充行七石一人ふち之義ハ以後不被下候、六月六日御免
- 一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁多太儀思召候、依之御酒被下置候
- 一同年七月四日京都へ出立、八月廿三日帰
- 一同年同月十四日御舍御用有之二付振退勤被仰付
- 一同年十月十二日御右筆被仰付、御書院番組江被入候、且又右ニ付御足充行七石老人ふち被下置候、但役席之儀ハ元席江被入候
- 一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下
- 一同二丑三月十二日江戸詰出立、翌寅四月十三日帰
- 一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候
- 一同三卯三月十日御上京御供出立、八月十日帰
- 一同年十月十八日御趣意ニ付役御番組へ可被入処、年来相勤候ニ付御書院番組ニ其儘被指置候
- 一同四辰三月八日上京、六月十三日帰
- 一明治卜改元、十月廿二日今般御趣意ニ付御右筆部屋被相止、依之御役御免被成、且又年来相勤候ニ付御書院番組ニ其儘被指置候、但御足充行之儀ハ已後不被下候
- 一同年十一月廿日御内用御右筆被仰付候、且又出精相勤候ニ付御足充行之内五石御加増、都合廿三石四人扶持ニ被成下、役御番組江被入候、但役席山田捨九郎次
- 一同年十二月十二日早速上京被仰付、同十四日出立
- 一明治二巳二月十五日掌政局記録被仰付、月給十五俵、但御足充行ハ不被下候
- 一同年三月朔日京都方東京江出立之處、御呼戻ニ付桑名方引返御国江、同七日帰着
- 一同年四月七日東京江出立
- 一同年六月五日五郎左衛門事清也卜改
- 一同年十月廿五行事記録方被仰付候事、但月給米是迄之通
- 一同年十一月廿二日東京方帰
- 一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米四拾八俵式斗七升四合下賜
- 一同月廿八日掌政堂大書記被仰付候事
- 一同三午正月十日職名小目卜被改候事、但同年十月七日少属卜被改候事
- 一同年九月晦日堀一二是迄之建物以相對讓受候ニ付、同人持地之内ニ而私拝地坪数卜御振替被下、是迄近來之建物ハ被下置、同所余地之分相当之地子米上納ニ而拝借願之通被仰付候
- 一同年閏十月八日本官被免候事
- 一同日予備隊江被入候事
- 一同月廿五日右名目被廢非役卜唱
- 一同六年四月十九日病身ニ付弟熊之介へ家督

永井熊之介 清也弟 明治三年廿九歳

〔士族〕

文久二戌七月十一日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、詰中御扶持方

五人扶持被下置候、閏八月廿一日出立、同三亥九月廿四日帰着

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京

中田久左衛門
拾八石三人

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候

享保七寅十一月廿五日小役人格方御取立、新番被仰付、御切米三石御加増、御鷹方

一同年 上京出立、八月廿三日帰着

一同年十月十六日征長出陣、丑二月帰

中田久左衛門

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

拾八石三人

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

享保九辰七月廿九日養父久左衛門御擬作被下、新番入、御鷹方

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

中田十太夫

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相止

拾八石三人

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

元文二巳二月十一日養父久左衛門跡目被下、新番入、御鷹方

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

宝曆十一巳十月廿九日御定之年数相満候二付、大番入

一明治二巳二月廿九日上京、三月六日中納言様御供帰

一同年四月九日中納言様御供、東京江出立、六月十四日御人減二付帰

中田十内

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

拾八石三人

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵 十式俵高

天明四辰八月十一日父十太夫休息、家督無相違、大番入、御鷹方

一同四未十月十三日解隊

同六年十一月十一日年数相満、相身躰末

一同五申二月晦日捕亡方申付候事

文化七年八月廿九日御定之年数相満候二付順席

一同年九月八日取締邏卒指免候事

同十四丑四月十九日病死

一同六年四月十九日兄清也病身二付家督

中田久左衛門 久太郎

拾八石三人

文化十四丑六月十一日親十内跡目無相違被下置、大御番入、御鷹方、御趣意ニ付席御下ケ相身躰席
天保九戌九月廿七日病死

中田平左衛門 他三郎事

拾八石三人

一天保九戌十一月十六日兄久左衛門病中願之通養子被仰付、家督拾八石三人ふち被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候
一同年十一月十一日心得違之趣相聞候ニ付急度可被仰付之處、赦茂被仰出候折柄ニ付、格別之御憐愍を以閉門被仰付候
一嘉永元申十二月廿八日御趣意ニ付先年相身躰末席へ御下ケ被成候処、此度思召を以、以前之順席ニ被成下候
一同三戌十一月十一日御堀殺生之儀ニ付、移りを以御呵り
一安政三辰五月朔日病死

中田懷藏

拾八石三人

一安政三辰六月廿三日養父平左衛門家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候
御番組へ被入、御鷹方被仰付候

一同四巳十一月五日御製造方見習被仰付、在勤中御鷹方御免被成候

一同五年七月五日御製造方当分御用薄ニ付、勤向御用捨被成候

一文久二戌三月廿五日制産方被仰付、右勤中御鷹方御免被成、合薬方被仰

付候

一同三亥五月十七日制産方御用有之、信州飯田へ出立、七月廿五日帰

一元治元子四月五日御趣意ニ付製造方御免被成、大御番組へ被入候

一同年七月朔日上京、八月廿四日帰着

一同年七月廿二日今般御趣意ニ付御鷹被相止候ニ付、御番士勤被仰付候

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相

働候段達御聽御褒詞

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一同二丑正月廿五日旧冬於出張先心得違之趣相聞遠慮、二月廿日御免

一慶応卜改元、四月廿八日上京、八月十九日病氣願之上帰

一同年九月七日病死、順席也

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付被下配当金千疋、且又五百疋被下、

但公辺方

中田栄次 隼之助

拾八石三人

〔士族〕

一慶応元丑十月廿八日兄懷藏病中願之通相続被仰付、家督拾五歳未滿ニ付

御定之通御扶持方五人扶持被下置、大御番組へ被入、御鷹方被仰付候、

然ル処御趣意ニ付御番士勤被仰付、御番御供之義ハ御免被成候

一同二寅二月五日拾五歳罷成候ニ付、御充行拾八石三人扶持ニ御直シ被下

置候

一同三卯十月廿三日御趣意ニ付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一明治二巳六月廿一日隼之助事栄次卜改

一同年八月十四日予備隊被仰付

- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下
- 一 同三年三月廿三日当分家屋敷御用被仰付候事
- 一 同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事
- 一 同年十二月 予備一番隊 年給式俵
- 一 同四未三月八日家屋敷当分御用被仰付置候処、御返シ被成候事
- 一 同年四月七日予備隊解隊被仰出候事

中田²

※「剝札」末にあり

中田熊三郎

- 万延元申十月十一日来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候
- 一同二酉二月廿一日御都合も有之二付、支度出来次第出立被仰付
- 一文久二戌三月十五日帰着
- 同四月三日太田御陣屋詰中横浜表江致出張候二付、御褒詞之上銀壺枚被下置候
- 一同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、当戌廿六歳、子八月廿七日御扶助相止
- 一同四子正月廿日当春芝御陣屋詰被仰付、右詰中式人ふち御増、都合五人ふち被下置候、相止
- 一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中式人ふち御増、都合五人ふち被下置候、三月四日出立
- 一同年四月十日当分滞京被仰付、八月廿三日帰着
- 一同年十月長征、丑正月廿八日帰

一 慶応元丑四月廿八日上京、同年五月廿三日病死

長崎

長崎加左衛門
式拾五石五人

宝永元申十一月五日跡目

享保七寅年順席被仰付

長崎立蔵 友之丞

廿五石五人

宝曆六子八月廿九日父加左衛門休息、家督無相違被下、大番入

長崎加左衛門 初多蔵

廿石四人

宝曆十四申三月廿二日養父立蔵休息、家督無相違、大番入

明和九辰十一月廿日家内不締り二付、御擬作五石一人扶持被召上、廿石

四人被下、閉門、新番へ下ル、此節養父立蔵義御国立退被仰付

長崎七左衛門 亀五郎 藤四郎 七右衛門

廿石四人

寛政六寅五月十一日父加左衛門内願二付休息被仰付、家督無相違被下置、

新番組へ被入候

文化三寅 取次役

文化九申八月廿九日御定之年数相満候二付、御留守番被入、順席

同年十月十九日無役御留守番入

同十三子八月大御番入

文政十亥十二月五日御祈禱奉行中村多左衛門跡

天保二卯三月十六日御簾本武具奉行酒井金五左衛門跡

同十亥九月廿九日表御納戸役久野長右衛門跡

長崎基近 平吉事 藤四郎

〔士族〕

百石

一天保十一子九月五日養父七左衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿石四人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一弘化五申正月十六日御右筆見習被仰付

一嘉永二酉九月晦日出立

一同三戌四月三日御右筆本役被仰付、御書院番組へ被入、御足充行五石壹

人扶持被下置候

一同六丑二月八日御記録方御内用御右筆被仰付、大御番組へ被入候

一安政二卯二月十三日野村四郎左衛門家屋敷へ替被下候

一同五午九月廿五日御用引受本役同様、書方之義ハ是迄之通被仰付、御足

充行五石壹人扶持御加増、都合廿五石五人扶持二被成下候

一文久二戌五月十三日家屋敷御用屋敷二被仰付、内田閑平家屋敷へ替被下

候

一同年閏八月四日御用共引請本役被仰付、書方之儀ハ是迄之通被仰付、但

近例之通御用人卜壹人御渡被成、自分抱二被仰付

一同三亥正月十六日今般御上京被遊候二付御用有之京都へ出立、三月廿八

日帰着

一同年八月廿九日木藏御用屋敷江替被下候

一同年九月廿二日賀代姫様来春御入興二付御用掛同様被仰付

一同年十二月十日支度出来次第上京被仰付、同十七日出立

一元治元子二月 遠慮伺之上指扣之処、同廿一日方御免

一同年六月廿七日支度出来次第早速上京被仰付、七月朔日出立

一同年七月廿二日早駆御用ニ而着、翌廿三日出立、九月廿五日帰

一同年十月征長御供、丑三月御供ニ而帰

一同二丑二月十二日新知百石被下置候

一慶応卜改元、丑閏五月十一日御趣意二付役御番組江被入候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯四月廿二日出精相勤候二付、役儀其儘格式末ノ番外二被仰付候

一同年八月十二日殿様御縁談御用掛り被仰付候

一慶応四辰五月廿日評定局書記受込被仰付、御役料五拾石被下置、御内御

右筆御用引受是迄之通被仰付、但是迄被下候小者給之儀ハ已後不被下候

一明治卜改元、十月五日幸姫様御簾中様御手許江御引取二付、御用掛被仰

付

一同二巳二月十五日掌政局書記被仰付候、月給米七十俵、御役料ハ不被下

候

一同年五月七日大岩凹指扣被免候儀二付不束之儀有之、遠慮伺之上指扣被

仰付、翌八日右之通被仰付被置候処、御用之外指扣被仰付、同九日被免

一同年八月十五日鈴木平馬弟弥藤太儀、今度出家道難遂二付勝山開善寺方

引取度旨、願之通引取謹慎為致置候様御指図相成、然ル処弥藤太儀昨年

十二月謹慎被免候ヲ右様之御指図ニ相成、不念之段恐入、遠慮伺之上御

用之外指扣、同十八日被免

一同年十月廿四日行事試補被仰付候事、但等級月給当分是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年正月十日大目被仰付候事、但等給是迄之通

一同年十月七日大属卜被改候事、年給七十三俵

一同四未六月朔日今般御改正二付免職

一同二日任福井藩大属

一同年十二月七日福井県九号出仕

庶務課

一同十日任福井県権典事

一同五申四月八日東京出張所詰、但木内権大属与可致交代事

一同年五月藤四郎事基近

一同 東京出立、十月十九日帰

一同六年一月十八日隠居、老年二付

一同廿日廃県二付免職

×

長崎千里 常次郎 藤四郎 明治三年廿歳

一明治元辰十二月十六日御備入被仰付

一同月廿八日常次郎事千里卜改

一同二巳十一月五日奥詰御雇被仰付、月俸三口被下候事

但年給式俵被下候事

一同日支度出来次第東京詰被仰付候事、十二月二日出立

但席真杉他之介次

一同三年九月朔日東京ヨリ帰

一同四未二月廿八日今般御改正二付、御家従被免候事

一同六年一月十八日父基近老年二付隠居、家督

一式拾七石七斗九升六合

長野¹

長野徳右衛門

拾七石四人

正徳五未七月晦日玄達為跡目如此被下

此後代いニ出、但飯尾卜改

長野²

長野可百里^{カフリ} 三寺剛右衛門 可百里

百五拾石

一弘化三年閏五月十一日親与右衛門家督無相違被下置、大御番組へ被入

一同年七月十三日御近習番彦坂又五郎跡被仰付、御書院番組江被入

一同年十二月廿二日御小姓被仰付

一同四未江戸詰、三月十九日御供二而出立

一嘉永元申六月急御出府御供二而出立、同年七月十五日右同断二而帰着、

右二付十二月七日御褒詞

一同二酉江戸詰、四月廿三日病気快二付出立

一同四亥年江戸御供詰

〔士族〕

一同六丑三月十一日御小姓頭取被仰付候

一同年同月廿二日御供出立

一安政二卯江戸御供詰

一安政四巳二月朔日御近習番頭取御膳番河合五右衛門跡被仰付、御書院番

組江被入候

一同五年八月廿七日江戸詰出立

一同六年(マ、)

一同七申三月御供二而帰着

一万延与改元、六月廿一日家屋敷井原次郎右衛門家屋敷へ替被下候

一文久元酉六月十六日御近習番頭取御膳番其儘、御書院番一番之筆頭役岡

部半兵衛跡被仰付候

一文久二戌六月十六日御近習番頭取御膳番其儘格式末ノ番外ニ被仰付、筆

頭役之儀ハ御免被成候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、同十二月江戸方

御上京御供、子二月御帰国御供

一同年十二月廿八日役儀其儘御役料五拾石被下置候

一元治元子二月廿五日賀代姫様御入輿二付、御式正掛り被仰付候

一同年八月廿三日御使番役青木七郎右衛門跡被仰付、御役料都合百石被下

置候

一同年十月廿三日宰相様御供頭飯兼帯被仰付、丑二月廿六日右飯兼帯御免

一元治元子賊徒一件二付御供二而出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今立方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月七日帰

一同四辰八月廿九日席其儘御留守組支配被仰付、御役料之内五拾石被下置

候

一明治二巳二月十六日今般御改革ニ付御役儀御免被成、御広間当番勤被仰

付、無程当番御用捨

一同年六月廿一日剛右衛門事可百里卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革ニ付、為御慰勞式十五両被下

置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾式俵壹斗式升壹合被下

一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廃非役卜唱

一同五申七月三寺事長野卜改姓

一同ノ六年一月十八日老年ニ付倅蕃へ家督

長野シゲリ蕃 三寺虎太郎 競 可百里倅 明治三年廿二歳 [士族]

一慶応元丑六月廿四日新撰農兵差配役手伝被仰付

一同二寅四月十六日御趣意ニ付農兵差配役手伝御免被成候

一同四辰九月六日補兵隊ニ而会征出立、巳二月六日帰着可致処病氣残、同

廿一日帰着、同廿二日出張二付五両被下候

一明治卜改元、十月廿九日虎太郎事競卜改

一御備入被仰付、巳八月十四日予備隊卜改、十一月廿八日修

業隊卜改

一同二巳十一月七日御家従御雇被仰付、月俸三口被下候事

但輿詰

一年給式俵被下候事

一同三年正月廿七日柔術世話役手伝被仰付候事、但奥詰其儘
 一同年三月廿日御雇中給禄米十式俵被下候事

但当月の御家禄之内の被下候事

一是迄被下候三口自今不被下候事

一同年五月廿四日柔術世話役手伝被免候事

一同日役配中出精之段御褒詞被成下候事

一同年十月廿八日御家従御雇被免候事

一同日以御雇小隊江被入、給禄米十俵被下候事、但第一大隊六番

一同日は迄太儀思召、金千疋為御酒代被下置候

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵 十式俵高

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年十月十三日解隊之処修行願居残り 区兵入

一同五申七月三寺競事長野蕃^{シゲリ}

一同六年一月十八日父可百里老年ニ付隠居、家督

一三拾七石五斗壹升三合

内藤¹

内藤周助

拾八石三人

宝曆七丑十月廿九日小役人^方御取立、新番入、御小道具方手伝其儘

安永七戌八月十二日三石御加増

天明二寅六月十四日勤方は迄之通、御留守番入

内藤彦左衛門 彦左衛門 直左衛門 休息

拾八石三人

寛政五丑三月十一日父周助跡目無相違、大番入

享和三亥二月廿二日御台所頭御留主番入

文化三寅八月廿五日御定年数相満候ニ付相身躰末

同九申正月廿九日用水奉行竹沢五郎右衛門跡

文化十二亥七月廿五日病身内願ニ付御役御免、無役御留守番入

文政七、八月十一日休息

内藤周助 彦七

拾八石三人

文政七申八月十一日父彦左衛門休息被仰付、家督無相違被下置、無役御

留守番入

天保九戌二月五日御広式御用達被仰付候

天保十五辰十月廿日御持武具奉行野坂源右衛門跡被仰付、御書院番組へ

被入

弘化二巳ノ五月二日休息

内藤²

内藤謹平 本多謹平 元武生家来 午廿五

一慶応三卯六月^(マ、)

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給禄

之儀ハ適宜御改正之上更ニ被下候事

〔士族〕

長尾順庵



一同年十二月廿八日本多興之輔家事用向之方江拝借願之通

一同三午正月廿三日米六拾俵四斗三升六合被下

一同年八月廿二日福井江引越被仰付

一同年九月十日芦田源十郎屋敷横附寄地ニ而式百廿五坪拜地被下候

一是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之義ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り

一同年九月廿五日安本佐太郎屋敷裏ニ而式百廿五坪更拜地被下候事

一同月廿九日御花畑ニ而式百廿五坪更ニ拜地被下候事

一同年十月廿四日願之趣も有之二付、山岡軍藏持地ト振替、更ニ拜地ニ被

成下候事

一同年閏十月五日本多興之輔家事用向拝借之処返上

一同日修業列江被入候事

一同月廿五日右名目被廢非役ト唱

一同四未十二月十五日内藤醇也ト給禄振替、公布之趣ニ付内藤ト改

米五拾三俵壹斗四升三合

一明治六年四月八日脚氣ニ付養子源之丞へ家督

内藤源之丞

〔士族〕

一 同丑三月廿四日死

式拾石三人

享保二酉八月廿九日於江戸御外科ニ被召出

長尾順庵

廿人扶持 外ニ銀拾枚

延享四卯十二月廿二日御医師並被仰付、拾人フチ御加増

同五辰四月十六日思召を以松伯上座ト被仰出候

寛延三年十二月廿八日奥医、席橋本春貞上ミ

長尾順庵

廿人扶持

宝曆二申九月十九日養父順庵跡目被下

明和六うし四月十三日奥御外科

長尾順庵 順喜

廿人

安永九子六月五日養父順庵休息、家督無相違、表御外科

同年七月九日奥御外科

文政十二丑正月廿八日年来相勤候ニ付、奥御医師格被仰付

長尾松彦

廿人

文政十二丑五月十五日順庵家督無相違、表御外科

長尾謙仲

式拾人扶持

一天保九戌六月廿五日養父松彦病中願之通養子ニ被仰付、家督廿人扶持無

相違被下置、表御外科ニ被仰付候

一同十三寅六月廿日奥御外科被仰付候

一嘉永六丑九月廿八日病身ニ付休息

長尾庵 順庵

〔士族〕

式拾人扶持

一嘉永六丑九月廿八日養父謙冲義病身ニ付休息被仰付、家督廿人扶持無相

違被下置、表御外科被仰付候

一同七寅三月廿三日御殿山出張ニ付、御下緒一掛被下置候

一安政三辰正月十五日奥御外科被仰付候

一文久二戌四月三日横浜表江長々出張中出精、御褒詞之上銀壹枚、別段金

二百疋被下置候

一同年四月晦日当分芝御陣屋詰被仰付候

一文久三亥五月十五日今般定府之面々引越被仰付候処、暑中ニも指向候ニ

付御含も有之候間、一所ニ出立被仰付、延引

一慶応四辰正月廿五日今般御趣意ニ付家内共御国江引越被仰付、二月廿三

日着

一同年四月廿九日家屋鋪中ノ馬場裏牧野貢元下屋鋪地ニおいて、新規之家

屋鋪被下置候

一明治二巳二月晦日無役組江被入、家業被免候

一同年三月十五日順庵事庵卜改

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

奈須

此前代か二出、但狩野与号

奈須輪石

廿石五人

寛保四子二月五日父泉碩跡目無相違、御絵師、席永純次

明和七寅閏六月廿五日御呵、閉門

奈須洞雪

廿石五人

明和九辰九月廿四日養父輪石休息、家督無相違被下、御絵師

奈須元泉 泉竹

廿石五人

寛政十二申八月十六日父洞雪跡目無相違、御絵師

奈須泉 元石事 涼泉 一立 仙碩

廿石五人

一天保十二辛丑閏正月十六日親元泉家督廿石五人扶持被下置、御絵師被仰

付

一安政元寅十二月廿八日一立と名替

一慶応三卯十二月廿八日一立事仙碩卜改

一明治二巳二月二日御趣意ニ付無役新番組江被入、家業之儀ハ御免被成候、但放免調練等致精勵候様

一同七日仙碩事泉卜改

一同月晦日無役組江被入候

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗貳升九合被下

一同三年四月十五日病氣ニ付願之通隠居

奈須源吾 明治三年廿六歳

〔士族〕

米四拾七俵壹斗貳升九合

一明治三年四月十五日父泉病氣ニ付願之通隠居被仰付、家督米四拾七俵壹

斗貳升九合無相違被下、修業隊江被入候事

但席皆川求馬次

一同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備二番隊 年給貳俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

名越作平 小右衛門 一元与力

廿三石五人

一弘化三年十月廿七日かごとく

一慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同三卯九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立

候様被仰付、十月六日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同廿五日新番並組ニ被仰付詰御免、十一月廿二日帰着

一同年十一月十七日先般堺町御警衛心配相勤候ニ付、御酒被下置候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組へ可被入之処、御広間当番勤被仰付、御留守番組江被入候

一明治二巳六月廿一日小右衛門事作平卜改

一同年九月廿九日多年精勤之処藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十俵壹斗五升被下

一同三年二月廿四日病死

名越愿三 常之丞 作平俵 午三十二歳

〔士族〕

一明治元辰十月廿九日御備入被仰付

一同二巳七月九日常之丞事愿三卜改

一同三年正月朔日登城之節於御本丸多葉粉吞候儀、恐入遠慮伺之上上指扣、

同四日被免

一同年四月十三日養父作平家督米五十俵壹斗五升無相違被下、修業隊江被入候事



但席山田豊吉次

米五拾俵壹斗五升

- 一 同年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事
- 一 同年十二月 予備二番隊 年給式俵
- 一 同四未四月七日右解隊被仰出候事

成見

成見保^{ヤスシ} 七郎右衛門

廿三石五人

一文政十亥九月家督

- 慶応二寅十月廿二日今度御趣意二付被召出、新番並組二被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置、寺社町役所調役被仰付、年来出精相勤候
- 二付、役中御足充行式石被下置候、且又席之儀ハ家督順二被仰付候
- 一 同三卯六月六日御用有之二付立帰出府被仰付、同廿一日出立、十月十日 帰
- 一 同年十月十八日第二遊撃隊被仰付
- 一 同月廿五日新番並組被仰付
- 一 同四辰二月五日年来出精相勤候二付、勤中役新番組へ被入候
- 一 同年閏四月五日長子斧太郎御咎二付伺之上指扣、同八日御免
- 一 五月十一日今般御趣意二付役中御留守番組江被入候
- 一 同年五月十一日今般御趣意二付御留守番組へ被入候処、年来相勤二付役中御取立二代江被入候
- 一 同年六月廿三日年来出精相勤候二付新番組二御取立被成下、役義之義ハ

御免被成候、且又御趣意二付御広間当番勤被仰付、勤中御留守番組二其儘被指置候

- 一 明治二巳正月廿日長子斧太郎逼塞被仰付候二付伺之上遠慮、同廿七日御免
- 一 同年六月廿一日七郎右衛門事保下改
- 一 同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞金五十兩被下置候
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下
- 一 優待列
- 一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役下唱

成見登七郎

[士族]

- 一 慶応四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候二付、補兵隊被仰出張被仰付候処、難洪之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候
- 一 明治下改元、十月廿二日大砲隊被仰付、奥州会津表江早速出張被仰付、十一月朔日出立、巳三月四日帰
- 一 同月廿三日右出張之処難洪之訳も有之二付、為御手当銀七百匁被下置候
- 一 同二巳二月廿七日大砲隊被免候
- 一 同年 御備入、巳八月十四日予備隊下唱、十一月廿八日修業隊下唱
- 一 同三年二月十三日砲兵所手伝被仰付候事
- 一 同年五月廿四日砲兵訓導試補被仰付候事 但上級
- 米五拾俵壹斗五升
- 一 同年十二月十五日養父保老年二付隠居被仰付、家督米五拾俵壹斗五升無

相違被下候事

一同日四等教授手伝 年給十六俵

但砲兵掛り

一十六等之二等

一同四未十月十三日解隊二付免職

並河

並河一九郎

四百石

元禄十二卯八月十八日奥御小姓被召出、御切米被下

宝永六丑三月五日於江戸新知百五拾石

正徳二辰九月廿一日於江戸御加増、百五拾石被下

同四年五月廿一日番外長袴之列被仰付

享保二酉六月十九日百石御加増、都合四百石

同七寅二月廿一日御近習御免

同年十二月十八日触頭被仰付

同十五戌八月廿九日御近習格於江戸被仰付

同十六亥四月御近習格御免、寄合被仰付

元文元辰六月十五日御奏者番役嶋田次

並河一九郎

四百石

延享四卯七月廿一日父一九郎跡知無相違被下、席寄合其身除テ三人下り、

松平源太夫次

寛延元辰七月廿八日御側

同四未正月十三日御用人、御側御小姓支配兼

並河百之助

三百五拾石

宝曆十四申二月廿九日父一九郎跡、幼年二付御定之通四拾人扶持被下、

寄合三人下り松原多膳次

明和二酉二月十五日十五歳罷成候二付、新知三百五拾石被下

同九辰七月三日御側見習

並河駒三郎

三百五拾石

安永二巳正月廿日養父百之助跡知無相違被下、寄合席三人下り富永衛守

次

此後代さニ出、但相馬与改

中島

中島無二 元武生家来

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之処物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給禄

之儀ハ適宜御改正之上更ニ被下候事

一同三年正月廿三日米六拾俵四斗三升六合被下

一同年八月廿二日福井江引越被仰付

一 同年九月九日御花畑ニ而式百廿五坪拜地被下候事

一 是迄之建物被下候ニ付取払可申事

一家作之義ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り

一 同年十月十二日優待列ニ被仰付候事

一 同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一 同年十二月十五日老年ニ付願之通隱居

中島波守 元武生

〔士族〕

一 明治三年正月廿三日、一昨秋越後表江出張之訳も有之二付、兵隊御雇被仰付、米拾壹俵四斗壹合被下候

一 五月廿五日本多興之輔願之儀ニ付、押而強願申立心得違ニ付謹慎、六月

十日被免

一 同年十月十二日第一大隊六番小隊江被入候事

一 同月十三日御雇給先般被仰出候御規定十俵高二被改候事

一 同年十二月八日常備三番隊

米六拾俵四斗三升四合

一 同年同月十五日父無ニ老年ニ付願之通隱居被仰付、家督米六拾俵四斗三

升四合無相違被下候事

一 同日常備第三小隊江被入候事 年給六俵

一 同四未十月十三日解隊



成田半之助 元武生家来 午四十四

〔士族〕

一 嘉永六丑十二月(マ、)

一 明治二己十一月廿五日今般御改革之処物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給祿之義ハ適宜御改正之上更被下候事

一 同三年正月廿三日米三拾六俵式斗五升六合被下

一 同年五月廿五日本多興之輔願之儀ニ付押而強願申立、心得違ニ付謹慎、

六月十日被免

一 同年八月廿二日福井江引越被仰付候事

一 同年九月十日御花畑ニ而百七十四坪拜地被下候事

一 福井引越被仰付候ニ付、是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之儀ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り御貸渡事

一 同年十月十二日予備隊江被入候事

一 同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

七 福井藩士履歴
に



西尾仁左衛門

千石

貞享元子六月五日父市郎太夫跡目与力知共式千石無相違被下

但同三年一同半知成、大番頭

元禄十三辰十月十六日被仰付

西尾金五郎

百人扶持

正徳二辰十二月廿三日父仁左衛門為跡目此通被下

西尾仁左衛門 久作

五拾人扶持

享保元申十二月十六日兄金吾死去二付如是被下之

西尾七兵衛

三百五拾石

元文元辰九月十九日養父仁左衛門病氣二付隱居、家督五十人扶持無相違、

席番外松平權七次

延享三寅八月十八日新知三百五十石被下、御触頭水野善左衛門跡

明和七寅八月七日御側見習席寄合渡辺十郎左衛門次

同年九月十四日御側本役渡辺十郎左衛門跡

天明五巳三月九日御側御免、御近習二被指置

同七未三月十四日御形合被相改候二付表へ被指出

西尾久作

三百五拾石

寛政四子十一月廿一日父七兵衛年寄内願も有之二付隱居被仰付、家督無

相違被下置、寄合席平本藤七郎次

西尾七兵衛 久米之助

三百五拾石

文化二丑十月十六日父久作隱居、家督無相違、寄合席大宮彦右衛門次

文政七申十月七日無役御留守支配富永孫四郎跡被仰付候

天保十二丑八月五日高松榮吉病中養子願取扱不参届二付御役御免、遠慮

同十三寅五月廿九日御藏火消多賀谷舍人跡

西尾久作

三百五拾石

一弘化四未二月廿六日親七兵衛年寄其上病身二付内願之通隱居被仰付、家

督三百五拾石無相違被下置、寄合之席平本作野右衛門次

一嘉永二酉四月十六日無役御留守番支配被仰付、稻葉式部跡

但安政元寅十二月十八日御軍制御改正二付、御役名大御番無役支

配と替ル

一安政四巳九月廿五日去ル十八日人丸宮祭礼之節、妻着服心得違之儀有之、

伺之上遠慮、同十月三日御免

一文久元酉十二月十一日来戌年芝御陣屋詰被仰付、詰中御足高五拾石被下

置候旨

一同二戌正月四日出立

一同十八日詰中御台場頭被仰付、諸事北川亘之介申談可取扱旨被仰付候

一同年九月廿日大御番無役組以來被相止候二付、御役御免被成候、依之以

来中ノ口往来御用人下ノ部屋へ罷出候様被仰付、来春迄芝御陣屋詰其儘被仰付候

一同三亥四月五日御側役并御用人助被仰付、此段久作江申越候様名代江被仰付、是迄相勤来候御用向都而其儘被仰付、風廻り之儀ハ御用捨被成候、

五月晦日帰着

一同年六月廿九日耳遠二付内達之通御側役并御用人助御免被成候、依之已来中ノ口致往来御用人下ノ部屋江罷出候様被仰付候

一元治元子四月十一日昨年大谷丹下手江農兵一組御附被成候処、御軍帳御割替二付御免被成、狛山城方江御附被成候二付、其手江属シ山城方江申談致世話候様被仰付候、山城方在京留守中ハ狛帶刀方江申談候様、且又

農兵之義二付而ハ西尾十左衛門江申談候様被仰付候

一同年四月十九日狛山城方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、大谷丹下江都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月五日明里御蔵火消被仰付

一同年同月十四日是迄山県三郎兵衛方附農兵致世話候様被仰付置候処、御軍帳御割替二付、大谷丹下附農兵致世話候様被仰付候

一元治元子七月四日京都表へ出立、八月廿二日帰着

一同年十月十六日長征出陣、丑二月帰
一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千五百足被下置候

一同年十月廿六日下馬三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心得相勤候様被仰付、依之風廻且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤方之儀ハ御用人申談候様被仰付

一慶応三卯二月十一日近来耳遠内達之趣も有之二付、右療治中調練御用捨被成下候

一明治二己五月廿五日夜廻勤之儀ハ被免

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞奥縞御袴地一反御盃一ツ被下置

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百六拾三俵二斗三升五合被下之
一同三年七月廿五日病身二付願之通隠居

西尾久馬

〔士族〕

米百六拾三俵式斗三升五合

一明治三年七月廿五日父久作病身二付願之通隠居被仰付、家督米百六拾三俵式斗三升五合無相違被下、修業列被仰付候事、但席滝沢仁之助次

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱



西尾源太左衛門

式百五拾石 外役料百石

延宝三卯五月十一日父十左衛門跡目五百石被下
貞享三年一等半知被下

元禄五申十二月廿八日杉形頭

宝永六丑七月四日御持弓頭兼屋敷奉行

享保二酉六月十九日御簾頭岩上梶太夫跡

同八卯二月七日新番頭堀十兵衛跡、席松原善左衛門次

同十巳十二月廿八日隱居

西尾十左衛門 源太左衛門

貳百五拾石 外役料百石

正徳五未五月廿五日表御小姓被召出、御切米被下

享保二酉六月廿六日中奥

同年八月廿六日新知被下

同七寅二月廿一日中奥御免、大番入

同十巳十二月廿八日父源太左衛門跡知無相違被下、自分知上ル

同十一年十一月六日中奥御小姓

同十三申二月廿九日御膳番

同十五戌九月五日御徒頭茂呂太右衛門跡、役料百石

同十七子七月廿八日御目付上月武左衛門跡

寛保三亥閏四月五日新番頭坂田七右衛門跡

延享元子十一月九日御奉行小川次兵衛跡

宝曆十一巳三月四日御役御免、遠慮

西尾源太左衛門

二百五拾石 役料百石

延享三寅五月廿一日御手廻被召出、並之通被下

同四卯九月廿日御部屋御手廻

同年十一月十五日御部屋御小道具方

寛延元辰八月十六日江戸方御国へ御返被成、勤方追而可被仰付置旨二而

小道具方御免、奥役末二当時被差置

宝曆十一巳三月四日親十左衛門御役御免、遠慮被仰付

同年四月廿五日養父十左衛門隱居、家督無相違、大番入、自分切米上ル

明和元申十月廿九日御使番高橋伴右衛門跡、御役料百石

安永三年六月十四日御杉形奉行加賀藤左衛門跡

同七戌八月十二日御持弓頭屋敷奉行兼山田次郎太夫跡

天明九酉正月十四日御簾奉行井上孫左衛門跡

寛政五丑七月十一日新番頭栃屋八左衛門跡

西尾忠左衛門

貳百五拾石

寛政九巳九月廿日養父源太左衛門隱居、家督無相違、大番入

文化五辰十一月廿日於江戸病死

西尾源太左衛門 十助 十左衛門

貳百五拾石

文化六巳正月十九日於江戸養父忠左衛門家督無相違、大番入

文政三辰ノ七月五日大御番四番筆頭役波多野五左衛門跡

文政十二丑七月四日御使番榊原孫作跡被仰付、御役料百石被下置

同十三寅五月三日御作事奉行岡三郎右衛門跡被仰付

天保七申五月廿日出精相勤候二付、役儀其儘御先物頭次席被仰付

同十一子三月八日御奉行役市村久太郎跡被仰付

嘉永元申ノ五月廿八日隠居、内達之趣も在之候得共、御指留御役之儀も御免被成、御近習ニ被差置、御役料其儘被下置、御奉行次席

西尾十門^{ツミト} 十之丞 十左衛門

〔士族〕

式百五拾石

- 一 嘉永三戌年四月廿九日親源太左衛門家督無相違被下置、大御番組江被入
- 一 同五子六月十六日親源太左衛門先年下曾根家へ入門被仰付候砌方引続砲術心配行届候ニ付、御書院番組へ被入候
- 一 同六丑年十一月五日今度大砲御製造ニ付右掛り被仰付候
- 一 同七寅年十月三日今度御軍制御改正ニ付御番組調練被仰出候、依之御家流大砲調練掛り被仰付候間、御軍帳掛り并芦田信濃申談候様被仰付候
- 一 同年十月十三日大小銃并彈藥御製造掛り被仰付候間、原法之通精製相成候様可申談候
- 一 安政二卯三月十四日御家流砲術之義追々被仰出候処、相弟子之面々引立厚致世話候ニ付御褒詞、依之御紋御上下一具被下置候
- 一 同四巳四月廿二日親以來砲術心懸相手寄候面々致世話、出精之段太儀ニ思召候、依之御目録銀三枚被下置候
- 一 同年同月廿五日江戸御供詰出立、同五年七月十六日帰着
- 一 同五年九月廿五日御使番役被仰付、御役料五拾石被下置、砲術所肝煎被仰付、御使番勤向之儀ハ御免被成候
- 一 同六未二月廿日大砲科頭取兼勤被仰付候
- 一 一文久元酉十月廿一日支度出来次第立帰出府被仰付
- 一 同年十二月廿七日出府中大砲教授方被仰付、且又二ヶ所御台場御筒御附属小道具彈藥等諸事申談取扱候様被仰付候

一同二戌二月廿九日今般御台場御預り被成候ニ付、立帰出府被仰付候処、右大砲使用法等厚取調致心配、放発無滞相済出精之段、御褒詞之上御召御上下一具銀式枚被下置候

一同年三月十二日帰着

- 一 一文久二戌九月廿七日農兵掛り操練頭取被仰付、郡奉行勤方之義も相心得候様被仰付、郡奉行順席ニ被成下、砲術所肝煎之義も其儘被仰付候
- 一 同三亥八月朔日役儀其儘御役料五十石御増、都合百石被下置候
- 一 同年九月四日支度出来次第立帰出府被仰付、七日出立
- 一 同四子正月廿五日帰着
- 一 同年二月七日品川沖御預り兩御台場御用掛り被仰付
- 一 同廿日砲術為御用上京被仰付、此表御用向取調出来次第致出立候様被仰付候
- 一 一元治と改元、三月十七日御軍制取調御用掛り被仰付
- 一 同年四月十五日京都詰被仰付置候処、御免被成候
- 一 同年七月四日御含御用有之立帰上京被仰付、同九日出立、其後帰、八月七日出立、九月十一日帰、同月出立
- 一 同年八月十九日於京都席御役料砲術肝煎其儘大砲物頭被仰付、御旗本大砲組廿一人ツ、御預ケ被成候
- 一 同年九月十三日大砲物頭席被仰付
- 一 同年十月三日上京、同十一日早駆ニ而帰、同十三日同断折返シ出立、夫方長征出陣、同二丑正月晦日帰
- 一 慶応元丑五月廿八日大砲支配被仰付
- 一 同年八月七日繁勤ニ付夜廻御免被成候
- 一 同二寅正月廿九日出精相勤候ニ付、砲術所肝煎大砲支配御役料其儘御持

物頭次席二被仰付、大砲物頭之義ハ御免被成候

一 同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千貳百疋被下置候

一 同年八月廿九日兵学所掛り被仰付、尚又掛り役輩申談厚致心配候様被仰

付

但同日御坂札壹枚被下置候

一 同三卯三月廿四日西洋流砲術御派立以來格別出精相勤候二付、物頭嫡席

二被仰付

一 同年四月廿五日今度琵琶山江角場御取建二付、村田巳三郎大谷儀左衛門

武田三十郎申談宜取扱候様被仰付

一 同年八月十六日倅百助御叱二付遠慮伺之上指扣、同十九日御免

一 同年十月廿一日砲術奉行被仰付候

一 同四辰閏四月十九日倅百助御咎二付伺之上指扣、同廿四日御免

一 同年八月十九日大砲を始附属御道具共今度悉皆御任セニ相成、以來御修

復并新規製作之分ハ製造奉行申談候様被仰付候、但巳六月廿一日巳來大

砲始不及取扱旨被仰付候

一 明治二巳二月十六日砲術司事被仰付、但席其儘、御役料ハ不被下

月俸七十俵

一 同年四月二日去年佐々木権六護持艦齋之三インチ大砲射放点驗御満足思

召、御褒詞上御品物被下

一 同年六月十六日十左衛門事十門ツミト卜改

一 同月廿一日砲術教長兼被仰付候事

一 同年十月十日皆川小太郎於平岡丁場嗜打候節、水谷猪之助隊萩原新太郎

へ為致怪我候義、締方不参届故と遠慮伺之上指扣被仰付、同十五日被免

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百廿六俵四斗三升四合下賜

一 同月廿七日今般御改革二付当役被免候事

一 同月廿八日西洋流砲術派立以來厚致担当遂其功之義勤勞不淺、依之給禄

相増、都合米百四拾六俵壹斗壹升四合被下置候事

百四拾六俵壹斗壹升四合

一 同日砲術所階級所共折々罷出教導方申談候様被仰付候

一 優待列被仰付

一 同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一 同日非役上席被仰付、但軍務寮支配之事

西尾³

西尾五右衛門 隠居 三十

百石 五拾石役料

元禄十三辰九月廿九日父伝兵衛跡目、十人扶持

宝永四亥十月十八日御切米被下

享保七寅十二月十八日仕立弘御納戸

同十八丑正月十六日新知、御金奉行蠲江九左衛門跡

元文二巳三月十一日御勘定拜借奉行、御留守番入

延享三寅六月廿八日郡奉行堀勘左衛門跡、役料五拾石

西尾伝兵衛 父五右衛門

百石

宝曆九卯八月十六日父五右衛門隠居、家督無相違、大番入

同十辰四月十一日御手廻御書院番入

明和五子八月十三日御手廻御免、席其儘御近習番格

同六丑正月十六日若殿様御部屋附御近習番

西尾五右衛門 源五郎

百石

安永二巳五月十六日養父伝兵衛跡知無相違、大番入

同五申十一月廿九日表御小性見習

天明二寅六月十四日御近習格御供方御書院番入

同五巳二月十五日御近習番

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略二付役義御免、大番入

同九酉正月十四日御近習番中根三十郎跡、御書院番入

寛政三亥十一月廿九日奥御納戸田口惣兵衛跡被仰付

同十年二月廿三日席是迄之通御部屋附御近習番御供頭

同十二庚申八月廿四日御近習番頭取御膳番大谷孫太夫跡

享和二戌九月二日御書院番二番之筆頭三寺与右衛門跡

文化三寅六月十日御長柄奉行毛利六郎右衛門跡、御役料百五十石被下

文化六巳ノ二月晦日御先物頭川村文平跡

文化十三子六月廿九日隠居

西尾五右衛門 伝兵衛

百石

文化十三子六月晦日養父五右衛門隠居、家督無相違、大御番入

文政七申十月十五日御留守作事奉行皆川平右衛門跡

文政八酉十一月三日御先作事奉行荒川助右衛門跡被仰付、御役料百五拾

石被下

同十一子正月廿八日御預所郡奉行大井長十郎跡、席御先物頭次席

文政十三寅二月廿九日御目付萩原長兵衛跡被仰付

天保十亥二月十六日出精相勤候二付長袴格御奉行次席被仰付

天保十一子正月廿九日調□御趣意有之、御札所見廻り被仰付

西尾五右衛門

百石

一天保十一子九月十一日養父五右衛門家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一弘化四未十月廿五日先年も御咎被仰付候処、亦復不慎二付遠慮被仰付候、但此咎伺遠慮中也

一嘉永三戌江戸詰被仰付、四月十二日出立

一同七寅正月十一日江戸表へ出立

一安政五午正月十六日眼病二付内願之通休息

西尾伝 半十郎 伝兵衛

百石

一安政五午正月十六日親五右衛門眼病二付内願之通休息被仰付、家督百石

無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年二月廿日御家流砲術所詰同様被仰付候

一万延元申十二月廿八日伝兵衛与名替

一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰被仰付、支度出来次第致出立候様被仰付、

廿八日出立

〔士族〕

- 一 同年十二月廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御筒并御附属小道具彈藥等教授方申談取扱候様被仰付候
- 一 同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江致出張候二付御褒詞
- 一 同九月廿九日今度農兵御端立二付西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候、尤砲術所世話役之義ハ是迄之通相心得候様
- 一 同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中将様御供二而帰着
- 一 一文久三亥八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立、元治元子四月廿三日宰相様御供二而帰
- 一 元治元子五月十一日上京中不埒之趣相聞遠慮、六月朔日御免
- 一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候
- 一 同年七月四日京都表へ出立
- 一 同年七月十七日在京中農兵教授方手伝被仰付
- 一 同年九月十一日京方帰
- 一 同年十月十三日長征出立、同二丑正月晦日帰
- 一 慶応元丑五月廿八日大砲方御免被成候
- 一 同年六月廿四日新撰農兵差配役被仰付、役御番組へ被入候
- 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候
- 一 同三卯正月廿九日新撰隊教授方并指揮役兼被仰付
- 一 同年七月十一日御先第八小隊副物頭並被仰付、御書院番組へ被入候、小者給老人扶持銀三百匁被下置候
- 一 同年十月十八日半小隊長被仰付、役儀二付席末之番外格二被成下候
- 一 同年十一月四日第一級二相進候二付花葵御紋御印被下置候
- 一 同四辰四月朔日上京、七月十七日帰

一 慶応四辰九月十四日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、同十八日出立、十一月十八日帰

一 同日二番大隊之二番半小隊長鱈淵三郎太夫跡江組替被仰付

一 明治二巳六月廿一日伝兵衛事伝卜改

一 同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一 同三年六月廿二日第二大隊九番半隊長被仰付候事

一 同年八月十六日今般武生表士族卒族御不審之筋有之、令出福候二付途中

為警固半小隊引纏出張被仰付候処、外警固人之申口ニ泥ミ一旦引返シ候

始末、輕卒至極二付半隊長被免、第一大隊一番小隊江被入謹慎被仰付、

九月二日被免

一 同年十二月予備一番隊 年給式俵

一 同四未四月七日右解隊被仰出候事



蛭川三太夫

百石

宝永元申十一月五日父金兵衛為家督被下

巳八月廿一日於江戸死

蛭川林左衛門 元四郎 隠居 同三十九年

百石 役料百五十石

元文二巳十月廿五日父三太夫跡無相違、大番入

宝曆二申十二月廿二日山奉行河村一右衛門跡、御留守番入

同九卯九月廿二日御勘定奉行榊原十郎右衛門跡

明和五子七月九日御長柄奉行河合滝右衛門跡、役料百五拾石

蜷川新十郎 病死

百石

安永五申正月十六日養父林左衛門隱居、家督無相違、大番入

同七戌六月廿二日御近習番宮塚甚左衛門跡、御書院番入

寛政二戌五月廿八日御腰物数寄方奉行御附兼帶其儘、御書院番表役二被

仰付

同八辰十二月五日御時宜役、格式末ノ番外

享和二戌二月十一日小馬印奉行堀武左衛門跡

蜷川林左衛門 金五郎

百石

享和三亥八月十一日養父新十郎家督無相違被下、大御番入

文化元子十二月五日御近習番

文化五辰年五月廿一日與御納戸久野孫右衛門跡

同十一戌七月晦日與御納戸其儘御近習番頭取有賀惣左衛門跡

文化十三子十月朔日御近習番頭取與御納戸役其儘、御書院番二番之筆頭

役山崎七郎右衛門跡被仰付

文政五年五月二日於江戸表御奉行森田伝右衛門跡被仰付、御役料百五拾

石被下置

同十三寅年正月十六日席其儘御広式御用人被仰付候、当年江戸詰被仰付

候

天保八酉二月廿八日於江戸表御預所元締役大井長十郎跡

天保十亥正月廿九日年寄候二付隱居被仰付、小宮山常春同様之御取扱被成下候

蜷川新厚^{チカアツ} 長助 林左衛門 新十郎

百石

一天保十亥正月廿九日親林左衛門年寄候二付隱居被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入候

一同年五月八日御小姓被仰付候

一同年江戸詰、八月廿三日出立

一同十三寅江戸詰、八月廿五日出立

一同十四卯七月廿二日表御小姓長岡喜八郎跡被仰付、席林久太郎次江被入

候

一嘉永五子九月廿日林左衛門卜名替

一安政四巳二月廿三日表御小姓筆頭役鱸長左衛門跡被仰付

一同五年九月廿五日末之番外御時宜役被仰付候

一文久二戌八月廿四日江戸詰出立

一同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被遊候二付、陸廻り御先へ

出立

一同三亥三月廿五日御供二而帰着

一同年八月朔日御使番役、御役料百五十石被下置候

一同廿八日御先物頭大館兵馬跡被仰付候

一元治元子十月五日長征出立、丑二月四日帰

一慶応二寅四月十一日日本多興之輔方へ増御附屬被成、大坂表江出張被仰付

候、支度罷在御指図次第致出立候様被仰付候

一同年六月十一日御差図次第出張被仰付置候処、御免被成候

一同三卯十月十八日小隊頭卜被仰付候

一同年十一月廿六日支度出来次第境町御警衛詰被仰付、十二月朔日出立

一同四辰四月四日昨冬以来格別骨折相勤候段御褒詞

一同月十二日京都方婦

一同年七月七日上京、十一月十九日帰

一明治二巳二月十六日守城承事被仰付、御留守組支配たるべく事

但席其儘 月給廿俵 御役料ハ不被下

一明治二巳六月十六日林左衛門事新十郎卜改

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付守城承事被廢、依之役儀被免候事

但席宇都宮五郎助次

一同月廿五日今般御改革、更給祿米六十俵四斗三升六合被下候

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同六年一月十八日老年ニ付倅涼へ家督

蜷川涼

一 式拾七石七斗九升六合

〔士族〕

元祿八亥十一月十六日父六兵衛跡目被下

同十丑六月十六日御持武具役

同十四巳五月廿九日御擬作増被下、大安院様御代御取立子孫ニ付、先御

代隆芳院様御取立之者共席御上ケ被下格ヲ以

享保四亥八月十八日相身代末席

同七寅ノ冬御番割之節順席

大安院様御代父六兵衛御取立

西村九郎右衛門

百石

享保十一午九月廿一日父平右衛門跡目廿石五人扶持無相違被下、大番入

同年十月六日五石御加増、廿五石五人、表御小姓

元文元辰九月五日御手廻

同五申閏七月九日御庭役鈴木清八跡

寛保三亥正月十九日鵜方兼御裏役其儘

延享二丑正月十五日野辺定御供御挟ハサメメ被仰付、御裏役御免

同年七月朔日新知被下

宝曆七丑九月廿五日御留守物頭大野一郎左衛門跡、御鷹方兼

西村仙右衛門

百石 外役料百五拾石

明和元申閏十二月廿八日父九郎右衛門跡知無相違、大番入

同三戌五月廿日御次詰御書院番入

同五子七月廿日御裏役小栗十右衛門跡



西村平右衛門

式拾石五人

安永三年八月六日御供頭役御近習番

同八亥三月十六日御近習番頭取格

天明四辰九月廿四日御留守物頭御鷹方兼久世三左衛門跡

同八申六月十五日御目付横田勝之助跡、御役料百五拾石

寛政四子五月廿四日郡奉行川村十郎右衛門跡、席鈴木清左衛門上

同五丑正月廿八日御趣意二付御役御免、御先物頭次席、御役料其儘被下

置候

同年二月廿六日御普請奉行鈴木小兵衛跡

享和二戌十二月二日御簾奉行大関新五左衛門跡

西村小平次 捨五郎

百石

天保十三壬寅十二月十六日親仙右衛門家督百石無相違被下置、大御番組

へ被入

弘化二巳ノ十月十六日表御小姓松原彦太郎跡被仰付候

弘化五申年二月江戸二而病死

西村九郎右衛門 又三郎

百石

一嘉永元申四月十六日小平次病中願之通養子二被仰付、家督無相違、大御

番組へ被入

一安政四巳四月廿日江戸詰出立

一同五午十月廿一日病死

西村仙右衛門 伝内

百石

文化元甲子六月十九日父仙右衛門隠居被仰付、家督無相違、大御番入

同九月二日御小性

文化九壬申十月二日御小性頭取

文政五年六月十日御徒頭中山藤右衛門跡被仰付、役料五拾石被下置

文政九戌五月三日御使番御供頭兼長谷川源之進跡、御役料百五拾石被下

置、支度次第江戸詰被仰付

文政十二己丑八月廿七日於江戸表御側物頭萩原長兵衛跡被仰付、支度次

第御国へ罷帰候様被仰付

天保二卯十二月十六日御武具支配忍之者預り被仰付

天保八丁酉七月十一日御簾奉行大井田喜内跡被仰付候

同十二丑六月十一日新御番頭横田作太夫跡被仰付候

西村^{七サ}寿雄 平九郎 元吉郎 実故小平次倅

百石

安政五年十二月十一日養父九郎右衛門家督百石無相違被下置、大御番組

へ被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同二戌十一月廿五日來春殿様御上京被遊候二付為御待受出立

一同三亥二月廿九日中將様御附御近習被仰付候

一同三月廿五日中將様御供二而京都方帰着

一同年十月十三日中將様御供二而上京

一同四子正月九日御附御小姓被仰付候

〔士族〕

一元治元子四月廿三日右御供二而帰京
 一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候
 一同二丑正月元吉郎与名替

一慶応与改元、十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十一月五日元吉郎姉妹尾浜三郎妻すみ不埒至極之趣相聞候二付、離縁之上蟄居退身同様被仰付

但元吉郎遠慮伺之上指扣被仰付、同八日御免

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年十一月二日右同断出立、辰三月十一日帰

一同四辰四月 上京、十月十二日帰

一明治卜改元、十二月朔日御附御小姓頭取被仰付

一同月四日上京、巳三月六日中納言様御供二而帰 月給米十俵

一同二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十二月廿八日帰

一同年九月廿四日従二位様内務局頭取被仰付、当役を以御近習肝煎被仰付
 但等級并月給米是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年正月十二日元吉郎事寿雄卜改

一同年二月朔日内務局頭取其儘庶務取扱被仰付候事

一同日当職以御近習肝煎御廐吟味役之儀是迄之通相心得候様被仰付候事

一同年八月十五日内務局頭取被免、庶務之事被仰付候事

但内務局二而取扱来候御用向従前之通可相心得候事

一同四未二月十六日御近習頭取被仰付候事

但御廐掛り被仰付候事

一同年四月五日当分年給 十三級 式拾八俵三斗六升四合八匁

一同年五月七日御側勤被仰付、家族引越被仰付候事

但等級是迄之通

一同五申八月晦日御書下ケ二而免職



西村閑五

式拾石四人

貞享三寅閏三月御取立

享保七寅年順席、松岡道奉行

西村閑五兵衛 父閑五兵衛 養同直作

廿石四人

享保十五戌八月十一日閑吾休息、家督無相違、大番人

宝暦五亥正月十六日御簾本武具奉行上村十右衛門跡

西村勘五兵衛

廿二石四人

明和元申八月廿五日養父閑五兵衛休息、家督無相違、大番人

天明五巳六月十一日用水奉行小木甚助跡、御留守番入

寛政三亥三月廿九日御代官渥美助左衛門跡

文化五辰七月十一日二石御加増

同十月病死

西村閑五兵衛 金左衛門

式拾式石四人

文化五辰十二月十六日養父勘五兵衛跡目無相違、大御番入

文政五午九月五日病死

西村勘五兵衛 金之丞事

廿式石四人

一文政五午十月廿五日親閑五兵衛家督無相違被下置、無役御留守番組江被

入

一同十三寅五月廿五日大御番入

一天保十五辰六月廿日番改役岡嶋左太夫跡

一嘉永七寅八月十四日表御納戸役小野太郎太夫跡被仰付候

一安政四巳二月五日御代官役榎並左次右衛門跡被仰付候

一元治元子二月廿九日休息

西村閑吾 閑次郎

〔士族〕

廿式石四人

文久元酉十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、五人扶持

被下置候

一同二戌三月廿八日出立、同三亥三月御前様御供二而帰

一元治元子二月廿九日親勘五兵衛年寄候ニ付休息被仰付、家督廿式石四人

扶持無相違被下、大御番組へ被入候

一同年四月十五日上京、八月廿二日帰着

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌

相働候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一同二丑四月四日御世譜方御右筆見習被仰付候

一慶応卜改元、閏五月十一日御趣意ニ付役御番組江被入候

一同二寅三月十一日御右筆見習被仰付、御世譜方之儀も是迄之通相心得候

様被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下配当金千疋、且又戦功ニ付

五百疋被下置候

一同三卯二月十一日御趣意ニ付御役御免被成、大御番組江被入候

一同年四月五日病身ニ付銃隊勤致兼候ニ付、内達も有之二付快気迄御留守

番組江被入置、御広間当番勤被仰付

一同四辰閏四月十六日明道館授読被仰付、役御番組へ被入候

一明治卜改元、十二月廿八日閑次郎事閑吾卜改

一同二巳三月十二日訓蒙被仰付候 月給八俵

一同年七月八日漆御門内瓜生三寅罷在候洋学所外塾ニ御取建御預ケ被成候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗七升六合被下

一同月廿七日右ニ付役儀被免

一同年十二月二日文学少訓導被仰付候事

一同三年九月十五日任文学大訓導 三等教授 未正月年給三十六俵

一同四未七月十七日経学兼看読

- 一 同年九月二日第十三塾教官
- 一 同年十二月十六日免職



西村藤四郎

拾八石三人

- 享和二戌十月十六日御徒目付^る御取立被成、新番組へ被入、御小人頭伴
- 甚五左衛門跡
- 同三亥閏正月十一日御小道具手伝
- 文化五辰十一月廿五日病身二付役義御免
- 同六巳五月廿二日病死

西村源左衛門 藤四郎 藤三郎

廿石三人

- 一 文化六巳八月十三日親藤四郎跡目拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入
- 一 同七午九月廿九日是迄家作致居候御茶園地、以後拝領地ニ被成下
- 一 弘化三年九月五日御広敷添役藤間甚左衛門跡被仰付
- 一 同四未年江戸詰
- 一 嘉永五子三月十六日会所預り古物方記録方兼勝田与右衛門跡被仰付、御用長屋へ引越
- 一 安政四巳四月十四日来砲術出精ニ付、花葵御紋付御扇子壺本被下置候
- 一 同五年九月廿五日来相勤候ニ付御足充行式石被下置候

- 一 同七申閏三月五日年来相勤候ニ付御足充行式石御加増、都合式拾石三人扶持ニ被成下候

- 一 文久元酉六月十六日御台所目付被仰付、中野文次郎家屋敷へ替被下候
- 一 同二戌六月廿五日年寄候ニ付休息

西村元長 モトナガ 藤太郎 虎介 コ

廿石三人

- 万延元申十月十六日御旗本太鼓役御雇改而被仰付、右御雇中銀五枚ツ、年々被下置候

〔士族〕

- 一 同十二月十日右七百疋ニ御直シ被下候段被仰付候
- 一 文久二戌六月廿五日親源左衛門儀年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、新御番組江被入候
- 一 元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当三百疋被下置
- 一 慶応二寅十月廿二日役新番組ニ被仰付候
- 一 同三卯正月廿五日御趣意ニ付太鼓役御免被成、新番組へ被入候
- 一 同年十月十八日第二遊撃隊被仰付
- 一 同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之处、御模様ニ付途中^{より}引返帰
- 一 同年十二月廿八日藤太郎事虎介^コ卜改
- 一 同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰
- 一 同年四月廿五日遊撃隊江被入候
- 一 同年閏四月七日上京、九月十八日帰
- 一 明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月八日御減ニ付帰
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾弍俵六升被下

一同三午正月廿七日柔術世話役手伝被仰付候事
 一同年五月三日鳥羽迎御用地之内江土着開墾仕度、右地所之内二万坪御渡被下候様、右願之通被仰付候上ハ当分御城下ニ罷在度旨、願之通たるへ候事

但坪数之儀ハ於民政寮可承候事

一同年五月廿四日柔術世話役手伝被免候事
 一同日役配中出精之段御褒詞被成下候事
 一同日第一大隊三番小隊入被仰付候事
 一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵
 一同月十九日支配頭へ御移りヲ以御叱りニ付、伺之上謹慎被仰付、同廿二日被免

一同四未二月廿五日借宅江賊立入候儀ニ付、疑心ヲ以不法之及取調候始末、心得違至極ニ付閉門百日被仰付候事

一同年十月十三日解隊

一同年十一月三日吉村弥八郎与祿振替

米三拾壹俵三斗六升九合 十二石三口ノ適宜

一同五申 敦賀県へ送籍

一同年五月虎介事モトナガ元長

西村⁴

西村平左衛門

拾七石三人

寛政八辰正月十六日御徒組頭方御取立被成、新番入被仰付

文化元甲子年六月十一日御駕頭渡辺第右衛門跡
 同三寅六月十六日思召有之二付役義御取上、新番並へ御下、閉門
 同七午四月六日病死

西村儀兵衛

拾七石三人

文化七午五月廿五日父平左衛門家督無相違、新番並
 同九申十月十九日御趣意有之、新番入

西村平左衛門 金助

拾七石三人

一天保二卯六月五日親常右衛門家督拾七石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入

一弘化三年八月 伺之上遠慮被仰付置候処、同廿二日御免

一安政五年九月十一日病身ニ付内願之通休息

西村常太郎 外次郎

拾七石三人

〔士族〕

一安政五年九月十一日親平左衛門病身ニ付内願之通休息被仰付、家督拾七

石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一文久元酉三月廿五日元席へ被入候

一同二戌十二月廿八日常太郎与名替

一元治元子十月十七日京詰出立、十二月帰

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一慶応二寅十一月十一日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之処、御模様ニ付途中より引

返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月十三日御人減ニ付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾八俵壹斗壹升五合被下

一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給貳俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

丹羽¹

丹羽与一右衛門

貳拾五石五人

元禄四未閏八月五日養父小左衛門跡目無相違

宝永四亥七月廿一日仕立払御納戸

正徳四午五月廿九日表御納戸役御免

享保三戌六月廿五日番改役

同九辰六月廿五日御代官役

丹羽市左衛門

隱居 同四十九年
百石 役料百五拾石

享保十六亥十一月養父与一右衛門家督無相違、大番入

同廿一辰五月廿一日表御小姓

元文二巳十一月廿八日中奥

同四未三月三日表御小姓

寛保二戌六月五日中奥

延享二丑正月十五日御次詰

同三寅十一月朔日新知百石、奥御納戸奈良八百八跡

宝曆十一巳十一月廿九日小馬印奉行大河原助右衛門跡

明和五子七月九日御留守物頭榊原十郎右衛門跡

安永四未正月廿八日御先物頭坂野八右衛門跡、役料百五拾石

丹羽市左衛門

百石

天明三卯年三月朔日父市左衛門隱居、家督無相違、大番入

同六年五月十三日御近習番御書院番入

寛政二戌五月廿八日御腰物数寄方奉行御部屋附兼帯其儘、御書院番組表

役二被仰付

同年十月廿九日席其儘二而御部屋附御近習番松田要人跡

同十年五月御部屋附御近習頭取御膳番鈴木甚十郎跡

同十二庚申八月廿四日御書院番一番ノ筆頭役

享和二戌ノ四月廿日末ノ番外御時宜役被仰付

文化三寅十一月廿二日大馬印奉行岡田喜右衛門跡

同七年八月廿二日御留守物頭岩村門右衛門跡

文化九申八月十九日御先物頭下山半左衛門跡、御役料百五拾石

文化十三子六月廿九日隱居

丹羽与右衛門 源之丞事

百石

一文化十三子六月晦日養父市左衛門隱居被仰付、家督百石無相違被下置、

大御番組へ被入

一文政十一子江戸詰被仰付

一天保三辰江戸詰被仰付、六月十四日出立

一同五午五月三日御預所御金奉行服部吉左衛門跡被仰付

一同六未三月十六日御金奉行服部三郎兵衛跡被仰付

一同年江戸詰被仰付、七月十一日出立

一同十亥江戸詰被仰付、七月八日出立

一同十二丑七月廿日御勘定拝借奉行御趣意金取扱山本清右衛門跡被仰付、

御留守番組へ被入

一同十四卯二月十六日末之番外御時宜役被仰付

一嘉永元申五月廿八日御纏奉行桜井庄九郎跡被仰付

一同三戌七月廿八日御水主頭岡田金左衛門跡被仰付、御役料百五拾石被下

置、金左衛門是迄罷在候御役屋敷へ替被下

一同五子六月九日隱居被仰付候

百石

一嘉永五子六月九日親与右衛門年寄候二付隱居被仰付、家督百石無相違被

下置、大御番組へ被入候

一同年同日河崎清兵衛屋敷へ替被下

一安政四巳九月廿三日家屋敷稲葉多金吾家屋敷へ替被下候

一同六未十二月八日病死

丹羽育之介 喜作 実齋藤門太夫次男

百石

安政四巳七月十一日江戸表江罷出学文修行被仰付、右中御扶持方式人扶

持被下置候、八月七日出立

一同五午七月三日修行中式人扶持被下置候得共、追々可被仰付儀も有之二

付、右修行中一人扶持御増、都合三人扶持被下置候

一同六未十月廿六日帰着

一同七申正月廿九日丹羽辰五郎病中願之通養子二被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組無役組へ被入候

一同年閏三月十二日他国修行被仰付、太儀二付銀壹枚被下置候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同三亥正月廿五日当亥年芝御陣屋詰被仰付候

一同年二月十八日家屋敷御用地二被仰付、代地之儀者新屋敷御徒屋敷地之

内二而相当之坪数被下置、居宅并外建物之儀ハ取調之上建被下候旨

一同廿六日早速詰引揚被仰付、出立

一同年五月六日拜地之内西ノ方二而四十九坪余御用地二被仰付、為代地同

所南之方二而四十九坪余被下置候

丹羽辰五郎

一元治元子六月廿八日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応卜改元、十一月晦日大坂表江出張

一同二年九月十八日帰

一同年十二月育之介与名替

一同三卯十月廿三日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組江被仰付

一明治卜改元、十月十六日癩症二付内願之通休息

丹羽一也 徳次郎 実松江祐六弟也

百石

明治元辰十月十六日養父育之介儀癩症二付内願之通休息被仰付、家督百

石無相違被下置、無役組江被入候

一同年十一月廿日遊撃隊へ被入候

一同二巳三月三日東京江出立之処、御呼戻二付同五日途中方帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十一日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

同年十一月廿三日洋学修行東京

一同年十二月徳次郎事一也卜名替

一同年 東京区兵



2

丹羽八郎

百五拾石 外役料百石

於松岡横目物頭、御相統後仮役

享保七寅十二月九日右本役、御加増五拾石役料百石被下、堀十兵衛跡

同九辰五月廿七日御役御免、勝姫様御守自殺仕候二付跡不被仰付

丹羽十左衛門

廿五石五人

享保七寅十二月五日御手廻被召出、御合力銀

同十二未十一月廿五日父八郎不慮之仕形二付御法も在之家督不被下、然

れとも只今迄勤来候二付御合力銀被下、御手廻御免、大番へ入

丹羽十太夫 安之丞 休息 同四十年

廿五石五人

享保廿一辰三月廿一日養父十左衛門跡目被下、大番入

明和三戌八月十一日御番改久野忠右衛門跡

丹羽十左衛門

廿石四人

安永五申七月十五日養父十太夫休息、家督無相違、大番入

天明六年七月廿四日御近習番御書院番入

同年九月十一日御近習番御免、大番入

寛政二戊八月三日御近習番御書院番入

同六寅六月廿五日奥御納戸役勝木与兵衛跡

同十年二月廿三日奥御納戸御免被成、席是迄之通二而御近習番勤方被仰付

同年八月九日御近習番勤御免、大御番入

文化三寅ノ六月十六日五石老人扶持御取揚、遠慮

文化八未十二月十六日病身二付休息

丹羽十左衛門 金三郎事

廿石四人

一文化八未十二月十六日父十左衛門家督無相違被下置、御留守番組江被入候

一同九申十月十九日無役御留守番組江被入

一文政三辰八月十一日大御番組江被入候

一同十三寅四月十一日御番改渥美助左衛門跡被仰付候

一天保十四、二月十六日御掃除奉行雪吹八郎左衛門跡被仰付候

一弘化三年五月廿五日御代官役多部三左衛門跡被仰付候

一嘉永五子六月十六日御祈禱奉行久津見三内跡被仰付候、大御番組へ被入候

一同七寅六月十九日年寄候二付休息

丹羽伝 忠之助 十太夫

貳拾石四人

一嘉永七寅六月十九日親十左衛門年寄候二付休息被仰付、家督貳拾石四人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一万延元申閏三月廿二日太田御陣屋詰出立
一文久元酉四月六日帰着

一同廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、銀壹枚被下置候

一同二戌十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一同三亥三月廿五日中将様御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷より御褒美貳百五十疋被下置候

一元治元子二月廿九日番改役有沢勘介跡被仰付候

一同年六月廿九日上京、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑四月廿八日上京、翌寅四月七日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀より被下金千疋被下

明治卅四年十一月千尋補記ス

一同二寅七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同年十一月三日御趣意二付役儀御免被成

一同三卯七月廿一日番改役松原伝五右衛門跡被仰付、御書院番組江被入候

一同年十月廿五日役儀其儘御留守大番組へ被入候

一明治元辰十月廿一日以来服忌令懸り同様相心得相勤候様被仰付

一同年十二月廿八日忠之助事十太夫卜改

一同月廿日為失却当年限銀壹枚之当りを以被下置候

一同二巳六月廿一日十太夫事伝卜改

〔士族〕

一 同年十一月九日今般御改革ニ付御広間当番被廢候、依之役儀被免候事
但席山上藤九郎次

一 同月廿五日今般御改革、更給禄米四拾五俵壹斗四升四合被下

一 予備隊

一 同三年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

丹羽³

※西川八左衛門の後にあり

丹羽真一 勝弥 闖 梶架
ツララセイカ

廿三石五人

一 嘉永五子三月十七日かとく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行
之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付
一 同三卯九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立
候様被仰付、十月六日出立、同十八日第二遊撃隊被仰付

一 同年十月廿五日新番並組ニ被仰付詰御免、十一月廿二日帰着

一 同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候ニ付御酒被下置候

一 同年十二月廿八日勝弥事真一卜改

一 同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一 同月廿日無役新番並組江被入候

一 明治卜改元、十月五日病氣ニ付内願之通休息

一 巳四月四日闖卜改

一 同三年八月十七日闖事梶架卜改

丹羽真一 直作 真一 実安井藤太夫次男也 真一養子
式拾三石五人 [士族]

一 慶応四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付、補兵隊被仰出張
被仰付候処、難渋之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一 同年九月六日補兵隊ニ而会征出立、十二月七日帰、御手当五兩巳二月被
下

一 明治与改元、九月十六日丹羽真一養子願之通被仰付

一 同年十月五日養父真一病氣ニ付内願之通休息被仰付、家督廿三石五人扶
持無相違被下置、遊撃隊江被入候

一 同年十二月廿八日直作事真一卜改

一 同二巳七月十日真一事貢卜改

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一 同三年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一 同年十二月予備一番隊 年給式俵

一 同四未四月七日右解隊被仰出候事

丹羽⁴

丹羽与左衛門

式拾石五人

宝永三戌十月十八日於江戸御徒方御取立、新番入

正徳四年十月廿五日御簾揚役御免

私云前方御簾上役ハ江戸知り与申而、江戸功者之者御取立被成
被仰付候由

丹羽源之助

拾五石三人

享保元酉^(マ)八月十一日父与左衛門跡目此通被下

丹羽三右衛門

病死 同四十八年

十五石三人

享保八卯二月廿一日養父与左衛門跡目無相違、新番入

寛延元辰八月廿九日大番入

丹羽安右衛門 死

拾五石三人

明和九辰六月五日養父三右衛門跡目無相違、大番入

同年十一月廿九日相身躰末

寛政八辰九月四日御定之年数相満候二付順席

丹羽三右衛門

十五石三人

文化二丑二月廿日養父安右衛門跡目無相違被下置、大御番入

同十三子三月廿九日侍御削被成、御徒へ御下ケ被成候、押込



新海助左衛門

廿石四人

宝曆七丑三月十一日父惣左衛門休息、家督無相違、大番入

寛政三亥三月二日遠慮

同十一未正月廿五日番改高久官太夫跡

享和二戌十月五日御祈禱奉行三上孫右衛門跡

文化五辰五月 休息

新海助左衛門 伝次郎 助左衛門 権藏

百石

文化五辰七月廿五日養父助左衛門休息、家督無相違、大御番入

文化八未十一月十二日御右筆見習

同十四二月十三日御右筆本役中野儀右衛門跡、御書院番入、御足擬作五

石壺人扶持

文政九戌五月三日御右筆請込被仰付、御帳附支配被仰付

文政十一子七月廿九日御足充行五石壺人扶持御加増、都合廿五石五人扶

持被成下候

文政十三庚寅七月廿九日御旗本武具奉行

天保四巳正月廿九日表御納戸有沢栄左衛門跡

同年四月廿日御右筆受込田辺源右衛門跡、役席山野十兵衛上三被仰付候

天保十一子八月十五日於江戸表新知百石被下置

同十四卯三月廿九日格式末ノ番外被仰付候

同月病死

新海助之丞

百石

天保十四五月廿日親助左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

新海助左衛門 岩次郎

百石

一弘化元辰十一月廿九日養父助之丞家督無相違被下置、御留守番組江被入

一嘉永五子十二月廿八日助左衛門与名替

一同六丑三月廿日江戸詰出立、同七寅四月廿四日帰着

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張ニ付御下緒耆掛り被下置候

一安政五年九月十四日病死

新海雄次郎 実中野啓助弟

百石

〔士族〕

一安政五年十一月五日新海助左衛門病中養子ニ被仰付、家督百石無相違被

下置、大御番組無役組へ被入候

一文久元酉三月廿五日大御番組へ被入候

一同年十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰被仰付候

一同二戌三月晦日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供二而帰着

一同年七月八日支度出来次第上京被仰付候

一元治元子六月廿七日支度出来次第早速上京被仰付、廿九日出立、八月廿

四日帰着

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一同二丑三月十日江戸詰出立、翌寅四月十三日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯十一月八日京都江出立、辰二月廿九日帰

一同四辰六月四日御小姓被仰付

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日今般御改革ニ付役儀被免、予備隊へ被入候事、席生駒

彦太郎次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年六月廿二日第一大隊二番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



西脇甚五太夫

式拾石五人

宝永四亥八月廿八日養父甚五太夫跡目無相違

正徳六申五月廿一日御先武具奉行吉田長助跡

宝曆四戌閏二月十六日御先武具奉行御免、此節長々相勤候ニ付銀式枚被

下之

同六子八月廿九日休息

西脇甚五太夫 八十吉

廿石五人

宝曆六子八月廿九日父甚五太夫休息、家督被下、大番入

明和七寅閏六月廿日番改津田久左衛門跡

天明四辰六月十一日表御納戸吉樹多内跡

寛政五丑四月廿五日役義御免被成遠慮

西脇林右衛門

廿三石五人

寛政六寅六月廿五日父甚五太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督無相違被下

置、大番組へ被入

享和二 御番改新海助左衛門跡

文化元甲子年六月十一日御内御右筆兼帯評定留役、五石御足高被成下

文化二丑六月五日御内御右筆

文化九申十月廿九日御代官役広部甚五右衛門跡、御留守番人、御足擬作

ハ不被下

文政三辰六月廿二日奥御納戸役小嶋逸八跡被仰付、御書院番へ被入、御

足充行五石被下置

同九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御役御免、大御番入、是迄御足五

石其儘被下置候

同十亥十二月十六日年来出精ニ付御足充行之内三石御残シ被下

西脇林右衛門 源左衛門事

廿三石五人

一文政十三寅三月十六日親林右衛門年寄休息、家督廿三石五人扶持無相違

被下置、無役御留守番組へ被入

一天保五午九月三日大御番組入

一同八酉十二月十一日不慎之趣相聞候ニ付遠慮

一同十五辰十二月廿四日伺之上遠慮

一嘉永七寅年十月十一日倅甚五太夫義、不埒至極之趣相聞候ニ付御国立退

被仰付候、其方義も締り方參不届趣相聞不調法之事ニ候、依之遠慮被仰

付、同月晦日遠慮御免

安政六未八月十五日病死

西脇省三 坤太郎 林右衛門

廿三石五人

安政三辰五月廿二日出淵昨寒稽古出精ニ付御褒詞

一同四巳四月十四日年中出淵支合皆勤ニ付同断

一同六未十月五日親林右衛門家督廿三石五人扶持無相違被下置、大御番組

へ被入候

一同七申閏三月十二日武芸厚出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀式

枚ツ、年々被下置候

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年十月十三日長征出陣

一同廿三日宰相様御馬廻り被仰付、右出張中者其儘相勤候様被仰付候

一同二丑正月廿七日長征方帰

一慶応ト改元、十一月廿九日は迄武芸修行中銀式枚ツ、年々被下候処、御

役前も有之二付以後不被下候事、但当年之分ハ被下置候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻ニ付帰

一同年十二月廿八日林右衛門与名替

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年六月廿五日宰相樣御登坂御供出立、十月六日御供帰
一同三卯四月十二日宰相樣御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立、辰四月十八日帰

一同四辰五月晦日出立、八月八日帰、十月二日又々上京、巳二月九日帰

一明治下改元、十二月廿八日林右衛門事省三下改

一同二巳四月九日中納言樣御供東京江出立、午正月二日帰 年給貳俵 在

京中六俵

一同年九月廿四日奥詰被仰付候事、但等級并年給米是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米五十俵壹斗五升被下

一同三年二月廿四日正二位樣奥詰被免修業隊江被入候事、席岸田武次

一同年七月廿二日第一大隊一番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰



西川与兵衛 休息 同三年

拾五石三人

宝曆十二年正月廿八日小役人方御取立、新番入、春成院方附山口万兵衛

跡

西川八郎兵衛 休息

十八石三人

明和七寅四月十日養父与兵衛休息、家督無相違、新番入、御広式御用達役、其身此節迄御広式添役也

安永五申五月五日御留守番入

天明元丑四月十五日病氣二付御広式御用達御免、大番入

同二寅五月廿日御広式御用達御留守番入

同五巳正月十六日御切米三石御加増

西川多一郎

拾八石三人 外七石二人御足

明和八卯十二月廿八日三人扶持被下、江戸御祐筆部屋へ罷出

安永八亥九月廿日二人扶持御増都合五人、御右筆見習、御留守番入

天明三卯十月七日御右筆本役御部屋兼帯、御合力銀十枚被下、御書院番

入、順席

同五巳八月廿一日父八郎兵衛休息、家督無相違、御右筆其儘、御足七石

二人扶持被下

西川八左衛門

拾七人扶持

一文化三寅十一月十八日父多一郎跡目無相違被下置、大御番組へ被入

一同四卯七月廿八日御附御小姓被仰付、七石式人扶持御足充行被下置候

一同六巳八月廿一日此度隆徳院樣御逝去二付御附御小姓御免被成、大御番組へ被入、是迄被下置候御足充行以後不被下候

一文政二卯八月 浅姫君樣御広敷御用達被仰付、御留守番組へ被入

一同九戌三月廿二日出精相勤候二付御紋御上下一被下之

- 一 同十一子二月十三日役義其儘靈岸島
- 一 同十二丑六月六日御屋敷奉行御作事奉行兼帶山口平三郎跡、御作事奉行兼被仰付候ニ付御扶持方三人扶持被下置候
- 一 天保五年五月廿八日痛所有之、御役御免被成候
- 一 同年十月廿三日浅姫君様御附御広敷御用達中野新左衛門跡被仰付、御留守番組へ被入
- 一 同六未十一月七日今般御家督御引移ニ付御用多相勤候ニ付御褒詞
- 一 同九戌三月十九日謹姫様御婚姻御用懸り同様ニ付金貳百疋被下之
- 一 同年十一月十八日本所中ノ郷御屋敷奉行平野新七跡被仰付、御書院番組へ被入、銀三枚為失却年々被下置候、且又引越ニ付金三兩被下
- 一 同十亥四月十二日御住居向御普請宜出来出精ニ付金百疋被下、但先役中懸り同様ニ付
- 一 同年九月十九日御書院番組其儘、松栄院様御附御広敷御用達并御勘定吟味役兼帶、役中御足充行式石壺人扶持被下置、是迄為失却被下置候銀三枚ハ以後不被下置候
- 一 同十二丑三月十二日同勤其儘当分当番並之通相勤候様被仰付候
- 一 同年丑八月十五日出精相勤候ニ付御足充行式石壺人扶持御加増、都合廿石四人扶持ニ被成下候
- 一 同十四卯三月廿五日、昨年公辺方御住居御入用巨細相調差出候様被仰出、右御用掛り出精ニ付金三百疋被下置之
- 一 同年十二月廿八日当秋神田橋御住居へ御立寄、御用掛り出精ニ付御褒詞
- 一 同十五辰十月十七日出精相勤候ニ付、役義其儘格式末之番外席沢木八左衛門跡、御充行拾三人半扶持御直シ被下
- 一 弘化四未九月十二日神田橋御住居へ御立寄ニ付御褒詞

- 一 嘉永三戌正月廿九日松栄院様御附御広敷御用人見習御徒頭次席、御役料五拾石被下置、御役中三人半扶持御足、都合拾七人扶持被成下候
 - 一 同四亥四月九日今般神田橋御住居江両御丸様御立寄ニ付御褒詞
 - 一 同五子四月廿五日御住居御普請御用掛りニ付、御目録銀貳枚被下置候
 - 一 同六丑二月九日松栄院様花之頃浜御庭へ被為入候御沙汰ニ付、取調御用掛り同様被仰付候
 - 一 同七寅十月廿三日勤方御広式御用人本役同様相心得候様被仰付、御水主頭次席ニ被成下、御役料五十石御増、都合百石被下置候
 - 一 安政三辰六月廿三日年来被相勤候ニ付御足扶持三人半フチ御加増、都合拾七人扶持ニ被成下候
 - 一 同四巳六月晦日病死
- 西川八左衛門 誠五郎
拾七人扶持
- 一 安政四巳八月廿一日養父八左衛門家督拾七人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候
 - 一 同年同月廿六日御広敷御用達被仰付、御留守番組へ被入候
 - 一 同五年十一月廿一日今般御家督御相續、御引移御用多相勤候ニ付御褒詞
 - 一 同六未十二月廿八日誠五郎事八左衛門与名替
 - 一文久三亥三月廿三日御前様御供ニ而御国へ着、同廿六日折返シ江戸出立
 - 一元治元子五月朔日家内諸共引越着
 - 一 同年八月九日於御舟町新規出来之家屋敷被下置候
 - 一 同年十二月賊徒一件、御留守御用御手当百匁被下
 - 一 慶応元丑十一月七日病死

西川小源太 八之助 熊吉

〔士族〕

拾七人扶持

安政五年九月十七日中将様御伽御雇被仰付、老ケ月失却金百疋、外二盆暮御手当金貳両ツ、被下置候

一文久二戌正月十九日中将様御附御近習御雇助被仰付、年々銀拾枚ツ、被下置、勤向当分是迄之通被仰付候

一同三亥正月廿三日中将様御上京被遊候ニ付御供、三月廿五日御供ニ而御国表へ罷越

一同年三月晦日中将様御附御近習御雇被仰付、御扶持方五人扶持被下置候 但是迄被下候銀拾枚、外二金五十疋ツ、之儀ハ以後不被下候事

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京 一元治元子四月廿三日右御供ニ而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ付、御酒被下置候

一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付候 一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之為御手当銀貳百匁被下置候

一同二丑二月十六日小源太与名替 一慶応与改元、十月朔日宰相様御出坂御供ニ而出立、同三日今庄方御引戻

二付帰 一同年十二月廿七日親八左衛門家督拾七人扶持無相違被下置、大御番組江

被入 一同年同月廿八日御附御馬廻被仰付

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日帰

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立

一同年十二月廿二日御附御小姓被仰付、但役席埴原三十郎次ニ被仰付

一同四辰六月十二日帰

一同年七月三日弟健次郎御精進日殺生罷越候ニ付、小源太伺之上指扣、同五日御免

一同年八月廿日上京、十二月十三日帰

一明治二巳二月四日上京、三月六日中納言様御供ニ而帰 六俵

一明治二巳七月廿八日東京江出立

一同年九月廿四日奥詰被仰付候事 年給米貳俵 在京中六俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗八升貳合被下

一同三午四月廿八日從東京帰

一同四未二月廿八日今般御改正ニ付御家從被免候事



菲塚清藏 休

十五石三人

宝曆十一巳十月廿九日小役人方御取立、新番入、但荒子頭御免

菲塚兵左衛門 病死 三十年

十五石三人

明和元申八月廿五日養父清藏休息、家督無相違、新番入

菲塚林蔵 休息

拾五石三人

安永四未八月五日養父兵左衛門跡目無相違、新番入

菲塚利右衛門

拾五石三人

天明九酉正月十四日養父林蔵休息、家督無相違、新番入

寛政十二申九月五日御定之年数相満候ニ付大御番入

文政十年病死

菲塚庄右衛門 万太郎

拾五石三人

文政十亥八月廿九日親利右衛門家督拾五石三人扶持無相違被下置、無役

御留守番組へ被入候

天保二卯六月廿五日大御番組入

菲塚善太郎 万太郎 利右衛門

拾五石五人

一嘉永二、八月十六日親庄右衛門家督、幼少年ニ付御定之通御扶持方五人

扶持被下置、無役御留守番組江被入

一同三戌九月六日御番割替之節御定之年数相満候ニ付、相身体末席被仰付

一同四亥正月廿九日拾五歳罷成候ニ付、御充行拾五石三人扶持ニ御直シ被

下

一安政四巳四月十四日劍術出精之段御沙汰ニ候

一文久二戌閏八月八日御番割ニ付大御番入

一元治元子六月廿九日上京、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑四月廿九日京都詰出立、翌寅四月十七日帰

一同年十二月廿八日利右衛門与名替

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月善太郎与名替

一同三卯十月十九日京都御警衛増詰出立、辰三月 帰

一同四辰三月十六日御留守番組江被入候

一同年五月十一日今般御趣意ニ付無役組ニ被仰付

一同年九月十一日大砲隊被仰付、役御番組江被入候

一明治二巳二月十七日今般御改革ニ付御役御免被成、無役組江被入候

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五両被下置

候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十五俵四斗五升被下

一同三年八月十一日病死

菲塚力介 午十四歳

〔士族〕

一明治三年十月二日養父善太郎家督、幼年ニ付御規則之通米式十壹俵式斗

七升被下、修業列へ被入候事

但実小堀尚二弟、幼年ニ候得共血統之者ニ付願之上如此

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同四未正月廿五日十五歳罷成ニ付、給禄米三十五俵四斗五升従前之通被

下候事

米三拾五俵四斗五升

西沢

但御取立以前ハ御記録ニ有之

※「剝札」末にあり

西沢丈右衛門

拾五石三人

一安政三辰二月廿三日出精相勤候ニ付御取立被成、新番格ニ被仰付候

一同年八月廿四日江戸詰出立

一同四巳四月 於江戸表病死

八 福井藩士履歴 ね

根来

根来清太夫

百五拾石 外役料百石

元禄十二卯八月二日養父半兵衛家督無相違被下

同十五年三月御使番被仰付

正徳二辰十二月廿三日御先物頭被仰付

享保四亥五月十六日隠居被仰付、同日倅太助へ家督被下

根来半兵衛

百五拾石

享保四亥五月十六日父清太夫隠居、家督無相違被下

根来清太夫

百五拾石 外役料百石

享保九辰三月十一日養父半兵衛跡知無相違被下、大番入

同十二未十二月十六日御使番御役料被下、小栗九右衛門跡

根来源太夫

百五拾石

享保十四酉九月十六日養父清太夫跡知無相違被下、大番入

寛保二戌九月廿九日休息、五拾石下ル

根来半兵衛

百石

寛保二戌九月廿九日養父源太夫休息、家督五拾石被減百石被下、大番入

根来清次郎

百石

宝曆六子六月廿二日養父半兵衛跡無相違、大番入

明和五子七月廿三日表御小姓

安永二巳正月廿五日御近習番御書院番入

同七戌十二月十六日奥御納戸

根来半兵衛

百石

天明二寅二月廿五日父清次郎跡知、幼年二付御扶持方十人扶持被下、御

留守番入

同四辰十月十一日十五歳罷成候二付新知百石被下、大番入

同六年五月十一日御小性見習

同七未八月廿六日御小性本役被仰付

寛政六寅三月九日御近習番中山喜右衛門跡、御書院番入

同十一未九月中将様御附御用人支配

同十二申三月江戸定府被仰付

同四月十八日御近習番其儘奥ノ番格被仰付、於江戸表

同年八月五日中午将様御附御裏役多田伝八跡

享和二戌年御膳番次席被仰付、役義御免被成、御近習番

同三亥十二月十五日御附御膳番其儘

文化二丑五月十三日御附頭取御膳番

同五辰ノ十一月十五日勤向其儘末之番外

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去ニ付御役御免被成、席其儘、但去

月廿八日御国元江家内共引越被仰付候

同年十月廿日家屋敷被下

文化十二亥年五月十六日於評定所御使番松江善兵衛跡被仰付、御役料百

五拾石被下

文政元六月廿四日御先武頭高村藤兵衛跡

文政八酉二月十二日御用番於御宅江戸詰中不埒至極ニ付、拜知并御役義

御取揚、二十石三人扶持被成下、新番へ御下ケ被成、遠慮被仰付候

同九戌年三月内願之上休息

根来左太夫

百石

一文政九戌三月十六日養父半兵衛休息、家督無相違、廿石三人扶持被下置、

新御番入

一同十一子十一月三日御広敷添役被仰付候

一同年江戸詰、十一月十五日出立

一同十二丑八月十三日御趣意ニ付御広敷添役御免

一同日御右筆書方手伝被仰付

一同年十二月十一日御右筆書方手伝ニ付、江戸詰中為失却金五両被下置候

旨被仰付

一天保三辰年江戸詰、五月十三日出立

一同四巳八月十九日御右筆本役被仰付、御書院番組入、御足充行五石式人

扶持被下、来秋迄詰越し

一同九戌年江戸詰

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛り出精ニ付、御紋御上下老具

被下

一同十三寅年江戸詰、三月廿日出立

一弘化四未年江戸詰、三月十九日出立

一同年九月十二日公方様神田橋御立寄御用掛りニ付御褒詞

一同年十二月九日御足御加増

一嘉永四亥二月十一日御右筆請込御帳付支配被仰付

一同年江戸詰

一同年十二月十六日中将御拜任ニ付御用懸り被仰付

一同五子閏二月十五日御昇進御用懸り出精ニ付、御帶老筋被下置候

一同年十一月廿一日席割入之儀ニ付遠慮伺差出候処、指扣被仰付候、同廿

三日御免

一同六丑四月廿五日御世譜方振退勤被仰付、仕出御用手伝并清帳認方被仰

付、御右筆受込御帳付支配之義ハ御免被成候

一安政二卯年四月十一日御判物御朱印御領知目録認御用掛り出精ニ付御褒

詞

一同四巳四月廿一日新知百石被下置候

一同五年七月廿五日耳遠ニ付内願之通休息

根来久良人^{クラト} 紀之允 九郎人

百石

一安政五年七月廿五日養父左太夫儀耳遠ニ付内願之通休息被仰付、家督百

〔士族〕

石無相違、大御番組へ被入候

一同六未二月十一日御近習番被仰付、御書院番組へ被入、当春江戸詰被仰付候

一同年三月廿日江戸詰出立、同七申三月十五日御供帰着

一文久二戌六月十日御書物方小栗治右衛門跡被仰付

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、十二月江戸方御

供二而上京

一同年十二月廿八日御裏役被仰付候

一同四子正月九日中将様御附御近習番被仰付候、御膳番奥ノ番兼定介被仰付候

一元治与改元、四月廿三日宰相様御供二而帰

一同年五月二日宰相様御附御小姓被仰付候、且又頭取定介被仰付、席嶮江

喜太郎上

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候

一同年九月五日宰相様御附御膳番奥御納戸役兼帯被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、七月晦日早駆御用二而帰、八月六日折返シ出立、十月同断帰

一同年十月廿六日御附御膳番奥御納戸役其儘、御番改御書物方之儀も相心得候様被仰付候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立

一同四辰閏四月廿九日養弟市九郎御咎二付伺之上指扣、五月三日御免

一同年六月十二日京方帰

一同年八月四日上京、十二月十三日帰

一明治二巳二月四日上京、三月四日帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立 月給十俵

一同年六月紀之允事九郎人卜改、又久良人卜改

一同年九月廿四日從二位様内務局頭取被仰付、当役ヲ以大奥御用取扱被仰

付候事

但等級并月給米是迄之通

一同月廿六日今般正二位様御位階御昇進被仰出候二付、御書付并宣下守護為御使福井表江罷越候様被仰出立、十月七日着

一同年十月七日養家之弟敦儀御咎二付、遠慮伺之上指扣被仰付、同十二日

被免

一同月廿日末之番外席二被仰付、御広間当番勤申付候事、但席河崎三郎助次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申三月廿五日倅千太郎江被下候給禄、辛未九月家禄二結込大蔵省江

御達相成候事

一米六拾八俵三升三合

一同六年一月十八日老年二付隠居

根来千太郎 久良人倅 明治三年廿八歳

〔士族〕

一同年十月六日御供二而帰

一文久元酉十二月廿三日来戌年芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、詰中御扶

持方五人扶持被下置候

一同二戌三月晦日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供二而帰着

一同年八月五日御参府御供被仰付、詰中御扶持方五人ふち被下置候、同十

七日出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月十三日御供帰

一元治元子六月十日御含有之早速上京被仰付、五人扶持被下置、同十四日

出立、八月廿三日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、場

中二おゐて相働候段達御聴格別之事二被思召候、依之御扶持方三人扶持

被下置、家督之節御加増二被成下候

一同年十月二日京都詰中不容易御時態之处、致心配候二付御酒被下置候

一同年十一月二日京都詰早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騒乱

二付立帰罷越

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑正月五日御含御用有之、支度出来次第上京、九日出立

一慶応与改元、閏五月十八日三番之補兵隊被仰付候

一同二寅三月十一日一番之伍長被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付公儀方被下配当金千疋、且又戦功二付

三千五百疋被下置候

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立

一同年七月廿八日御含御用被仰付、右御用中補兵隊伍長勤向之儀ハ御免被
成候

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付候

一同月廿九日宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立、辰二月廿九日帰

一同年十二月十七日探索方并参与役附属被仰付

一慶応四辰四月廿五日遊撃隊江被召出、式人扶持御足、都合五人扶持被下

置候

一同日五番後拒役被仰付、役中分隊長次席二被成下候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三

両被下候、外二三千疋

但出張中仙台辺探索為御用罷越、十月十六日若松江帰

一明治二巳十月二日同姓敦義、於学校法外之儀御座候二付御咎被仰付、伺

之上指扣、同五日被免

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世

十石令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊式番分隊長被仰付候事

一同年十二月八日任権曹長、但常備第六小隊 年給式十俵 十式俵高

一同四未十月十三日解隊

一同六年一月十八日父久良人老年二付隠居、家督

一給禄三拾壹石四升壹合

福井県文書館資料叢書『福井藩士履歴』とレファレンス

角鹿 尚 計

はじめに

福井県文書館の事業として平成二十五年より年一度のペースで刊行されている『福井藩士履歴』は、ひとり文書館のみならず、わが福井市立郷土歴史博物館においても好個な参考資料として活用させて頂いている。その恩恵を語れば筆舌に尽くしがたい。当館は、旧福井藩主越前松平家伝来の什器を中心とした越葵文庫（文庫名は、戦後寄託時に当時の学芸員が命名したもの）と、松平春嶽（慶永）の嫡孫、松平永芳氏が福井市に寄贈された「福井市春嶽公記念文庫」を中心に、その他旧藩士の中根雪江家・佐々木長淳家・鈴木準道家・村田氏寿家・桑山十蔵（十兵衛）家・毛受洪家・松平主馬家・山縣（笹治）三郎兵衛家などの諸家文書を多数収蔵しており、『福井藩士履歴』は、その研究・活用、特に展示事業には欠かせぬ存在となっている。だから年玉のように年一度、早春の刊行を待ち望んでいるのはひとり私のみではないだろう。

さて、今般誌面を与えられたので、『福井藩士履歴』の活用例について、特に福井市立郷土歴史博物館におけるレファレンス対応の中での実例を紹介しておきたい。

一、「ルーツ調査」の照会傾向

当館のレファレンスは、年間約五〇〇件ある。そのうち「ルーツ調査」を含め旧藩士に関わるものが三〇件ほどと記憶している。曜日では土・日・祝日が多く、若い世代では夏季に集中する。困るのはそのほとんどが突然窓口に「誰々子孫」と名乗って対応を求められることが多く、そんな時、歴代の経歴・家禄、苗字・名乗りを知る手がかりとして、また、来館者にも容易に閲覧に

供することができる資料として『福井藩士履歴』の存在はありがたい。さて、照会のある「ルーツ調査」の傾向は、家の口碑によって美化されたり誇張されたりすることが多い。例えば家老など高知席の子孫と称する方々の大方は中下級藩士のそれであり、旧士族とする向きは卒、その他であつたりする。また、福井藩の大奥にいた女性の子孫を称する例では、藩主の落胤を憶測する向きもあつて様々である。当然として結局不明と回答せざるを得ない例も少なからずある。

二、「ルーツ調査」と『福井藩士履歴』

これまで、つまり『福井藩士履歴』が刊行されるまでの「ルーツ調査」のレファレンスは、まず依頼者よりできる限りの資料の提供を促す。つまり、系譜・戸籍謄本・抄本の写（特に旧俗称の記載されている壬申戸籍等は幕末期と明治初年を繋ぐ記載であるため、好個の情報源であるが、当然取り扱いには慎重に注意する）・過去帖（俗名の記載があれば、最も参考になる。戒名等は身分を知る参考になる）・領地目録・藩主からの宛行状・勤書があればいいが、さすがに「ルーツ調査」の依頼なので、口碑以外にはなにも提供される資料がないこともある。こうした提供された資料と依頼者からの口碑を含めた聴取により、まず『福井市史』『福井県史』をひもとき、各藩主御代の『給帳』、『諸士先祖之記』を検索、次に松平文庫の『剝札』『姓名録』のマイクロ紙焼きを用いて再び検索する。しかしこれらを丹念に見ていくということになると一件に多くの時間と労力がある。公の機関で個人の家の「ルーツ調査」に傾注することはできない。ある程度の検索結果を依頼者に知らせることは可能であるが、マイクロ紙焼きといえども、個人の寄託品である松平文庫の『剝札』や『姓名録』のコピーを許可なしに提供することはできない。ロビーや閲覧室で必要箇所を筆記していただくに留めていた。また、一般の依頼者には翻刻されていない紙焼きの文字を筆録することは難関である。こうした中、『福井藩士履歴』の刊行はどれだけの便宜をもたらしたことかというまでもなからう。

三、『福井藩士履歴』にみる名乗りの訓

『福井藩士履歴』は、松平文庫の『剝札』『士族』を編集したものであるから、それぞれの記述の長所を活かした編集となっている。様々なレファレンスで使用される項目・記述は、通称の世襲による家の特定、ついで家禄の変遷、相続・致仕・改名・加増・隠居などを含む歴代の略歴であるが、特に貴重なのは名乗りに「ルビ」を付した例が見られることである。こうした箇所は全体から見れば非常に少ないが、それ故に希少価値が高い。

たとえば、「芦田 碩^{ヒロシ}」の「碩」の訓は普通に人名としては「オオキ」が一般的であろうが、特殊な訓として特段表記されたものと見られる。こうした難読な人名にルビを打っている例は、「雨森 胖^{ユツカ}」「天方 道^{タダシ}」「秋田 長之丞^{ナガノジウ}」「渥美 狭織^{サハリ}」「安藤 豊平^{フユヘイ}」「井原 立一^{タチヒツ}」「岩佐 努力^{ツツメ}」「荻野 静^{ヤスシ}」（初め「量夫^{カズヲ}」）「小川 淡^{アワシ}」「小川 静水^{シズミズ}」「小笠原 幹^{コワシ}」「織田 行方^{ユキヘ}」「大久保 清^{キヨシ}」「岡嶋 力^{ツトメ}」「栗原 創^{ハジメ}」「久保 轟^{イヨシ}」「坂井 可弘^{ヨシヒロ}」「桜井 定^{ヤズシ}」「杉坂 養道^{ソウヂ}」などがある。この中で「雨森 胖^{ユツカ}」「久保 轟^{イヨシ}」は、特殊な訓ではないが、「胖」「轟」は使用文字自体が当時も使用頻度の少ない文字であったためルビを明記したのであろう。「杉坂 養道」は、明治四年十月以降神職となり、初め木部神社、その後「馬鹿ばやし」で知られる火産靈神社別当福蔵院（本山派修験、菅原姓）が還俗して社家になった福岡氏（還俗時の当主は、福岡数衛）退転の後、社家となった人物で、同子孫も「ヨウドウ」と音読みしてきたが、『士族』に「ソダチ」の訓があり、音読みは、有職読みであることが判明したのは同家にとっても収穫であった。

次に名乗りの音・訓が紛らわしい例についてルビを振っている。「有賀 進」は、「ス、ム」であり、「有賀 信」も「マコト」である。その他「秋田 豊^{ユタカ}」「浅井 政由^{マサヨリ}」「石川 潔^{キヨシ}」「磯野 近^{チカシ}」「伊藤 庵^{イボリ}」「井上 剛^{ツヨシ}」「岩屋 政夫^{マサヲ}」「瓜生 等^{ヒトシ}」「小栗 環^{タマキ}」「大岩 円^{マドカ}」「小倉 寛^{ヒロシ}」などは訓読みの指示があり、高知席の「狛 元」は、「ハジメ」と明記する。逆に「河合 五右衛門」の別名「豊士」の「豊」は「ブン」に、「岡部 外一郎」の「外」は、「ト」と音読みしている。「跡部 敏

「広」は、音読みの「ピンクワウ」と明記している。「坂田 嘉門」は「カモン」と音読みする。真仮名の名乗りにもいくつかルビを振っている。「天方 道」の別称「登雄志」には「トヲシ」と、「荒川 多芸津」にも「タキツ」と振る。「井上 加多志」は「カタシ」である。このように藩士の名乗りの音訓の解明に好個な資料であるから、先の「杉坂 養道」の例のように、これまで根拠が明らかにされないまま読み慣わされてきた人物の名乗りの読みが明らかとなると、神戸海軍操練所に出仕した「大館 尚氏」は「ヒサウジ」、歌人として知られる「笹川 章門」はこれまで「アキカド」の訓と、「シヨウモン」の有職読みで記されることが通例であったが、「アキト」のルビが付されていることは発見である。初代福井市長鈴木準道にも「ノリミチ」と記されており、これまで通用の有職読みより、こちらが一般的な記述として採用されるであろう。ちなみに、『剝札』には、今日名乗りの読みについて注目されている「中根雪江」については、特段ルビが付されているわけではなく、「元治元年五月八日御側御用人隠居」の記事の後、欠日の記事で「一雪江と改」とだけみえる。故に、有職読みとして音読みしたのか、これまでの「靱負」の読み「ユキエ」を用いたか否か不明である。

「由利公正」の名乗りについても記載がない。彼については『士族』に、「由利八郎 三岡八郎 三岡彦一父」として掲載されているが、この明治三年八月十日の記事に「立飛脚二三岡事由利ト改姓候儀、御指図有之候段、東京方申来ル」とあるものの、「公正」に改名したとされる慶応四年八月末の該当記事が見えず、「公正」の名乗りの読みについても全く触れていない。ところが、改名による読みの記述がある人物もあり注目される。「瓜生 三寅」の記述は明治三年七月四日に「三寅」の表記のまま読みを「サンイン」を「ミトラ」と改めている。また「江口 正己」は、明治三年十二月に「湊」から「正己」に改名し、「正己」には「マサキ」とルビを振っている。以上縷々見てきたように藩士の名乗りについて、本資料は実に内容の充実した基本文献といえる。ただ『剝札』と『士族』を編集材料とする『福井藩士履歴』には、諱の記述がない。諱の確認には、

本書の記す通称や履歴の記述、年代を各人物について確認し、該当の人物の諱を『姓名録』より見出す必要がある。また、苗字についても残念ながら殆ど読みが付されていない。稀少な記載例としては「塩谷」に「シホノヤ」とあるが、これはよほど誤用があったり、難読とされていたりしていたのであろう。

四、幕末明治期の藩士（旧藩士）の改姓・復姓・改名と『福井藩士履歴』

「ルーツ調査」の依頼を受けて、『給帳』の「イロハ引き」検索をしても藩士（旧藩士）の苗字として見つからない家がある。これは、幕末明治期に改姓している者が少なからず存在したからであり、注意する必要がある。以下にはその例を『福井藩士履歴』の記述を中心にいくつか挙げてみる。まず福井藩における改姓の意図をみてみたい。まず、高知席の笹治（山縣）家をその一例として紹介する。山縣家文書（山縣昭一氏蔵）の系譜類は江戸時代中期に成立した「山縣先祖」など系譜類が伝存する。同書によると、武田信玄の家臣団の名将として知られる山縣三郎兵衛昌景が、長篠合戦で討死したあと、その孫昌久が松平忠直に仕えて大坂の陣で戦功を挙げ五千石を拝領したが、故あって蜂須賀家に仕えることとなった。福井藩に残ることになった弟の昌時は、幼年に結城秀康に仕え、「其後秀康公被仰付候者、本名山形者、兄伊賀守致相續て候、笹治兵庫者親類も無之、殊ニ武功之名も有之者ニ候間、兵庫与一類之契約を受候様ニとの御事ニて、笹治を以名字と致候、後に合相續致居候」とあって、結城秀康の命により笹治を継いでその苗字を名乗る。山縣家文書には「笹治系図」「笹治家先祖書」も混在しており、昌時の養父、笹治重昌には女子があり系譜には「山縣四郎兵衛室」とあることから、昌時はこの女子を妻として笹治家の一類となり名籍を名乗ったのであろう。しかし、『結城秀康給帳』には、「笹治兵庫」「笹治大膳」の二家が見え、「笹治兵庫」の諱が、「重政」であることから、笹治家は、「重昌」「重政」と繋がる「兵庫家」と山縣が改姓した「大膳家」が存在したのであり、秀康の命は「山縣」姓の改姓そ

のものが目的であったのではなからうか。子孫の口碑ではあるが「山縣三郎兵衛昌景がかつて徳川家康と対決した武田氏の重臣であることが、その苗字を憚って改姓した」とする伝承は参看できる内容である。「山縣先祖」に、「正時」に割注して、「笹治大膳正之字、初昌之字を用候得共、忠昌公御名乗字ニ候故正之字ニ改申候」とあることから、姓もまた主家への「憚り」によるものとも推測される。この二家について『福井藩士履歴』でみると確かに二家ある。「兵庫家」は、明治の当主（笹治環）まで記載があるが、山縣については、文政十二年六月二十六日に病死した「笹治大学 主計」までの記事で終わっている。そこで、「山縣」の記述をみると、その跡目を継いだ山縣正俊（笹治源太郎）の記述からその項がある。「山縣大学 魯庵 招月 嘉永三戌十二月五日^方改姓 笹治事 貳千六百石」という記述があり。これを山縣家文書の系譜の記述と照合すると、この人物は越前福井藩主山縣家の十代当主正俊で、復姓の理由は、藩主松平春嶽（慶永）の命によるものとしている。この復姓は、単に山縣の姓の「憚」を解いたのではなくて、山縣家の系譜に、正俊の跡目は、正俊の叔父にあたる正興が継ぎ、その跡目を正俊の子が正興の養子として繋いでいる記述をみると、この笹治から山縣への復姓は山縣（笹治）家内部の事情を受けての藩主の命によるものと推察できる。

さて、山縣家を例に挙げたが、福井藩士の諸家には初代召し抱えの折に故あって苗字を改姓したものの、そのうち更に故あって復姓した例が少なからずあるということである。勿論橋本左内の家のように初代長徳が桃井姓より母系の「橋本」を名乗り、そのまま子孫は復姓せずに明治に至った家も存在する。幕末より明治にかけて、改姓・復姓した藩士の家については『福井藩士履歴』では、苗字の注記に多くは示されている。少し例を挙げてみると、「市橋」は、三家のうち二家が初め「団野」と称し、「飯尾」は二家の内、惣太夫家初代が初め「長野」と称したように、みていくと、瓜生三左衛門家は「多部」より改姓、円乗彦藏家は「高松」、大館尚氏は文久三年十二月二十八日京都表に於いて「大谷」より改姓している。他に「北川」は「松原」より、「久我」



写真 東郷正路の肖像

明治33年ドイツ・シュテッティン市
ヴルカン造船所にて撮影

福井市立郷土歴史博物館蔵

は「上月」より、「杉坂」は「湯又（俣）」よりの改姓である。この三家は明治以降今日に至るまで子孫が福井に残って、活躍した家であり特記しておきたい。また、横井小楠の福井藩招聘を提案奔走した三寺三作は、三寺剛右衛門の弟で、三寺三作の名で知られているが、彼の履歴は「大木」の項にある。三寺三作の改姓改名は、先祖の姓に復したのではなく、安政六年十月十一日大木家の養嗣子になって家督相続したことによる。しかし、旧姓の名で周知されており検索には注意が必要である。

五、『福井藩士履歴』にみえる藩士の履歴・伝記の活用

『福井藩士履歴』の刊行により、特に幕末維新期に活躍した藩士たちの履歴を知ることができ、福田源三郎の名著『越前人物志』に収録されていない多くの藩士の履歴が明らかになっており、この時期の郷土の人物研究等に好個とも一級ともいえる文献となっている。また、これまで『越前人物志』に掲載されている著名な人物の伝記についても、『福井藩士履歴』の記述の内容との校合が可能であり、その相違点により更に各人の伝記資料の検証を考究することができる。勿論『越前人物志』にとどまらず、近代から今日に至るまで、人物事典類をも含めて、人物伝記として刊行されている様々な書籍・文献との校合がなされればより正確な履歴を得ることが期待できる。その利用範囲は多岐多様であり、計り知れない。また、熟読していくといくつもの発見があり驚かされる。一例を挙げてみる。一般も福井藩出身で海軍兵学校長・海軍中将となった東郷正路（一八五二―一九〇六）の伝記・履歴を調べていたとき、『福井藩士履歴』2の「お」の履歴にあることをみつけた。東郷ではなく、二家ある「大宮」の一家に「大宮正路」として記載があった。『越前人物志』など東郷正路の履歴では知られていない記述である。つまり、まず「正路」に「マサジ」のルビがあり、『華族家系大成』を初め多くの書籍において「マサミチ」と読まれていることと異なる。わざわざ『士族』に誤読を避けるべくルビを付しているのに、「マサミチ」とし

て多くが呼称されているのは、後年に名乗りの読みが変更されたのであろうか。しかも、初めの名は「東郷哲吉」で、「実東郷竜雄弟 明治三年十九歳」という『士族』の注記がある。実兄東郷竜雄は、福井市第三代市長を務めた。正路は、「大宮」の養嗣子となった時期があったことを知った。明治三年七月五日条に「養父定雄依病身願隠居、養子哲吉へ家督被仰付、給禄米百五俵二斗八升五合従前之通被下候事」とあり、同十二月条に、「名替哲吉事正路^{マサジ}」とみえる。残念ながら履歴はここまですしか記述されていない。おそらくこの後実家東郷に戻るなど、復姓したのであろう。

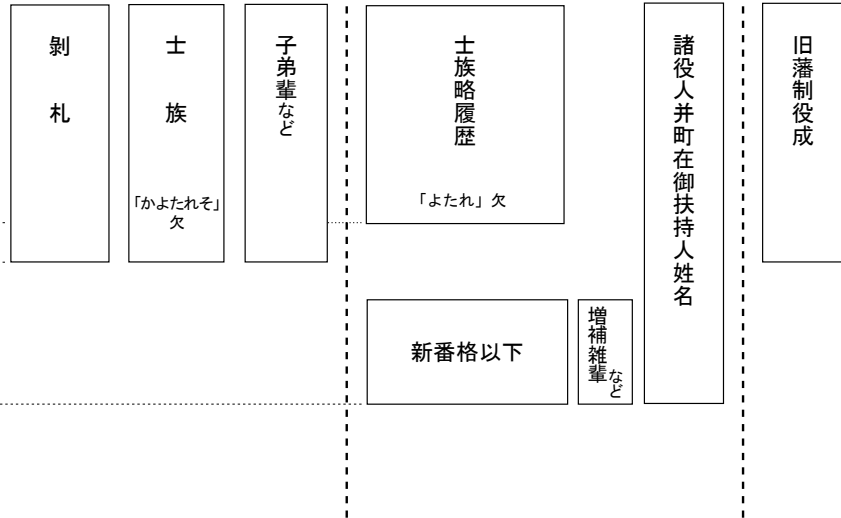
以上みてきたように、『福井藩士履歴』の利用により、家系・人物についての研究・調査・レファレンスに、常に新たな発見とともにより正確なデータを得ること、提供することができる。今後の利用が期待され、刊行が待ちどおしい。

参考資料

各資料と家格などとの関係

福井藩家臣団の家格別人数
(嘉永5年)

家 格	人 数
本多家	1
高知席	16
高 家	2
寄合席	38
定座番外席	14
番士 (役番外)	106
番士 (大番など)	495
新番・新番格	81
医師・絵師など	49
士分合計	802
与力	39
小役人	84
一統目見席	87
小算・坊主・下代	347
諸組(足軽)	1,341
卒合計	1,898
家臣団総計	2,700

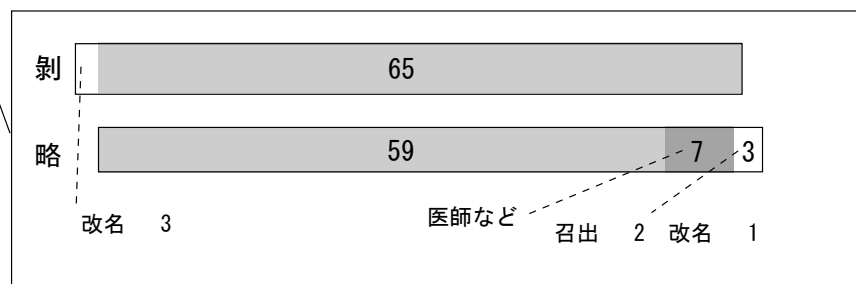
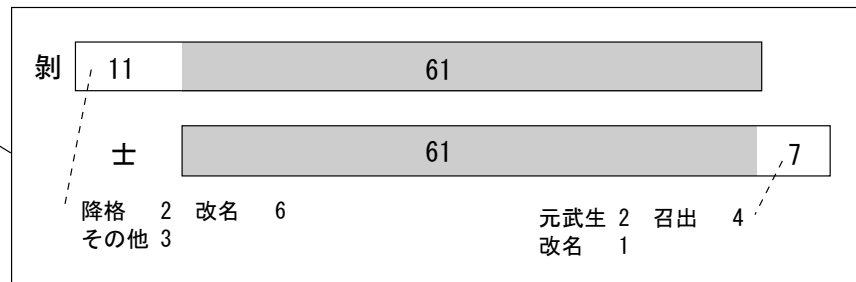


・荒子・中間等の小者973人を除く
 ・舟沢茂樹氏「福井藩家臣団と藩士の昇進」
 『福井県地域史研究』創刊号 1970年による

剥札と士族・士族略履歴との連繋 (い・かを例に)

資料別家数・人数

	剥	士	略	藩
あ	46	47	41	51
い	72	68	62	69
う	13	14	11	14
え	8	7	6	8
お	68	77	65	76
か	68	欠	59	75
き	12	9	7	9
く	21	25	18	24
け	2	2	2	3
こ	22	23	20	28
さ	45	47	40	47
し	19	20	18	19
す	23	27	26	29
せ	10	10	7	10
そ	1	欠	1	1
た	67	欠	欠	71
ち	2	2	1	2
つ	24	25	17	24
て	2	3	3	3
と	14	20	11	17
な	51	59	41	55
に	17	16	15	17
ね	1	2	1	2
の	12	11	10	11
は	40	46	37	52
ひ	26	23	20	23
ふ	10	9	9	10
ほ	24	26	22	28
ま	36	43	32	43
み	29	36	23	31
む	9	10	7	11
め	1	1	1	1
も	8	7	5	7
や	43	50	41	53
ゆ	2	1	2	1
よ	22	欠	欠	28
わ	10	15	8	11



- ・「剥札」「士族」は一連の資料で、幕末維新期の福井藩家臣団(士分以上)の人事記録としてはもっとも充実している。
- ・「士族」の第3冊(かよたれそ)が欠本、「(士族略履歴)」「旧藩制役成」で補完が必要。
- ・「剥札」と「士族」「(士族略履歴)」は、ほぼ連繋する。「剥札」では改名や卒への降格、「士族」「(士族略履歴)」では子弟の新規召出(戊辰戦争など)、武生家臣などの新規繰入(明治3年2月)などが不連繋の原因。
- ・資料別家数・人数の「あ」～「ね」は確定値。「の」以下は筆耕原稿などによる概数。

福井藩士履歴 4 たゞね

福井県文書館資料叢書12

平成二十八年二月二十六日 発行

編集発行 福井県文書館

九一八―八二一三

福井県福井市下馬町五二―一一

電話〇七七六―三三三―八八九〇

印刷 創文堂印刷株式会社

九一八―八二一三

福井県福井市問屋町一―七

電話〇七七六―二二一―三三三(代)

